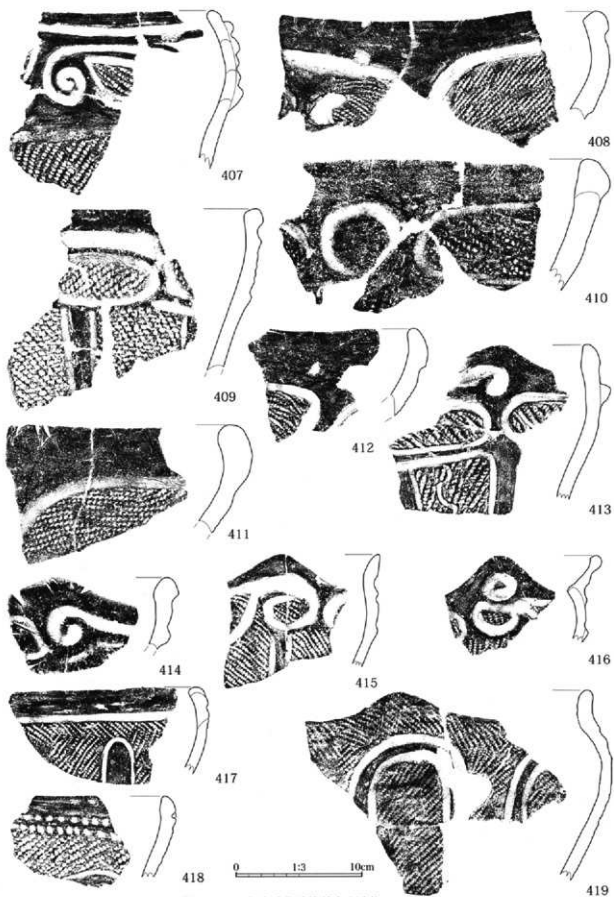
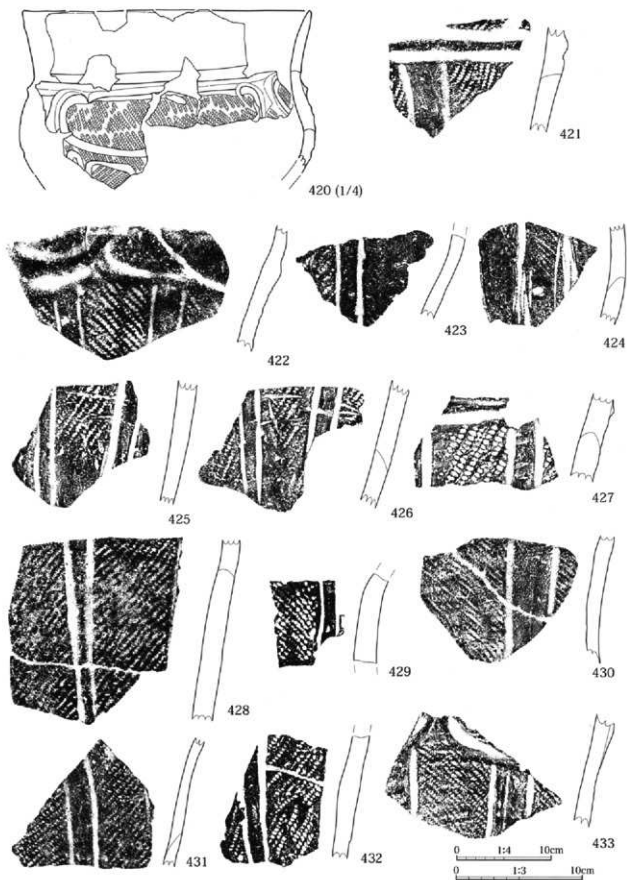


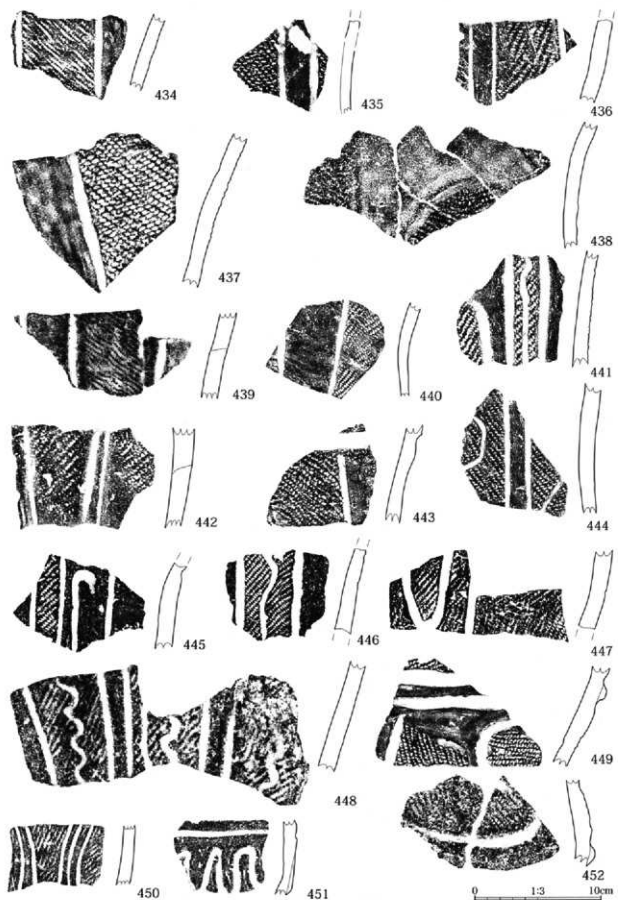
第 183 图 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (6)



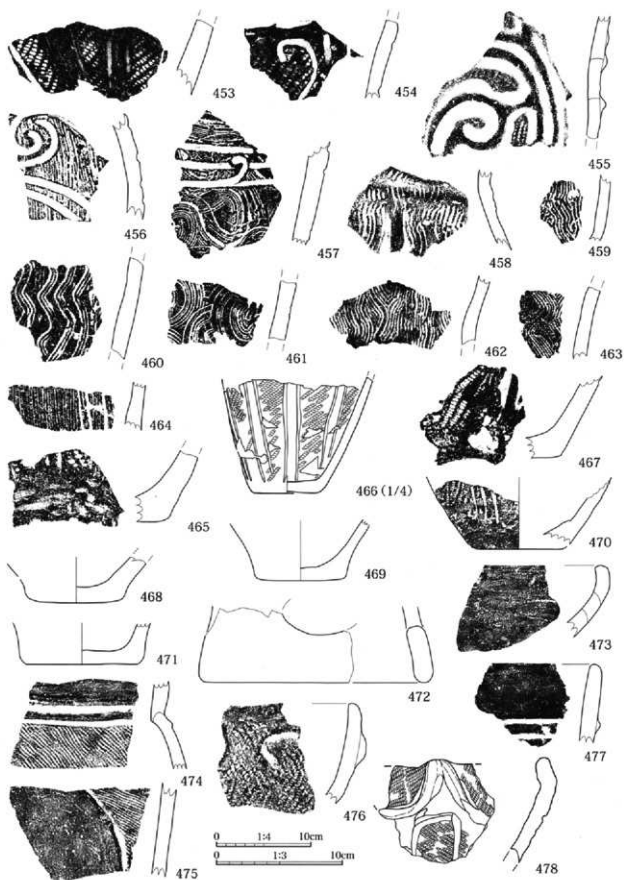
第 184 图 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (7)



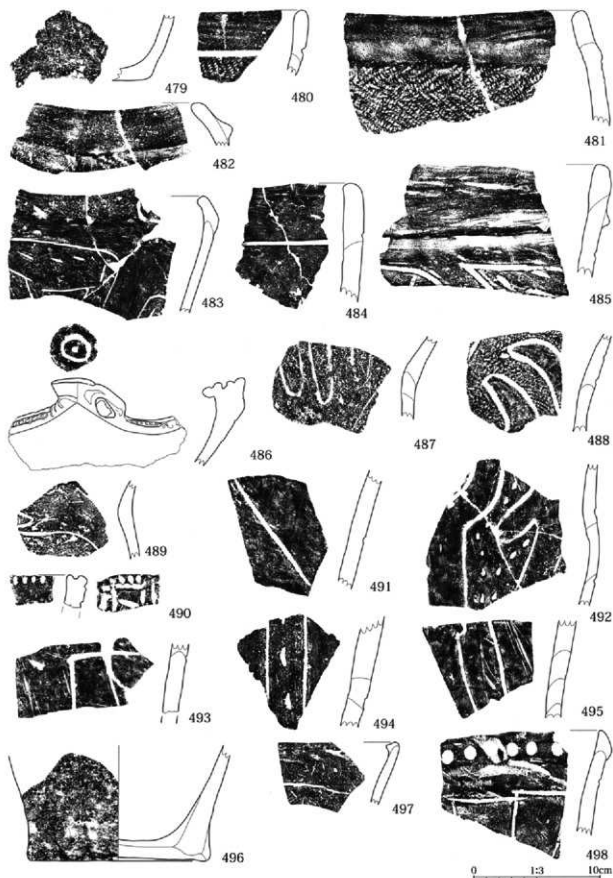
第 185 图 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (8)



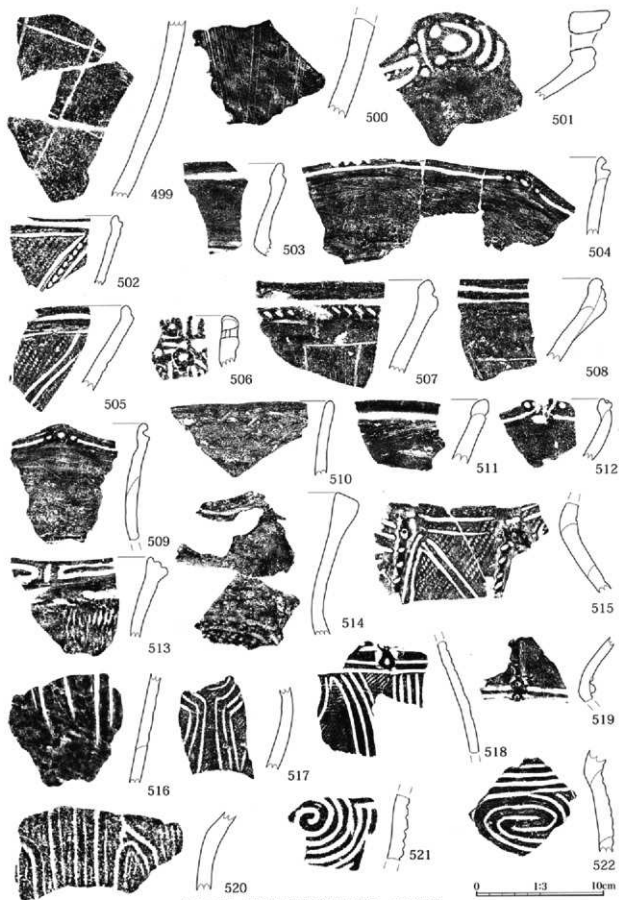
第 186 图 銅文時代遺構外出土物 II 区 (9)



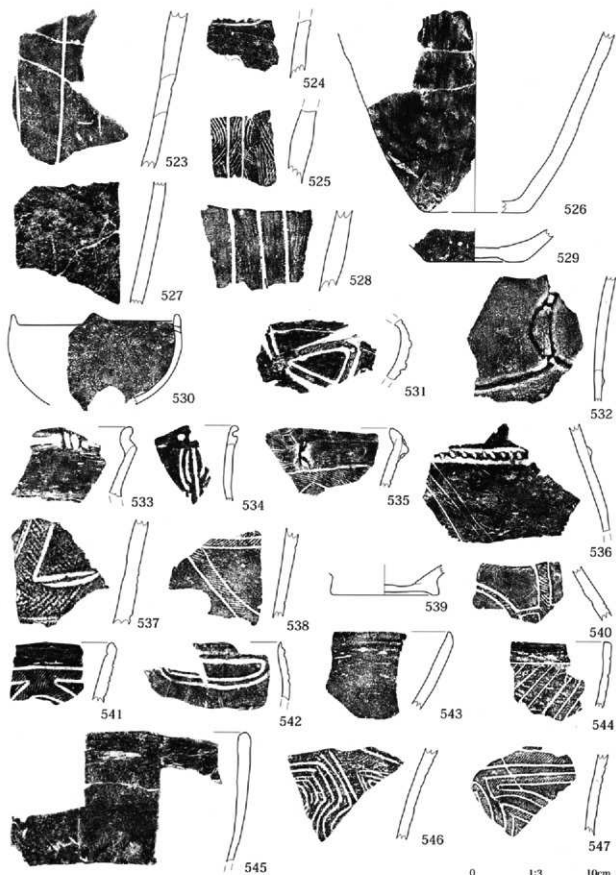
第 187 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (10)



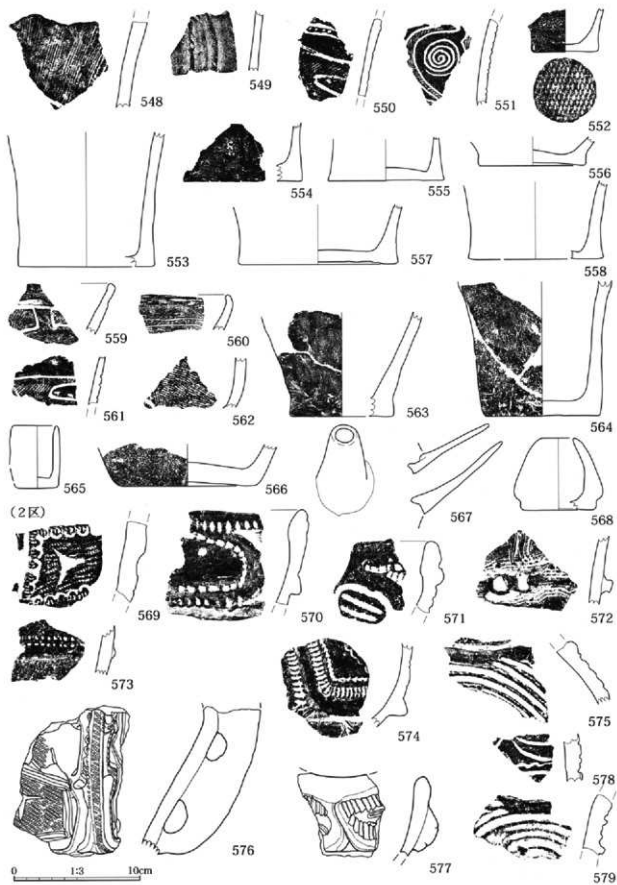
第 188 图 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (11)



第 189 图 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (12)



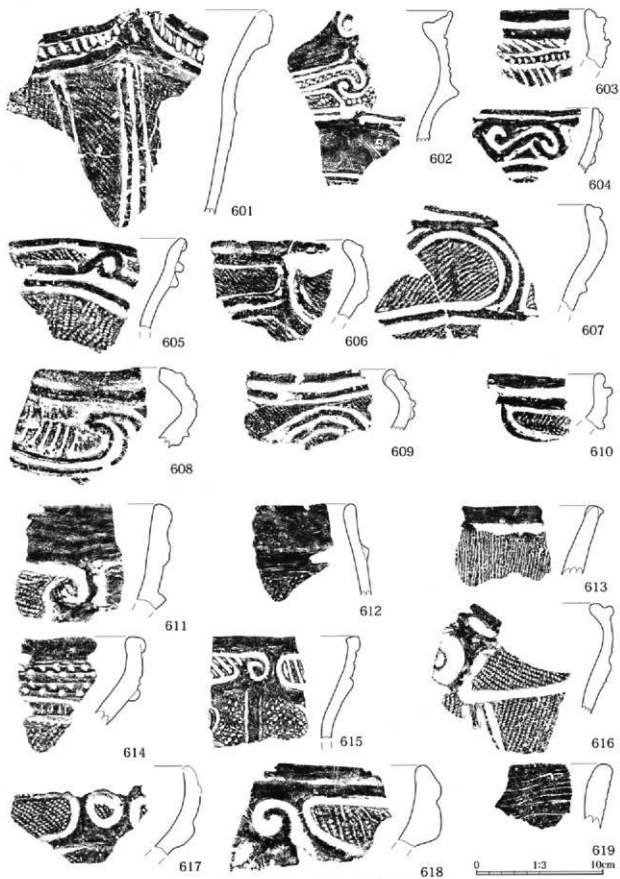
第190图 縄文時代遺構外出土遺物 II区(13)



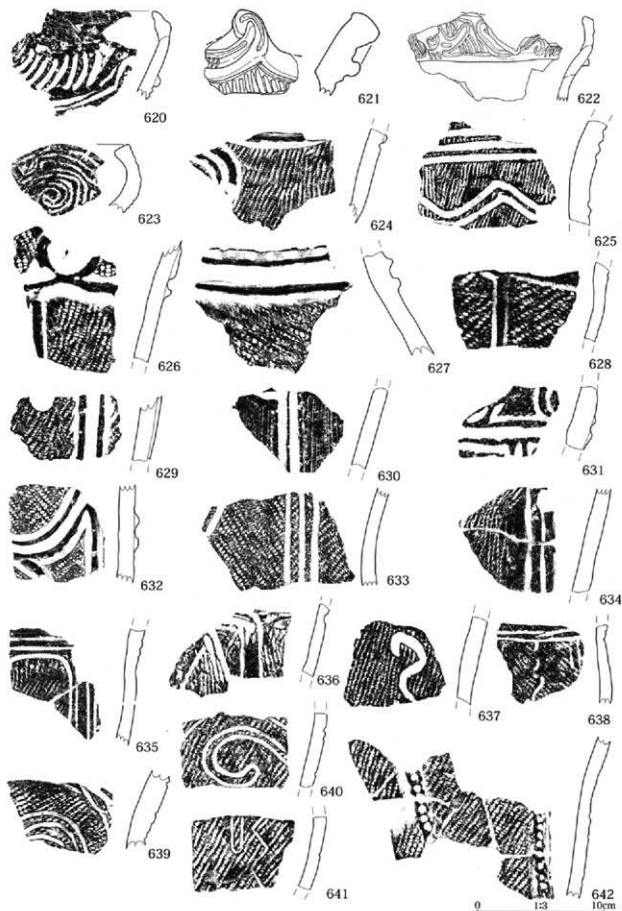
第191图 縄文時代遺構外出土遺物 II区(14)・2区(1)



第 192 图 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (2)



第 193 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(3)

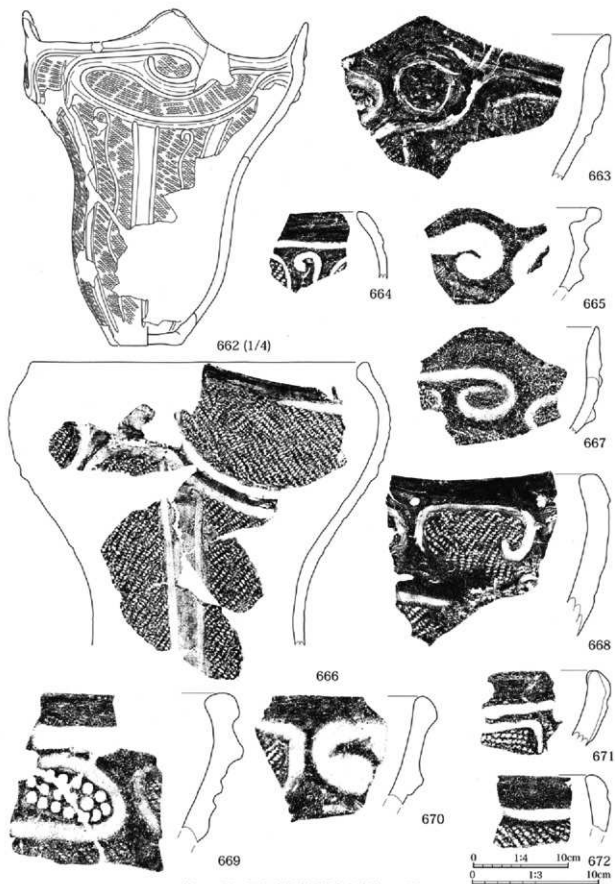


第 194 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(4)

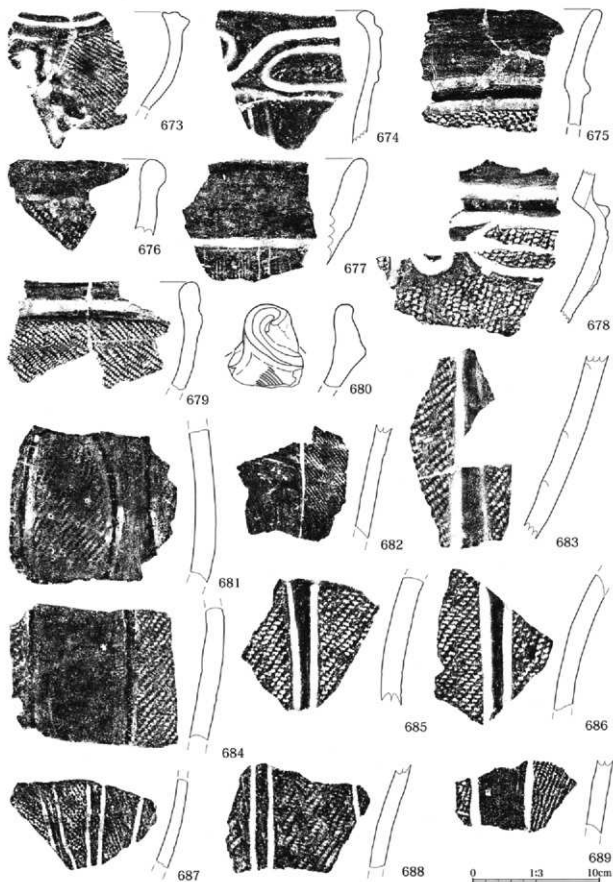


第 195 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(5)

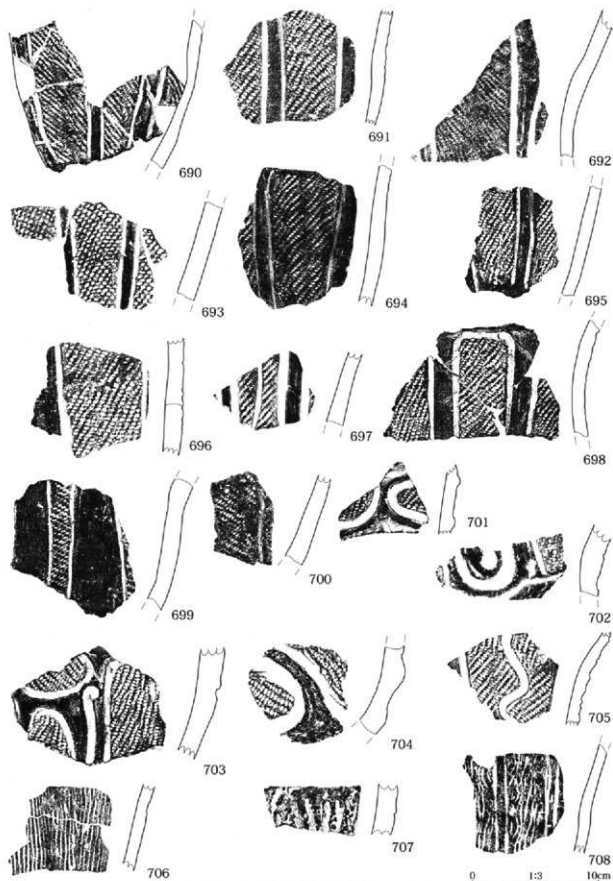
0 1:3 10cm



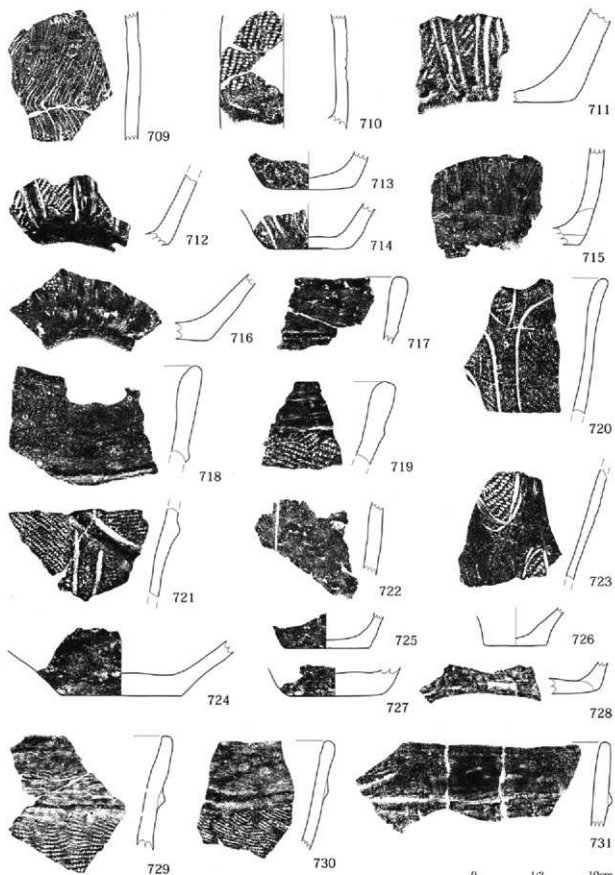
第 196 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (6)



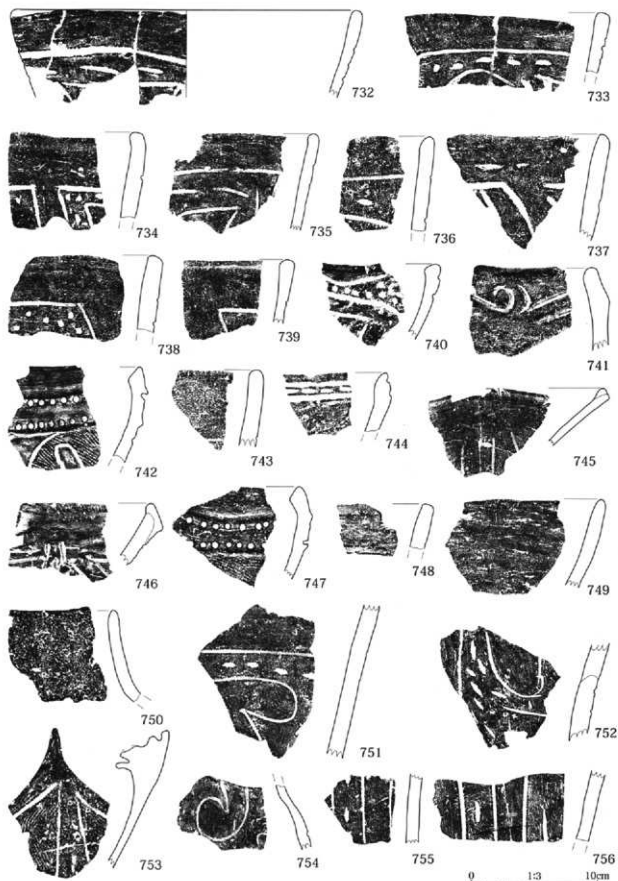
第 197 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(7)



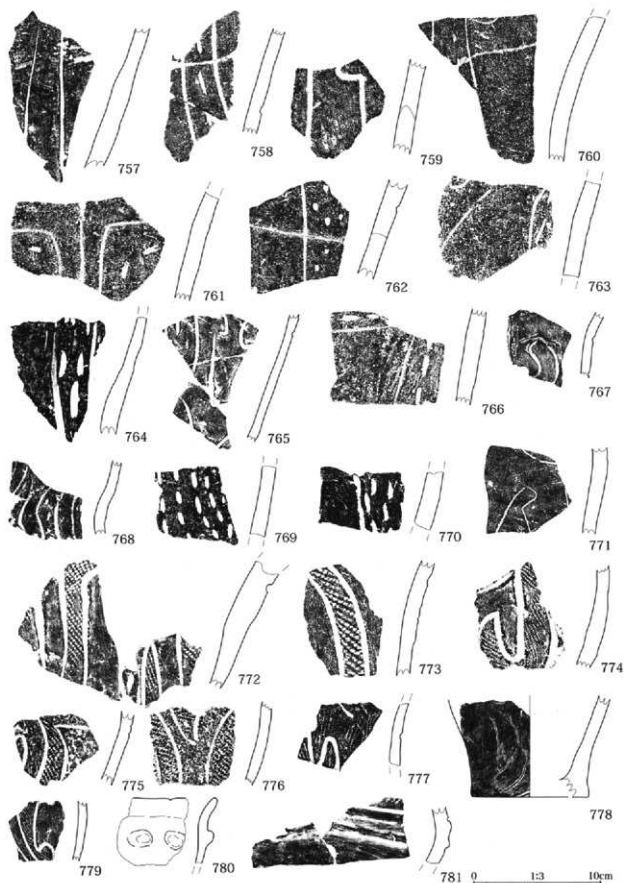
第198图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(8)



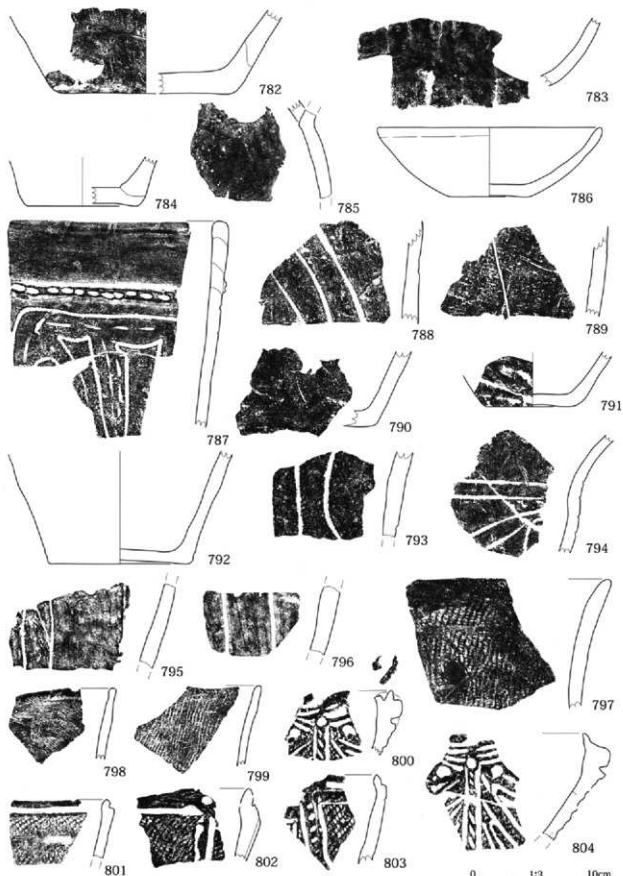
第 199 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (9)



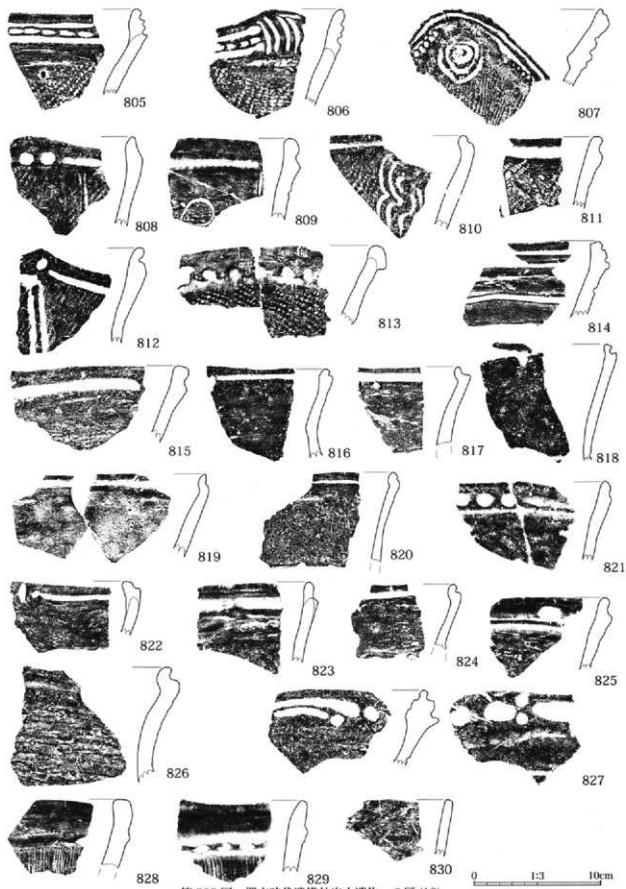
第 200 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (10)



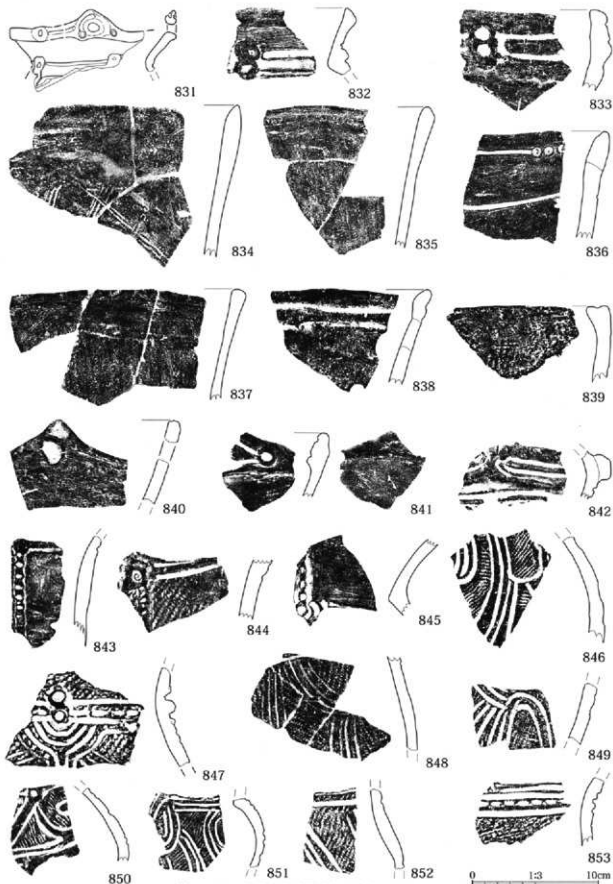
第201图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(11)



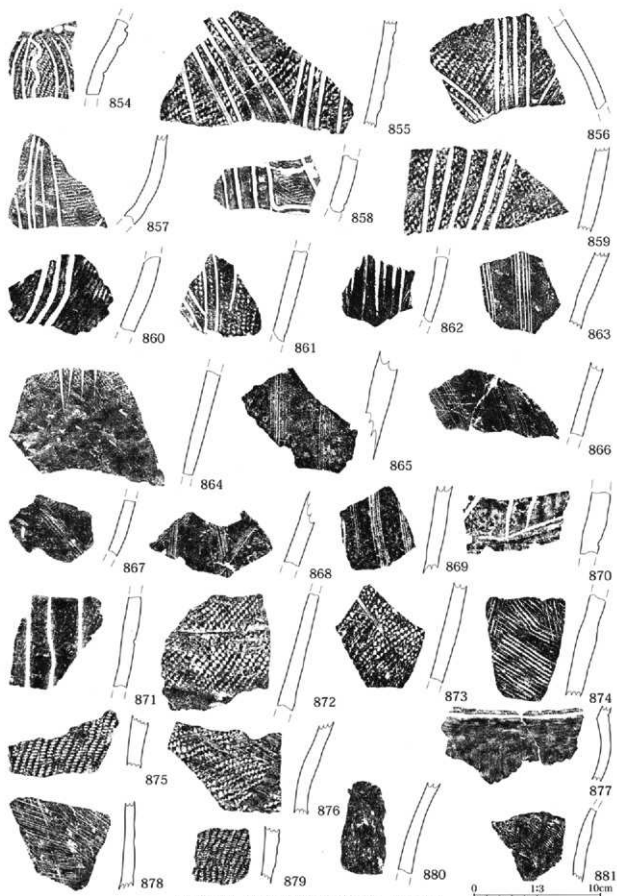
第 202 图 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (12)



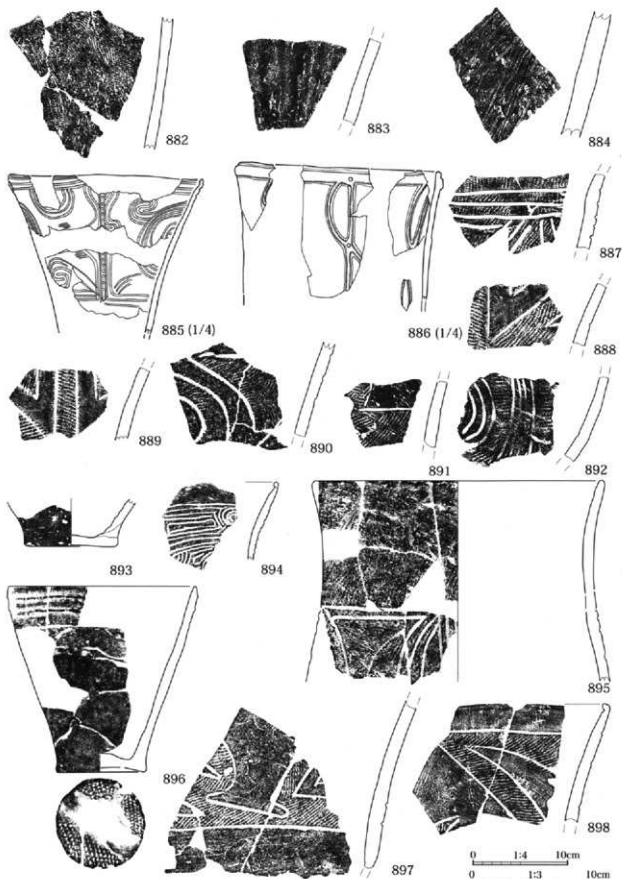
第203図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(13)



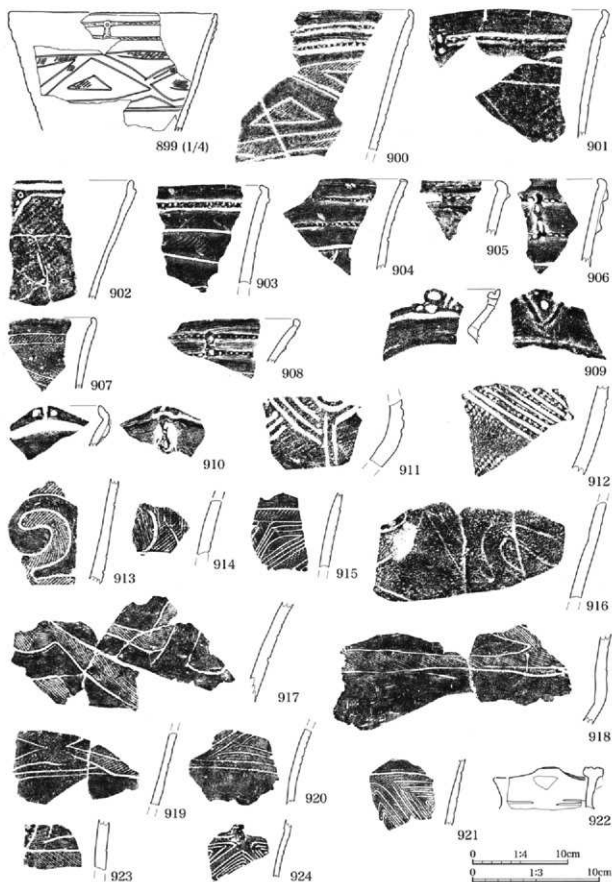
第 204 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (14)



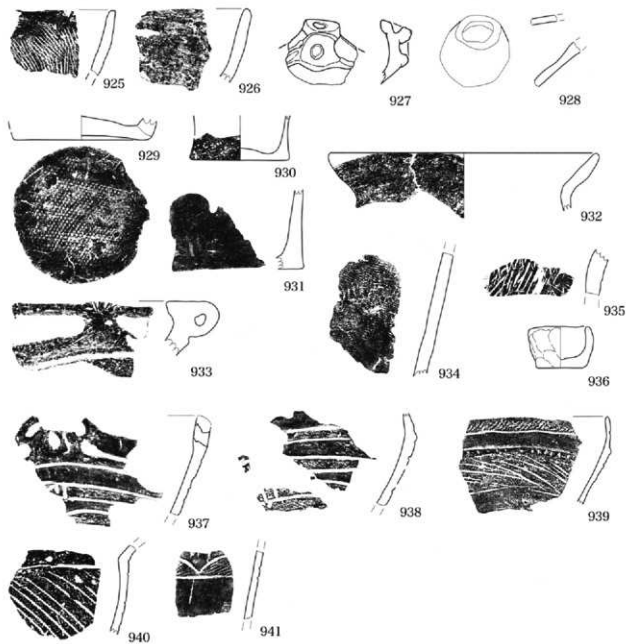
第205图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(15)



第 206 図 縄文時代遺物外出土遺物 2区(16)

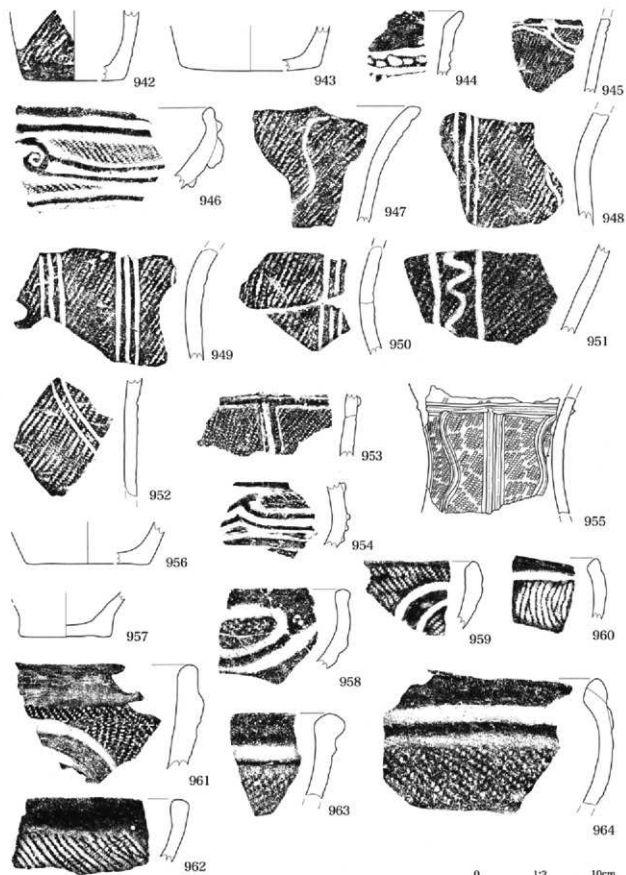


第207図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(17)

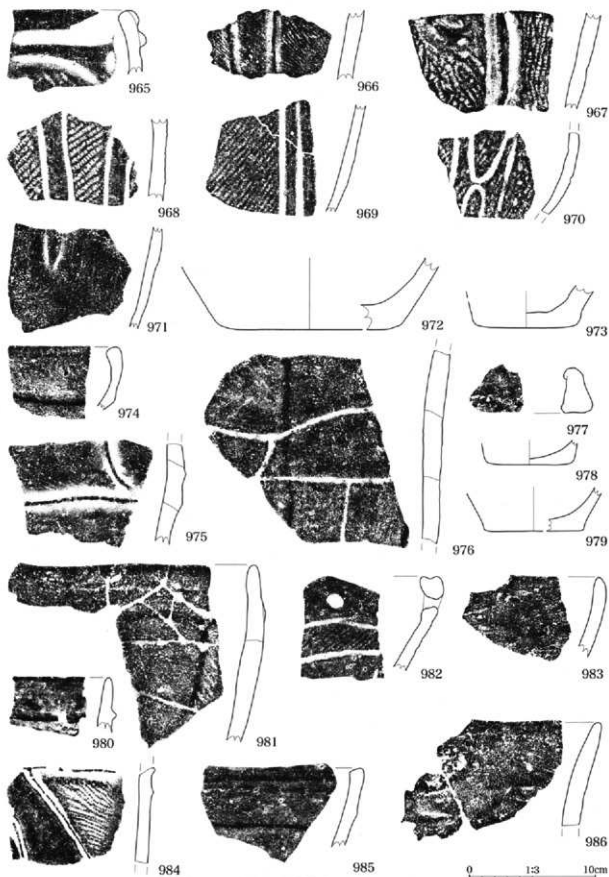


第 208 图 縄文時代遺構外出土遺物 2区(18)

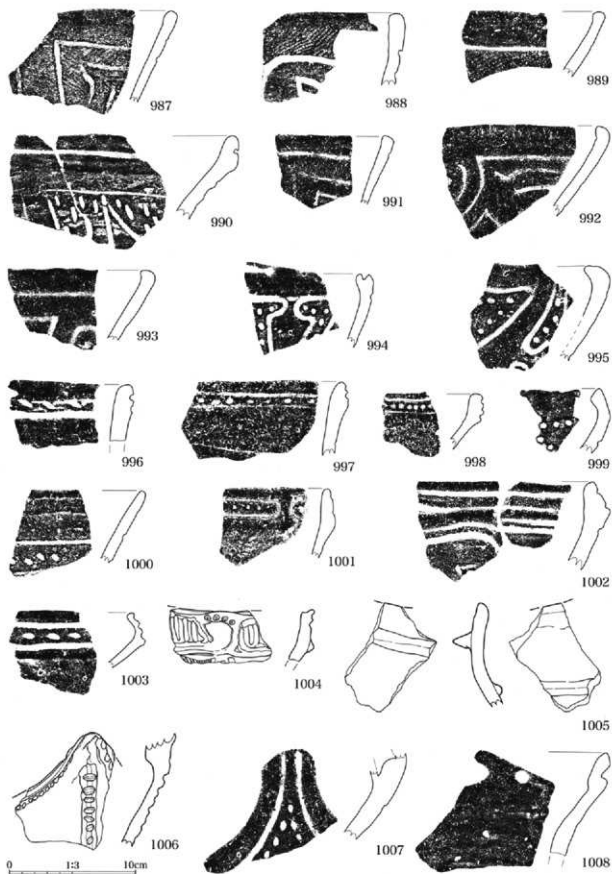
0 1:3 10cm



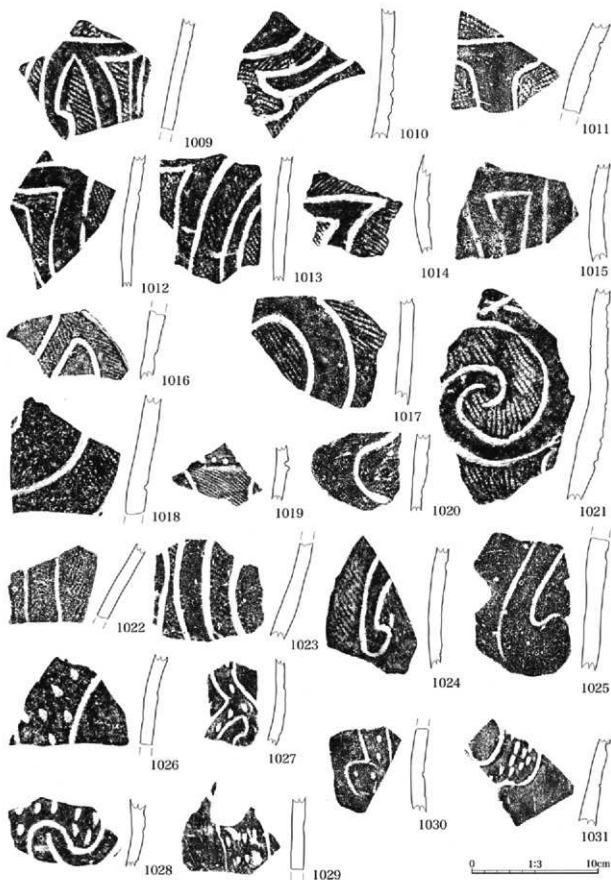
第 209 图 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (1)



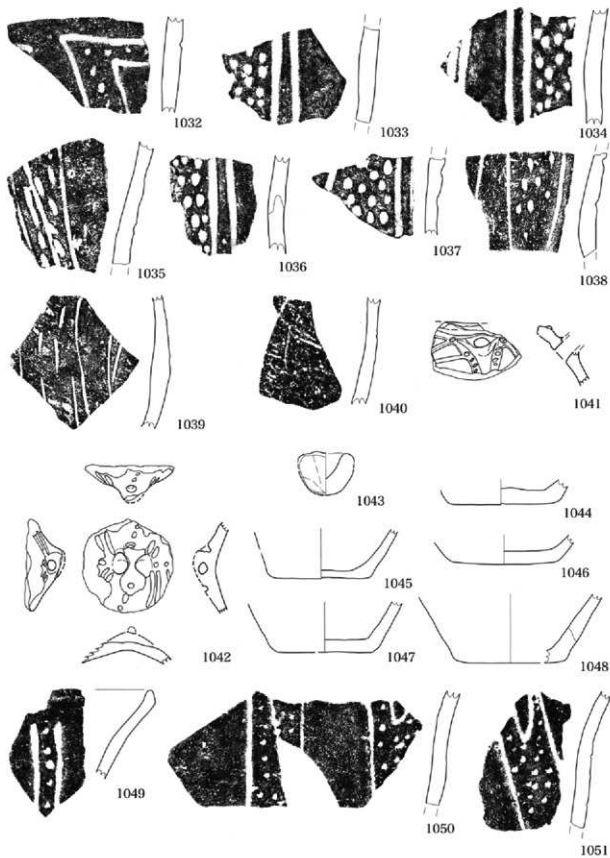
第210图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(2)



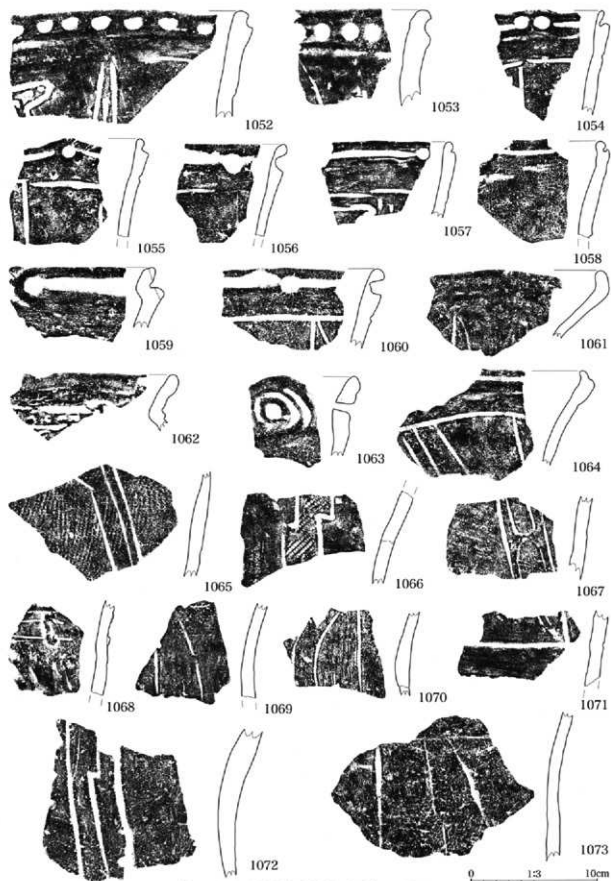
第211图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(3)



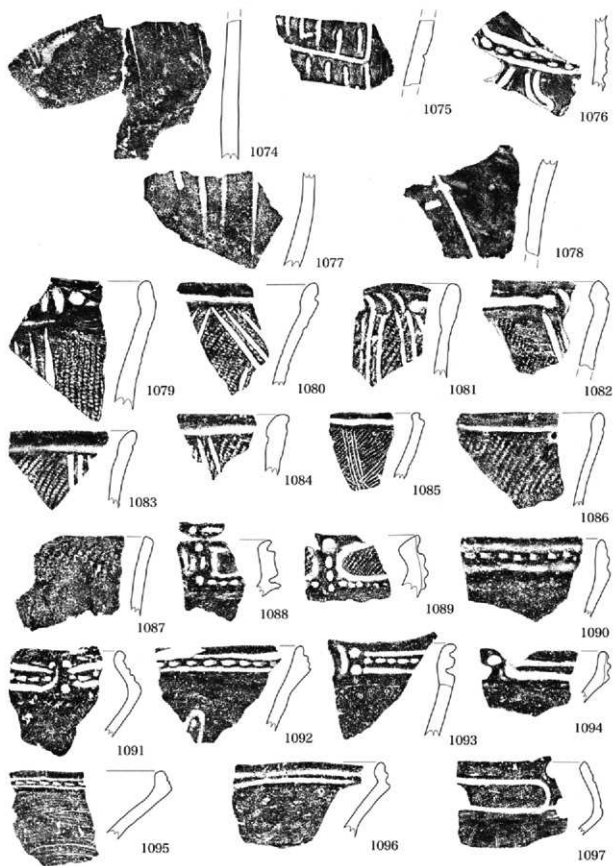
第212图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(4)



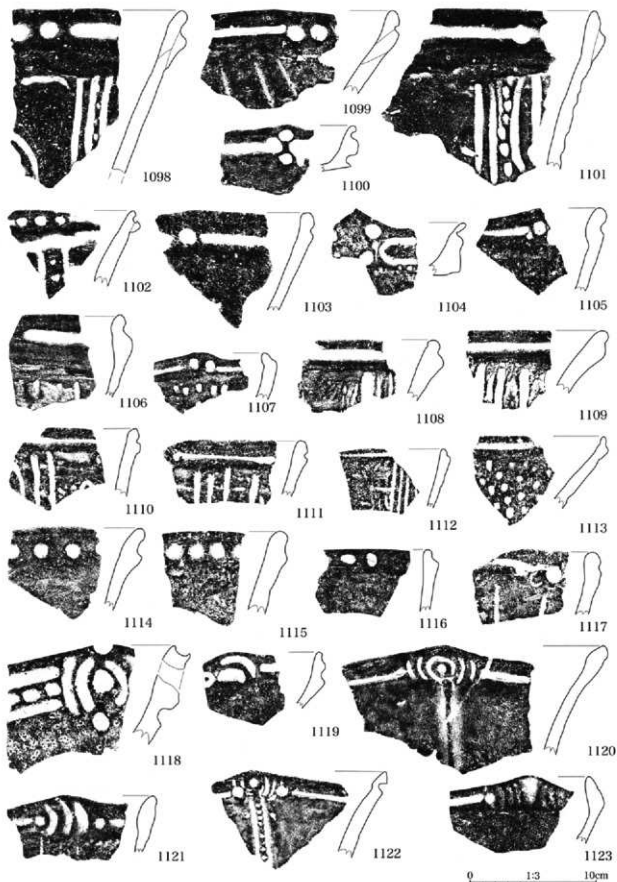
第 213 图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(5)



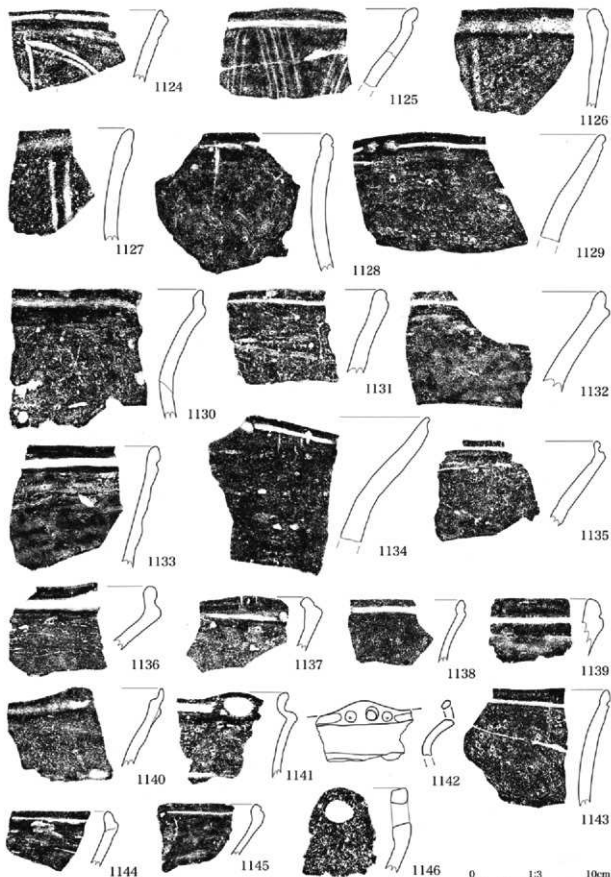
第214图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(6)



第 215 图 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (7)



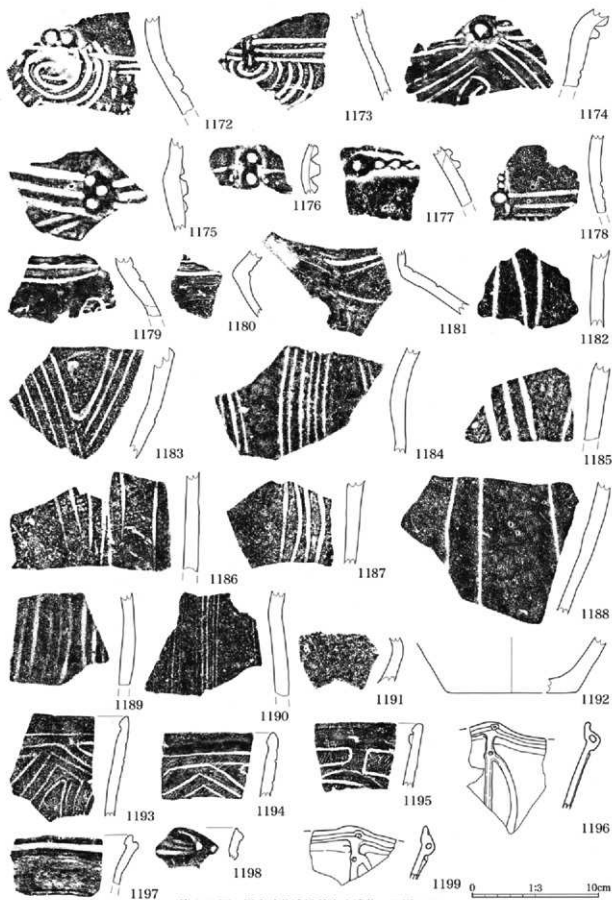
第 216 图 縄文時代遺構外出土遺物 Ⅲ区 (8)



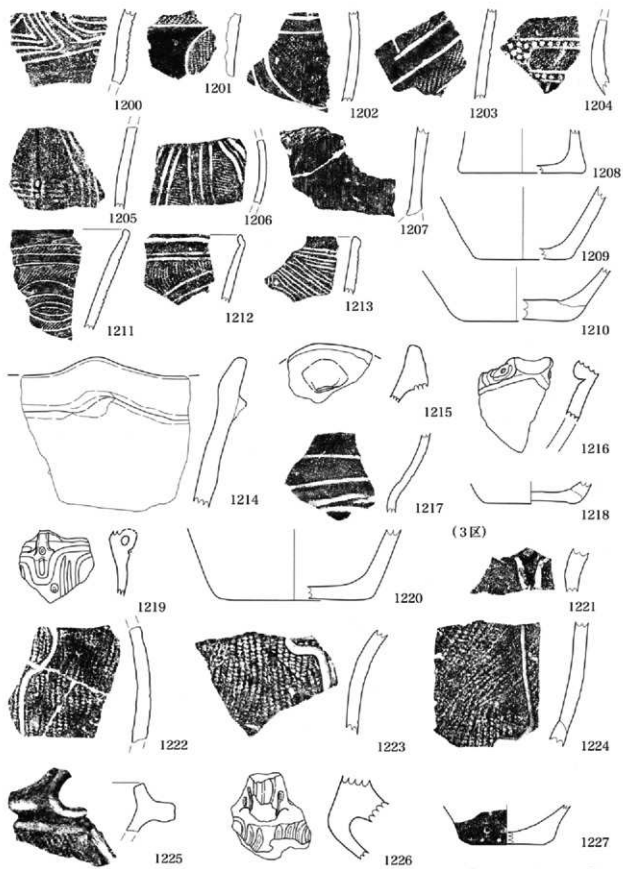
第 217 图 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (9)



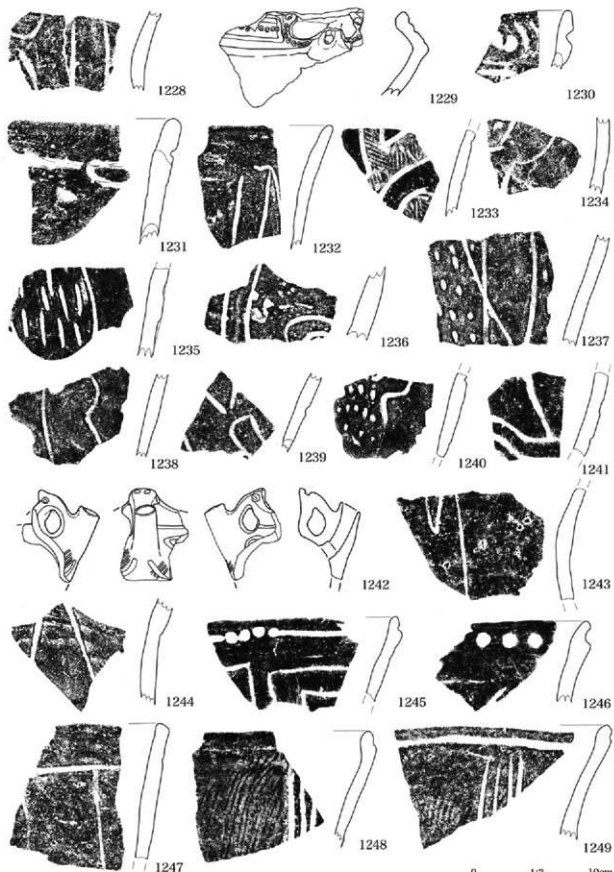
第 218 图 縄文時代遺構外出土遺物 III区(10)



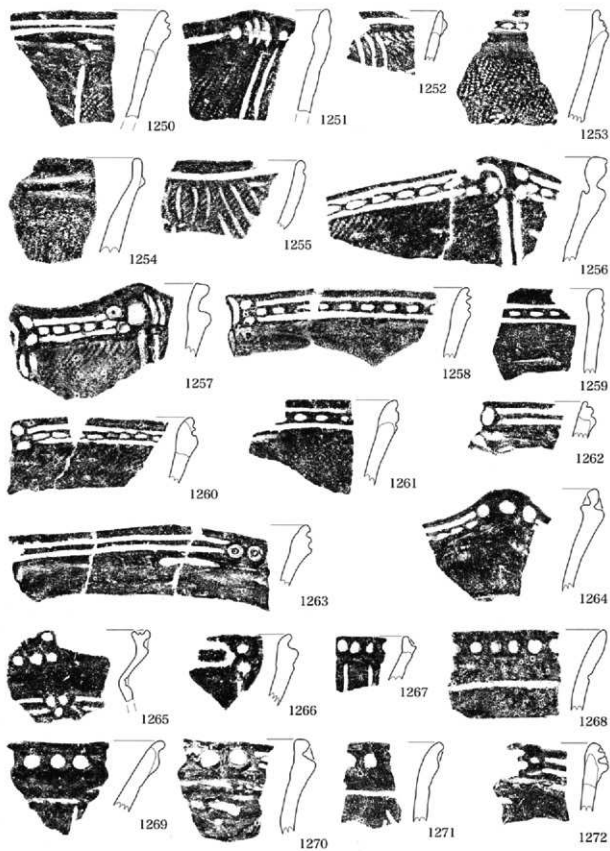
第 219 图 縄文時代遺構外出土遺物 Ⅲ区 (11)



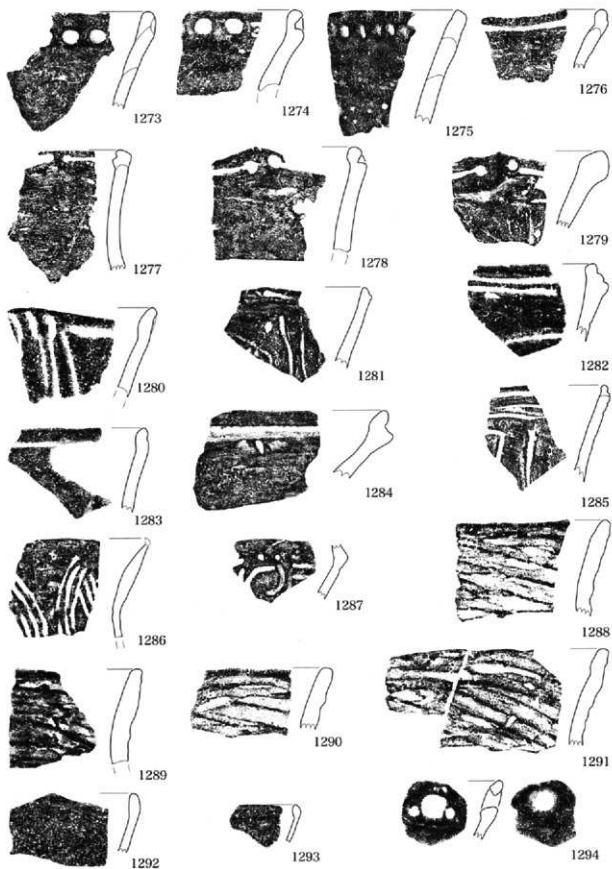
第 220 图 縄文時代遺構外出土遺物 Ⅲ区(12)・3区(1)



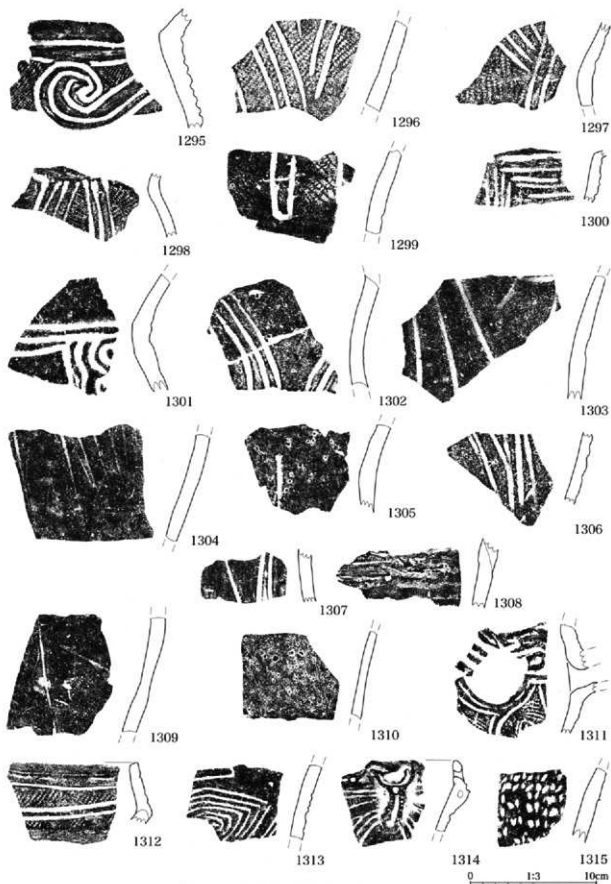
第 221 图 縄文時代遺横外出土遺物 3 区 (2)



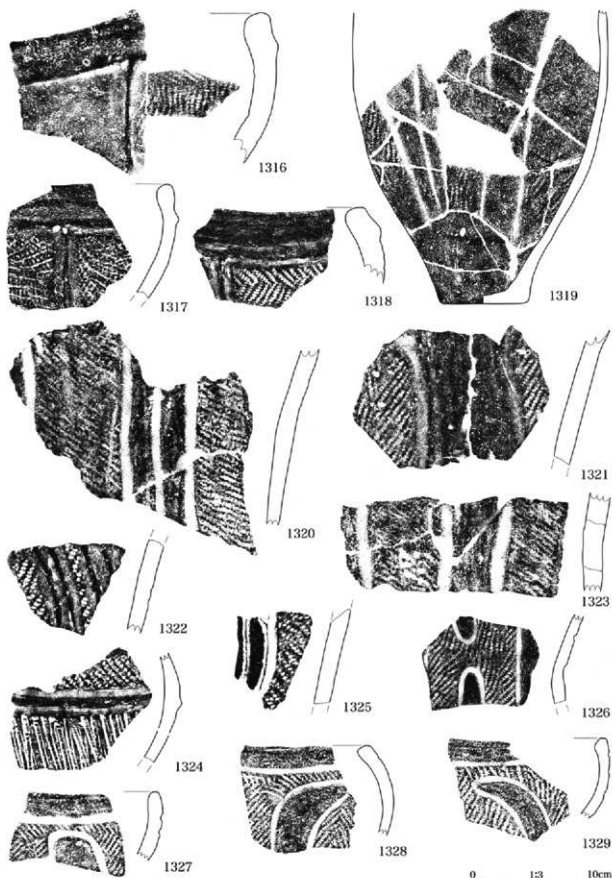
第 222 图 縄文時代遺構外出土遺物 3区(3)



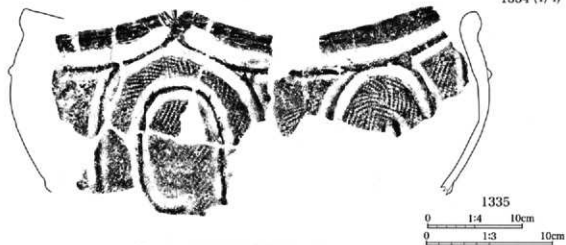
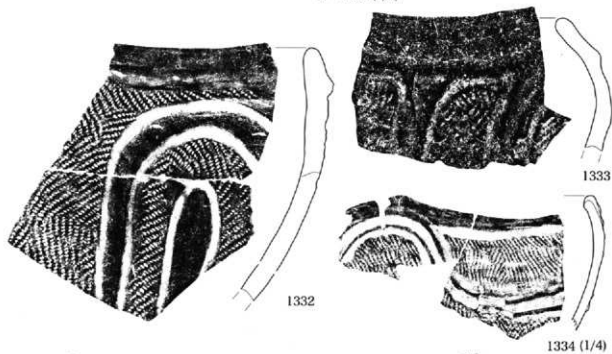
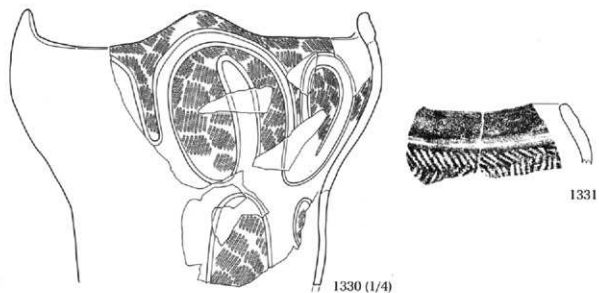
第 223 図 縄文時代遺構外出土遺物 3区(4)



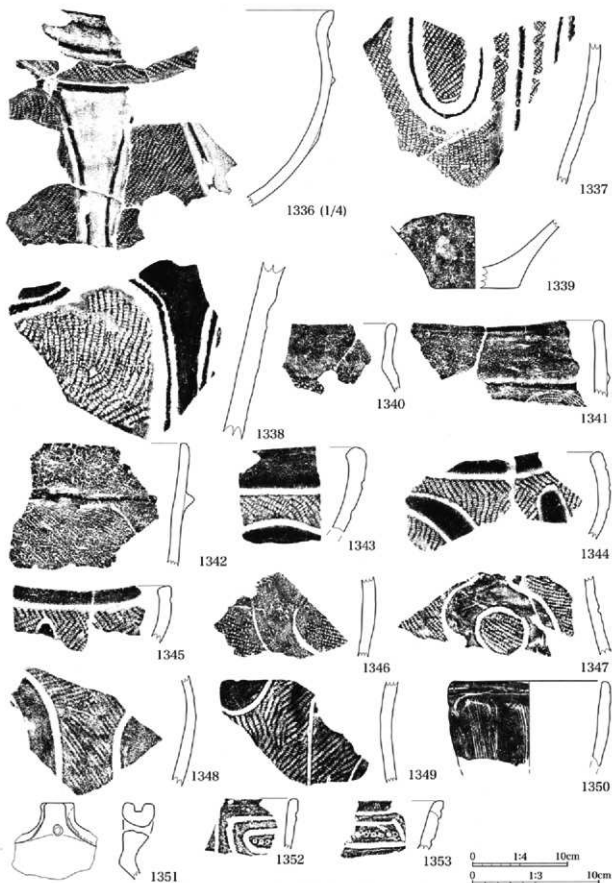
第 224 图 縄文時代遺構外出土遺物 3 区 (5)



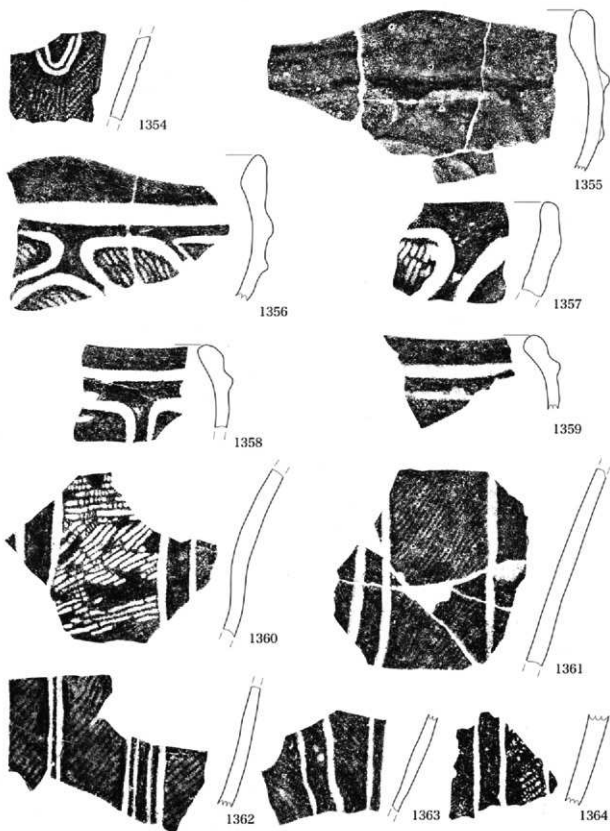
第 225 図 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (1)



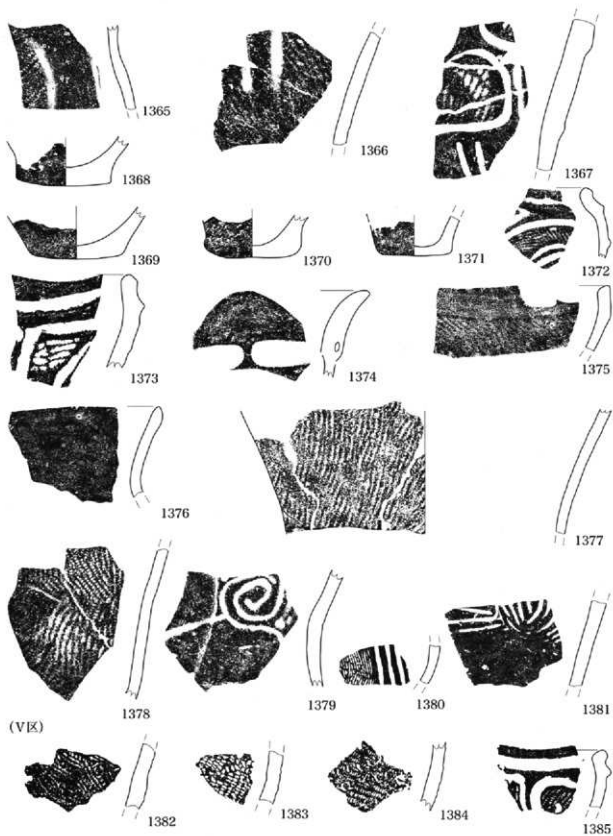
第 226 图 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (2)



第 227 图 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (3)

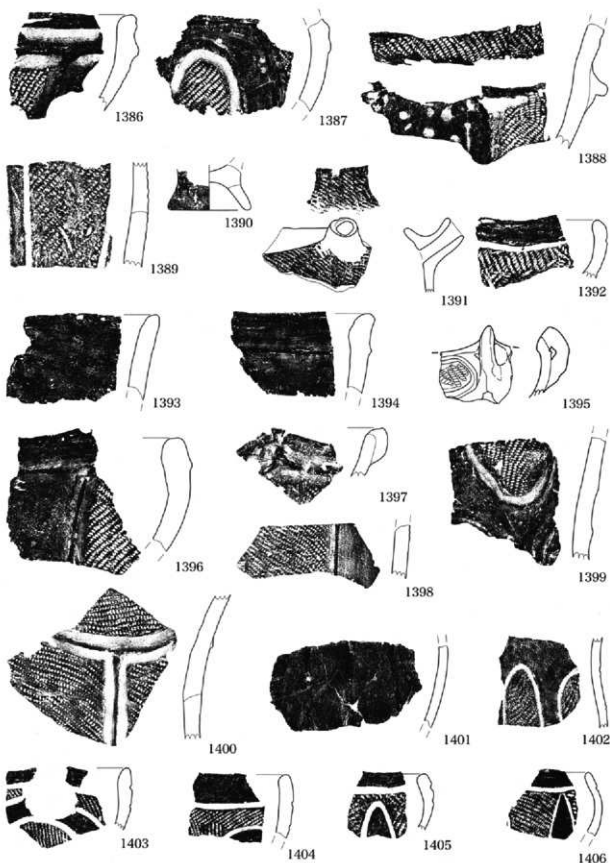


第 228 图 縄文時代遺構外出土遺物 4区(1)

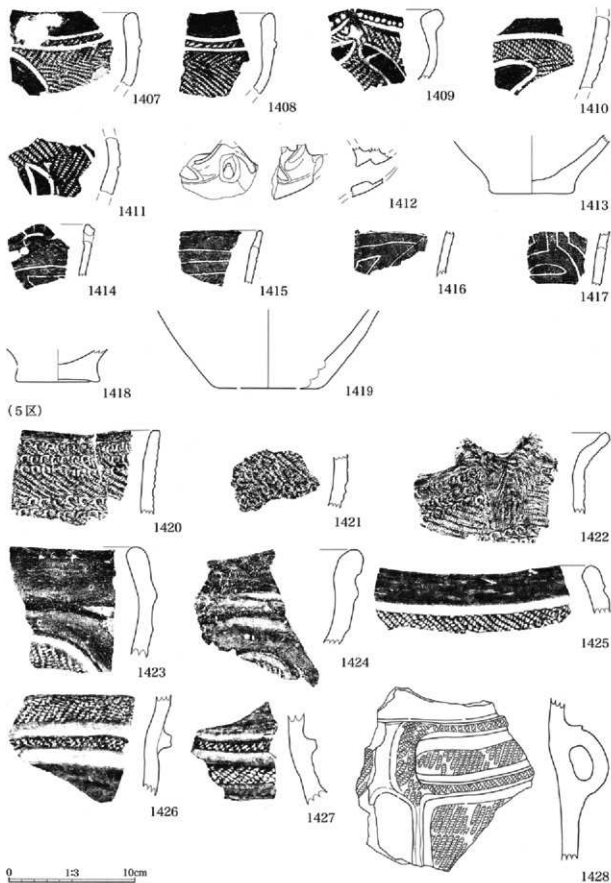


第 229 图 縄文時代遺構外出土遺物 4区(2)・V区(1)

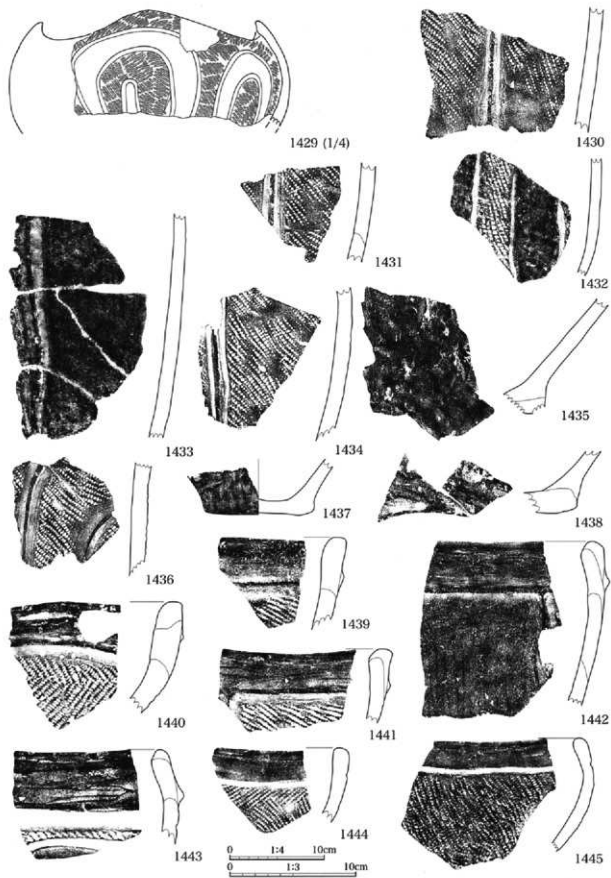
0 1:3 10cm



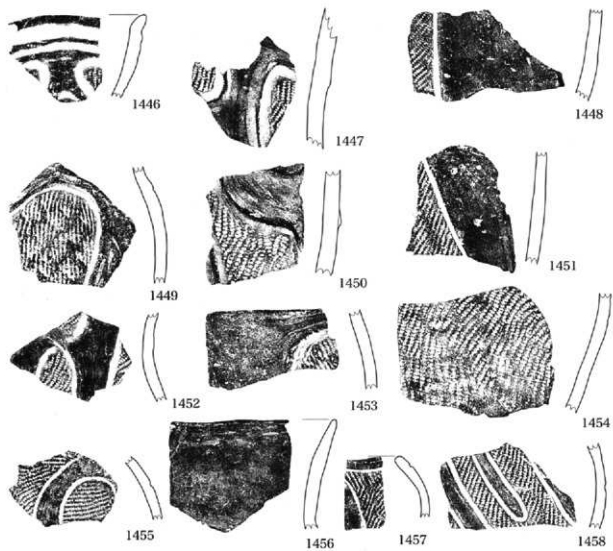
第 230 图 縄文時代遺構外出土遺物 V区(2)



第231图 縄文時代遺構外出土遺物 V区(3)・5区(1)

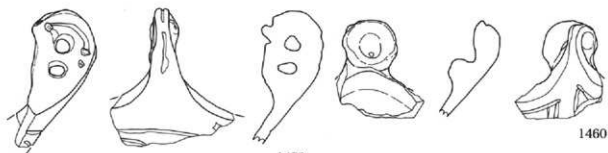


第232图 縄文時代遺構外出土遺物 5区(2)



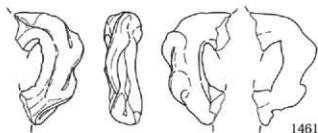
第 233 图 縄文時代遺構外出土遺物 5区 (3)

0 1:3 10cm

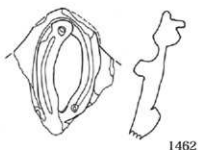


1459

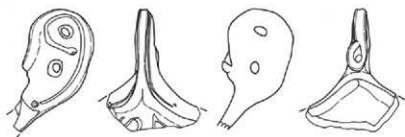
1460



1461



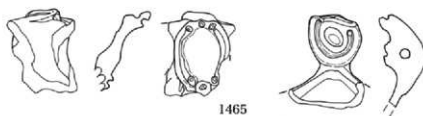
1462



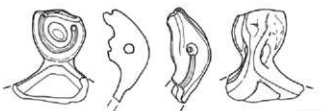
1463



1464



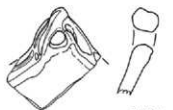
1465



1466



1467



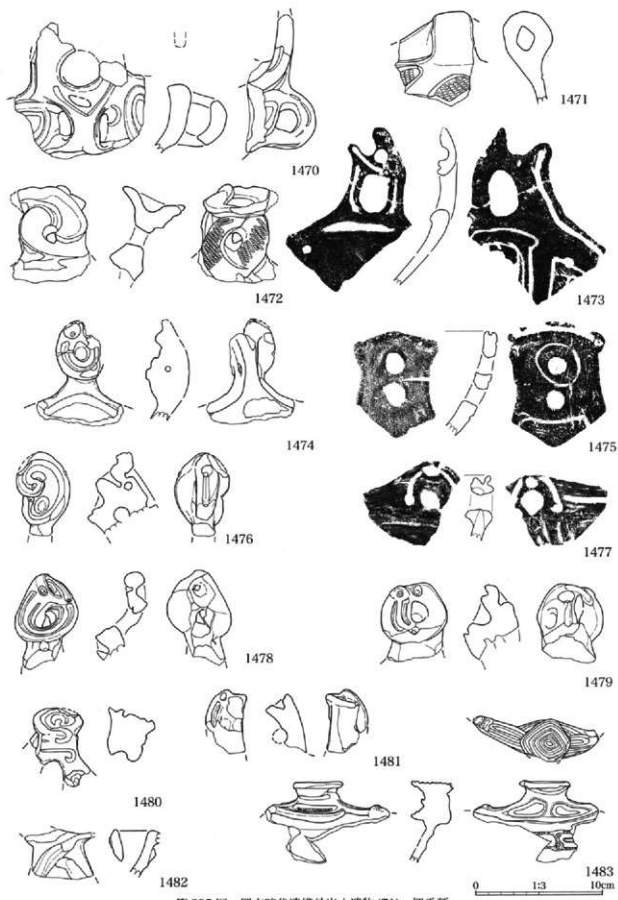
1468



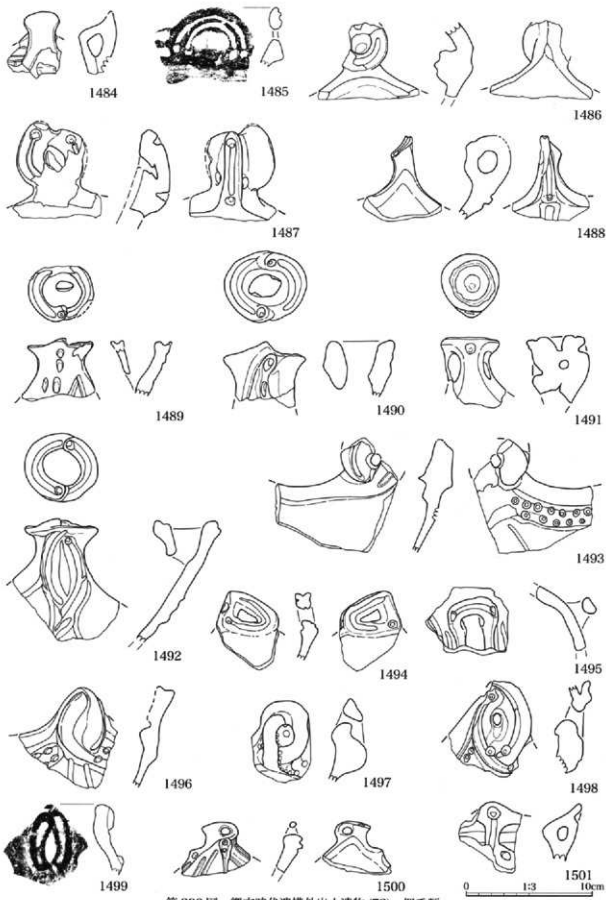
1469

第234图 縄文時代遺構外出土遺物(70) 把手類

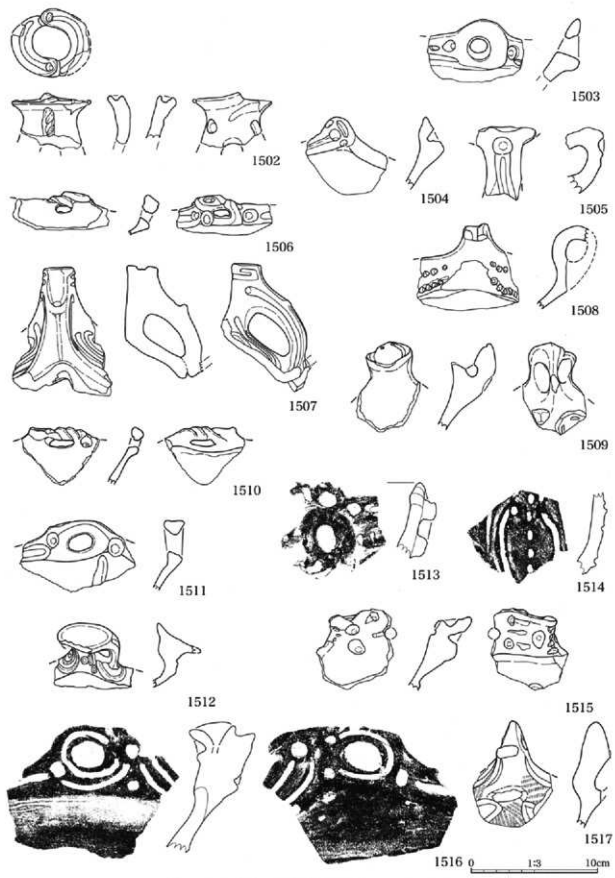
0 1:3 10cm



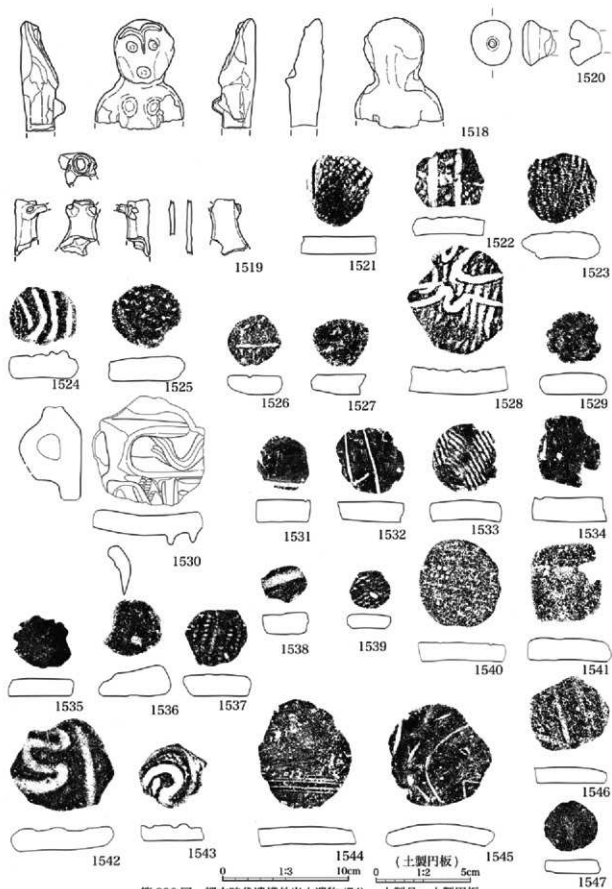
第 235 图 縄文時代遺構外出土遺物(71) 把手類



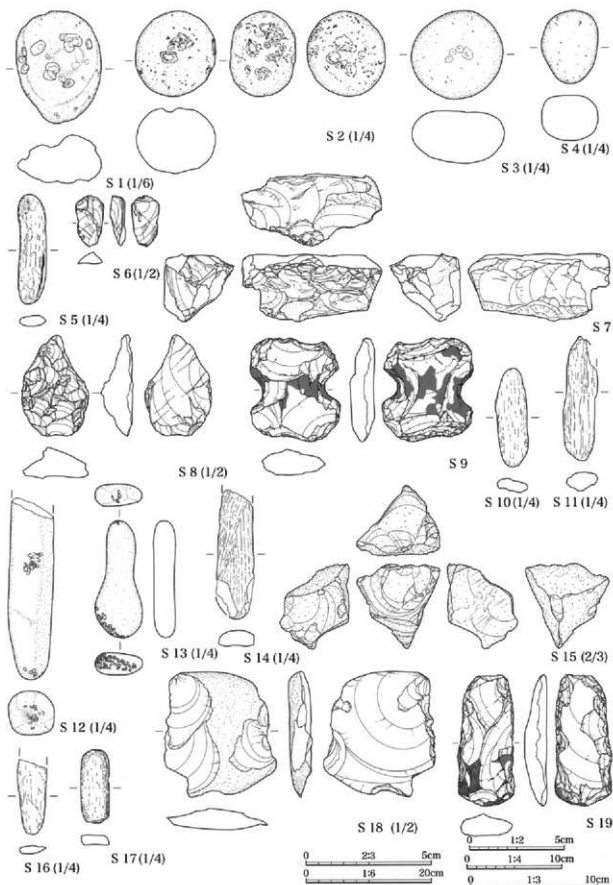
第236图 铜文时代遺構外出土遺物(72) 把手類



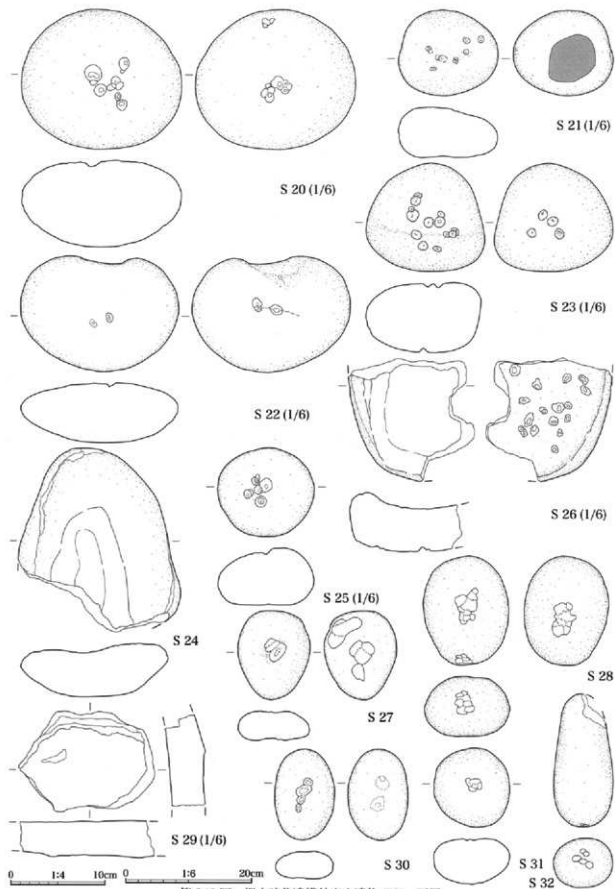
第 237 圖 縄文時代遺構外出土遺物 (73) 把手類



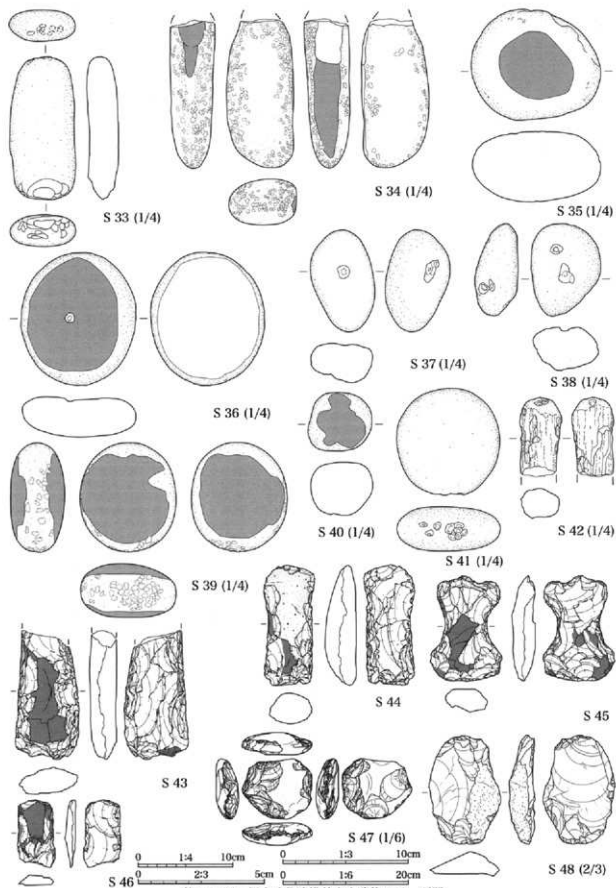
第 238 图 縄文時代遺構外出土遺物 (74) 土製品・土製円板



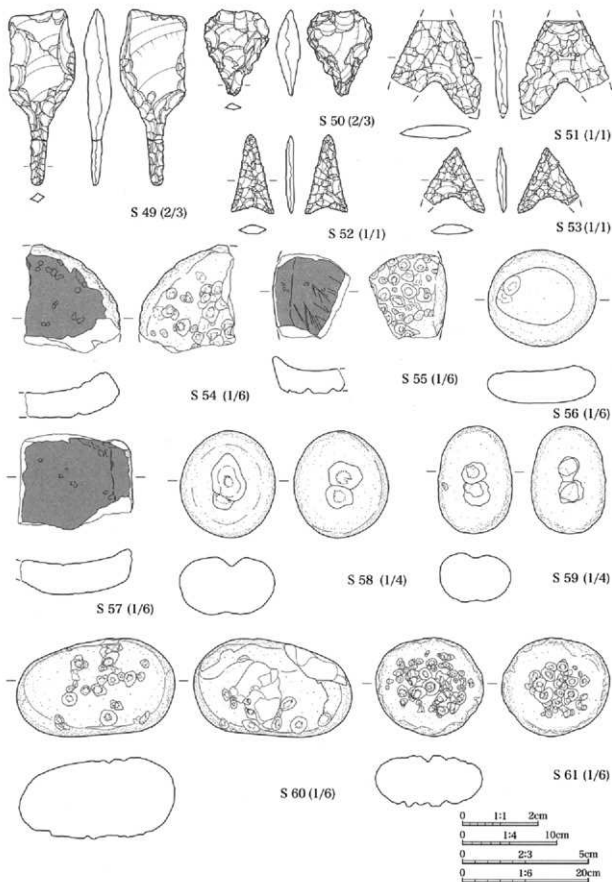
第 239 图 縄文時代遺構外出土遺物 (75) 石器



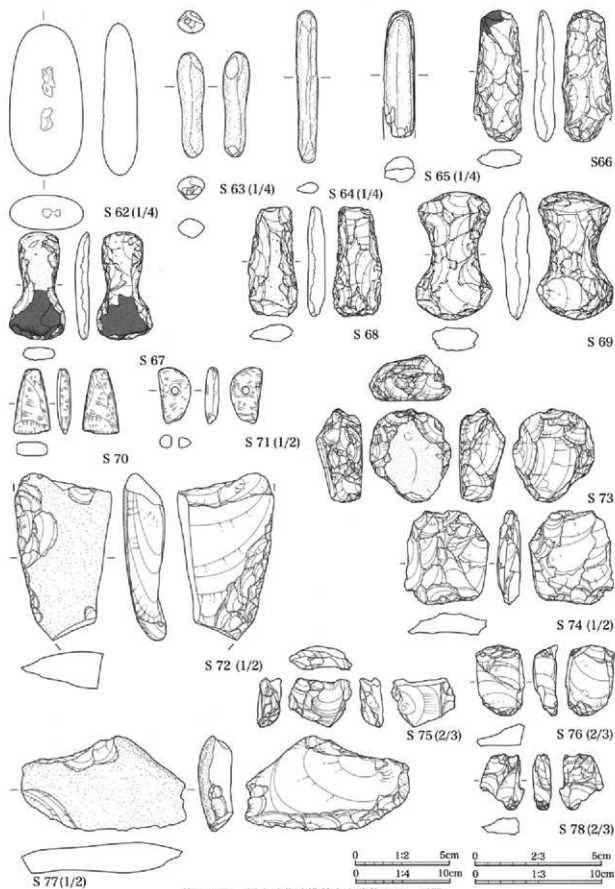
第 240 図 縄文時代遺構外出土遺物 (76) 石器



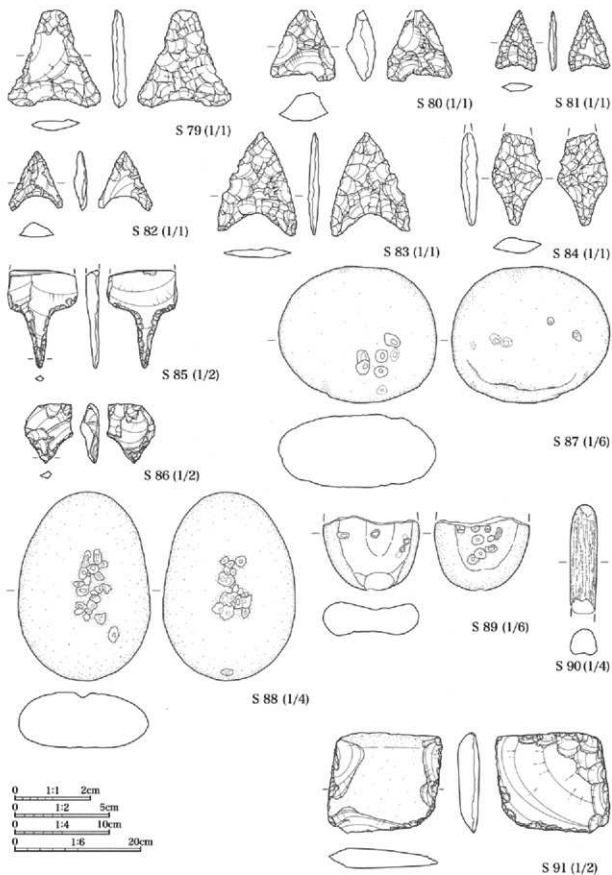
第 241 図 縄文時代遺構外出土遺物(77) 石器



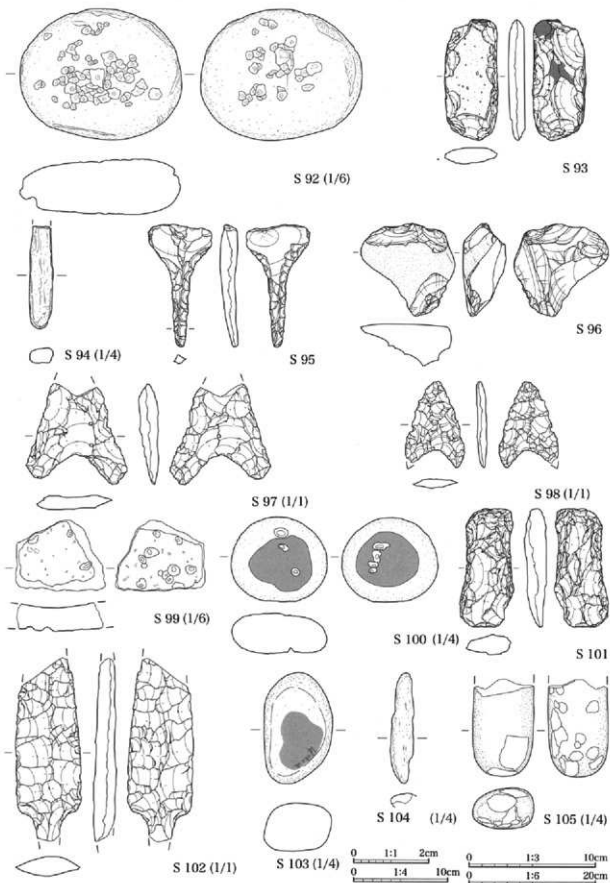
第 242 图 縄文時代遺構外出土遺物 (78) 石器



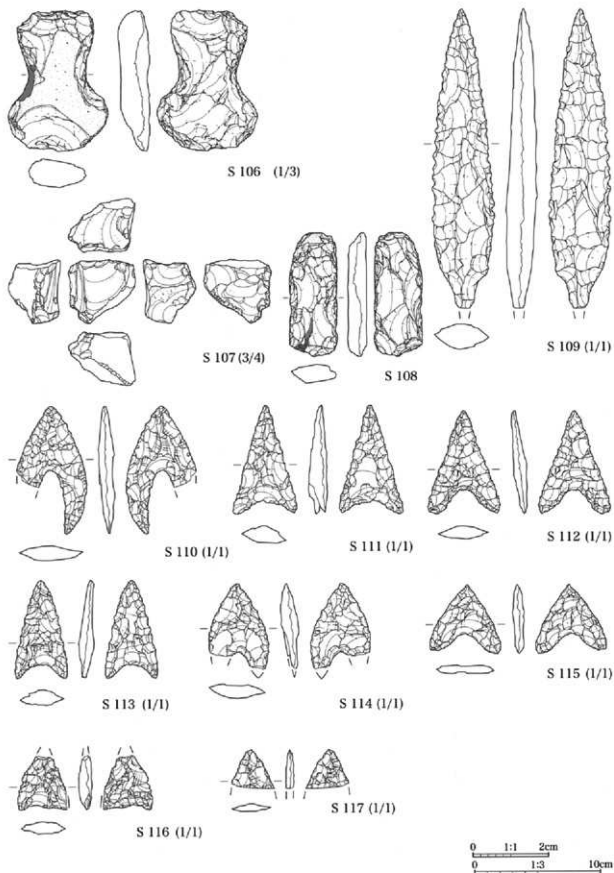
第 243 图 縄文時代遺構外出土遺物 (79) 石器



第 244 圖 縄文時代遺構外出土遺物 (80) 石器



第 245 圖 縄文時代遺構外出土遺物(81) 石器



第 246 図 縄文時代遺構外出土遺物(82) 石器

第3項 古代

下田遺跡における古代の遺構は、地形的な条件から低地部分における水田や畠が主である。特に、I・I区の埋没河内道内では良好な遺存状況を示す。しかし、全体的には現代の圃場整備による削平が著しく不明瞭な点が多い。東端部のV区の敷高部では、製鉄関連遺物の出土があった他、小形な竪穴住居跡が1軒、大規模な用水路1条が検出された。

(1) 住居跡

V区3号住居跡(第247図、PL39・40)

V区中央やや南寄りの、(946～949, -527～-529)グリッドに位置する。平面形は2.03m×1.92mの隅丸方形を呈する。壁は垂直気味に立ち上がり、深さは25cmである。

覆土は、レンズ状の堆積が認められる。

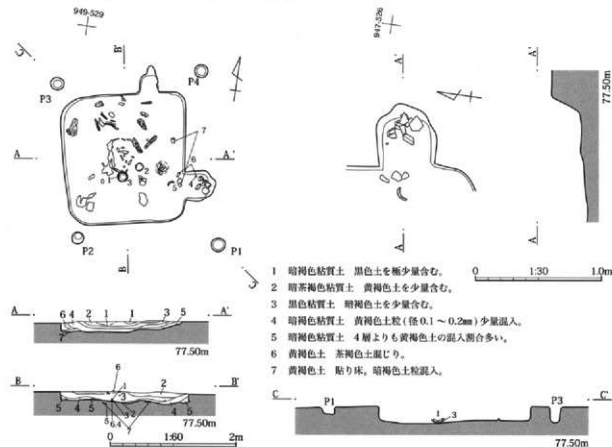
竈は造り変えが行われており、北壁の竈が古く、東壁の竈が新しい。東竈の燃焼部は幅48cmで、壁

から50cm張り出しているが、煙道は残存しない。覆土には被熱が顕著な天井材の大形ブロックが認められる。燃焼部の奥と焚き口部手前には土器器臺の破片が床面から浮いた状態で出土した。

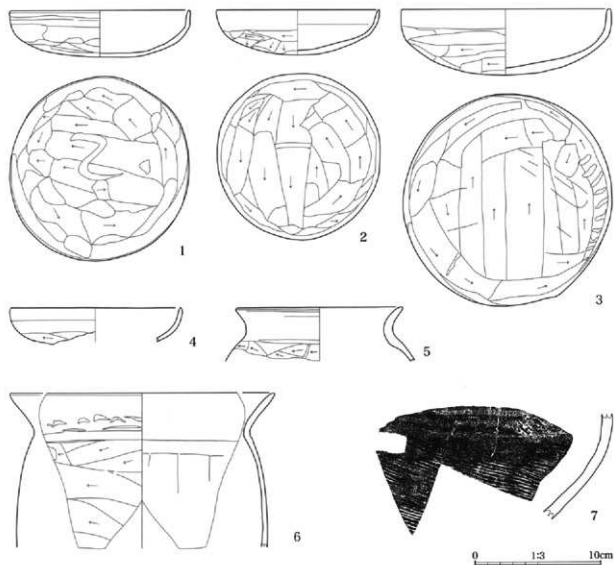
床面は平坦で、竪穴内部には柱穴や貯蔵穴は認められなかった。床面に密着する状態で、炭化材が出土した。竪穴の各コーナの外部には、4基のビットが検出されており、本住居の上屋構造に関わる施設と考えられる。規模(径・深さ)は、以下の通りである。P1(42×35cm・20cm)、P2(68×57cm・26cm)、P3(49cm・13cm)、P4(62×52cm・28cm)。

床面中央部には、土器器坪が3点出土し、内2点は大小の個体が重ね合わせられた状況であった。住居の廃絶に関わり遺棄された可能性がある(第248図、PL175)。

本住居跡の時期は、出土した土器類から8世紀前半と位置づけられる。



第247図 V区3号住居跡



第 248 图 V区 3号住居跡出土遺物

(2) 鉄滓散布地

V区1号鉄滓散布地 (第249～251図、PL106)

V区東部の(955～970, -475～-490)グリッドの範囲で多量の鉄滓等の小片と炭化物・焼土が混在して分布していた。約14.4m×8.4mほどの不整形な長円形を呈する区域での密度が高く、下部に何らかの遺構の存在が想定された。散布地内には、近世以降の溝群が北から南、あるいは北東から南西方向に掘削されており攪乱が著しい。他に、周辺のグリッドからも少量ながら鉄滓の分布の広がりが認められた。

調査段階では、直径40cm前後の円形の焼土範囲が列状に並ぶことから、連房式の鍛冶遺構を含めた鍛冶関連遺構を想定して調査された。椀形鍛冶滓に形状が類する遺物が出土したことも判断材料であった。

しかし、整理段階で鉄滓を詳細に観察した結果、散布地内出土の鉄滓類には明確な鍛冶滓が含まれず、大部分が(製錬)製鉄工程に伴う鉄滓であることが判明した。写真・図面類の再検討の結果、鍛冶炉と考えられた焼土分布は地山が焼土化した状況ではなく、19(60)・17号溝内に流入した焼土であるとの結論に至った。

この鉄滓散布地内には、製鉄工程に伴う遺構は検出されなかった。また、出土した鉄滓がいずれも小破片であることから、周辺の製鉄遺構からの二次的な廃棄、もしくは傾斜上位の遺構からの流入遺物である可能性が高いと考えられる。

本散布地の形成時期は、古代にさかのぼることが層位的に確認できる。

当散布地周辺から出土した遺物の総点数は8,665点(55,309.1kg)であり、その内、1号鉄滓散布地出土遺物は2,863点(18,509.9kg)である。また、鉄滓散布地を含むグリッド取納遺物は316点(25,99.9kg)である。また、近世以降の溝群や攪乱中からは5,486点(10,810.1kg)出土したが、後世の攪乱中の遺物も基本的には、本来の散布地に帰属するものと考えられる。内訳は以下の通りである。

なお、他に2号鍛冶跡として調査をした周辺の土壌の一部サンプルから4.321kgの砂鉄が採取されている。

総重量中の比率は、炉壁13.5%(8,607.7kg)、大口径羽口2.2%(1,404.9kg)、炉内滓58.8%(37,476.8kg)、マグネタイト系遺物1.32%(0,842.8kg)、流動滓12.54%(7,995.2kg)、流出孔滓0.52%(0,331.7kg)である。その他、工具付着滓、粘土質溶解物、炉材石・被熱石、黒鉛化木炭、再結合滓、椀形鍛冶滓(?), 種別を特定できない小鉄滓類、鉄製品、炭、土器、石等が出土した。

上記の内、実測図掲載遺物は165点であり、分析遺物は15点である(第255～260図、PL176～178)。

各遺物の概要は以下の通りである。

炉内滓の内、含鉄M(◎)が1点(4.3g)、含鉄H(○)が2点(103.3g)、含鉄銕化(△)530点(3,741.6kg)とメタル度の高い滓はほとんど含まれない。

送風装置に関わる大口径羽口は小破片のみであるため、口径等は復元できなかった。外周部に白色粘土質の補修土を被せた破片や、砂鉄焼結が観察される破片も認められる。マグネタイト系遺物の表面にも砂鉄焼結が観察される。

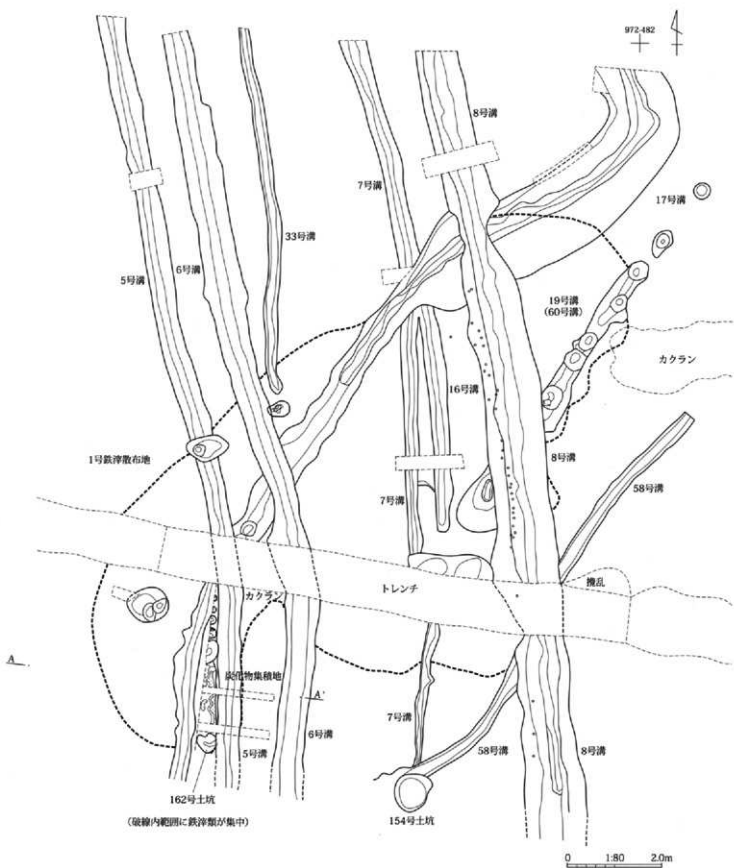
工具付着滓からは、残存部の内径の復元から直径1.7～2cm程度の丸棒状の工具が想定される。

炉壁は形状や表面の特徴から上段・中段・下段と大別され、さらにそれぞれが上半・下半とに分類される。

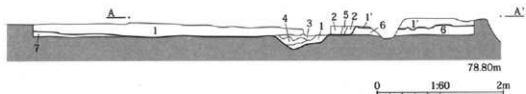
木炭は、同定の結果、クヌギ・コナラ属であることが判明した。

砂鉄の内、磁着するものは直径0.8mm未満が56.8g、0.8mm以上が156.8g、磁着しないもので直径0.8mm未満が381g、直径0.8mm以上が3478.8gである。ただし、現地でのサンプリング方法に起因して、地山中の砂鉄が大勢を占める可能性があり、必ずしも原料砂鉄を示す資料とは言えない。

土器は、土器器の小破片が主体であるが、先行する縄文土器小片や攪乱中の陶磁器類も含まれる。

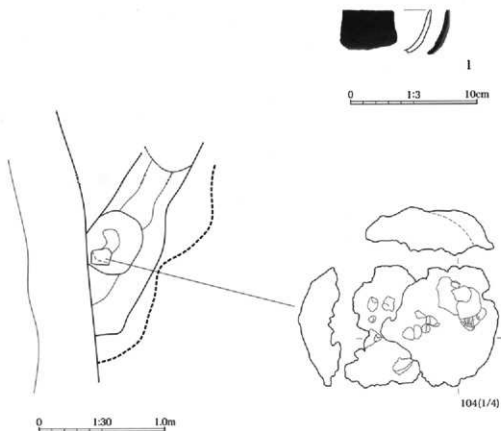


第 249 図 V区 1号鉄滓散布地 (1)



- 1 黒褐色土 上面に焼土粒を少量含む。As-C 軽石を含む。
- 1' 黄褐色土 As-C 軽石を含む。
- 2 褐色土 炭(径1cm)や焼土粒(径5mm)を均一に含む。
- 3 暗褐色土 粘質。中に砂粒あり。
- 4 黄褐色土 粘質。ローム粒多少混入。
- 5 褐色土 2層より炭や焼土粒が多く混入。
- 6 黄褐色土 ソフトローム
- 7 暗黄褐色土 ハードローム

第250図 V区1号鉄滓散布地(2)



第251図 V区1号鉄滓散布地出土遺物、再結合滓出土状況

	1号鉄滓散布地						流動片
	炉壁	大口径裂口	大口径裂口 (砂鉄塊)	マグネサイト塊 (砂鉄塊)	加壁 (補修)	粘土質溶解物 ガラス質、含鉄	
上段上半 (被覆)	1, 2	18	25	20, 26	38	H (○)	48, 50
上段下半 (砂鉄塊)	3, 4, 5	19	26	31, 32	37		49, 56, 57, 58
中段上半 (炭化)	6, 7, 8	20	27	32	38	加壁 (含鉄) H (○)	51, 59, 60
中段下半 (淨化)	9, 10, 11	21 分析番号No.2	砂鉄塊別塊	30	39	M (◎)	61, 62
下段上半 (淨化)	12, 13, 14	22	28 分析番号No.3	34 分析番号No.4	40		63, 64 分析番号No.5
下段下半 (淨化)	15, 16, 17	23	29	35	41	粘土質溶解物 (大口径裂口付)	65, 66, 67
分析		24		36	42	流出孔	68

第 252 図 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物構成図(1)

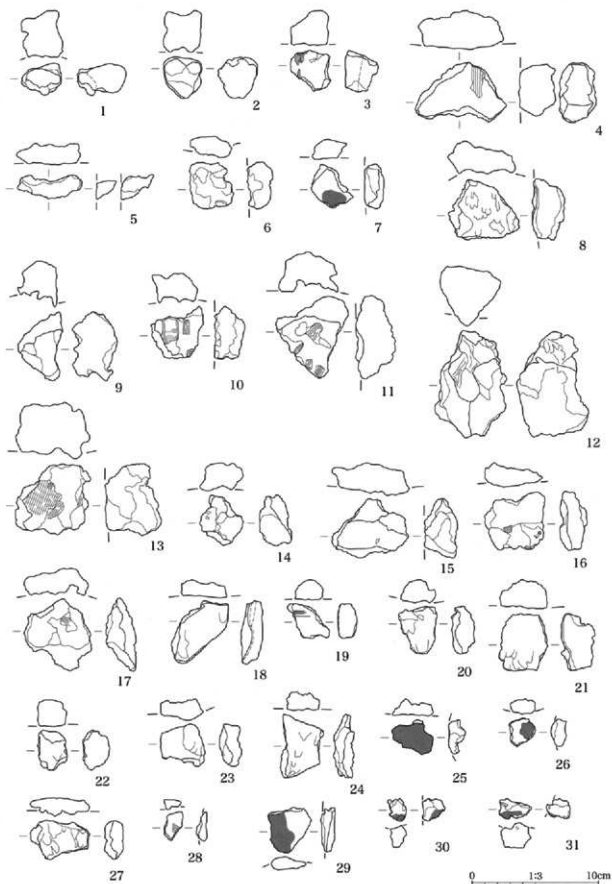
1号鉄洋散布地

如内洋 (如磁付き)	如内洋	如内洋 (白色洋化)	如内洋(含鉄)		粘土質溶解物 ガラス質洋	胸形鐵片洋 (中) ?	胸形鐵片洋 (小) ?	再結合洋 (砂鉄付き)				
			断化(△)	II(O)								
64 分析標本7	70	76	79	84	80	88	100	104 分析標本12				
									65	71	85	89
66	72	77	81	86	91	92	93	94				
									67	73	82	87
68	74	83	88	96	97	99	103					
								69	75	78	83	88
1	1	1	1	1	1	1	2					

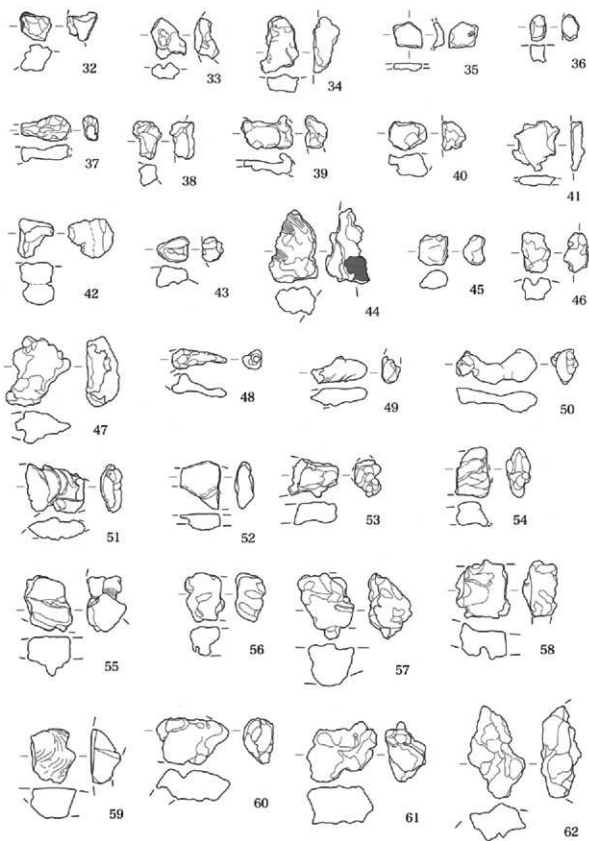
第253図 V区1号鉄洋散布地出土製鉄関連遺物構成図(2)

I号鉄滓散布地 攪乱一括										
分類	数量	大口徑羽口 (砂鉄塊状)		砂鉄(遺跡)	流動滓		炉内滓 (含炭)	炉内滓 (含炭)	炉内滓 (含炭)	炉内滓 (含炭)
		数量	形状		数量	形状				
上段上半 (炭化)	106	115	116	121 分形番号13	130	135	142	149	156	162
上段下半 (砂鉄塊状)	107	118	119	123	132	137	144	151	158	163
中段上半 (炭化)	110	121	122	125	138	146	147	153	160	165
中段下半 (洋化)	112	124	125	128	140	147	154	160	169	165
下段上半 (洋化)	114	120	121	129	136	141	148	155	161	165
分析				1						2

第254图 V区I号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物構成図(3)

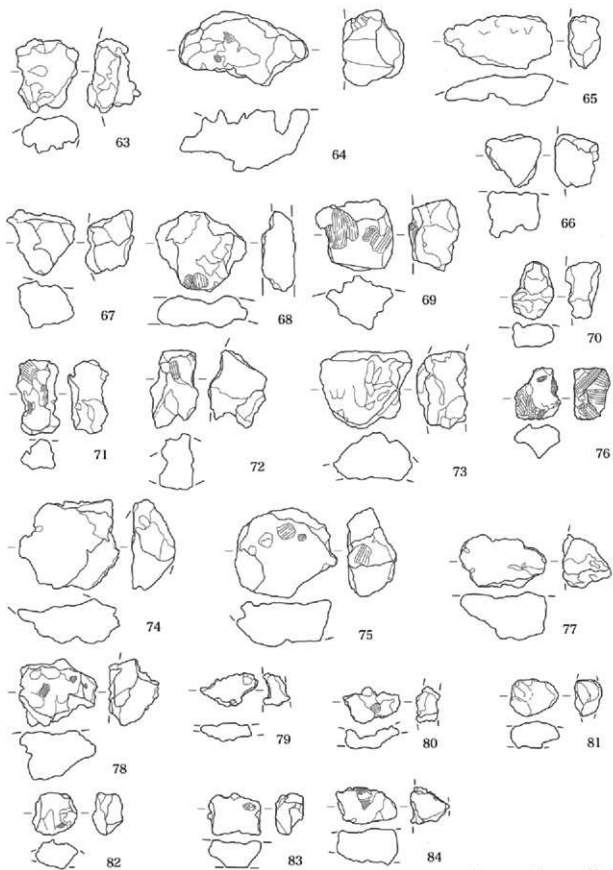


第 255 图 V区1号铁滓散布地出土製鉄関連遺物(1)

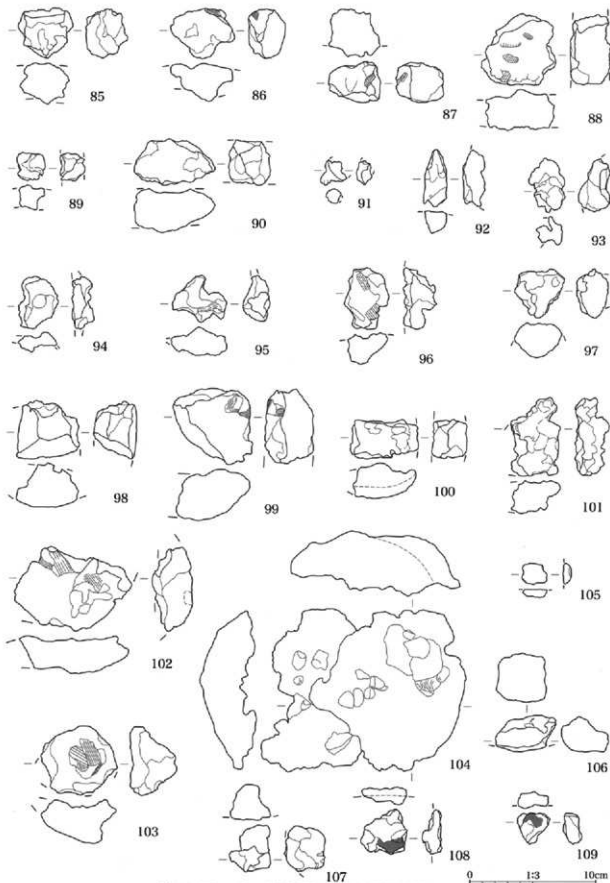


0 1:3 10cm

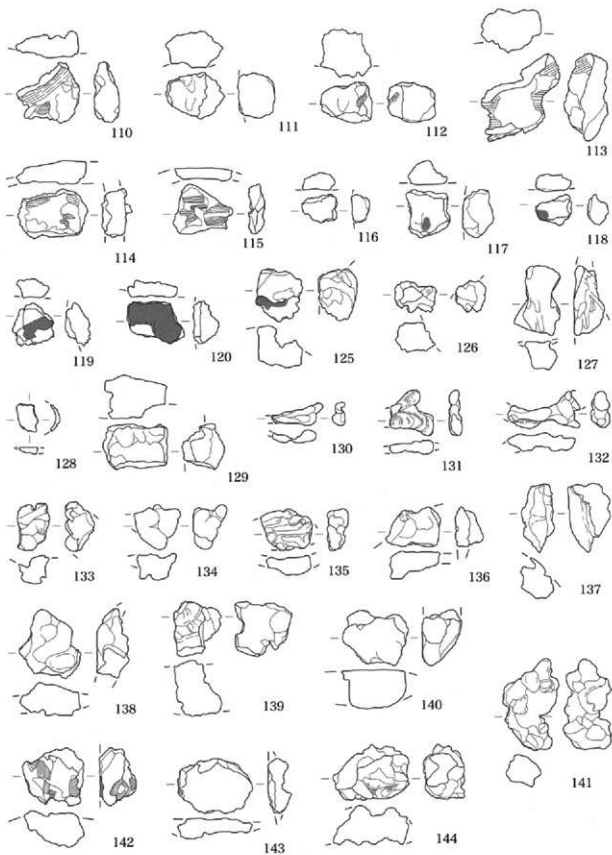
第 256 图 V 区 1 号铁滓散布地出土製鉄関連遺物 (2)



第 257 图 V 区 1 号铁滓散布地出土製鉄関連遺物 (3)

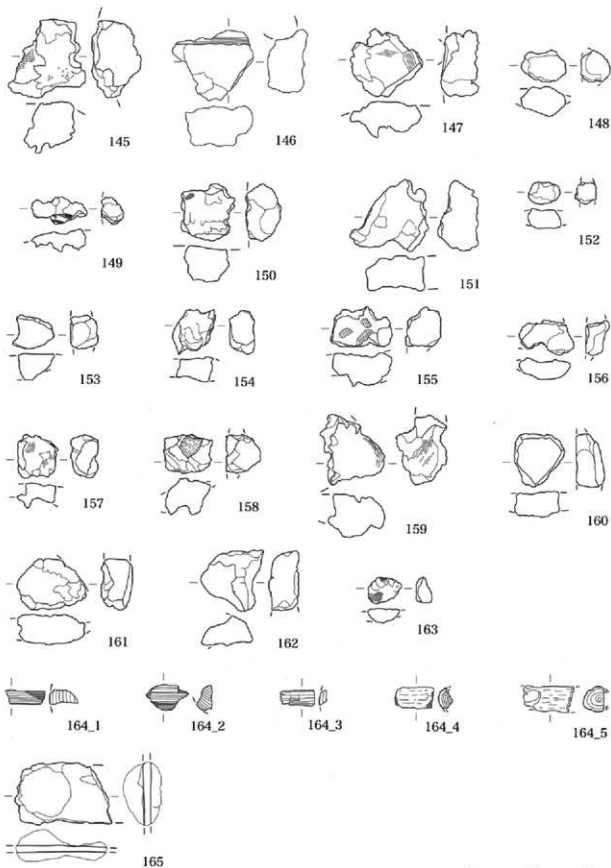


第 258 图 V 区 1 号铁滓散布地出土製鉄関連遺物 (4)



第 259 图 V区 1号铁滓散布地出土製鉄関連遺物(5)

0 1:3 10cm



第260图 V区1号铁滓散布地出土製鉄関連遺物(6)

表9 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物観察表

(地区 A: V区1号鉄滓散布地、B: V区1号鉄滓散布地複乱一括)

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	線径 (mm)	メノウ	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
1	砂眼 (上段上平、焼熟)	A	2.3	3.1	3.7	19.5	1	なし	内面が焼熟して、薄く垂直した砂眼片。左側面はひび割れからの発泡状態で、下面は粘土質色の結合部。胎土には僅かに浮片やスチを認める。	
2	砂眼 (上段上平、焼熟)	A	3.2	3.1	3.2	21.6	1	なし	内面が灰白色に焼熟した砂眼片。上面を除く側面と裏面は焼面となる。胎土の織りが甘いのみか、小さなひび割れが表面周りに見られ、ひび割れの一部が砂眼が焼結する。胎土中にはスチが目立ち、スチは内面周りに集積する。	
3	砂眼 (上段下平、発泡)	A	3.1	3.0	2.7	16.5	1	なし	内面が約1.5cm前後の厚さに発泡した砂眼片。内面には浅い水痕が残る。側面は全面破面で、一部はひび割れからの焼結による浮片・発泡している。胎土は中や砂質で、短いスチが数多く混在している。色調は灰色となる。	
4	砂眼 (上段下平、発泡)	A	4.1	6.8	3.0	44.9	1	なし	内面全体が厚く発泡した砂眼片。発泡部分の最大厚みは2cmにも達する。内面は全体に発泡しており、本実質が点在する。右側の壁表面には、微細な浮れがたまっている。側面は全面破面。裏面には多数のスチが壁方向半分に集積する。	
5	砂眼 (上段下平、発泡)	A	1.4	5.1	1.6	10.2	1	なし	内面が浮化して、垂れが生じた砂眼片。表皮の一部は、紫紅色が強い。側面から裏面は全面破面。胎土はスチを多量に混じりたる粘土質。焼結状態は褐色から淡紫紅色。胎土表面は構成No.18～24の大口径破口に似る。	
6	砂眼 (中段、上平、砂鉄塊)	A	3.6	3.3	1.9	18.1	2	なし	内面が浮化して、垂れが生じた砂眼片。浮化した表皮は帯灰色。胎土の織りが甘いのみか、ひび割れも確認される。下面は水平に塗布れ、粘土質色の結合部。それは外の側面から裏面に破面となる。胎土はスチを混じりたる粘土質。裏面の焼結はやや紫紅色味。内面が浮化して、薄く砂鉄塊部を残す砂眼片。砂鉄塊部の厚みは最大0.3cmほどである。側面から裏面は全面破面。砂眼片内部には下平部ほど発泡が強い。胎土には多数のスチを混じり、スチの一部は灰褐色の灰化状態を呈す。裏面の焼結は褐色。	
7	砂眼 (中段、上平、砂鉄塊)	A	3.2	2.9	1.5	11.6	2	なし	内面が厚く浮化して黒色ガラス化した砂眼片。垂れが目立ち、表皮の一部に右側面の平滑層部が点在する。側面から裏面は全面破面。裏面は微細な浮れが点在する。側面及び裏面の可能性も残る。胎土はスチや右側面の石殻に加えて、軽石を含む粘土質。大口径破口の発泡部等々の表皮片の可能性もあり。	
8	砂眼 (中段、上平、砂鉄塊)	A	4.8	5.3	2.3	45.7	3	なし	全体が発泡した砂眼内面破片。内面は黒色ガラス化しており、上下に浅い水痕が残る。胎土部分は褐色気味の発泡状態で、破面には中～小の発泡化気孔が混在する。側面及び裏面は全面破面。胎土の発泡状態は構成No.12、13に似る。	
9	砂眼 (中段下平、浮化)	A	5.2	3.1	3.0	30.5	1	なし	内面が浮化して本実質の目立つ砂眼片。浮化状態は灰色から褐色と幅を持つ。胎土はスチを混じりたる砂質土。焼結が強く、胎土部分は灰色となる。	
10	砂眼 (中段下平、浮化)	A	3.3	4.1	2.2	25.4	1	なし	内面に厚く浮解が形成された砂眼片。浮解は結晶が発達し、水痕も目立つ。砂眼内面は最大1.5cm程度が発泡する。側面は全面破面。裏面はひび割れが目立つ破面状で、全体に底状となる。ひび割れに沿って浮解が貫入する。中や砂質の側面部の砂眼片のみ。	
11	砂眼 (中段下平、浮化)	A	6.2	5.4	2.7	73.8	1	なし	全体が浮解・発泡して内面が硬いわを持つ層に覆われた砂眼片。側面は全面破面であり裏面は破面。内面は褐色ガラス質で垂れが強い。発泡部分の最大厚みは5mm弱。下平部の裏面部は底状の平面状で、覆り方に沿ったものみ。	
12	砂眼 (下段上平、浮化強)	A	6.1	5.6	4.5	112.5	1	なし	分析資料No.1 分析資料詳細観察表参照。	No.1
13	砂眼 (下段上平、浮化強)	A	3.7	3.5	2.1	25.0	1	なし	内面が褐色をした小塊状の浮いた砂眼片。浮解は気孔や小さな水痕を持ち、上平部ほど白く空いている。浮解部の風化のためか、こうした風化状態は構成No.11と15、16とも共通する。砂眼部分は紫かにスチ入る。側面は全面破面。	
14	砂眼 (下段下平、浮付き)	A	4.3	6.1	2.7	53.3	1	なし	内面に1.5cm程度の厚みで浮解が形成された砂眼片。側面は全面破面で浮解は風化が通入している。浮中の気孔はやや中～大気。表面には本実質らしき塊状が点在するが不明瞭。裏面に薄く残る砂眼土はややボソソとしており、軽質部を残す。砂眼としては、体部ではかなり床面寄り。	
15	砂眼 (下段下平、浮付き)	A	4.4	4.5	1.7	36.8	3	なし	内面に浮解が広がる砂眼片。上平部は発泡気味で、下平部は盛り上がった浮解となる。浮解には気孔や微細な本実質が残る。砂眼部分の側面は全面破面であり裏面は破面。側面及び裏面は全面破面。胎土は中や砂質土で構成No.15と近い。左側の裏面には浮解が突出する。	
16	砂眼 (下段下平、浮付き)	A	5.5	5.3	2.3	41.5	3	なし	全体に構成No.16と似た外観を持つ砂眼破片。内面は褐色には浮解が主体であり、中段部分で発泡している。内面左端部は褐色気味の浮解。砂眼部分の側面は破面主体で、裏面は破面となる。薄く砂鉄がガラス質に浮化した大口径破口の右側面破片。側面は全面破面であり、内面は破面となる。胎土は厚み方向で内外的に2層化する。外層はスチを混じりたる粘土質で、通常の大口径破口の胎土と共通する。内層は砂質を多量に混じりたる胎土と、赤褐色に焼結している。本資料は外層部に白色粘土質の結核土を混入した大口径破片と推定される。	
17	砂眼 (下段下平、浮付き)	A	3.8	3.8	1.2	23.5	3	なし	大口径破口の外部部小破片。外層はゆるやかな底状の破面を呈し、灰白色に焼熟しており、一部に発泡した層が混在する。胎土は構成No.18と同様。内外の層に分かれており、外層部は約0.4cm程度の厚みでスチを混じりたる灰白色の粘土質。内層部には軽質を混じりたる赤褐色の粘土が混在する。大口径破口の基部部りの破片のみ。	
18	大口径破口	A	2.0	2.5	1.5	9.2	1	なし	外層が底状に浮化した大口径破口の外部部破片。外層のみならず、側面から内面は全面破面。外層は発泡状態で、左側中央部で右方向にやや小気味の破面が突出する。浅層部は一部が結晶が発達して、砂鉄塊部を残す。胎土は中や右側面の石殻を含む粘土質。胎土表面は構成No.21の大口径破口の基部部りの破片のみ。	
19	大口径破口	A	4.6	3.9	2.3	35.8	1	なし	分析資料No.2 分析資料詳細観察表参照。	No.2
20	大口径破口	A	2.3	3.0	2.1	14.5	2	なし	大口径破口の外部部小破片。外層は褐色色に浮化している。側面から外層は全面破面。胎土はスチや右側面の石殻に加えて、灰白色のスチアを含む粘土質。微細なひび割れも生じている。内面は明るい褐色で、表皮は欠落しているが、破口の厚みがある程度反映している。底状で1.2cmを越える。	
21	大口径破口	A	3.4	3.0	1.6	16.1	2	なし	外層の右半分が厚く浮化した大口径破口の外部部破片。側面4面と内面側が全面破面となる。外層左側は表面の浮解が脱落して、重層した気孔が混在する。外層は右側方向に底状。胎土はスチや右側面の石殻を多量に混じりたる粘土質。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	編年 相	メタ 分類	備 考	分析 番号
			長さ	幅	厚さ					
24	大口径開口	A	3.1	4.9	1.6	18.4	3	なし	外周が黒色ガラス質に染く淨化した大口径開口、先端部寄りの外周部破片、側面4面と内面は全面破面、内面の平表面の一部は光彩を持つ、強く淨化しているためか、石質の石粒の部分から突出、胎土はスチヤや石炭を強く入る胎土、開口先端部の斜部沿いの破片か?	
25	大口径開口 (砂鉄焼結)	A	3.2	2.6	1.4	7.9	3	なし	外周に0.7mm程の厚みに砂鉄が焼結した大口径開口の外周部破片、砂鉄焼結部は開口外周部に沿って環状にとりまわっている、側面から裏面に貫通、砂鉄焼結部は還元色済み、密着から一部は脱離状態、開口胎土はスチヤの強い粘土質	
26	大口径開口 (砂鉄焼結)	A	2.0	2.1	1.2	4.2	2	なし	外周右側に1.2mm程の範囲で砂鉄が焼結した大口径開口の外周部小破片、焼結した砂鉄の厚みは0.3mm前後、砂鉄粒子や中程度の、結晶が小さくと押いている、粒径は0.12mm大から0.2mm大を覆る、平均粒度は0.15mm大前後、開口胎土はスチヤや石質の石粒を含有した土質	
27	大口径開口 (砂鉄焼結)	A	4.7	3.1	1.5	16.0	3	なし	外周に細いワラ状の垂れかたちがつままっている大口径開口の外周部破片、押部は青黒く、部分的に砂鉄粒子の広がりが確認できる、各粒子はやや軟く光彩を持つ、開口内面は全面破面、内側は破面と胎土単位との接合部が現在する、開口胎土はスチヤの強い粘土質、構成%20に近い要素を残す。	
28	砂鉄焼結塊	A	2.3	1.5	0.8	2.4	4	なし	分析資料No.3 分析資料詳細観察表参照。	No.3
29	砂鉄焼結塊	A	3.3	3.3	1.0	15.4	4	なし	層板状の砂鉄焼結塊、最大厚みは1.1cmを覆る。表面はやや中粒状で、中央部がやや盛り上がる、側面は比較的真直状の破面主体、裏面は砂鉄表面は開口外側の側面、砂鉄口部の還元色は通っており、側面の粒子を区別しにくい、構成%41と胎土で生成、イギリスの表裏面をもつマグネサイト系遺物の小片、最大厚みは1.0cm程、上面はやや中粒状で、側面はイギリスの破面からなる、結晶が発達して部分的に青光しており、下平の側面を中心に砂鉄焼結部が残る、小破片に残る下面の側面は破面。	
30	マグネサイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	1.3	1.8	1.6	5.2	3	なし	前者と似た外観を持つマグネサイト系遺物の小片、上面は小さな破片に淨化しており、破片の突起が現る、側面は全面破面で右側面は直線状の浮部、残る3面には砂鉄粒子が確認できる、破面の一部は焼結しており光りする。下面は平直状態で破面破面とならない。	
31	マグネサイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	2.5	1.6	2.0	8.9	4	なし	左側面に砂鉄焼結部を残すマグネサイト系遺物の小片、上面から下平側の側面は平直状態で、それ以外の側面4面は破面となる。破面は半分以上に焼結した砂鉄が露出しており、下面は砂鉄表面からの側面破面、かすかにスチヤが認められる。表面にはやはり砂鉄が焼結する。色調は青黒く、破面の一部は青光りする。	
32	マグネサイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	2.4	2.0	2.1	13.7	4	なし	表面が小さなワラ状に垂れかたしたマグネサイト系遺物小片、側面は不規則な形状のシャープな破面が焼結している。下面はやや中粒の強い砂鉄の胎土の側面、特に厚くはしていないが、各所に砂鉄焼結部が散在する。破面左端部には、明瞭に含まれている石質の粒状の平直破面が認められる。破面破面が中粒状で、大口径開口の外周部で生成、	
34	マグネサイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	4.5	3.0	1.4	31.7	5	なし	分析資料No.4 分析資料詳細観察表参照。	No.4
35	工具付着層	A	2.2	2.0	0.7	4.6	2	なし	内面に層状の平直面を残す工具付着層の小片、押部の厚みは0.5cm程で、外周は二つこつした表面を持つ、小さな窪みには灰泥も確認できる。外周下平の1/3は一部が欠落してしており、地面等に接したものか、破面には僅かに尖角を残す、工具自体は丸棒状で、直径は1.7cm程、構成%129の工具付着層より本資料の方が小さい。	
36	マグネサイト系遺物	A	1.3	2.0	1.4	6.4	5	なし	上面が平直面状となり、右方向に流れ込んでいるマグネサイト系遺物の小片、押部の側面は直線状の破面となる。下面は不規則な破面破面で、石質の石粒が点在し、砂鉄表面からの側面破面の正露を残す。上平側の側面は砂鉄焼結部。	
37	マグネサイト系遺物	A	3.9	2.0	1.1	13.1	6	なし	0.5cm程の小厚みの流動層が右方向に重層したマグネサイト系遺物、上下面と輪軸側の側面破面が生きており、右輪軸側の側面に小破面を残す。表面面は左側部で、右側部が欠落する。下面にも流動層単位は確認され、側面にやや粗直な破面が生じていることが認められる。押は青黒く、縦溝が深い。	
38	マグネサイト系遺物	A	2.2	3.0	1.6	13.6	6	なし	上平側の側面に構成%37と同様の強い垂直面を残すマグネサイト系遺物小片、上下面と上平側の側面は生きており、石質の側面と下平側の側面は破面となる。基本的には右方向に向かい流動層向、下平側の側面には砂鉄土由来の石質の粒状が散在する。左右の破面には風化のためか、弱い結晶が露出する。大口径開口の破面は、直線状で生成された破面破面、上面は不規則な破面状で、下面が0.5cmほどの幅を持つ、直線状のワラ状の破面破面、上下面と上平側の側面のみが確認でき、それ以外の破面が破面となる。破面の一部は大口径開口由来の石質の粒状が確認される。	
39	マグネサイト系遺物	A	4.0	2.6	1.5	14.5	5	なし	上面が小さな破片に淨化したマグネサイト系遺物破片、上面は上平には、大口径開口由来の石質の石粒が多く露出する。側面は基本的には不規則な自然面、上面は成層より小破面が一連する。下面は平直な破面の破面破面、この部分は厚さが減少し、大型の結晶が露出する。右側面の半分以上が胎土の側面破面。	
40	マグネサイト系遺物	A	3.0	2.2	1.0	17.9	5	なし	扁平で傾斜の強いマグネサイト系遺物破片、上面はやや中粒状で、下面は0.5cm幅以下の小破片の流動層が散多く露出する。上面は自然面で、側面は不規則な破面破面となる。下面は砂鉄表面からの側面破面、左側の側面には小破片の流動層の破面が生じている。縦溝が深く、砂鉄の破面が粗直なため、マグネサイト系遺物と判断できる。構成%29のような砂鉄焼結部から発達したためか、下面に残るエッジ状の破面はスチヤである。	
41	マグネサイト系遺物	A	3.4	3.9	0.8	17.0	7	なし	発達した粘土質の解が焼結した破面破片、上面は弱い破面を残す自然面、側面3面はシャープな破面、下面は発達した砂鉄土で、側面破面の破面、砂鉄土の土質が破面破面のためか、発達しながらも両面に大きく異なる、中層には黒色ガラス質が点在する。当破の側面は、赤褐色にも発色し、破面は灰白色に発色している。破面破面の可能性もあり、内面にワラが生じているガラス質の破片、側面から裏面は全面破面となり、灰泥も点在する。外周は土質と砂鉄の解が焼結し、芯部は小破片の砂鉄部を持つ、ガラス質の下平には砂鉄土由来の石質の平直破面が多数認められる。	
42	砂鉄 (焼結)	A	3.1	2.7	3.3	14.3	1	なし		
43	砂鉄 (含炭)	A	2.0	2.5	1.6	8.8	2	H(○)		

No.	建物名	地区	計測値 (mm)			重量 (g)	縦径 (mm)	メタム度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
44	粘土質砂解物 (大口径ボリ付き)	A	3.8	5.6	2.0	59.8	6	なし	縦断面に大口径ボリの先端部寄りの小片を残す土質解物。内面は1.5cm大を超える木炭層が見られ、浮化している。表面と厚は0.5mm以下の細かい流動単位が縦断に重層している。表面の一部に小さな工具痕らしき細粒の窪みを残す。連続状の断面はマグネタイトを主としているため堅いが、また一部の箇所は砂が埋まって粗粒に発達している。大口径ボリは外周部が厚く最大厚みは1cmを測る。壁にはスズを認む。外周部は壁に依って部位としては大口径ボリの左側面部である。	
45	粘土質解物 (合鉄)	A	2.2	2.3	1.4	10.0	3	H(0)	黒色ガラス質に浮化した粘土質解物の小片。表面はきれいな流動状で縦断に流れておぼろげに認められる。上下方向の断面は縦断となる。縦断は表面を貫つて黒色ガラス質。左上側の縦断には黒酸化水産物の小片が埋着する。	
46	粘土質解物 (合鉄)	A	2.1	3.6	1.6	14.8	3	M(0)	表面の凸凹の多い粘土質解物の小片。内面の中央部には窪みがあり、左側部寄りには厚の小突起がある。側面から裏面は全面破面。全体がガラス質になっているが、突起のあるガラス質層と無突起の砂層土由来の行気質の半流動層の異なる部分の両者が認められる。表面の各所に二次的な酸化土砂あり。合鉄部は扁平の形状。	
47	流出孔浮	A	4.5	5.5	2.5	70.1	5	なし	右方向に流動するやや扁平な流出孔の先端部破片。上面には流れじわが生じ、表面は部分的に濃い紫紅色。縦断方向の断面は縦断。下面が平で、左側部のみが破面。下面には多量の砂質物をかき込む。	
48	流動浮	A	4.3	1.5	1.5	9.1	5	なし	幅0.5cm以下の細かい流動浮が重層してツララ状になった流動浮破片。表面は平滑で、それぞれの流動単位がかなり明確である。左側のみの破面。浮表面が紫紅色でやや光沢あり。縦断は狭く、マグネタイトのみの半流動層である。縦断する厚は構成No.37、38、並びに44の一部である。	
49	流動浮	A	4.4	1.9	1.4	11.2	1	なし	最大幅1.8cm程度のガラス質の流動浮破片。左側部のみの破面となる。上面から縦断はきれいな流動状で、下側部は流れじわが強い。上手側の左寄りには他の流動単位の砂質層。下面は浮片や木炭質を残す様状。	
50	流動浮	A	6.4	2.5	1.7	27.3	1	なし	右方向に緩やかなS字状にうねる流動浮破片。左側部のみの破面となる。上面は平滑で、表面の7割方が風化のためか剥離している。浮の縦断面は扁平。下面は右方向に向かい流れて上下し、その表面には砂質物の窪みを連続する。	
51	流動浮	A	4.4	3.3	1.3	29.0	2	なし	右方向に向かい扁平に広がっている流動浮破片。上面と縦断方向の両面が生きており、長軸の両端部は縦断となる。下面は縦断と自然面が生きており、上面は流れじわが強い。構成No.47の流出孔浮とやや似た断面形状を持つが、流動単位は異なる。	
52	流動浮	A	3.1	3.8	1.3	24.9	2	なし	流動性の高い浮が右方向に広がっている流動浮破片。扁平で縦断方向の断面は長い縦断。長軸の両端部は縦断。面状の下面は砂質物が見える。流出孔浮の可能性もあり。	
53	流動浮	A	3.5	2.7	1.6	24.3	1	なし	幅0.7cm以下の細かい流動単位が重層した流動浮破片。下面と下側部の側面が生きており、左側部が主断面となる。浮は縦断に気孔を残し、やや粘土質のみの流動層は縦断に多い。また表面の色調が暗色となっている点も粘土質の堆積をうかがわせる。浮片こそマグネタイト化はしていないが、生成位置は大口径ボリの周辺であろう。	
54	流動浮	A	3.8	2.6	1.7	27.8	4	なし	分析資料No.5 分析資料詳細観察表参照。	No.5
55	流動浮	A	3.3	4.1	3.1	59.6	3	なし	中小の流動単位が右方向に向かい重層した流動浮破片。上面と側面の一部が生きている。左右の側面が主断面。次々と上面に重なるような形で発達しており、下面の浮には木炭質がやや目立つ。浮は風化が進み、表面の縦断部分は灰白色となっている。	
56	流動浮	A	3.0	3.8	2.2	31.6	2	なし	縦断や内面に木炭質が目立つ流動浮破片。木炭質は1.5cm前後。上面と上手側の側面が生きており、左右の側面と下手側の側面となる。浮中には気孔や中気質。構成No.55と同様。浮表面の風化が進み、部分的に灰白色気味。	
57	流動浮	A	3.8	5.0	3.3	71.4	3	なし	厚の重層と木炭質が目立つ流動浮破片。上面と上手側の側面の一部が生きており、それは外が破面となっている。浮片や木炭質の大きさなどは構成No.55～56と似る。下面には灰色の砂質物が点々と埋着する。流動浮の表面の一部は紫紅色。	
58	流動浮	A	4.0	4.5	2.2	72.9	3	なし	上面が平滑で、窪みに流れじわを持つ流動浮破片。扁平な厚板状で、下面と上手側の側面が生きている。表面はほとんど紫紅色。側面や下面には砂質物の窪みが目立ち、下面部は灰色の砂質物を目立ってかき込む。一部、浮片や炭質砂質も確認される。	
59	流動浮	A	4.2	3.4	2.4	35.4	1	なし	分析資料No.6 分析資料詳細観察表参照。	No.6
60	流動浮	A	5.7	3.7	2.3	53.4	3	なし	半流動状でややガラス質の流動浮破片。上手側の側面と左側部下のみの破面となる。上面はガラス目により平面的に重なり上がり、一部が凹みしている。下面は砂層土または土砂の圧縮となる。浮の縦断は構成No.47並びに62～63と似る。	
61	流動浮	A	5.2	4.0	2.9	55.3	4	なし	粘土質の半流動浮破片。上面は半流動状で光沢を持ち、くすんだ紫紅色。下面は中気質で、粘土質の流動単位が重層する。大きな破面はなく全体が自然面化しているが、左側部は縦断であった可能性が高い。表面や中気質にも砂層土由来の行気質の石粒が目立つ。	
62	流動浮	A	4.2	6.6	2.7	79.5	4	なし	全体にイデオライトの流動層の先端部破片。上面の左手中中央部のみが中気質層がよく、それ以外には自然面凸凹が目立つ。主断面は左側のみ。下面は縦断又は縦断面。砂質層の断面が、構成No.63と全体に似る。	
63	流動浮	A	4.4	5.8	2.8	91.8	4	なし	ゴブツとした半流動状の流動浮破片。左側面と下面が破面となる。上面は中気質ながら小さな凸凹が目立ち、下面は縦断する木炭質が残されている。気孔は平面的。砂質層の断面が縦断となる。	
64	中内浮 (砂層付)	A	10.3	5.1	4.7	260.1	5	なし	分析資料No.7 分析資料詳細観察表参照。	No.7
65	中内浮 (砂層付)	A	8.5	4.1	2.3	69.0	5	なし	表面に灰色の砂質層が厚く覆った中内浮破片。左右方向に扁平で、下手側の側面のみが破面となる。上面は上手側が半流動状の浮で、下手側には結晶の発達した小断面が連続する。酸化土砂の表面には砂質物が点々と埋着する。表面の砂質層は構成No.68と近い。約3mmの厚さを持つ縦断に囲まれた中内浮破片。上手側の側面に砂質の半流動層が埋着する。浮は中小の気孔を種々残し、風化が極めて進んで、結晶は発達している。砂質層の小気孔破片のみ。	
66	中内浮 (砂層付)	A	4.0	4.2	3.5	87.9	5	なし	下面に灰色の砂層土を残す中内浮破片。上面の一部のみが自然面で、シャープな破面が連続する点は構成No.66と基本的に同じ。浮は中小の気孔を残し縦断は風化気味。砂層土の一部は黒色ガラス質化している。	
67	中内浮 (砂層付)	A	4.7	4.9	3.7	91.2	3	なし		

No.	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	縦径 (mm)	メタ4度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
68	新内洋 (新壁付き)	A	7.0	6.1	2.3	108.9	2	なし		
69	新内洋 (新壁付き)	A	5.9	5.4	3.7	126.0	2	なし		
70	新内洋	A	3.3	4.5	1.9	38.5	2	なし		
71	新内洋	A	3.0	5.9	2.2	51.8	3	なし		
72	新内洋	A	3.8	5.9	4.4	80.6	4	なし		
73	新内洋	A	7.2	6.0	3.5	143.4	2	なし		
74	新内洋	A	8.0	6.9	3.5	241.3	5	なし		
75	新内洋	A	8.2	7.0	3.4	250.1	4	なし		
76	新内洋 (白色厚皮)	A	3.6	4.0	2.4	30.7	2	なし		
77	新内洋 (白色厚皮)	A	6.7	4.1	3.7	97.8	2	なし		
78	新内洋 (白色厚皮)	A	6.1	4.9	3.7	102.6	4	なし		
79	新内洋 (含鉄)	A	4.0	2.4	1.5	18.2	6	酸化 (△)		
80	新内洋 (含鉄)	A	4.4	2.7	1.5	20.7	6	酸化 (△)		
81	新内洋 (含鉄)	A	3.7	2.9	2.1	24.8	5	酸化 (△)		
82	新内洋 (含鉄)	A	3.2	3.3	2.0	40.3	6	酸化 (△)		
83	新内洋 (含鉄)	A	4.2	3.2	2.0	29.4	6	酸化 (△)		
84	新内洋 (含鉄)	A	4.6	2.9	2.8	41.3	6	酸化 (△)		
85	新内洋 (含鉄)	A	4.4	3.7	3.2	40.0	5	酸化 (△)		
86	新内洋 (含鉄)	A	4.9	3.9	2.9	63.0	8	酸化 (△)		
87	新内洋 (含鉄)	A	4.3	3.4	3.4	87.7	6	酸化 (△)		
88	新内洋 (含鉄)	A	5.9	5.6	3.0	126.6	4	酸化 (△)		

№	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	細骨 度	メタ 度	備考	分析 番号
			長さ	幅	厚さ					
89	砂内層 (含鉄)	A	2.2	2.2	1.8	14.9	3	柱(○)	イガイ殻した小塊状の含鉄の砂内層。上面のみ生きており側面から下面は小破面が連続する。浮質は中破面状で、凹凸が連続する。含鉄部は下面に突出する小塊状の部分。砂鉄塊部から発達した。	
90	砂内層 (含鉄)	A	6.5	3.6	3.2	88.4	7	柱(○)	酸化土層に覆われた形骸状の含鉄の砂内層。上面は大きな窪状で側面は全面破面。下面には灰色に被覆した砂層土が少くすかに残り、浮質部が灰色となっている。砂層土の下部の薄い白色浄化の河のついでである。含鉄部は上面にそってやや中破面。	
91	砂内層 (含鉄)	A	2.0	1.5	1.1	4.3	4	柱(○)	分析資料№8 分析資料詳細観察表参照。	№8
92	粘土質腐解物 (ガラス質浮)	A	1.8	4.5	1.7	13.3	3	なし	上下に長い中破の管筒状を残す粘土質腐解物。上面はやや中破状で小さく垂れている。また結晶が発達してキラキラした表面を持つ。色調は青黒色からくすんだ赤褐色。左右の側面が破面となり表面は黒色ガラス質。他の部分は黒褐色の浮部となる。	
93	粘土質腐解物 (ガラス質浮)	A	2.9	4.2	1.7	17.1	2	なし	表面に1~2cmの本表破が目立つ粘土質腐解物の小片。黒色ガラス質で本表に結まったような形状を示す。浮は中小の気孔が乱雑に残り、砂層土由来の石英質の石粒も確認される。塊径№94~97も黒色ガラス質の部分は共通する。	
94	粘土質腐解物 (ガラス質浮)	A	3.0	4.1	1.3	17.2	4	なし	下面が破面状に垂れている粘土質腐解物。上面のみ生きており側面は全面破面。上面表面の一部は赤褐色。側面の破面には乱雑な気孔と砂層土由来の石英質の石粒が点在する。上面に薄い本表破が目立つ黒色ガラス質化した粘土質腐解物。側面に小破面を持ち、下面は砂層土より圧縮と小破面からなる。ガラス質浮は流れ下りながら1~2cm大の本表より方向が変えられている。浮中に黒褐色含鉄部が散っているため、酸化土砂部分がやや中破する。	
95	粘土質腐解物 (ガラス質浮)	A	4.3	3.7	2.3	20.1	3	なし	側面から下面の半分以上が褐色に発達した粘土質腐解物。上面は黒色ガラス質で本表破や結晶の発達した浮部が残る。下面は浮部は埋土の圧縮。色調や各部の種別は塊径№97と近い。	
96	粘土質腐解物 (ガラス質浮)	A	3.5	4.9	2.2	26.9	2	なし	表面が黒色ガラス質化して、側面から下面に褐色から黒褐色の発達した浮部を残す粘土質腐解物。表面から下面に1cm大前後の本表破が数多く目立つ。上面の上手側が片状の酸化土砂があり、この部分が含鉄部となる。含鉄部以外は塊径№96と似る。	
97	粘土質腐解物 (ガラス質浮、含鉄)	A	3.7	3.7	2.7	31.1	2	柱(○)	平面、不規則な形をした塊状の浮部の厚破片。上面と上から右側面が生きており、左側面と下手側がシャープな破面となる。下面は塊状の塊破面が灰色の砂層土より上向きが点々と残っている。側面は1cm以下の本表破が連続し、形状が丸んでいる。破面には中小の気孔が目立ち一部は縦方向に広がっている。塊状腐解物の1/4程度程度の可能性あり。結晶の発達した通常の砂内層に比べて低い。	
98	塊状腐解物 (中) ?	A	4.0	4.6	3.5	98.8	3	なし	分析資料№9 分析資料詳細観察表参照。	№9
99	塊状腐解物 (小) ?	A	5.9	5.8	3.5	198.0	4	なし	下面に灰色の砂層土より部分を残す小型の塊状腐解物。上面のみ生じており側面3面は全面破面の破面となる。上面は中破面を埋みを持ち、その一部は本表破に固定される。結晶は発達済み、砂層土が残り、塊状の厚みは0.7cm前後。砂層土とやや砂質はたっぷりしたスズ組はない。結晶の発達や塊状部は塊径№102分析№10とやや似た部分を持つ。	
100	塊状腐解物 (小) ?	A	5.1	3.0	2.8	54.3	2	なし	小型の塊状腐解物7の側面様の浮片。上下面が生きており左側面が生成面となる。上面は僅かに本表破を持つが全体的には平面で、側面は微細な本表破によりやや丸んでいる。右側面から下面は1cm以下の本表破が連続し、浮の突出部も点在する。左側面の中央部に残る窪みは本表破。上面の中央部に開口先7由来の粘土質腐解物あり。浮質はやや密度が高く、見掛けのわりには比重が高い。小型の塊状腐解物とすれば1/4程度の破片か。	
101	塊状腐解物 (小) ?	A	3.0	6.2	2.8	69.0	6	なし	分析資料№10 分析資料詳細観察表参照。	№10
102	塊状腐解物 (極小、含鉄) ?	A	5.8	5.4	2.9	102.8	4	柱(○)	分析資料№11 分析資料詳細観察表参照。	№11
103	内結合層 (砂鉄付着)	A	15.0	12.5	4.8	1043.6	6	なし	分析資料№12 分析資料詳細観察表参照。	№12
104	被熱石	A	2.0	1.7	0.7	2.9	1	なし	表面に薄く鉄質が付着した被熱石の全面破片。上面は平面で、1mm程度の厚みに浮が付着している。石は2、3mm大の石英質の粒子が点在する状態のもの。表面は赤褐色から黒褐色。側面は赤褐色の含鉄石や被熱石の小塊を1角とした石の可能性がある。	
105	砂層 (上段下平、発泡)	B	2.7	4.2	3.8	24.4	1	なし	砂層土は2.5cm以上の厚みで発達した塊状。上面は粘土質の層から被熱したためか、浮発している。砂層土はやや赤褐色のスズを垂らしている。スズは粗粒状。	
106	砂層 (上段下平、発泡)	B	3.5	3.2	2.8	20.3	1	なし	内面に浮が弱く固着し、約1.5cm程度の厚みが発達した小破片。内面の浮部には小さな垂れが残り、一部が粉砕となる。上面はほぼ平坦に塗られ、粘土質の接合部か、粘土は粗くスズを垂らした砂層土。	
107	砂層 (中段上平、砂鉄塊状)	B	3.5	3.6	1.4	12.2	3	なし	内面に最大0.8cmほどの厚みに砂鉄が塊状した砂層土。砂鉄の塊状状態はあまり厚くで厚みに浮化しつつある。砂層土の平面率はほぼ直線状。砂鉄の塊径は0.12~0.2mm大前後を垂る。砂層土はスズ入りの粘土質。側面に砂鉄が塊状されている可能性あり。色調は赤褐色。	
108	砂層 (中段上平、砂鉄塊状)	B	2.5	2.6	1.2	4.8	2	なし	内面の中央部に砂鉄が塊状した砂層土の小破片。発達した砂層土に砂鉄が塊状しており、浅い窪みは本表破。砂層土はスズ入りの砂層土。	
109	砂層 (中段下平、浮化)	B	4.9	5.0	2.0	27.4	2	なし	内面が黒色ガラス質化して4.5cm大を超える大型の本表破が残る砂層土。側面全体と上面が破面となる。粘土にはスズの塊状が認められ、びびり感がやや目立つ。一部のスズが灰化して残る。	
110	砂層 (中段下平、浮化)	B	3.7	4.0	2.9	32.2	1	なし	内面が黒色ガラス質化して中央部に垂れが連続する砂層土。表面は全面破面。粘土には塊状がやや多く粗粒状に散らばっている。右側面の一部は酸化土砂に覆われているが、二次的なもの。側面とやや似た砂層土。内面が黒色ガラス質化して小さな垂れが生じている。側面から表面は全面破面。右側面はびびり感から被熱したたかたか浮質入り、粘土もくすんだ赤褐色となる。右半分は粘土に固着したスズが内層方向に向いている。	
111	砂層 (下段上平、浮化)	B	3.2	4.2	3.7	39.2	1	なし	内面に中破した黒色ガラス質化した砂層土。気孔が乱雑で2cm大以下の本表破が連続する。外周部と上面は全面破面。左側部の本表破の一部が白色浄化する。粘土はスズ入りの砂層土。	
112	砂層 (下段上平、浮化)	B	5.2	4.8	3.3	71.6	2	なし		

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	縦寸 (mm)	メタム程度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
114	伊壁 (下段下平、浮村石)	B	3.8	5.4	1.8	40.9	3	なし	内面に最大1.8cmほどの浮解が形成された。浮村石の破片、浮解には気泡が数多く残り、部分的に白色浮解化している。表面には二次的に酸化土砂が埋まり、外表面には灰色の粗粒土が埋まっている。伊壁が底の崩壊した。	
115	大口窪印口	B	4.5	4.0	1.2	18.1	3	なし	内面にスチキを積層した大口窪印口の先端部破片。外表面は0.7cmほどの厚みで黒色ガラス化している。スチキ層は少なくとも3層確認し、それぞれ0.6cm厚の層を持つ積層構造。芯部は0.9cm程度。黒色ガラス質中に石質の石粒の半溶解物が点在する。	
116	大口窪印口	B	2.8	2.2	1.3	6.6	1	なし	外表面が酸蝕・酸化した大口窪印口の外用部破片。浮村表面にうっすらと面露している。胎土は粗い石質の石粒とスチキを併せに含む粘土質。酸蝕の痕跡も確認される。破面が埋められているのは大口窪印口の基礎部。あるいは表面をかぶる粘土が酸蝕したため。	
117	大口窪印口	B	3.1	3.7	2.2	23.2	2	なし	表面の一部に結晶の発達した青黒い層を有する大口窪印口の外用部破片。側部と内側面は全面酸蝕。胎土は僅かにスチキと酸蝕を呈した強い粘土質。裏面が白く被膜している。内側面は灰白色と薄い赤褐色の混合土を示す。	
118	大口窪印口 (砂鉄塊)	B	2.8	2.3	1.5	7.4	2	なし	外表面に0.22mm厚の厚みで砂鉄が堆積した大口窪印口の外用部破片。砂鉄の粒度は0.14mmから0.22mm大。部分的に浮化が確認されている場所もある。胎土は粗いスチキ入りの粘土質。	
119	大口窪印口 (砂鉄塊)	B	3.1	3.3	1.9	11.9	3	なし	構成%117とやや似た大口窪印口。外表面に結晶の発達した塊状砂鉄に似た層部を有する。結晶はキラキラ輝いており、部分的に縦割りが深い。砂鉄粒子そのものも一部に確認される。内面には赤褐色の粗粒粘土が層状に堆積しており、外側部の白色胎土と対照的である。白色粘土には、粗いスチキが多量に混入されている。	
120	大口窪印口 (砂鉄塊)	B	4.2	3.1	1.3	21.9	2	なし	外表面に厚く砂鉄が堆積して部分的にマグネサイト化した大口窪印口の外用部破片。砂鉄の塊状状態はまともであり、較軽の区別が若干部分と全く浮化している部分まで幅広い。外側中央部の下層は僅かに赤れが生じている。胎土は1mm以下の石質の石粒とスチキや酸蝕を含む強い粘土質。粘土質のためかび割れが目立つ。大口窪印口の左側部破りの破片か。	
121	砂鉄 (自然)	B				188.7	5	なし	分析資料No.13 分析資料計測結果表参照。	No.13
122	砂鉄 (自然)	B				106.5	5	なし	V区覆瓦一括扱いの、2号館古跡2号の浮解じりの上砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は106.5gを測る。観察用に20.0gを別途選別した。縦寸の有無や破片によりA～Cの3種に分類して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で縦割りを有する砂鉄が18.5gを占める全体の18.0%にあたる。B、全20.0gの内、非縦割りでやや黄色気味の砂鉄が1.2gを占める全体の5.9%にあたる。C、全20.0gの内、非縦割りで砂鉄主体の部分が0.5gを占める全体の2.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.02mm大と幅広い。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被膜砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加え、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で縦割りしないものはチタン酸鉄系と推定される。Cは非縦割りの砂鉄粒子に加え石質の石粒や褐色の浮解全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、浮解は再結合浮解味となる。A～Cのいずれにも観察系の微細遺物は含まれていない。	
123	砂鉄 (自然)	B				157.3	5	なし	V区覆瓦一括扱いの、2号館古跡2号の浮解じりの上砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は157.3gを測る。観察用に20.0gを別途選別した。縦寸の有無や破片によりA～Cの3種に分類して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で縦割りを有する砂鉄が19.1gを占める全体の94%にあたる。B、全20.0gの内、非縦割りでやや黄色気味の砂鉄が0.7gを占める全体の3.5%にあたる。C、全20.0gの内、非縦割りで砂鉄主体の部分が0.2gを占める全体の2.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.02mm大と幅広い。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被膜砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加え、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で縦割りしないものはチタン酸鉄系と推定される。Cは非縦割りの砂鉄粒子に加え石質の石粒や褐色の浮解全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、浮解は再結合浮解味となる。A～Cのいずれにも観察系の微細遺物は含まれていない。	
124	砂鉄 (自然)	B				203.1	5	なし	V区覆瓦一括扱いの、2号館古跡3号の浮解じりの上砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は203.1gを測る。観察用に20.0gを別途選別した。縦寸の有無や破片によりA～Cの3種に分類して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で縦割りを有する砂鉄が18.0gを占める全体の90%にあたる。B、全20.0gの内、非縦割りでやや黄色気味の砂鉄が0.7gを占める全体の3.5%にあたる。C、全20.0gの内、非縦割りで砂鉄主体の部分が0.3gを占める全体の1.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.01mm大と幅広い。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被膜砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加え、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で縦割りしないものはチタン酸鉄系と推定される。Cは非縦割りの砂鉄粒子に加え石質の石粒や褐色の浮解全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、浮解は再結合浮解味となる。A～Cのいずれにも観察系の微細遺物は含まれていない。	
125	マグネサイト系遺物 (砂鉄塊)	B	3.5	3.9	3.1	69.5	6	なし	上半部に浮解がウラク状に面れ、砂鉄塊部が生成されているマグネサイト系遺物。基本面には上面のみ生じている。側部は全面酸蝕。特に左側部は背光しており、縦割りが深い。表面は砂又は大口窪印口の側面。上半部の側部下層に大口窪印口胎土に特有の石質の石粒の半溶解物が並ぶ。後者の可能性が高い。砂鉄粒子は、0.12mm～0.2mm大。	
126	マグネサイト系遺物	B	3.2	2.4	2.3	28.4	5	なし	表面にウラク状の裏れが確認されるマグネサイト系遺物小片。側部と表面は酸蝕主体。左側部の側面には大口窪印口由来の石質の石粒の半溶解物が確認される。上面には部分的に1mm大の本底粒が残る。下面の一部は背光りする。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	縦寸 度	メタ ル 度	備 考	分類 番号
			長さ	幅	厚さ					
127	マグネサイト系遺物	B	3.5	5.2	2.2	55.5	6	なし	上下面で質感の異なるマグネサイト系遺物の断片。上面は縦かに並べられたる扁平気持の面、側面から下面は0.5mm以下の単位流動層の状況に露出する。側面の上半部と下層部全体が破面となる。上下方向にほとんど開閉で形成された形状で丸口縁口と射壁との隙間が元位置か。	
128	工具付着層	B	1.5	2.1	0.6	1.9	1	なし	内面に丸形状の工具の残る薄手の工具付着層。最大厚みは0.3mmを計る。右側部の一部が二重になっており、重層した工具付着層とも見える。工具の溝は2mm大を超える丸形状。外面は小さな垂れや木炭痕に加えて、跡よく残されている。両端縁3.5よりは薄手です。流動性がよい層部である。工具の形も異なり、複数の丸形状工具が使われていることが分かる。	
129	射壁 (合鉄)	B	3.3	5.1	3.4	48.6	2	なし	内面が厚く黒色ガラス質化した射壁片。厚の厚みは最大2.4mm近い。内面表面は黒褐色からくすんだ紫紅色。内面下半は張り出すように厚みを増す。側面4面と裏面が破面となる。射壁片は射壁の粗さを表している粘土質。	
130	流動層	B	3.5	1.5	0.9	5.5	1	なし	径0.4mm以下の細い流動層が露出して塊状になった流動層断片。右側の先端部は丸みを持ってまわり、左側部のみが小破面となる。厚表面はややくすんだ紫紅色。下面は流動層単位がスリ状に残り、やや平直化している。表面には灰色の射壁片が点在する。	
131	流動層	B	3.5	3.1	1.1	14.7	3	なし	右方向に向かい広がりがながら発達する流動層断片。扁平で幅広く、表面には強い流れが生じている。厚表面は光沢を持ち紫紅色が強い。左右の高部が小破片となる。下面には射壁片が点々と付着する。	
132	流動層	B	5.4	2.8	1.3	22.8	2	なし	径0.5mm前後の流動層単位が、おじれるように露出して柱状となった流動層断片。右側部は不規則ながらもまわり、左側部から手は破面となる。厚の風化が激しく、表面の射壁片が脱落しており、一部に灰色の射壁片が付着する。	
133	流動層	B	2.6	3.6	2.1	23.6	2	なし	右方向に向かい幅1cm前後の流動層が露出した流動層断片。厚表面は平直で一部に流れが生じている。色調はくすんだ紫紅色。左右の側部や下面の4面は小破面となる。下面は本破面のためやや厚れている。また射壁片由来のガラス質が小破面に残る。	
134	流動層	B	3.7	3.5	2.0	28.2	2	なし	径2mmを超える流動層単位が断片の上方から露出した流動層断片。右側部は破面となる。上面の左側に射壁片が露出し、厚としてはかなり風化気味。右側部は粉塵状よりまわっている。	
135	流動層	B	3.9	3.2	1.3	30.9	2	なし	径0.5mm以下の細い流動層単位が多数重層した流動層断片。全体に扁平さみで、左右の端部はシャープな破面となる。上面表面は光沢を持ち紫紅色。厚はガスがよく抜けてはば可算。	
136	流動層	B	3.9	3.1	2.1	33.1	2	なし	右方向に向かい扁平に広がっている流動層断片。上下面と側面の半分はガスが生きており、右側部と下手側が破面となる。上面は扁平気持で僅かに凹凸を持つが、全体内には平直。左下手側の側面に工具痕または木炭痕の痕みを持つ。下面は塊状で、灰色の射壁片や右側をかみ込んでいる。気孔はまばらに残り塊状の可能性がある。上下	
137	流動層	B	2.5	5.3	2.9	37.9	2	なし	内部の気孔が中や発達した流動層断片。右方向と上手側に向かい方向で重層している。厚表面は光沢を持つ。下面は斜傾方向に傾いて木炭痕が射壁片が点在する。ややガラス質の流動層。	
138	流動層	B	4.9	5.0	2.4	58.3	2	なし	下面が側面を中心に木炭痕が目立つ流動層断片。構成No.137と同層部の気孔が中や発達する。左側部と下手側が破面となる。物状の広がりが上面で形成されている。厚表面はくすんだ紫紅色で、射壁露出の可能性大。	
139	流動層	B	3.8	4.3	4.4	71.0	2	なし	下面に灰色の射壁片が互角に露出される重層した流動層断片。上面には径1mmを超える流動層単位が露出して露出する。側面は気孔の閉じ壊面に覆われる。厚は脆直。流れ孔の可能性がある。	
140	流動層	B	5.1	4.2	3.1	79.5	3	なし	上面表面が平滑で流動性の良い流動層断片。上面から下手側の側部が生きており、残る側部3面が破面となる。下面は塊状で表面には灰色の射壁片が露出する。厚は中やガラス質で、上面側の気孔の大気化している。	
141	流動層	B	4.3	7.1	2.1	125.6	2	なし	側面が下面に目立つ洋中射壁片をかみ込む流動層断片。基本的には左から右に向いて厚が広がっているが、上下方向や発達するものもあり、塊状形状となっている。厚は脆直で、ガスはよく抜けている。下面には木炭痕も露出される。射壁片は赤褐色や灰色などもまわりの色調で、射壁片の塊状で形成されたことを認められる。主破面は左側部上手。	
142	射壁片	B	4.8	4.5	2.7	51.2	5	なし	各面に1～2mm大の木炭痕の目立つ射壁断片。上面のみ生きており、側面3面が破面となる。左側部から下面は射壁片の露出した真層部。木炭痕は内部にも残されている。厚は気孔が露出して風化も進む。	
143	射壁片	B	5.9	4.1	1.6	48.5	4	なし	上面にシャープな破面を持つ扁平な射壁断片。側部から側面にかけても7割方が破面となる。下面は3.5mm大の木炭痕と真層部が共存する。厚の結晶は中や発達しており、破面には光沢がある。射壁片の下面に貼った部分か。	
144	射壁片	B	6.0	4.3	3.1	71.0	2	なし	上面に半流状の流れが残り土質の強い射壁断片。側面から下面は破面主体。側面の破面には射壁露出が広く露出している。下面は2mm大前後の木炭痕が露出した部分が見え、射壁表面で形成された射壁片である。	
145	射壁片	B	5.9	5.7	3.7	101.0	4	なし	イガイガした表面を持つ扁平な射壁断片。上面のみ生きており、側面から下面には小破面が連続する。上面はイガイガした流動性のある層部で側部からは僅かに流動層が分離し始めている。側面から下面は1mm以上の木炭痕が露出して残り、厚は結晶が発達している。射壁片の上下付着で形成か。	
146	射壁片 (工具痕付き)	B	3.2	2.7	1.5	13.3	2	なし	結晶が発達して風化の激しい射壁断片。上面のみが自然面で上手側の側面は左右方向にのびる工具痕または木炭痕。左右の側部は破面である射壁表面からの破面となる。一見、砂鉄結晶の形にも見えるが結晶の塊による層部。	
147	射壁片 (工具痕付き)	B	5.7	5.1	2.0	81.0	4	なし	上面全体に微細な凹みを持つ流動性の強い射壁断片。上面は丘状に盛り上がり、中央よりやや上手側に塊状の工具痕らしき窪みを残す。側面から下面は全面破面。左下手側の側部には射壁片が残る。厚は流動性が強いものの破面が多く、下面の中央は深く窪んでいる。気孔は発達で多い。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	撮影度	メタル性	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
148	伊内洋 (含鉄・砂鉄付着)	B	3.5	2.5	2.3	21.0	3	錆化 (△)	薄い酸化土砂に覆われた小塊状の含鉄の中硬質片。酸化土砂によりやや半透明ながら、側面は全面黒面と推定される。上面は緩やかな起伏の平坦面で下面はやや突出気味。含鉄部は中硬質。表面の酸化土砂中には多数の砂鉄が埋蔵される。砂鉄の粒径は0.12mm大～0.2mm大。	
149	伊内洋 (含鉄)	B	4.4	2.2	1.6	9.3	2	錆化 (△)	円錐台形さみの伊内洋小片。左側部の岸と右側の岸とは本来は分かれる。左側部の岸はやや黄色ガラス質で右側の岸は本鉄塊を残すやイオガシタが伊内洋破片。部分的に酸化土砂が強い。下面には木炭組織の残る木炭が埋蔵されている。外面が薄く黒褐色に酸化している。磁器がこの部分を中心に強い。	
150	伊内洋 (含鉄)	B	4.2	4.5	2.6	75.3	4	錆化 (△)	密度の高い磁面に覆われた伊内洋破片。下面の一部が剥離面と考えられる。後ほど小硬質片が埋蔵される。岸は部分的に結晶が発達し、気孔もやや押びている。気孔の方向から右側部が下面となる可能性もある。含鉄部は上面寄りの中硬質。酸化土砂の一部に砂鉄が埋蔵。	
151	伊内洋 (含鉄)	B	5.4	5.5	2.7	105.4	5	錆化 (△)	上面と側面にシャープな破面を残す伊内洋破片。厚板状で左側部が上方に向かい突出する。下面は伊内洋表面からの剥離面。後面の結晶は大きく発達し、風化はしているがキラキラと輝く。上面下側の側面に酸化土砂が厚く。その中に3ヶ所ほど小さな突出部がある。この部分が含鉄部。砂鉄地層下の伊内洋で生成か。	
152	伊内洋 (含鉄)	B	5.0	3.5	2.9	8.6	3	H(○)	軟鉄塊が生じ黒錆も確認される伊内洋破片。側面4面は磁面と上面のみが生きている。下面は砂鉄を含む酸化土砂が残り、木炭が伊内洋の剥離面に埋蔵される。左側部の岸は風化が進み灰白色。含鉄部は右側の中硬質。	
153	伊内洋 (含鉄)	B	2.9	2.5	2.1	26.6	3	H(○)	砂鉄の付着した酸化土砂に覆われた伊内洋破片。上面は磁面に覆われた自然面で、下側の側面は剥離面の可能性を残す。上面は左側面と上側の側面。岸は比較的磁面で風化がやや進んでいる。含鉄部は上面寄りの中硬質。酸化土砂中の砂鉄の粒径は0.1～0.2mm大。大半が塊状でやや突起を持つ。	
154	伊内洋 (含鉄)	B	3.1	3.2	2.0	37.0	6	H(○)	半流動状の質感を持つ伊内洋破片。上面と短軸方向の両側面に生きている。それ以外はシャープな破面となる。後面の結晶が発達しキラキラと輝く。結晶の発達状況から見て、伊内洋破片ともいえる。ややマグネサイト化しているため、磁器度が強い。	
155	伊内洋 (含鉄)	B	4.8	3.1	2.4	47.0	6	H(○)	左側部が磁面を持つ粘土質の伊内洋破片。表面はやや流動気味で、上面にも1mm大の木炭塊を残す。生きているのは上面の中央部のみで、それ以外は小硬質の磁面が埋蔵される。下面に残る木炭塊の表面は黒色ガラス質。含鉄部は上面中央部に突出する小塊状。	
156	伊内洋 (含鉄)	B	4.1	2.6	1.5	26.5	3	M(○)	黄褐色から黒茶褐色の酸化土砂に覆われた伊内洋小片。自然面は上手側の側面のみ。下面左側には小硬質で剥離面が残る。それ以外は磁面が埋蔵される。側面は磁面が埋蔵で、上面が大きく窪む。岸はやや中硬質で、左側1/3の部分が含鉄部。	
157	粘土質磁解物	B	3.2	3.5	1.9	20.9	2	なし	表面に黒いゾラを持つ粘土質磁解物破片。左右の両側部が上破面で、下面には大型の本鉄塊が残る。岸中には砂礫土由来の石英質の石粒を含んでいる。磁面と本鉄塊に埋められた粘土質磁解物。磁面には砂礫土由来の石英質の石粒を含んでいる。	
158	粘土質磁解物	B	3.7	3.0	2.6	28.7	1	なし	磁面と本鉄塊に埋められた粘土質磁解物破片。磁面には砂礫土由来の石英質の石粒がかなり分散した状態で含まれている。木炭は1.5mm大を越える。粘土質が強いから本鉄塊の一部は灰白色となる。	
159	粘土質磁解物	B	4.5	5.6	3.3	70.4	2	なし	粘土質磁解物の丸扁部破片。上面と右側部の大半は生きている。上面から右側部にかけては灰白色が強い。左側部の磁面には1.5mm大の本鉄塊が埋蔵される。岸は黒色ガラス質で部分的に石英質の石粒が点在する。	
160	陶製磁治洋 (小) ?	B	4.0	4.2	2.0	66.9	4	なし	厚さ3mm程度の陶製磁治洋の側面破片。上面と上手側の側面が生きている。左右の側面が磁面となる。上面は磁面に埋め、下面は磁面に突出する。側面にはやや凹凸が生じている。磁面の気孔は比較的少なく、下面寄りでは横方向に連なる。岸は風化がやや進む。下面は砂土上の剥離面の可能性大。小型の焼物磁治洋の1/4～1/5程度の破片か。	
161	陶製磁治洋 (小) ?	B	5.4	4.0	2.3	75.8	2	なし	上面がイオガシタの質感を持つ陶製磁治洋の破片。磁面は160と似た厚みを持つが質感はかなり異なる。本資料のほうの岸の流動性が低く、イオガシタがより、岸部の発達が少ない。磁面の表面にはメスで物入りから土又は砂礫土が薄く剥離する。上手側の側面が一部半流動化しており、工具痕の可能性あり。岸部は伊内洋的。	
162	砂鉄石 (砂鉄)	B	4.3	4.7	2.2	42.7	2	なし	磁面と表面の一部が半流動化している砂鉄石破片。上面の右寄り右側部が半流動化しており、部分的に発達してしまっている。砂鉄石のほうは砂鉄。下面の一部は暗紅色が強い。右側部下面は岸が付着しているため磁面に覆われて生きている。上手側の側面にはメスを掘ると灰色の砂鉄土がやや埋蔵する。	
163	黒酸化木炭	B	2.5	2.0	1.1	5.4	4	H(○)	分析資料No.14 分析資料詳細検査表参照。	No.14
164	木炭	B	-	-	-	-	なし	分析資料No.15 分析資料詳細検査表参照。	No.15	
165	鉄製品 (製造品)	B	7.2	4.9	0.6	92.8	3	錆化 (△)	幅4cm、長さ7.2cmほどの薄板状の鉄製品破片。短軸側と左側部は直線状で右側部は緩やかに湾曲している。薄板状の鉄製品とまでは言えないが、断面はつきりしないため、線の可能性が強いと見られる。重量があり、比較的健全そうに見えるが、裏面に錆びてしまっている。S7鋼土品で焼入れ処理済みであり、焼入れにはやや新しい可能性が高い。	

(3) 水田・畠跡

本遺跡では、合計3面の水田跡が検出された。古い順に第1面水田～第3面水田とする。

古代に属する水田跡は2面確認された。下層の第1面は洪水層に被覆された面であり、畠もこの面に属する。上面の第2面は、As-B層の下面であるが、明瞭な畦畔は確認できなかった。第3面は、近世に属する水田の基盤である。

① 1面水田・畠

1・1区第1面水田(第261図、PL75～78)

調査区西端部は現早川に向かって緩やかに高まり、また東端部もⅡ区側へ向かって高まっている。水田はその中間にあたる南北に延びる低地帯において検出された。この低地帯は下部の埋没河道上に形成されている。

水田面は明黄褐色の洪水土層に覆われた状況で残存していた。低地帯の中央部にはN-3°-Wに貫くやや規模の大きな畦畔がある。調査区南端には南北の主畦畔に交差する畦畔が検出された。両者が基軸となる区画内を、小規模な畦畔により不定形に区画した水田が形成されている。調査段階では、水田面は埋没地形に合わせた浅い低地帯として僅んでいるが、上位土層の土圧による地形変形による影響が強い。南北方向の大畦畔の西側には、洪水層が15cmの厚さで堆積しており、水田面の遺存状況は良好である。検出された水田は12面以上と考えられ、面積を計測可能な区画の内、最大244.3㎡、最小79.0㎡である。水田面は全体的に小さな凹凸が認められた。畦畔の上面は後世の水田耕作による攪乱や、調査時の削平により明確ではないが、土層断面での観察によれば、大規模畦畔では高さ15cm、下端幅90cm、小規模畦畔では高さ8cm、下端幅72cmである。南北大畦畔の東側には、洪水層の堆積が認められない。上位の水田の耕作により攪拌された結果と考えられるが、その際にも大畦畔が継続的に使用されたものと考えられる。耕作土は、流水の影響を受けた状況で堆積した粘質土層である。

水口は、側道部の南北大規模畦畔南端で1ヶ所検

出された。水口の幅は27cmで西区画から東区画へ水を落とした状況であり、上位側には径1.27mの楕円形の窪みが認められる。また、本線部南北大畦畔に沿っては小規模な溝(39号溝)が検出された。

洪水砂直下の畦畔際からは、土師器環が出土している。上面にはAs-B下面の水田耕作土があり、本水田面の埋没年代は土師器の年代と関連する可能性が大きい。

1区1号畠跡(第261・262図、PL75・79)

1区西端の微高部で検出された。明黄褐色洪水土に覆われた状態から近接する水田跡と同一面と考えられる。

17.2m×8.5mの範囲に、微高部の等高線に直交して14～16条のサク列が並ぶ。畝部分の上面は、上位からの攪乱を受け残存しない。サクは浅いU字形の断面形で、幅は20cm～55cm、深さは12cm前後、サクの心々距離は0.9cm～1.6cmを測る。地形に応じて、サクは緩やかに曲がっている。

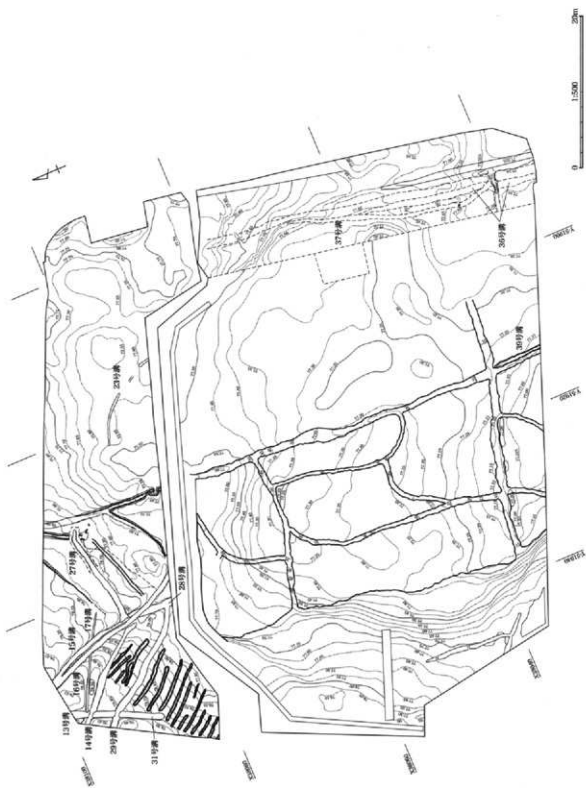
時期的には、1区第1面水田と同じ、9世紀前半代以降と考えられる。なお、自然科学分析を行ったが、栽培作物の特定には至らなかった。

② 第2面水田(As-B層下面)

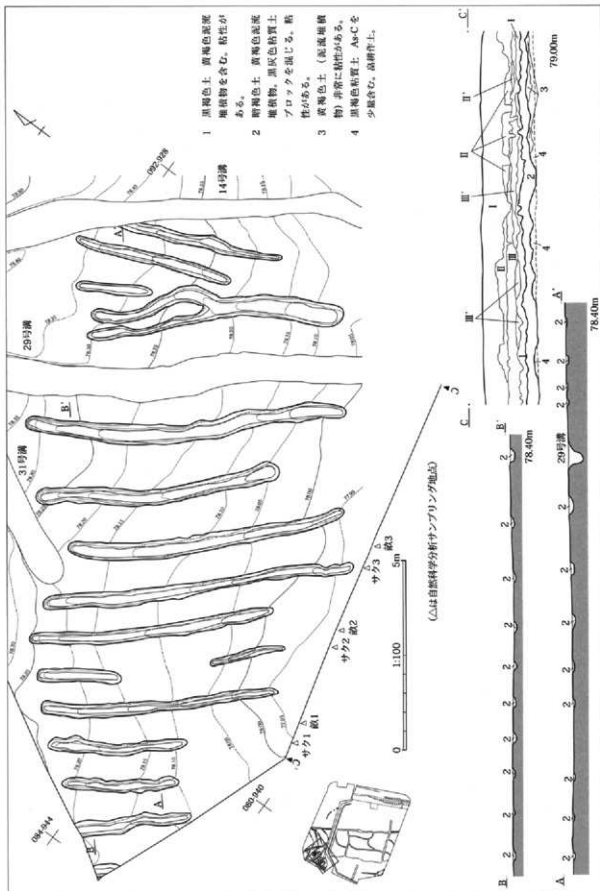
1・1区第2面水田(第266図、PL80・81)

第1面水田の上位、As-B層に被覆された面である。下部の埋没河道上の低地帯を利用した状況だが、土圧による地形変形の影響もあり、明瞭な畦畔は確認されなかった。しかし、土層断面の観察から、第1面水田を攪拌する耕作の状況が確認されており、第1面水田以降、As-B層堆積までの間に、水田化されていたことが確認される。ただし、As-B層堆積段階での耕作の有無については不明である。

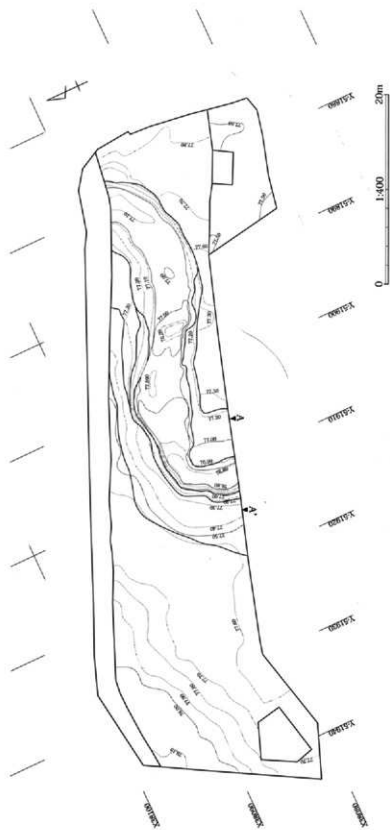
1・1区東端部では、南北方向に並列する浅い幅広い溝(25・26号溝)が確認された。低地帯と微高部との変換点にあたることから、中間部の大規模畦畔の両側部に設けられた水路の可能性が大きい。両側の水路を結ぶ水口状の地点がある。1区のAs-B



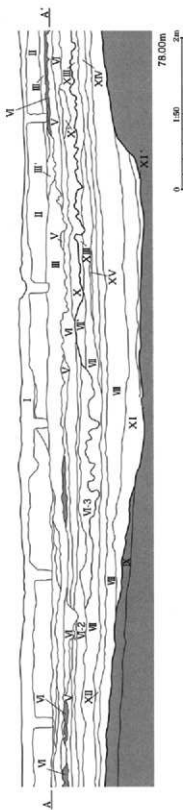
第 261 图 1 · 1 区第 1 面水田 · 高全体图



第262図 1区1号畠



第 263 图 I 区 1 号河道 (1)



- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>I 表土 (腐植層剥後の現耕作土)。
II 暗棕色土 As-B (~2mm) を多量含む。砂質茶褐色粒子 (1mm) を微量含む。しまっている。下部 10cm 前後に部分の成層構造。
III 暗棕色土 II 層に比して黒味がかる。非常に多量の As-B (~2mm) と、茶褐色粒子 (~1mm) を微量含む。As-B 降下後の産田土。
IV 暗褐色粘質土 多量の As-B と As-B 層上部の黒色腐植土を強じる。
V As-B 黒灰色粘質土 As-C (~2mm)、Hr-PP (6層上部の腐食部分) (~5mm) を少量含む As-B 下の水田 (7) 類土。
VI 灰褐色粘質土 (5層に類す土質) As-C、Hr-PP の含有は 5 層よりやや多い。部分的に下部砂水土を含む。
VI-2 灰褐色粘質土 多量の腐植色砂 (~2mm) を含む。特に上部に多い。
VI-3 VI 層と灰褐色粘質土 (X層) ブロックの混生。
VII 黒色粘質土 やや灰色かか。As-C (~2mm) を多量含む。
VIII 黒色粘質土 VII 層に比して含有物多く、粘性劣る。やや暗色。
IX 黒茶灰色粘質土 含鉄量はほとんど無し。</p> | <p>IX 明茶灰色粘質土 含有物ほとんど無し。
X 灰褐色粘質土 やや粗いシルト質 Hr-PP (~5mm) が少量含まれる。
XI X と VI の混層。
XII 黒灰色粘質土。
XIII X I 層に外砂粒が混じる。
XIV 黒粘質土 As-C (~3mm) が非常に多量混じる。
XV 暗輝赤土 VII 層に比し As-C の含有が多く、より黒味がかる。
XVI 泥底下水田類土 黒灰色粘質土 As-C (~2mm)、Hr-PP (~3mm) を含む。茶褐色粒子 (~1mm) を微量含む。
XVII 黒棕色土 粘性やや強く、ゴソゴソした感じ。黄褐色色砂を含む。
XVIII 黄褐色色砂</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第 264 図 1 区 1 号河道 (2)

層直下では、北東から南西方向に溝状の浅い窪み(40号溝)が確認された。踏み分け道の可能性もある。1区でも、同じ走行の30号溝が検出されたが、U字形の断面形を有する明瞭な溝である。

As-B層の堆積年代は、天仁元年(1108)に比定されている。

なお、27、29号溝は第1面以降に開削され、As-B層面に先行する。

II・2区 As-B層下面(第270図、PL81)

As-B層の堆積は、調査区西半部で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。しかし、1区に隣接する部分で検出されたAs-B層直下の1号溝は水路と考えられ、水田化されていた可能性を示す。

なお、調査区東半部の埋没河道内でもAs-B層の堆積があったが、下面は砂質土であり水田化されていなかった状況が確認された。

5号溝は、As-B層面に先行する遺構である。

III・3区 As-B層下面(第271図、PL82)

As-B層の堆積は、調査区中央部周辺で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。中央西寄りや南北と、東西方向の畦畔状のわずかな高まりがあり、水田化されていた可能性を示している。

なお、調査区西端部の埋没河道内でもAs-B層の堆積があったが、下面は砂質土であり水田化されていなかった状況が確認された。

溝群は、As-B層面に先行する遺構群である。

IV・4区 As-B層下面(第275図、PL82・83)

As-B層の堆積は、調査区中央部で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。IV区で検出された畦畔状の区画は、As-B層上からの耕作に伴うものである。

なお、水田区画下部で検出された溝群は、As-B層に先行する可能性が高い。

V・5区 As-B層下面(第279図、PL83)

調査区中央部には、幅30m前後の浅い谷地形が

形成されている。As-B層の堆積は、谷中央部では5~8cmに及ぶ。確認面は、土圧による地形変形もあり、一部で畦畔状のわずかな高まりを確認した以外は、水田耕作の痕跡は判然としない。

谷の西縁部には溝群がAs-B層の上下で重層的に検出されており、水田に関連する可能性が高い。調査区北側には、現在も湧水点があり、その水を効果的に利用したものと考えられる。

なお、自然科学分析の結果、東半部ではイネ属機動細胞珪酸体の数値が低い点は、不明瞭な畦畔と合わせて検討の余地を残す。

(4) 溝

V・5区谷地部西縁には大規模な溝(20号溝)が認められたが、北側に近接する湧水点からの水を下流域に配水するための基軸水路と考えられる(第280図、PL102・103、第10表)。

(5) 河道

I・1区1号河道(第263・264図、PL85)

1区では北東→南西方向に約30m S字状に蛇行、1区では南方向へ約50m流れを変えている。長さ30m、幅7.5~14.5m、深さ0.65m、断面は緩やかなU字形を呈する。下層にはAs-C軽石の濃密な堆積層があることから、古墳時代以降の河道であることがわかる。上層には黄褐色粘土(層厚15cm前後)に覆われた水田面があり、上面はAs-B層が堆積している。この間にも耕作の痕跡が認められる。

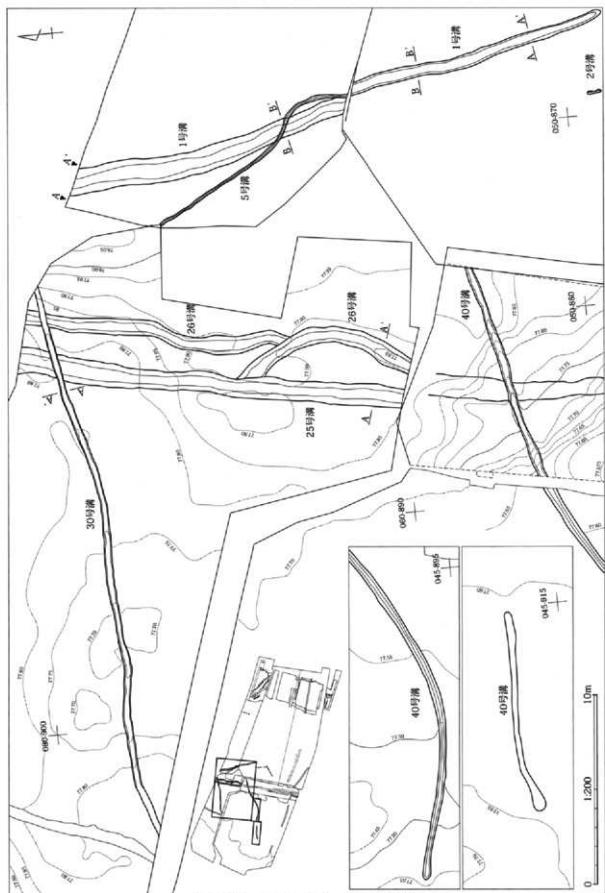
II・2区~III・3区1号河道(第306~308図、PL85~87)

河道は3区から2区にかけてクランク状に屈曲し、2区ではほぼ南方向へ流れを変える。II区では長さ41.9m、幅26m以上、深さ0.8m、断面は緩やかなU字形を呈する。河道は複数の流路が複雑に切り合う状況が認められる。

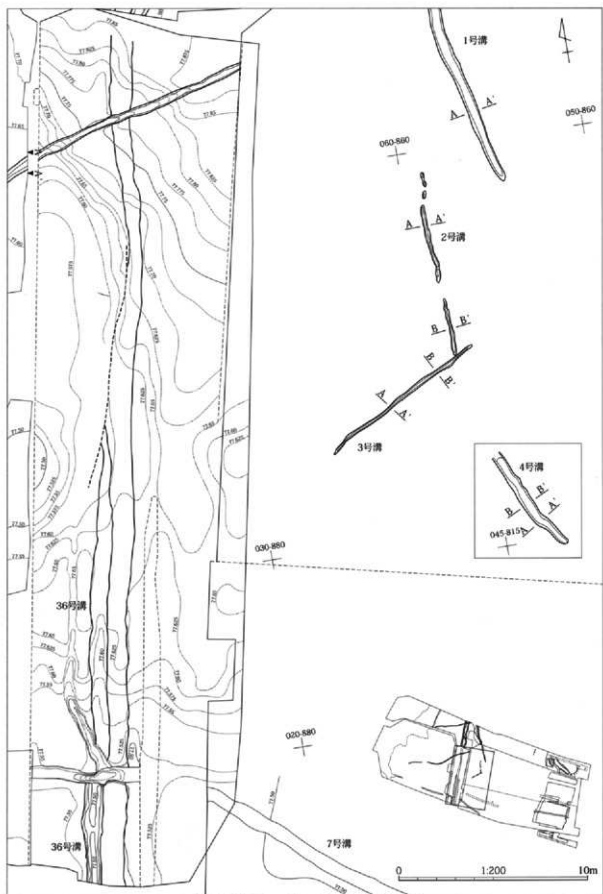
上記の河道は、古墳時代以降の流路の痕跡である状況を示すが、上限は縄文時代以前に遡ることは明らかである。河道が古代の時点で埋没、一部水田化されたことが調査で判明した。



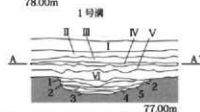
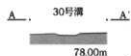
第 266 圖 I・1区 As-B層下面全体圖



第267图 I·1区、II·2区古代溝(1)



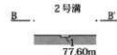
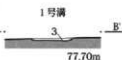
第268图 I·1区、II·2区古代溝(2)



- 1 暗褐色土 砂粒を非常に多く含む。白色バミス少量含む。
- 2 黒褐色土 粘性有り。白色バミス、砂粒少量含む。
- 3 1層に順す。
- 4 2層に順す。
- 5 1層に順す。

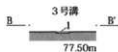


- 1 黒褐色砂質土 Hr-FP 軽石粒を多量含む。硬い。粘性なし。
- 2 黒褐色砂質土 Hr-FP 軽石粒を含む。やや軟らかい。粘性が弱い。
- 3 黒色粘質土 Hr-FP 軽石粒を微量含む。軟らかい。粘性なし。
- 4 黒褐色粘質土 Hr-FP 軽石粒を含む。褐色ロームブロックを多量含む。やや軟らかい。やや粘性がある。
- 5 黒色粘質土 砂、土器片を多く含む。礫径3～10mmを含む。明黄色ローム粒を多量含む。ややしまる。粘性なし。
- 6 黒色土 灰白色砂を微量含む。やや軟らかい。やや粘性がある。

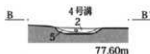
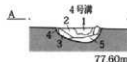


- 1 暗褐色砂質土 砂を主体とする層。黒色土粒、白色バミスを多く含む。
- 2 黒褐色土 粘性ある黒色土を主体とし、砂粒、白色バミス少量含む。
- 3 1層に同じ。

- 1 暗褐色砂質土 砂を主体とする層。黒色土粒、白色バミスを多く含む。



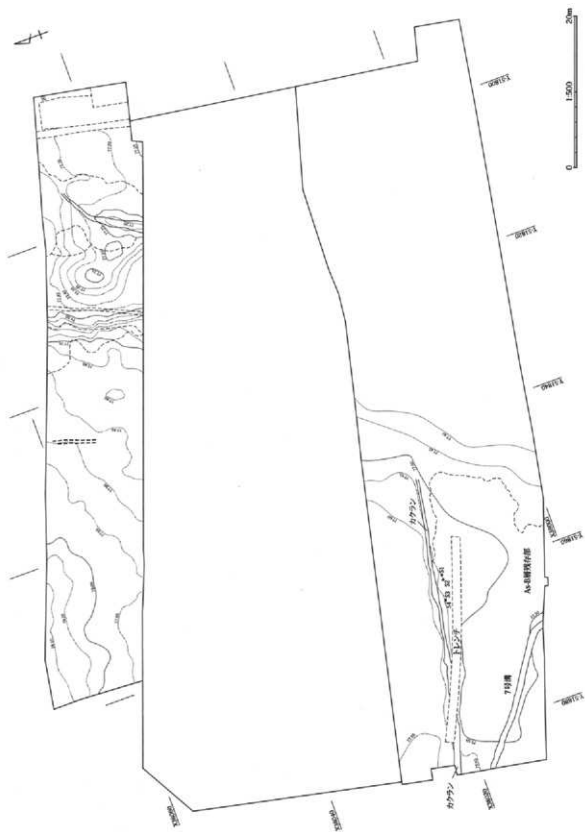
- 1 暗褐色土 白色バミスを多く含む。



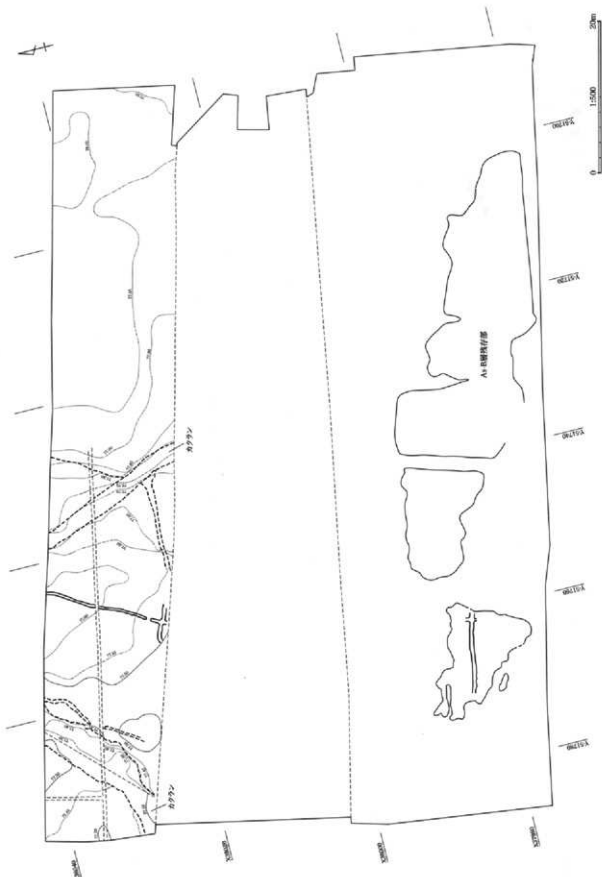
- 1 暗褐色土 多量の焼土粒、小ブロック(～2mm)と炭化物(～3mm)、白色軽石(Hr-FP～3mm)を含む。
- 2 黒褐色土 多量の白色軽石(～3mm)を含む。炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 含有物少なくやや砂質。
- 4 明褐色土 黄褐色砂質土を含む。
- 5 明褐色砂質土 焼土粒(～5mm)を含む。下面に灰層が薄く分布。

0 1:50 1m

第269図 I・I区、II・2区古代溝(3)



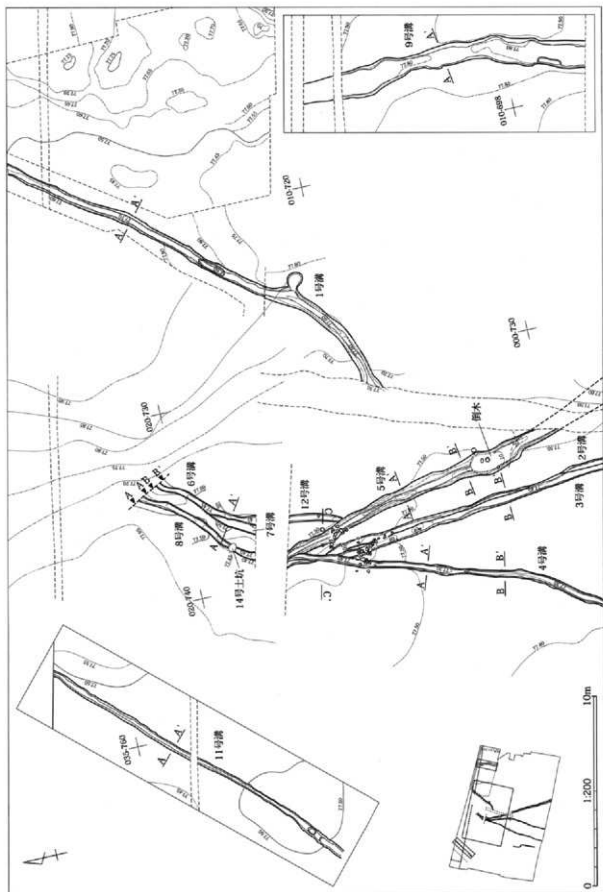
第 270 図 II・2区 As-B 層下面全体図



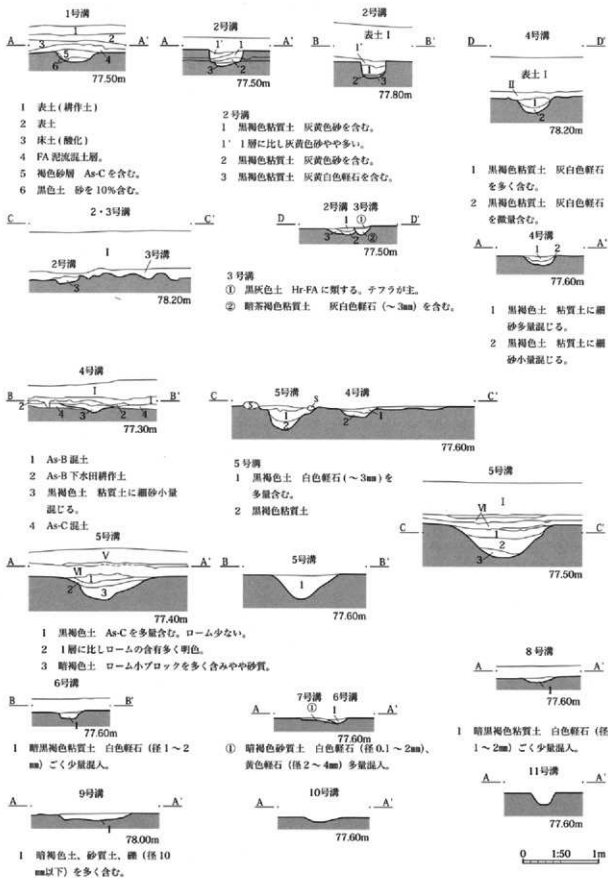
第 271 图 III・3区 As-B 層下面全体图



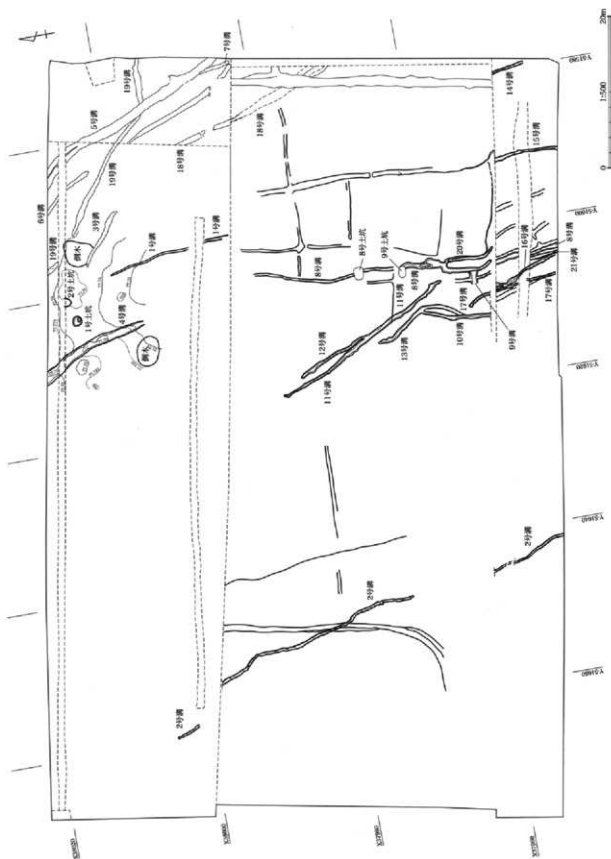
第 272 图 Ⅲ・3区古代溝 (1)



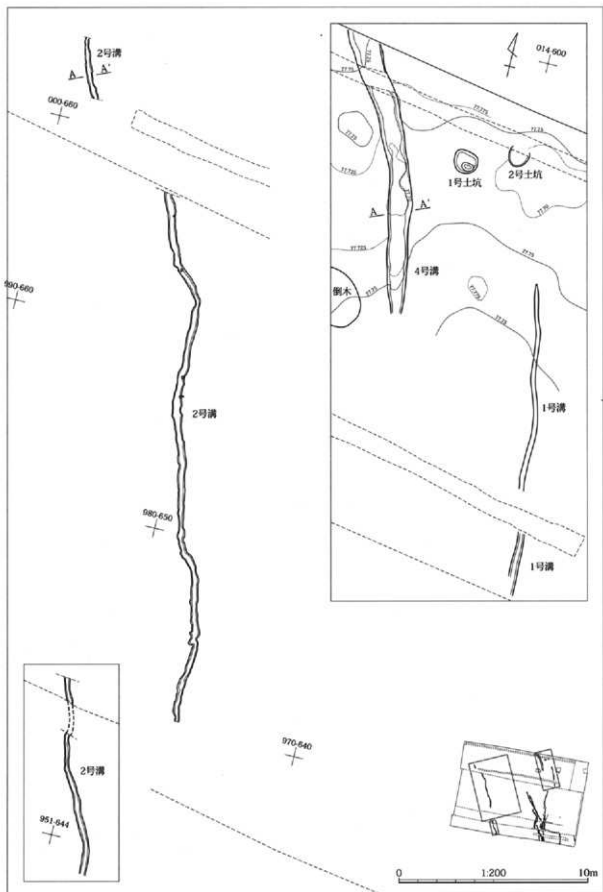
第 273 图 Ⅲ·3 区古代溝 (2)



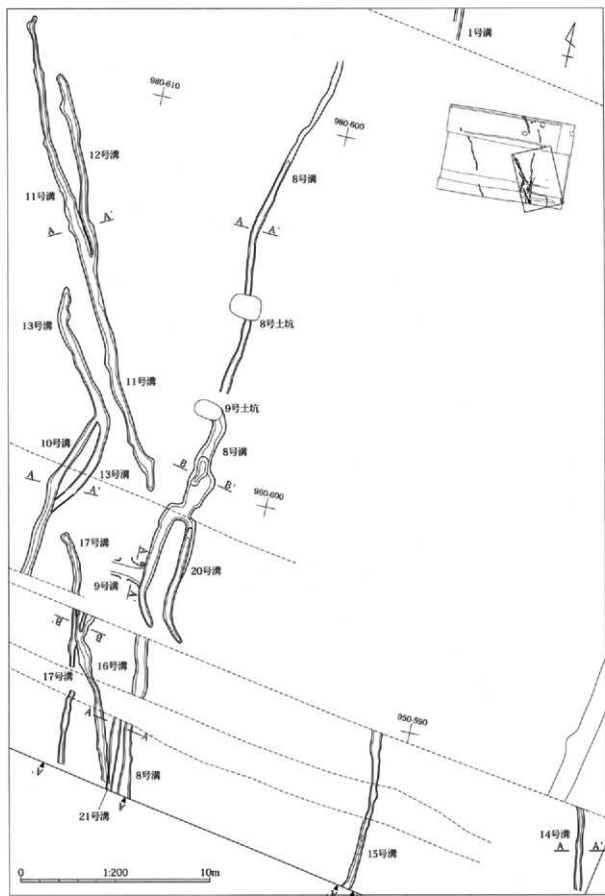
第274図 III・3区古代溝(3)



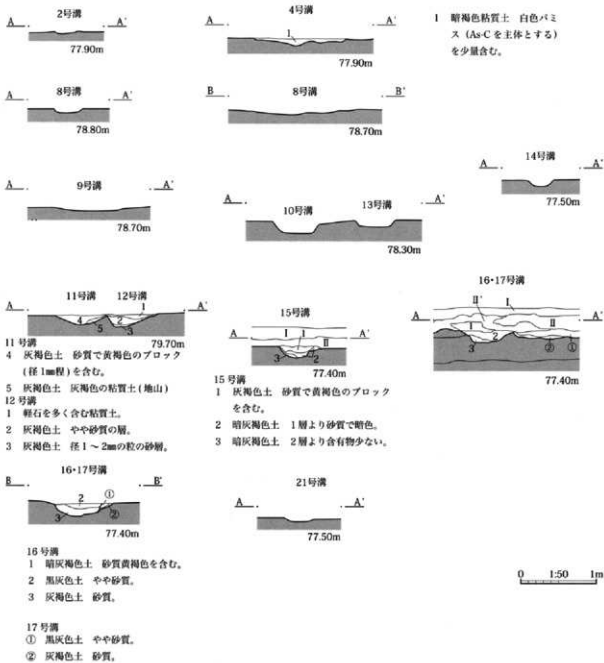
第 275 图 IV·4 区古代面全体图



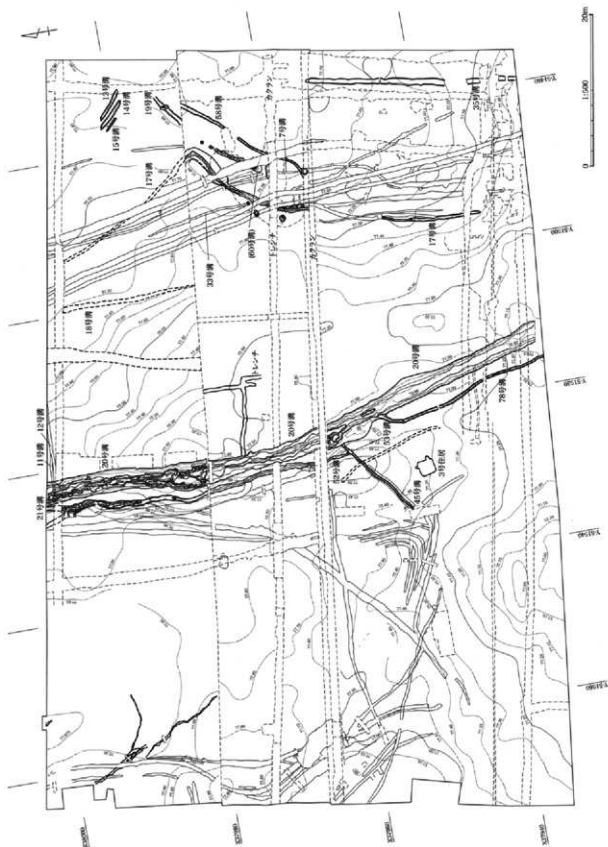
第 276 图 IV·4 区古代溝 (1)



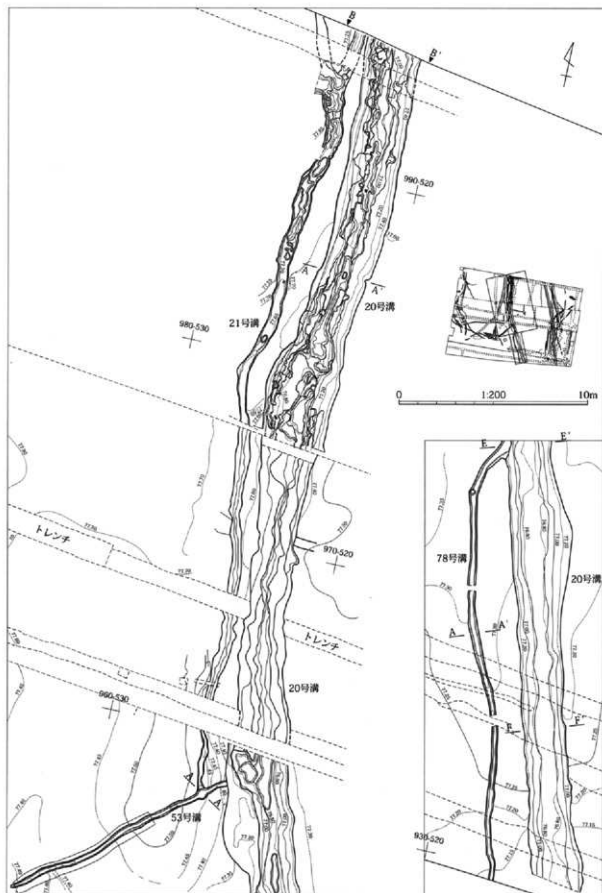
第 277 图 IV·4 区古代沟 (2)



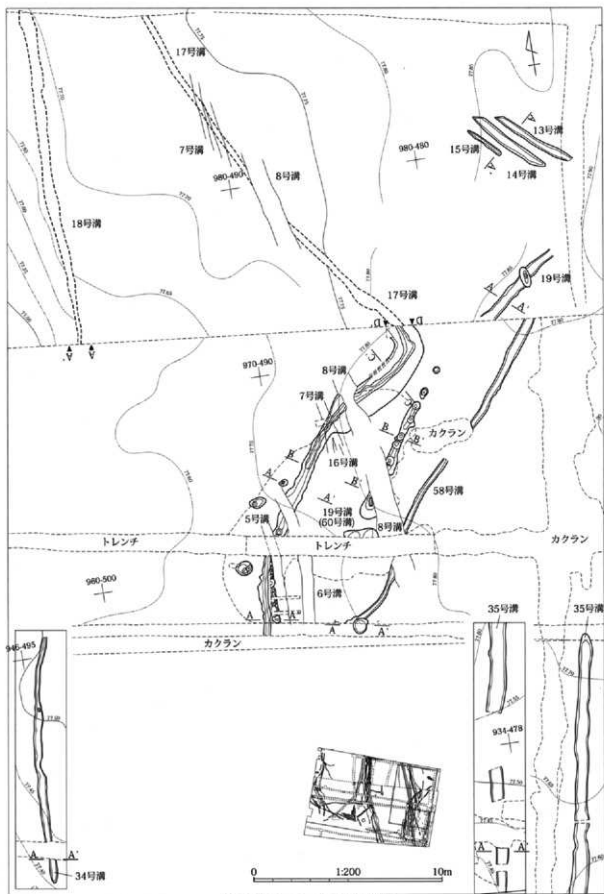
第278図 IV・4区古代溝(3)



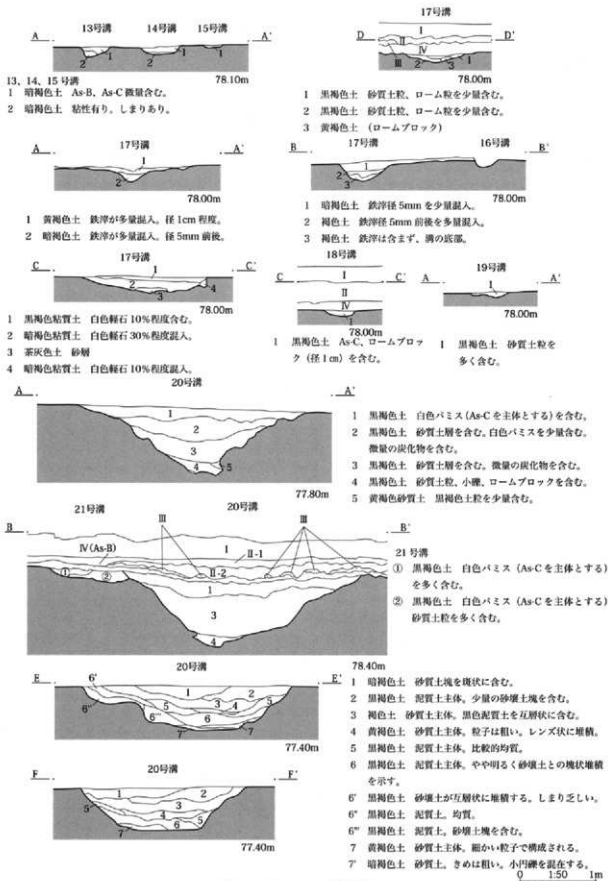
第 279 图 V・5 区古代面全体图



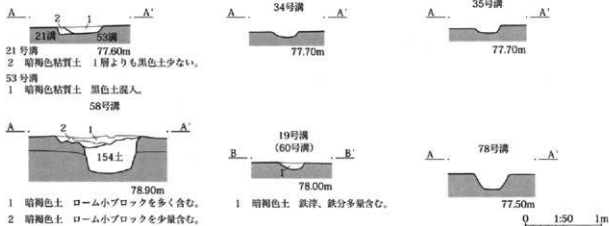
第 280 図 V・5 区古代溝 (1)



第 281 図 V・5 区古代溝 (2)



第282図 V・5区古代溝(3)



第283図 V・5区古代溝(4)

(6) 土坑

古代に属する可能性のある土坑は、4区で検出された1号土坑(第284図、PL59、第11表)以外は、明確でない。

4区1号土坑(第284図、PL59)

IV区の東側微高地の北西縁部(008、603)グリッドに位置する。

直径1.22cmのやや不整な円形を呈し、深さは20cmである。覆土は、周辺の中近世の土坑とは異

なるAs-C軽石を含む黒褐色土である。

底面付近から、土師器の小破片が出土した。

(7) 河道

下田遺跡西半部の低地帯を流れる河道は、古代の段階でほぼ埋没し、水田化した状況も部分的に確認されている。

I区34号溝(第286・287図、PL85)は、調査区南西隅で検出された。全体像は不明だが、河道に相当する規模を有する可能性がある(2号河道)。As-B軽石や砂が互層をなす埋没状況を示すことから、比較的短時間に埋没したものと考えられる。

溝(河道)は大間々扇状地傾斜面と藪塚面の境界際の現早川の東に接する位置を流れる。

埋没時期が不明なため、中近世に掲載したが、古代にはこの位置に定着していた可能性が高い。

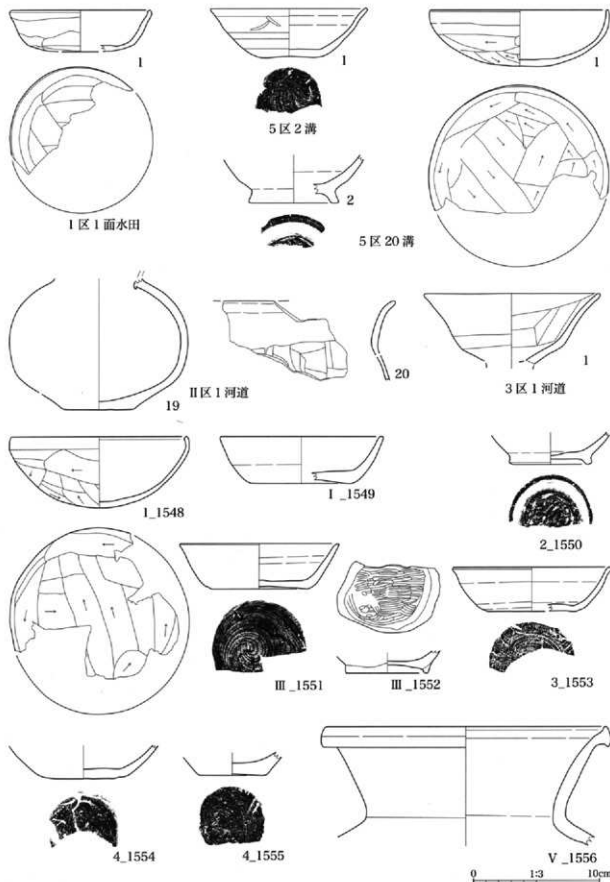
(8) 遺構外出土遺物

古代に属する遺構は、水田やこれに伴う溝を除くと、4・V区の微高部に散見される程度である。そのため、全体として遺物量は少ない。

掲載した土師器と須恵器を含め、出土遺物の残存状況は良くない。8世紀後半～9世紀代の遺物と、10世紀代の遺物が認められる。



第284図 4区1号土坑



第 285 图 古代出土遺物

第4項 中近世以降

(1) 水田跡

近世に属する水田跡は、I・I区で確認された。しかし、耕作面は現代に至る連続的な耕作の結果残存しない。この区域は、他の調査区に比較して低地部の高低差が大きいため残存したと考えられ、本来は他の調査区におよんだものと考えられる。

①第3面水田

I・I区第3面水田(第286図、PL84)

本調査区の東半部では南北および東西方向の溝群が検出されている。本水田の耕作面や耕作土の大部分は現代の圃場整備による削平を受け遺存していないが、溝群によって長方形に区画された水田面の存在が確認できる。調査区中央部の南北方向の溝群が、基軸となると考えられ、複数回の掘り直しの痕跡が認められる。3～5号溝は西から東へと掘り直されており、11・6・8・9号溝も含めた区画の変動が読み取れる。

区画の規模は、東西21～30m前後、南北21m前後となる畦畔の区画と一致するかは不明である。

西側の12号・32号溝と、東側の37号溝の南北ラインも水田区画に伴うと考えられ、35号溝からII区7号溝の東西ラインも含めると、本面の水田はより広範に及ぶと想定される。1～3区(もしくは4区)を含めた、低地帯全体が継続的に水田化されていた可能性がある。

溝群の確認面は、水田の基盤に相当するが、この層位からは近世に帰属する遺物が出土した。本水田の時期の上限は不明であるが、地形的には古代以降継続的(断続的)に水田化されていたと考えられる。

水田耕作土中からは、中近世の陶磁器類が出土している(第309図、PL179)。

(2) 溝

各調査区において多数の溝が検出された(表10)。特に南北方向に形成された狭小で高低差の小さい谷地の縁辺には、繰り返し溝が掘り直された状況が認められた。各調査区の概要は以下の通りである。

I・I区では、近世水田の基盤で溝群が検出された(第287・288図)。南北の傾斜方向の溝とこれに直交する東西の溝の配置から、水田区画に関連することが想定される。II・2区ではI・I区側に連続する溝群が西端部で検出された(第289図)。近世水田関連の遺構と考えられる。IV・4区では、東端の微高部で近世以降と考えられる溝群が検出された(第293図)。V・5区では、ほぼ全域で多数の溝群が検出された(第295～299図)。中央の谷地部の縁辺の溝は北から南への傾斜に合わせた走行のものが主であるが、微高部では北西から南東方向のものが多数を占める。

(3) 土坑

中近世以降に属する土坑は、III～V区で少数検出された(第304～305図、PL59・60・70・72、表11)。V区152号土坑として調査した土坑は、64もしくは65号溝から連結する溜池状の大形土坑である。人為的に埋め戻された埋土中からは、近世末に属する陶磁器類が出土した。なお、下流方向への配水の状況は確認できなかった。

(4) 河道

II区1号河道の中央部の用水化した流路からは17世紀～19世紀に属する陶磁器類が出土した(第309図・PL179)。圃場整備直前の水路からは現代の道具類の混入が認められた。

(5) 遺構外出土遺物

中近世に位置づけられる遺物は、各調査区から少数出土した(第309・310図、PL179・180)。

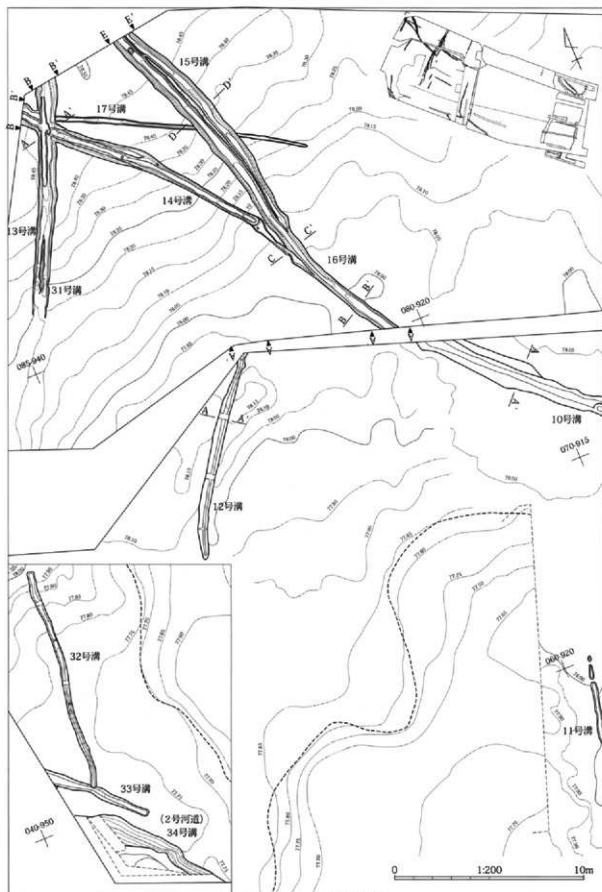
中世では、IV・4区を中心に中国・龍泉窯系の輸入陶器片が6点出土した。1566は龍泉窯系の青磁碗(13～15世紀)である。

近世では、肥前系の磁器や瀬戸美濃系の陶器類が出土した。

銭は、嘉佑通宝(北宋1056～1063)1枚、熙寧元宝(北宋1068)1枚、元豊通宝(北宋1078～1085)3枚、紹聖元宝(北宋1094～1097)1枚と、寛永通宝(1636～1869頃)6枚が出土した。北宋銭は国内の流通時期から本項で扱った。

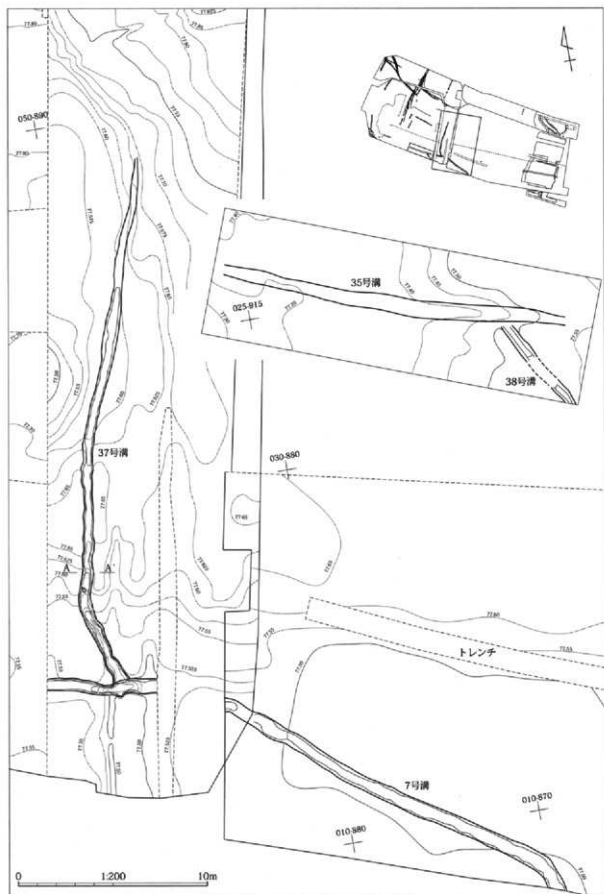


第 286 图 I・I 区第 3 面水田全体图

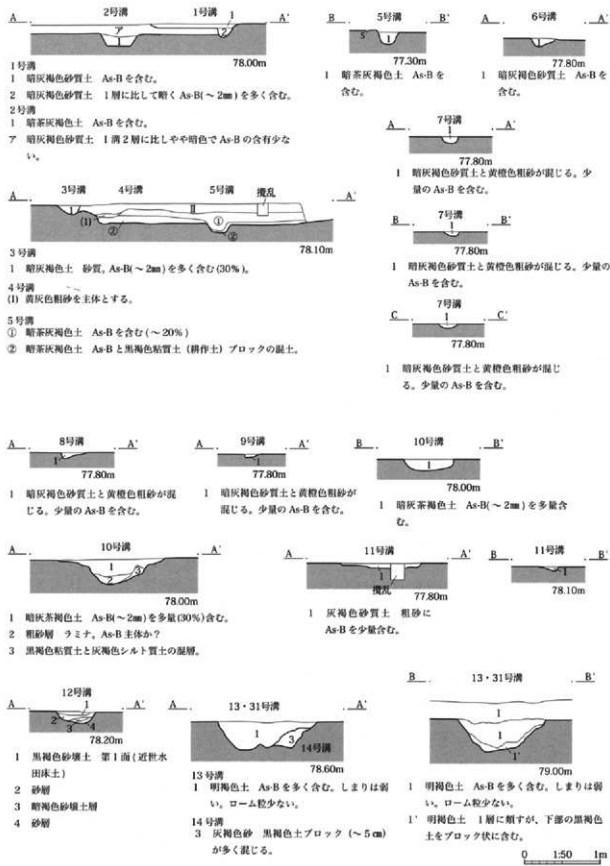


第 287 图 I · 1 区中近世溝 (1)

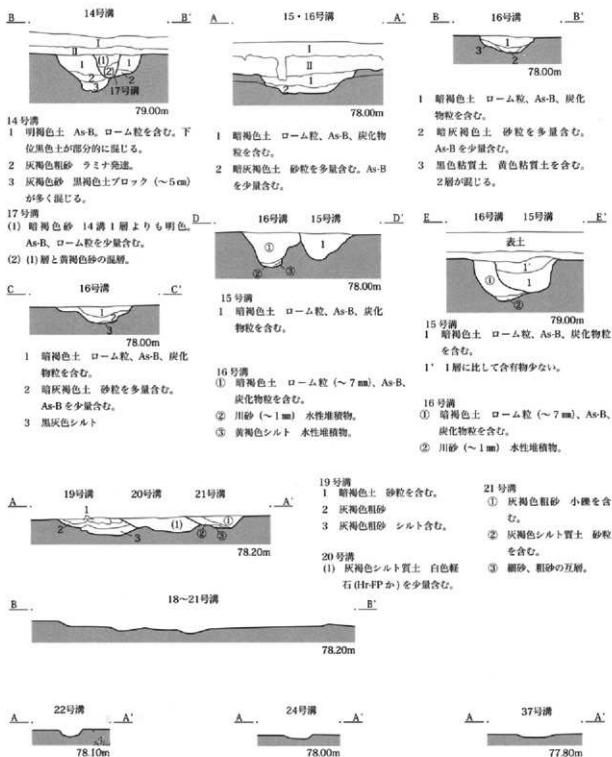




第289図 Ⅰ・Ⅰ区(3)、Ⅱ区中近世溝



第290図 I・I区中近世溝(4)

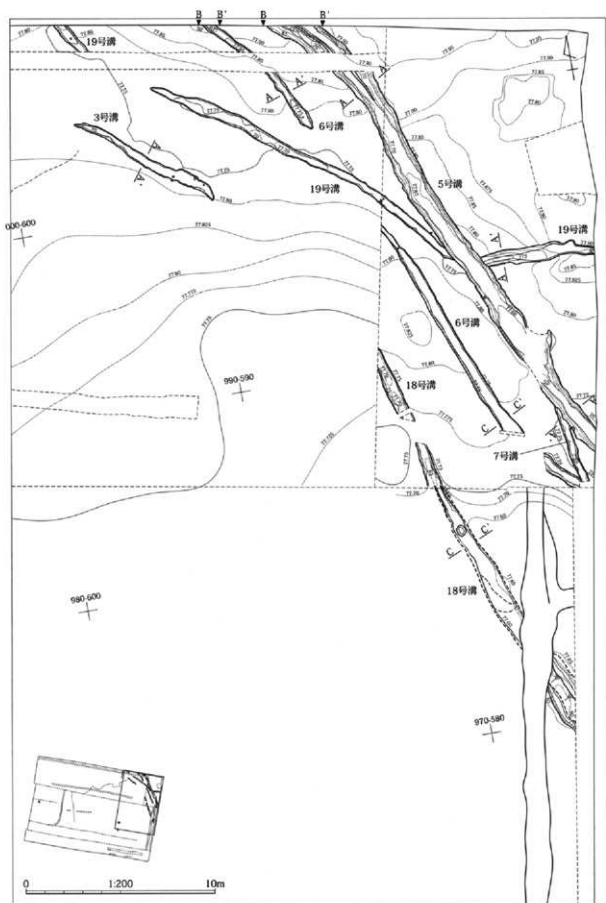


第291図 I・I区中近世溝(5)

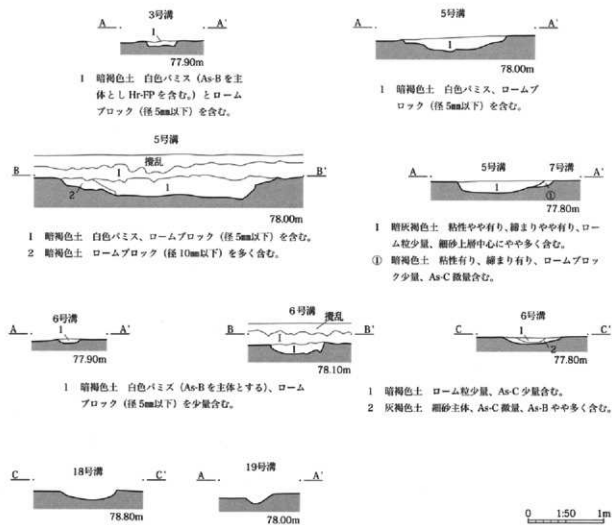
0 1:50 1m



第 292 图 IV·4 区中近世面全体图



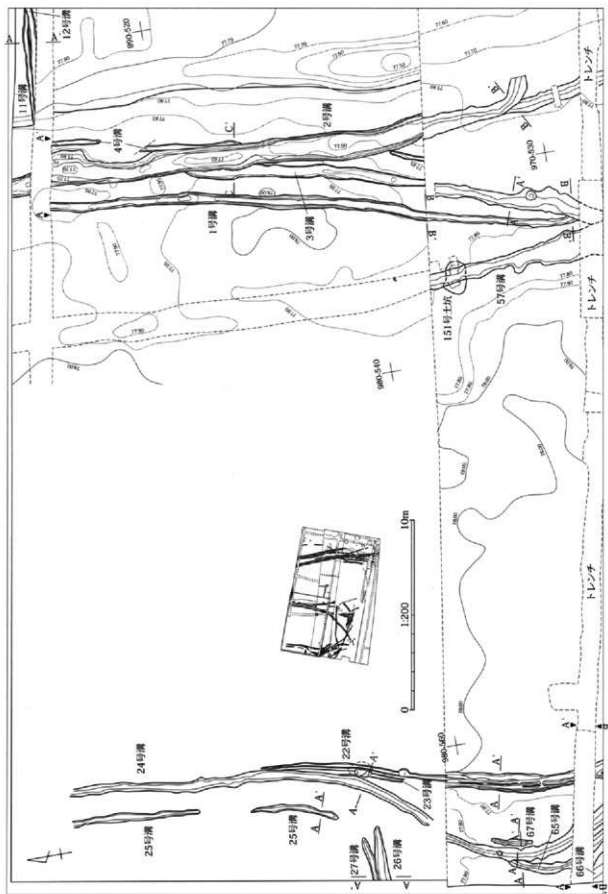
第 293 图 IV·4 区中近世溝 (1)



第 294 図 IV・4区中近世溝 (2)



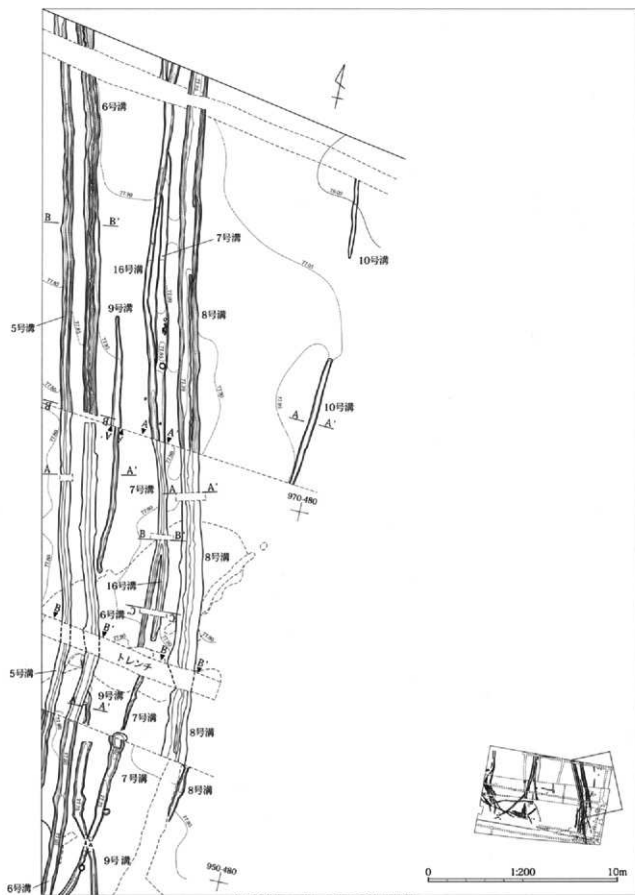
第 295 图 V・5 区中近世面全体图



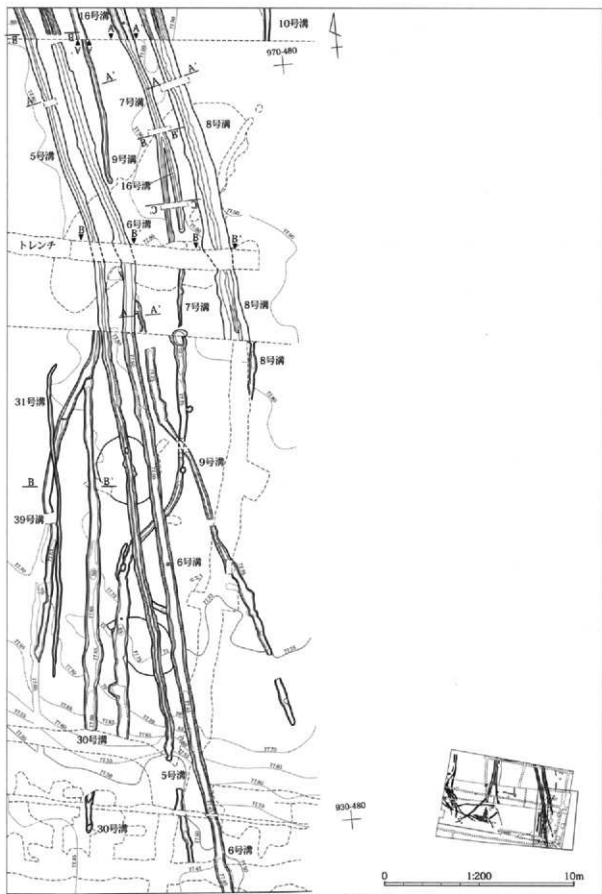
第296図 V・5区中近世溝(1)



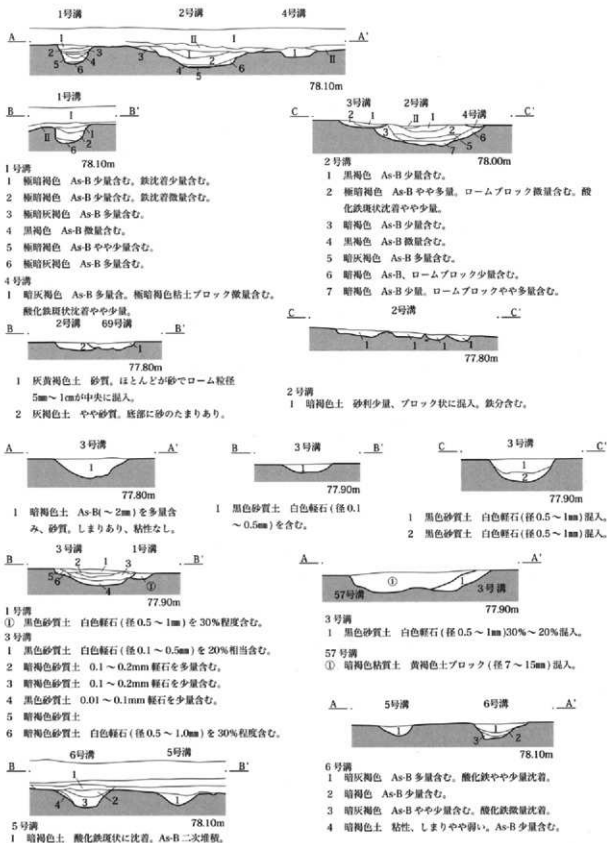
第297图 V・5区中近世溝(2)



第 298 図 V・5 区中近世溝 (3)

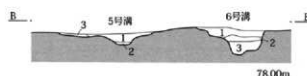


第299图 V・5区中近世溝(4)



0 1:50 1m

第300図 V・5区中近世溝(5)



5号溝

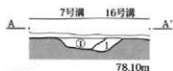
- 1 暗褐色土 鉄滓を少量含む。径2mm~3cm程度。
- 2 砂礫
- 3 1層と2層の混層。

6号溝

- 1 暗褐色土 鉄滓を少量含む。径2mm~3cm程度。
- 2 暗褐色土 C黒に少量の鉄滓を含む。
- 3 暗褐色土 B混土を主体に鉄滓を少量含む。

8号溝

- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 砂鉄を含む。



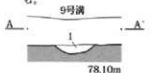
7号溝

- ① 暗褐色土 粘性やや弱し。細まりやや弱し。As-B少量含む。



7号溝

- 1 暗褐色土 B混土。ローム粒が多少混入。白色軽石(径1mm)を均一に含む。小鉄滓を少量含む。

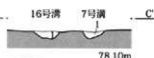


- 1 暗灰褐色 As-B多量含む。



16号溝

- 1 暗褐色土 粘性やや弱。細まりやや弱。As-B少量含む。
- 2 1層に比し含有物少ない。

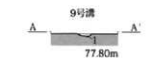


16号溝

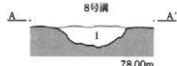
- 1 暗褐色土 B混土。

17号溝

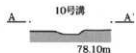
- 1 暗褐色土 B混土。



- 1 暗褐色砂質土 白色軽石(径1~2mm)少量混入。



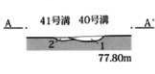
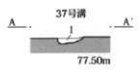
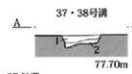
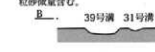
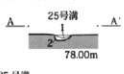
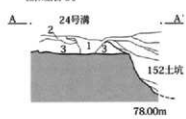
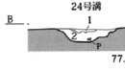
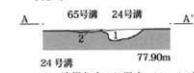
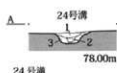
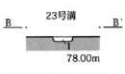
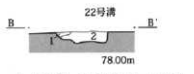
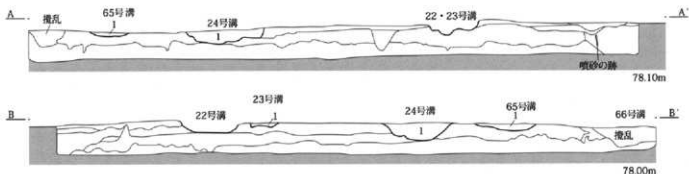
- 1 暗褐色土 B混土。



- 1 暗褐色土 B混土。

0 1.50 1m

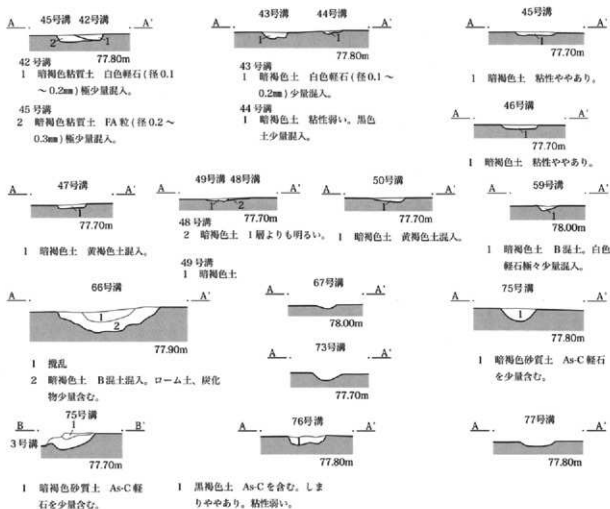
第301図 V・5区中近世溝(6)



40号溝
1 暗褐色土 粘質なし。
41号溝
2 暗褐色土 1層より明るい。

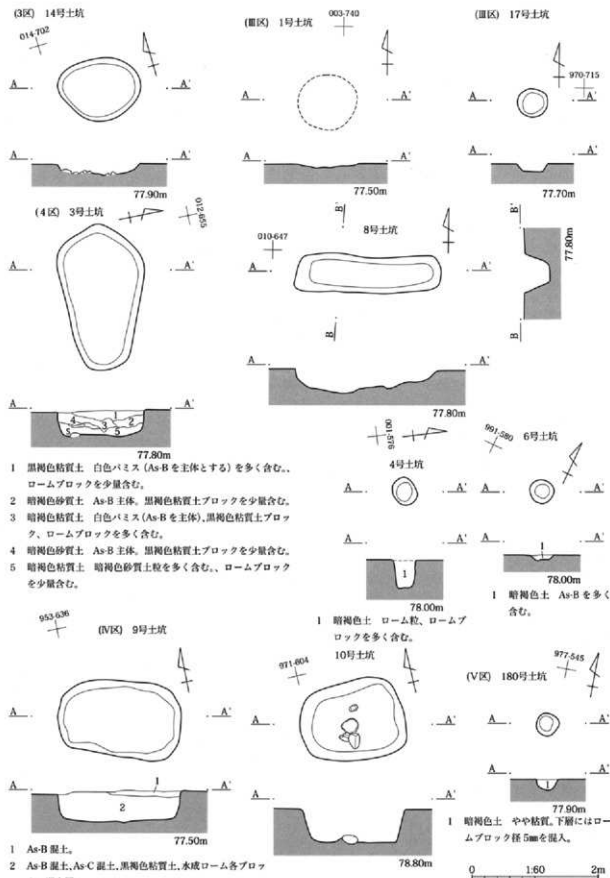
0 1:50 1m

第302図 V・5区中近世溝(7)

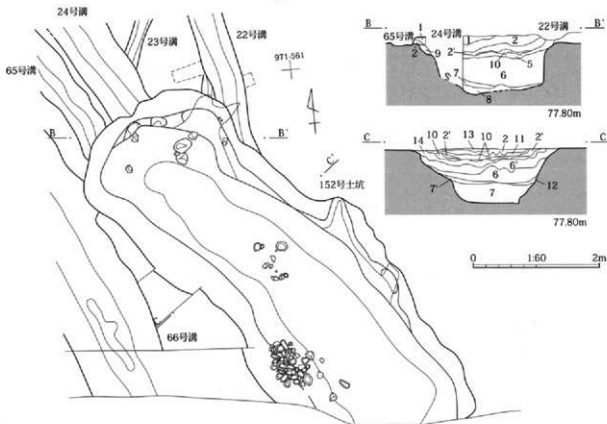
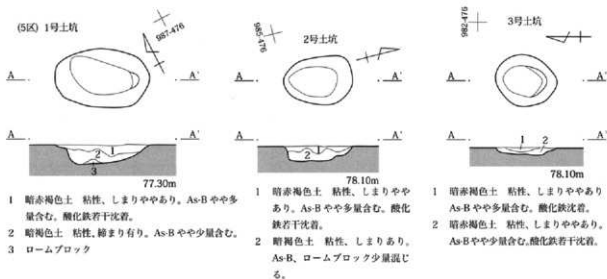


0 1:50 1m

第303図 V・5区中近世溝(8)



第 304 図 中近世土坑 (1)

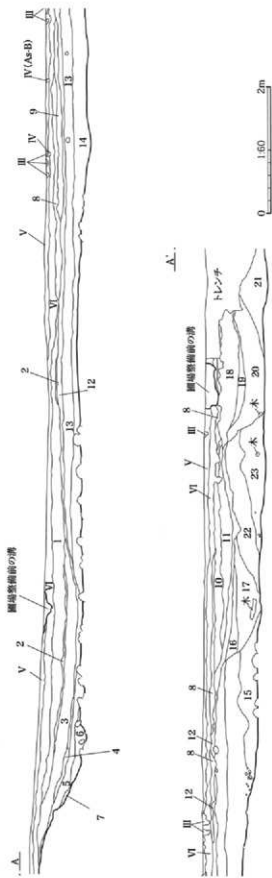


- 1 暗褐色土 鉄分の沈着が多い。As-A 軽石径 1mm が均一に混入している。
- 2 暗褐色土 1層よりは鉄分の沈着が少ない。As-A 軽石径 1mm が均質に混入している。
- 2' 2層に類するが、As-A 軽石の含有がより多い。
- 5 黒褐色土 砂粒を多く含む。
- 6 黒褐色土 砂質。ロームブロックを多量含む。
- 6' 6層より黒色土を多く含む、混入しているローム粒は径 5mm～1cm 程度で均一に入っている。
- 7 黒褐色土 砂質。ロームブロックを多量含む。
- 7 7層より黒色土を多く含む、ローム粒は少ない。
- 8 褐色土 粘質。水性ロームブロック多量に混入。
- 9 暗黄褐色土 ロームを均一に混入し、白色軽石少量混入。
- 10 白色軽石 (As-A 軽石と考えられる) の堆積した層。
- 11 暗褐色土 粘質。白色軽石を混入していない。粘土である。
- 12 黒褐色土 粘質。
- 13 11よりやや砂質。
- 14 灰褐色土 砂質。ローム粒、炭土径 2～5mm を均一に混入。砂も多く均一に入っている。

第 305 図 中近世土坑 (2)

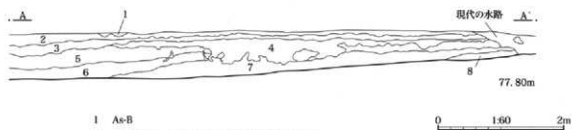
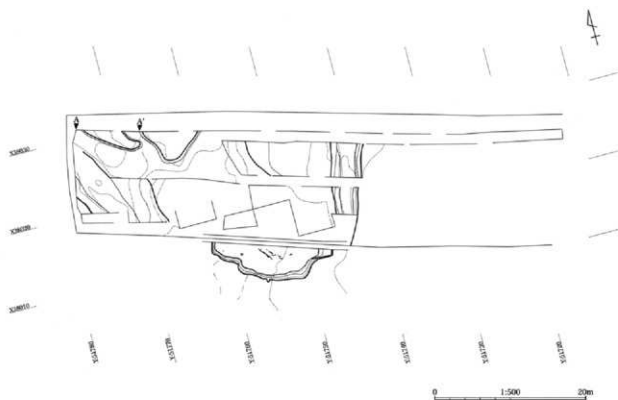


第 306 图 II · 2 区 1 号河道 (1)



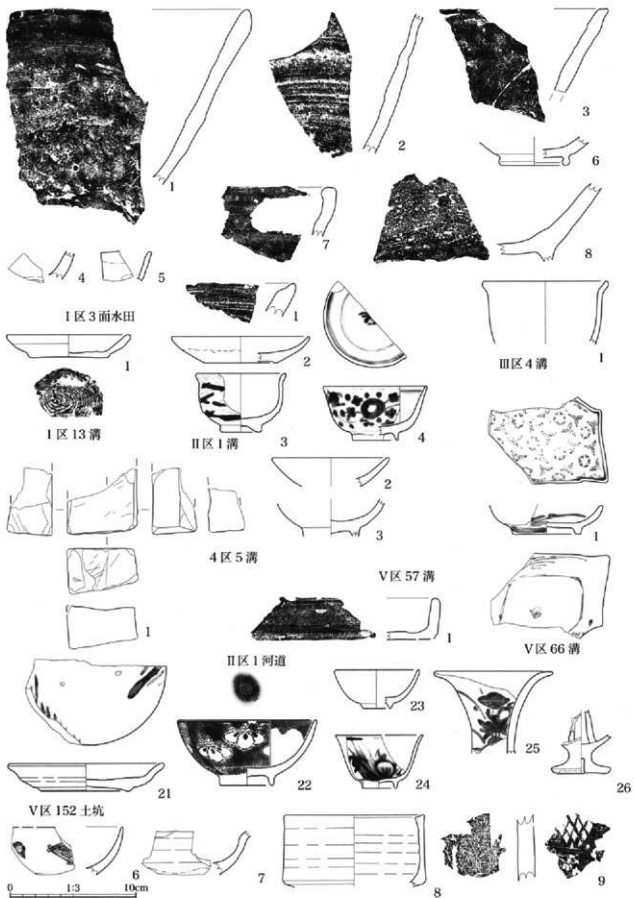
第307図 II・2区1号河道(2)

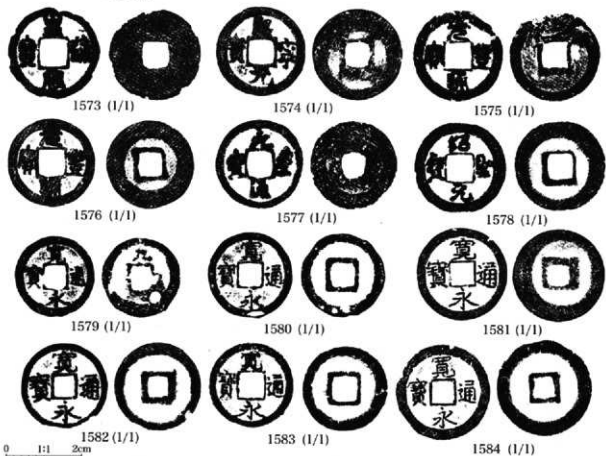
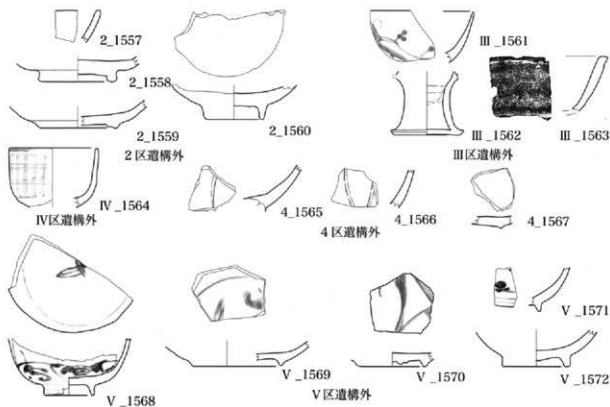
- III As-B 風土 (中世以降水田耕作土)
- IV As-B
- V 黒褐色粘質土 As-C を少量含む, しまっている。
- VI 黒褐色粘質土 As-B 下面の下の下, As-C, H+FP を含む。
- 1 黒色粘質土 As-C を含む, 粘性強く弾力あり。
- 2 黒灰色粗砂 (1区のオレンジ排水下の黄褐色砂に基底)
- 3 黒色粘質土 部分的にAs-Cを含むが全体に含有物少ない。
- 4 黒色土 As-Cと多量の川砂を含む。
- 5 黒褐色粘質土 含有物少ない。
- 6 黒褐色粘質土 シルト質含有物少ない。
- 7 明褐色土 やや砂質。
- 8 1区における日原紀原半田の水田を覆う黄褐色 排水土と灰褐色土の混層。
- 9 黒色粘質土 As-Cを少量含む。
- 10 黒色粘質土 黄褐色粗砂をブロック状に混じる。(1区のオレンジ排水下の黄褐色砂と黒色粘質土の混層)
- 11 黒色粘質土 植物遺存体を含む。
- 12 As-Cを多量に含む黒色土。
- 13 灰茶褐色シルト質土 こぼし大の礫を部分的に含むが, 全体に含有物は少ない。(植物繊維体を多く含む)
- 14 黄灰色シルト質土 下部は砂質, 含有物少ない。(植物繊維体を含む)
- 15 黒灰色シルト質土 植物遺存体を含む。
- 16 黒灰色シルト質土
- 17 多量の粗砂~小石の層と黒灰色シルト質土が互層をなす。(ラミナ混濁)
- 18 黒色粘質土 植物遺存体多く含む, 他含有物少ない。
- 19 粗砂主体, 黒灰色シルト質土とのラミナ。
- 20 黒灰色シルト質土 暗茶褐色シルトと粗砂の互層をなす。
- 21 黒色シルト質土と粗砂~粗砂のラミナ混濁。
- 22 黒灰色シルト質土 植物遺存体を含む, 部分的にラミナ混濁。
- 23 上半部は黒灰色シルト質土と粗砂の互層, 下半部は黒灰色シルト質土と粗砂, 小礫の互層。



- 1 A-B
- 2 黒色粘質土 V層に対応するが粘性は比して弱い。
- 3 灰褐色粘質土
- 4 黄褐色砂 シルト質土。
- 5 黒色粘質土 含有物はほとんど含まれない。
- 6 川砂と黒色粘質土のラミナ発達。
- 7 上層に比べ砂の多いラミナの発達。
- 8 暗黄灰色砂質土

第 308 図 III・3 区河道





第 310 图 中近世出土遺物 (2)

表10 下田遺跡溝一覽表

溝No.	位置	長さ	幅	深さ	走向	重積/備考	(末尾の逆→逆側、古=古代)
1-01	065、890)→(072、902)	15.03	0.48	0.18	N-122°E	2溝→1溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-02	065、893)→(073、905)	14.81	0.49	0.15	N-124°E	2溝→1溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-03	047、921)→(075、910)	29.47	0.75	0.12	N-158°W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-04	057、917)→(073、911)	16.59	0.53	0.12	N-159°W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-05	058、915)→(074、909)	16.78	0.41	0.18	N-158°W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-06	069、919)→(073、907)	5.06	0.41	0.10	N-146°E	6溝→3～5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-07	045、898)→(073、911)	14.92	0.46	0.10	N-119°E	6溝→3～5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-08	060、916)→(054、914)	4.38	0.48	0.14	N-150°W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-09	043、917)→(046、914)	6.42	0.46	0.04	N-152°W	なし / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-10	068、919)→(078、920)	14.52	1.14	0.32	N-137°E	10溝→3～5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-11	073、935)→(082、929)	14.76	0.42	0.06	N-163°W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-12	073、935)→(082、929)	11.03	0.59	0.14	N-146°W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-13	088、928)→(099、923)	12.10	1.10	0.41	N-156°W	31溝→13溝掘り直し、14溝→13溝 /	近
1-14	086、915)→(097、925)	14.90	1.00	0.30	N-139°E	14溝→13-31-16溝、10溝に連続か /	近
1-15	087、914)→(099、918)	13.50	0.60	0.21	N-163°E	16溝→15溝掘り直し、10溝に連続か /	近
1-16	080、911)→(099、919)	20.80	0.75	0.55	N-158°E	16溝→15溝掘り直し /	近
1-17	090、912)→(098、925)	14.85	0.25	0.25	N-120°E	13溝→17溝 /	近
1-18	076、909)→(082、906)	6.83	0.93	0.15	N-153°W	18溝→19溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-19	076、908)→(089、901)	15.32	0.79	0.15	N-150°W	18溝→18溝→19溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-20	076、908)→(083、904)	8.50	0.67	0.20	N-154°W	19溝→20溝→21溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-21	076、907)→(089、900)	15.12	0.99	0.25	N-153°W	18溝→19溝→20溝→21溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-22	066、888)→(080、882)	15.50	0.40	0.10	N-155°W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-23	072、894)→(061、903)	12.82	0.36	0.04	N-136°E	第1面と第2面水田の中間に位置する /	古
1-24	060、916)→(054、914)	3.32	0.38	0.08	N-123°E	2溝へ連続か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-25	060、884)→(080、880)	20.56	1.30	0.06	N-168°W	36溝へ連続か / As-B層で埋没 /	古
1-26	060、883)→(080、878)	20.57	1.03	0.07	N-160°W	25溝に並行後直視、一部連続 / As-B層で埋没 /	古
1-27	087、914)→(088、901)	13.60	0.85	0.44	N-96°W	28溝へ連続 / 第1面と第2面水田の中間に位置する /	古
1-28	081、915)→(087、914)	6.10	0.95	0.23	N-176°W	27-29溝が合流 / 第1面と第2面水田の中間に位置する /	古
1-29	082、915)→(094、927)	17.30	0.95	0.45	N-130°E	28溝へ連続、1面を切る / N-130°E	古
1-30	075、905)→(079、876)	29.71	1.40	0.04	N-97°E	As-B層下面の複雑な溝(踏み分け含む)、40溝に繋がる /	古
1-31	065、880)→(072、932)	/	/	/	N-152°E	13溝と重積(先行か) /	近
1-32	041、947)→(053、945)	11.81	0.63	/	N-174°E	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-33	039、944)→(043、949)	5.50	0.69	/	N-130°E	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-34	035、943)→(039、947)	5.27	1.05	/	N-135°E	大規模な河堤(用水か)、人為的か、As-B層の二次埋積主体 /	近
1-35	029、889)→(037、936)	51.22	0.78	/	N-112°E	Ⅱ区7溝へ連続 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-36	015、992)→(039、888)	23.71	1.09	/	N-168°W	25-26溝の延長部 / As-B層で埋没 /	古
1-37	029、891)→(048、885)	28.48	0.75	/	N-163°W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
1-38	018、899)→(022、902)	5.49	0.67	/	N-152°E	37溝と連続か /	近
1-39	023、913)→(030、913)	6.64	0.70	/	N-0°E	/ 第1面水田開拓前の埋没分 /	古
1-40	056、879)→(047、929)	39.2	0.11	0.05	N-9°E	As-B層下面の限定的な溝(踏み分け含む)、30溝に繋がる /	古
Ⅱ-01	048、865)→(076、871)	28.82	1.39	0.27	N-169°E	1区と連続 / As-B層埋積時はほぼ埋没 /	古
Ⅱ-02	039、869)→(049、869)	9.67	0.21	0.03	N-179°E	2区5溝に連続か /	古
Ⅱ-03	035、876)→(039、868)	9.23	0.27	0.02	N-118°W	2溝に連続 /	古
Ⅱ-04	044、811)→(049、814)	5.99	0.65	0.15	N-151°W	43柱が切る / 東縁部東縁部を南流 /	古
Ⅱ-05	061、867)→(072、873)	12.03	0.25	0.10	N-162°E	2溝に連続に連続の可能性あり /	古
Ⅱ-07	006、870)→(018、885)	20.49	0.90	/	N-129°W	Ⅱ区35溝へ連続 / 近世水田に伴う区画・配水溝の基部	近
Ⅲ-01	009、731)→(025、716)	23.19	0.90	0.20	N-125°W	/ 東縁部西縁部を斜行 /	古
Ⅲ-02	067、746)→(013、739)	46.21	0.75	0.20	N-162°W	2溝→3溝 / 東縁部西縁部を南流 /	古
Ⅲ-03	095、739)→(015、739)	20.46	0.39	0.15	N-170°E	3溝→2溝 / 東縁部西縁部を南流 /	古
Ⅲ-04	070、756)→(015、739)	47.00	0.61	0.25	N-161°W	/ 東縁部西縁部を南流 /	古
Ⅲ-05	062、724)→(015、739)	48.43	2.00	0.42	N-165°E	Ⅲ区北端で2～4溝と合流 / 東縁部西縁部を南流 /	古
Ⅲ-06	016、737)→(021、734)	5.51	0.50	0.06	N-145°W	7溝と分岐、12溝へ連続か /	古
Ⅲ-07	016、737)→(019、738)	2.60	0.43	0.06	N-148°W	6溝と分岐 /	古
Ⅲ-08	017、738)→(022、734)	6.77	0.40	0.09	N-140°W	2～5溝へ連続か /	古
Ⅲ-09	008、696)→(019、695)	13.04	1.58	0.13	N-173°W	/ 東縁部を南流 /	古
Ⅲ-10	076、761)→(093、760)	17.04	0.51	/	N-178°W	/ 中央部でクランク状に屈曲 /	古
Ⅲ-11	029、768)→(038、755)	17.92	0.41	0.16	N-135°W	/ 西縁部を斜行 /	古
Ⅲ-12	012、738)→(014、737)	2.81	0.40	0.03	N-149°W	5溝溝の連続か /	古
Ⅳ-01	086、595)→(003、598)	16.47	0.42	/	N-172°E	/ 中央谷地部、実寄り南流 /	近
Ⅳ-02	049、642)→(004、660)	41.54	0.34	1.50	N-160°E	/ 中央谷地部西縁部を南流、断片的に出土 /	近

階号	位置	長さ	幅	深さ	走行	重複 / 備考	(末尾の近一近世、古-古代)
IV-03	(000, 590)～(005, 596)	8.25	0.68	0.09	N-128°E	/ 北東嶺部緑辺に沿って斜行	近
IV-04	(000, 605)～(013, 610)	14.69	1.43	0.10	N-160°E	/ 中央谷地部、東寄りを南流	近
IV-05	(084, 572)～(009, 584)	26.73	1.56	0.25	N-155°E	7・19溝と重複 / 北東嶺部緑辺に沿って斜行	近
IV-06	(082, 573)～(009, 588)	31.30	0.74	0.09	N-145°E	南端で7溝と重複 / 北東嶺部緑辺に沿って斜行	近
IV-07	(082, 573)～(086, 574)	3.67	0.50	0.10	N-171°E	5・7溝と重複 / 北東嶺部緑辺に沿って斜行	近
IV-08	(043, 604)～(078, 603)	34.51	1.41	0.05	N-178°W	南端で20溝と分岐 / 中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-09	(055, 607)～(055, 606)	1.73	0.98	0.04	N-152°W	8・11溝と重複	近
IV-10	(954, 612)～(062, 610)	9.14	0.57	/	N-168°W	13溝と分岐 / 中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-11	(060, 606)～(082, 618)	25.51	0.79	0.12	N-154°E	9・12溝と重複 / 谷地中央部を地形に沿って斜行	近
IV-12	(071, 612)～(080, 615)	9.82	0.71	0.15	N-157°E	11溝と重複	近
IV-13	(058, 611)～(069, 613)	12.81	0.61	/	N-153°E	10溝と重複	近
IV-14	(044, 580)～(048, 580)	4.36	0.40	0.13	N-170°E	/ 谷地東部を斜行	近
IV-15	(044, 605)～(050, 592)	8.36	0.60	0.18	N-179°E	中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-16	(044, 605)～(052, 608)	8.96	0.64	0.20	N-161°E	17・21溝、水田と重複	近
IV-17	(044, 608)～(056, 610)	11.46	0.41	0.18	N-173°E	21溝、水田と重複	近
IV-18	(071, 575)～(090, 583)	21.01	1.55	0.12	N-159°E	/ 北東嶺部緑辺に沿って斜行	近
IV-19	(094, 570)～(011, 596)	31.66	0.83	0.11	N-131°W	5溝と重複 / 北東嶺部緑辺に沿って斜行後、東へ屈曲	近
IV-20	(052, 603)～(059, 604)	6.61	0.56	/	N-174°E	8溝と分岐、水田と重複 / 中央谷地部を南流	近
IV-21	(044, 605)～(047, 605)	3.81	0.52	0.05	N-175°E	16溝、水田と重複	近
V-01	(096, 528)～(069, 533)	27.81	0.20	0.78	N-167°W	3溝と並走し南端で重複 / 中央谷地西縁部を南流	近
V-02	(088, 527)～(061, 525)	36.88	0.25	1.92	N-178°E	3・4溝と重複 / 中央谷地西縁部を南流	近
V-03	(088, 527)～(094, 555)	56.74	0.28	1.35	N-145°W	2・57溝と重複 / 中央谷地を南流後、南西部へ方向を変える	近
V-04	(065, 524)～(076, 529)	19.73	0.04	0.26	N-167°W	2溝と重複並走 / 中央谷地西縁部を南流	近
V-05	(086, 494)～(028, 488)	65.50	0.20	0.59	N-167°E	7溝と重複 / 中央谷地東縁部を南流、6～8・16溝廻り直し	近
V-06	(086, 493)～(026, 486)	67.20	0.25	0.91	N-167°E	7溝と重複、/ 中央谷地東縁部を南流、5・7・8・16溝廻り直し	近
V-07	(085, 490)～(035, 491)	57.00	0.10	1.36	N- 0°E	16溝と重複並走 / 中央谷地東縁部を南流、一部に礫の集中あり	近
V-08	(085, 490)～(052, 483)	39.90	0.20	1.03	N-170°E	中央谷地東縁部に廻り直して南流、一部に礫の集中あり	近
V-09	(078, 490)～(076, 490)	44.00	0.10	0.55	N-169°E	6溝と重複 / 中央谷地東縁部を南流	近
V-10	(083, 485)～(075, 485)	16.50	0.04	0.31	N- 0°E	谷地から微高部への移行部を南流、中央部は通行せず	近
V-11	(095, 518)～(096, 523)	5.47	0.06	0.34	N- 95°E	12溝と重複並走 / 中央谷地部を東西に横断する	近
V-12	(095, 512)～(096, 522)	11.53	0.13	0.41	N- 94°E	11溝と重複並走 / 中央谷地部を東西に横断する	近
V-13	(077, 468)～(074, 471)	4.40	0.11	0.50	N-139°W	調査区北東端で14・15溝と並走	古
V-14	(076, 468)～(073, 471)	4.39	0.15	0.50	N-135°W	調査区北東端で13・15溝と並走	古
V-15	(074, 469)～(072, 471)	2.10	0.07	0.25	N-135°W	調査区北東端で13・14溝と並走	古
V-16	(066, 486)～(061, 486)	30.70	0.10	0.21	N-175°E	7溝と重複並走 / 中央谷地部を南流	近
V-17	(089, 492)～(034, 496)	63.50	0.26	0.84	N-150°E	中央谷地の東縁を北東方向から稍曲後南流、鉄研散布地を覆乱	古
V-18	(090, 499)～(073, 499)	17.78	0.05	0.77	N- 0°E	中央谷地内を南流	古
V-19	(074, 474)～(061, 485)	17.40	0.07	0.78	N-136°W	東縁部から南西方向へ、鉄研散布地を覆乱	古
V-20	(097, 522)～(029, 512)	67.54	1.10	3.74	N-177°W	53・78溝が合流 / 中央谷地西縁部を南流、堰止遺構を伴う	古
V-21	(097, 524)～(056, 524)	28.90	0.14	1.23	N-177°E	53溝が合流 / 中央谷地西縁部を南流	古
V-22	(090, 559)～(070, 561)	20.61	0.16	0.52	N-173°W	23～22溝 / 西端の微高部緑辺、47～49溝へ続く可能性あり	近
V-23	(089, 560)～(071, 563)	16.04	0.05	0.69	N-167°W	23～22溝 / 西端の微高部緑辺、47～49溝へ続く可能性あり	近
V-24	(000, 558)～(070, 563)	30.18	0.16	0.77	N-162°W	152上坑へ連絡、23・05溝と重複、65溝と分岐	近
V-25	(000, 560)～(088, 562)	13.89	0.06	0.48	N-172°W	西端の微高部、27溝へ続くか	近
V-26	(085, 564)～(085, 566)	2.92	0.06	0.60	N- 90°W	27～26溝	近
V-27	(085, 564)～(085, 566)	2.43	0.03	0.35	N- 97°W	27～26溝、25号溝と連絡か	近
V-30	(054, 491)～(035, 493)	24.10	0.05	1.10	N-174°W	39溝と重複分岐 / 中央谷地東縁部を南流	近
V-31	(055, 493)～(039, 495)	16.59	0.04	0.22	N-174°W	39溝と重複 / 中央谷地東縁部を南流	近
V-35	(083, 475)～(026, 479)	27.46	0.05	0.91	N-170°W	東端嶺部緑辺を南流	古
V-37	(082, 570)～(048, 544)	30.05	0.20	0.49	N-120°E	西嶺部を東西に面する、重複多数	近
V-38	(066, 569)～(052, 562)	15.62	0.13	0.42	N-154°E	37溝と重複 / 西嶺高部緑辺に位置	近
V-39	(056, 491)～(040, 495)	17.10	0.10	0.52	N-163°W	30・31溝と重複 / 中央谷地東縁部を南流	近
V-40	(058, 535)～(048, 536)	10.86	0.05	0.36	N-176°W	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-41	(056, 534)～(048, 535)	9.12	0.03	0.31	N-174°W	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-42	(057, 536)～(049, 539)	10.87	0.05	0.41	N- 96°E	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-43	(055, 536)～(052, 547)	13.34	0.02	0.53	N-110°E	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-44	(054, 537)～(052, 543)	9.40	0.02	0.41	N-109°E	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-45	(054, 526)～(051, 543)	20.52	0.30	0.86	N-116°E	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-46	(048, 539)～(046, 534)	5.68	0.05	0.78	N-108°E	西嶺高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-47	(063, 561)～(051, 551)	15.68	0.04	0.67	N-141°E	西嶺高部を東西方向に面する溝	近
V-48	(063, 560)～(052, 559)	12.51	0.01	0.48	N-171°E	49溝と重複 / 西嶺高部緑辺を南流	近

調査No	位置	長さ	幅	高さ	走行	重複/備考	(末尾の①=近頃、古=古代)
V-49	(963,561)~(960,559)	13.09	0.01	0.47	N-171°E	48溝と重複/西側高部縁辺を南流	近
V-50	(962,560)~(957,562)	6.80	0.06	0.48	N-142°E	37溝と重複	近
V-53	(957,523)~(949,533)	12.72	0.10	0.56	N-128°W	21溝と重複,20溝に連結か	古
V-57	(999,534)~(962,534)	37.00	0.26	1.62	N-0°E	西側高部を南北に貫く、覆土層は現代の埋積物	近
V-58	(970,475)~(956,487)	9.28	0.13	0.28	N-141°W	東側高部から中央谷地へ、一部鉄滓散布を覆い	古
V-59	(966,529)~(945,523)	22.50	0.05	0.33	N-165°W	西側高部東縁を南流	近
V-65	(978,566)~(970,564)	8.70	0.12	0.55	N-166°W	24溝と重複,152土塊へ、47~49溝へ続くか	近
V-66	(974,568)~(960,562)	15.11	0.28	1.66	N-157°E	西側高部西縁26~65溝と重走	近
V-67	(979,565)~(977,565)	2.16	不明	0.33	N-167°W	24溝始曲部で重走する一部確認,掘り直しか	近
V-69	(976,527)~(970,525)	6.96	0.10	1.02	N-173°E	2溝から分岐する溝か	近
V-73	(964,569)~(963,562)	2.04	不明	0.62	N-98°E	47~66溝と重複	近
V-75	(951,550)~(947,539)	12.47	0.16	0.57	N-116°E	3-37・47溝と重複/西側高部を東西に隔する、中央部で屈曲	近
V-76	(960,528)~(959,560)	31.90	0.10	0.82	N-92°E	3-47~49溝と重複/西側高部を東西に横断	近
V-77	(948,532)~(942,530)	6.49	0.10	0.50	N-155°E	西側高部西東部を南流	近
V-78	(951,520)~(929,516)	22.71	0.22	0.49	N-170°E	20溝から分岐か/中央谷地西縁を南流	古

表11 下田遺跡土坑一覽表

()は推定値

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期	区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ						長さ	幅	深さ	
I	001	065,903	円形	50	-	21	縄文	I	126	067,877	長円形	80	58	14	縄文
I	002	065,902	長円形	75	55	19	縄文	I	127	066,878	円形	72	-	14	縄文
I	003	063,893	長円形	85	37	27	縄文	I	128	062,883	長円形	116	86	13	縄文
I	004	066,896	円形	40	-	45	縄文	I	129	068,882	円形	115	-	66	縄文
I	005	064,897	長円形	84	37	22	縄文	I	130	065,882	円形	116	-	80	縄文
I	006	065,896	長円形	80	70	24	縄文	I	131	066,883	長円形	135	126	84	縄文
I	007	066,895	長円形	79	60	36	縄文	2	001	049,873	円形	68	-	15	縄文
I	008	061,895	長円形	105	55	32	縄文	II	325	056,862	長円形	63	57	27	縄文
I	009	061,894	長円形	58	不明	21	縄文	II	326	056,866	円形	45	-	15	縄文
I	010	063,895	不整形円形	430	80	29	縄文	II	327	058,866	長円形	65	47	14	縄文
I	011	064,899	長円形	205	182	29	縄文	II	328	058,863	不整形円形	52	(41)	43	縄文
I	012	046,899	円形	49	-	10	縄文	II	329	058,864	長円形	56	46	12	縄文
I	013	046,892	長円形	52	26	26	縄文	II	330	058,864	長円形	52	36	14	縄文
I	036	054,885	円形	80	72	28	縄文	II	331	055,866	円形	60	-	19	縄文
I	037	051,884	円形	58	54	15	縄文	II	332	055,860	円形	49	-	28	縄文
I	038	051,882	長円形	60	47	17	縄文	II	333	059,865	不整形円形	140	65	36	縄文
I	039	050,883	円形	75	70	17	縄文	II	334	056,865	円形	70	-	14	縄文
I	040	050,881	長円形	81	72	15	縄文	II	335	055,869	円形	65	(35)	35	縄文
I	041	050,881	円形	50	48	16	縄文	II	336	055,869	円形	(45)	58	29	縄文
I	042	050,882	長円形	(77)	59	21	縄文	II	337	057,857	円形	60	-	22	縄文
I	043	049,882	長円形	67	58	20	縄文	II	338	057,856	不明	50	76	32	縄文
I	044	049,880	円形	124	116	16	縄文	II	340	055,867	長円形	126	90	47	縄文
I	045	049,880	長円形心	(99)	(66)	34	縄文	II	341	055,856	円形	73	-	25	縄文
I	046	048,880	円形	97	-	21	縄文	II	342	056,857	長円形	(76)	(65)	20	縄文
I	047	049,882	円形	42	40	15	縄文	II	343	055,857	長円形	154	146	23	縄文
I	048	048,881	円形	70	68	23	縄文	II	344	057,860	円形	130	-	19	縄文
I	049	048,881	長円形	78	64	20	縄文	II	345	058,863	不整形円形	54	(32)	37	縄文
I	050	047,880	長円形	87	(55)	16	縄文	II	346	054,856	円形	76	-	25	縄文
I	051	047,880	長円形	82	71	22	縄文	II	347	053,857	円形	50	-	25	縄文
I	052	047,882	円形	50	-	16	縄文	II	348	054,857	円形	54	-	22	縄文
I	053	046,882	長円形	80	62	20	縄文	II	349	054,858	円形	90	-	30	縄文
I	054	046,882	長円形	98	89	24	縄文	II	350	052,854	円形	60	-	37	縄文
I	055	045,882	長円形	(69)	60	24	縄文	II	351	056,854	長円形	(50)	75	25	縄文
I	056	043,883	長円形	132	95	27	縄文	II	352	055,850	長円形	100	90	20	縄文
I	057	043,886	長円形	172	148	42	縄文	II	353	053,849	長円形	88	68	36	縄文
I	095	047,882	長円形	150	133	12	縄文	II	354	048,845	円形	70	-	39	縄文
I	130	063,879	円形	45	-	14	縄文	II	355	058,875	円形	152	不明	21	縄文
I	121	061,879	長円形	50	40	24	縄文	II	375	057,860	円形	80	-	12	縄文
I	122	071,878	長円形	121	100	38	縄文	II	376	058,865	長円形	100	90	28	縄文
I	123	070,883	長円形	150	133	95	縄文	II	377	058,864	円形	50	45	27	縄文
I	124	066,875	長円形	45	35	8	縄文	II	378	057,863	長円形	33	26	13	縄文
I	125	068,876	円形	61	-	26	縄文	II	379	057,862	長円形	68	59	20	縄文
								II	380	057,861	円形	36	-	16	縄文

(() は測定値)

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期	区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ						長さ	幅	深さ	
Ⅱ	381	058,861	長門形	50	41	27	竊文	2	773	065,849	円形	48	-	20	竊文
Ⅱ	382	056,860	長門形	170	130	33	竊文	2	774	065,851	円形	33	-	12	竊文
Ⅱ	383	055,868	長門形	108	80	18	竊文	2	775	064,847	長門形	114	100	35	竊文
Ⅱ	384	055,868	円形	49	43	14	竊文	2	777	061,847	長門形	65	51	68	竊文
Ⅱ	391	058,866	円形	52	40	16	竊文	2	778	058,857	不整形円形	79	74	41	竊文
Ⅱ	392	055,859	長門形	(90)	67	23	竊文	2	780	058,857	長門形	44	36	22	竊文
Ⅱ	393	055,859	長門形	100	63	21	竊文	2	781	059,856	長門形	44	34	15	竊文
Ⅱ	394	056,857	円形	45	-	19	竊文	2	782	058,855	円形	36	-	14	竊文
Ⅱ	395	057,858	長門形	30	25	20	竊文	2	784	057,855	不明	233	不明	35	竊文
Ⅱ	398	058,859	長門形	83	75	25	竊文	2	785	060,855	長門形	103	75	15	竊文
Ⅱ	399	041,815	長門形	58	47	32	竊文	2	786	059,855	長門形	55	49	15	竊文
Ⅱ	406	042,819	円形	105	-	46	竊文	2	787	059,855	円形	60	-	17	竊文
Ⅱ	436	049,835	長門形	59	53	14	竊文	2	788	059,850	長門形	(148)	140	20	竊文
Ⅱ	437	051,842	長門形	94	80	11	竊文	2	789	060,849	長門形	48	42	12	竊文
Ⅱ	438	052,846	長門形	131	102	19	竊文	2	790	059,858	円形	60	不明	14	竊文
Ⅱ	439	052,845	長門形	31	21	19	竊文	2	791	063,855	円形	47	43	16	竊文
Ⅱ	442	048,849	不整形円形	72	60	46	竊文	2	792	062,854	円形	28	-	10	竊文
Ⅱ	443	048,849	不整形円形	(51)	64	21	竊文	2	793	062,855	円形	41	39	16	竊文
Ⅱ	444	050,848	長門形	96	89	25	竊文	2	794	062,856	長門形	62	48	23	竊文
Ⅱ	445	050,847	長門形	(107)	109	28	竊文	2	795	068,857	円形	109	不明	31	竊文
Ⅱ	446	050,846	長門形	130	不明	21	竊文	2	796	065,858	円形	115	-	37	竊文
Ⅱ	447	050,846	長門形	(54)	55	16	竊文	2	797	059,848	長門形	124	104	35	竊文
Ⅱ	448	050,845	長門形	47	52	18	竊文	2	798	066,848	長門形	66	58	29	竊文
Ⅱ	449	049,848	円形	22	20	25	竊文	2	799	068,852	円形	25	-	19	竊文
Ⅱ	450	051,847	長門形	59	43	25	竊文	2	800	064,854	長門形	51	35	21	竊文
Ⅱ	460	049,851	不明	不明	90	18	竊文	2	801	062,856	長門形	39	35	16	竊文
Ⅱ	461	049,851	円形	124	不明	28	竊文	2	802	060,855	円形	41	-	19	竊文
Ⅱ	462	050,851	長門形	(98)	132	26	竊文	2	803	062,832	長門形	107	不明	32	竊文
Ⅱ	463	051,851	長門形	135	117	32	竊文	2	804	051,824	円形	77	-	46	竊文
Ⅱ	464	052,851	長門形	108	85	16	竊文	2	805	059,859	長門形	33	27	14	竊文
Ⅱ	465	048,852	円形	117	(96)	14	竊文	2	806	059,859	長門形	52	46	12	竊文
Ⅱ	469	051,850	長門形	130	102	18	竊文	2	807	060,858	長門形	56	40	10	竊文
Ⅱ	477	049,854	長門形	(205)	160	30	竊文	2	808	058,858	円形	29	不明	26	竊文
Ⅱ	478	050,853	長門形	不明	165	32	竊文	2	809	061,858	長門形	32	28	14	竊文
Ⅱ	479	051,853	長門形	140	(95)	34	竊文	2	810	063,858	円形	35	-	13	竊文
Ⅱ	494	053,878	不明	(22)	(7)	33	竊文	2	811	064,858	円形	53	-	20	竊文
Ⅱ	495	055,877	不明	(130)	(30)	26	竊文	2	812	067,861	円形	54	-	18	竊文
Ⅱ	536	051,880	長門形	43	35	43	竊文	2	813	068,860	円形	47	-	14	竊文
2	750	054,847	円形	175	-	70	竊文	2	814	068,863	円形	70	-	12	竊文
2	752	063,851	円形	62	55	12	竊文	2	815	058,840	長門形	(38)	55	20	竊文
2	753	066,850	長門形	74	48	14	竊文	2	816	042,812	長門形	108	98	25	竊文
2	754	063,854	不整形円形	73	66	96	竊文	2	818	052,826	円形	44	-	40	竊文
2	755	058,856	円形	83	67	19	竊文	2	819	059,833	長門形	82	70	17	竊文
2	756	059,855	円形	124	103	17	竊文	2	820	062,832	長門形	31	不明	22	竊文
2	757	060,854	円形	56	46	13	竊文	2	821	067,859	長門形	65	50	22	竊文
2	758	059,854	円形	40	34	12	竊文	2	822	065,867	長門形	76	-	25	竊文
2	759	060,853	長門形	90	35	19	竊文	2	823	054,834	長門形	51	43	20	竊文
2	760	062,856	不整形円形	52	40	30	竊文	2	824	053,836	長門形	55	50	12	竊文
2	761	065,854	不整形円形	312	220	25	竊文	2	825	066,868	長門形	70	65	26	竊文
2	762	066,855	円形	63	-	15	竊文	2	826	064,660	長門形	71	56	17	竊文
2	763	066,853	円形	63	(55)	52	竊文	2	828	065,859	長門形	42	38	13	竊文
2	764	066,854	円形	35	30	10	竊文	2	829	065,867	長門形	53	-	19	竊文
2	765	064,851	円形	37	35	18	竊文	2	830	065,866	長門形	80	71	31	竊文
2	767	066,853	不整形円形	120	-	25	竊文	2	831	064,871	円形	37	-	13	竊文
2	768	064,851	円形	87	85	25	竊文	2	832	062,860	円形	47	-	29	竊文
2	769	068,850	不整形円形	85	55	30	竊文	2	833	063,859	円形	34	-	13	竊文
2	770	068,855	円形	122	-	35	竊文	2	834	065,858	長門形	52	47	31	竊文
2	771	063,856	長門形	100	75	24	竊文	2	835	066,867	長門形	65	-	15	竊文
2	772	063,857	円形	55	-	29	竊文	2	836	065,867	不明	51	-	14	竊文

(())以測定値

区	No	位置	形状	規 模 (cm)				時期	区	No	位置	形状	規 模 (cm)				時期
				長	徑	厚	深 度						長	徑	厚	深 度	
5	093	987,535	円形	29	-	38	縄文	V	156	961,486	不明	(42)	不明	19	縄文		
5	094	987,543	長円形	37	28	17	縄文	V	157	958,488	円形?	71	-	29	縄文		
5	095	986,545	長円形	47	34	40	縄文	V	158	965,484	長円形	47	40	9	縄文		
5	096	985,541	不整形円形	48	41	54	縄文	V	159	969,485	長円形	64	不明	9	縄文		
5	097	983,545	長円形	47	25	20	縄文	V	160	960,490	不明	(55)	不明	18	縄文		
5	098	990,558	長円形	95	(56)	47	縄文	V	161	964,486	長円形	13	不明	9	縄文		
5	099	981,554	不整形円形	64	44	55	縄文	V	162	967,491	不整形円形	43	-	21	縄文		
5	100	980,552	円形	(109)	108	37	縄文	V	163	970,554	長円形	(97)	70	23	縄文		
5	101	980,555	長円形	148	84	21	縄文	V	164	969,564	長円形	(87)	77	19	縄文		
5	102	982,554	不整形円形	30	(18)	26	縄文	V	165	975,564	円形	103	97	44	縄文		
5	103	982,554	長円形	29	19	18	縄文	V	166	976,559	長円形	62	50	18	縄文		
5	104	982,554	不整形円形	36	-	17	縄文	V	167	979,555	長円形	50	45	20	縄文		
5	105	982,556	不明	(40)	(17)	19	縄文	V	168	979,553	不整形円形	55	42	69	縄文		
5	106	982,553	円形	34	31	13	縄文	V	169	980,559	円形	52	不明	13	縄文		
5	107	980,557	不整形円形	70	37	35	縄文	V	170	976,556	円形	37	-	18	縄文		
5	108	982,560	長円形	69	33	22	縄文	V	171	977,555	円形	41	-	17	縄文		
5	109	984,560	不整形円形	38	33	15	縄文	V	172	977,555	長円形	70	62	24	縄文		
5	110	985,554	長円形	37	25	16	縄文	V	173	977,553	長円形	52	46	19	縄文		
5	111	983,551	円形	36	32	16	縄文	V	175	975,554	円形	40	-	13	縄文		
5	112	982,550	不明	不明	26	不明	縄文	V	176	978,553	長円形	28	25	22	縄文		
5	113	981,551	長円形	43	36	59	縄文	V	177	971,555	円形	42	40	18	縄文		
5	114	981,553	長円形	43	31	25	縄文	V	178	970,554	長円形	67	47	25	縄文		
5	115	980,554	円形	26	-	20	縄文	V	179	970,552	長円形	(31)	32	29	縄文		
5	116	980,553	長円形	35	29	20	縄文	V	180	975,545	円形	35	-	14	古代		
5	117	979,553	不明	46	(15)	39	縄文	V	181	978,548	長円形	38	29	14	縄文		
5	118	979,553	円形	24	-	24	縄文	V	182	967,549	長円形	38	30	16	縄文		
5	119	980,556	不整形円形	83	(50)	61	縄文	V	183	971,541	円形	32	30	11	縄文		
5	120	979,551	円形	40	34	57	縄文	V	184	971,539	不整形円形	30	18	10	縄文		
5	121	990,556	長円形	30	21	13	縄文	V	185	969,550	長円形	63	50	27	縄文		
5	122	961,556	長円形	38	27	15	縄文	V	186	967,551	長円形	49	40	29	縄文		
5	123	990,559	円形	41	-	19	縄文	V	187	964,549	長円形	39	31	30	縄文		
5	124	964,556	長円形	33	22	10	縄文	V	188	965,547	円形	30	28	17	縄文		
V	126	938,523	長円形	50	40	12	縄文	V	189	965,546	円形	42	-	20	縄文		
V	127	938,524	長円形	39	28	20	縄文	V	190	974,537	長円形	30	25	36	縄文		
V	128	933,521	円形	40	38	23	縄文	V	191	970,533	円形	32	27	10	縄文		
V	129	950,537	長円形	44	33	18	縄文	V	192	975,526	長円形	28	24	14	縄文		
V	130	943,543	長円形	77	63	20	縄文	V	193	968,537	円形?	52	47	19	縄文		
V	131	943,539	隅丸方形	41	39	15	縄文	V	194	963,532	円形	50	47	19	縄文		
V	132	950,545	長円形	46	28	69	縄文	V	195	974,564	円形	47	39	30	縄文		
V	133	949,546	長円形	64	52	26	縄文	V	197	972,560	長円形	102	89	22	縄文		
V	134	945,548	円形	37	-	13	縄文	V	198	972,567	長円形	82	75	43	縄文		
V	135	943,550	長円形	47	32	24	縄文	V	199	957,473	円形	31	-	19	縄文		
V	136	939,553	長円形	53	32	37	縄文	V	200	965,478	長円形	88	56	39	縄文		
V	137	940,555	長円形	51	39	42	縄文	V	201	968,471	長円形	40	32	18	縄文		
V	139	960,548	長円形	62	49	12	縄文	V	202	970,552	長円形	52	47	31	縄文		
V	140	960,549	長円形	100	88	20	縄文	V	203	969,564	長円形	34	30	8	縄文		
V	141	958,549	長円形	71	57	16	縄文	V	204	972,554	長円形	33	27	29	縄文		
V	142	967,556	長円形	47	30	19	縄文	V	205	973,564	長円形	28	24	32	縄文		
V	143	960,558	長円形	46	40	11	縄文	V	206	973,556	長円形	33	25	22	縄文		
V	144	969,559	円形	27	25	25	縄文	V	207	972,556	円形	31	28	24	縄文		
V	145	956,558	長円形	63	51	22	縄文	V	208	969,556	円形	33	30	19	縄文		
V	146	967,558	円形	75	72	34	縄文	V	209	975,564	円形	27	25	42	縄文		
V	147	958,548	円形	52	48	34	縄文	V	211	973,568	長円形	32	23	34	縄文		
V	148	950,551	長円形	46	33	19	縄文	V	212	969,541	円形	61	58	40	縄文		
V	149	950,563	長円形	168	107	72	縄文	V	214	974,562	長円形	30	24	52	縄文		
V	150	951,549	円形	46	不明	25	縄文	V	215	973,564	不整形円形	25	21	32	縄文		
V	151	975,535	長円形	172	102	29	縄文	V	217	974,563	長円形	30	24	40	縄文		
V	152	977,561	不整形円形	(650)	247	98	近世	V	220	938,523	長円形	51	38	15	縄文		
V	153	970,534	不整形円形	178	130	42	縄文	V	221	938,524	長円形	40	28	15	縄文		
V	154	956,486	長円形	85	75	49	縄文	V	222	933,521	円形	40	37	23	縄文		
V	155	961,489	不明	55	不明	18	縄文										

表 12 下田遺跡遺物観察表 縄文土器

(口=口縁部、胴=胴部、底=底部、踵=角=踵石・角四石、白粒=白粒色)

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-10住	1	深鉢	口~胴	灰褐色	踵・角、小石	口縁部隆帯文、区画内縄文、頸部無文、胴部縄文、波状隆起縁文。(口41.4)	E I
1-10住	2	-	口	暗赤褐色	踵・角、小石	隆帯・沈線による区画。一部瘤状に隆起。区画内刷突、縄文。(口22.2)	E I
1-10住	3	-	口	灰黄褐色	白粒、踵・角、小石	沈線で斜めを入れた横状突起。	E I
1-10住	4	深鉢	上半	鈍橙	白粒、踵・角、小石	口縁部隆帯区画、沈線文、区画内縄文、頸部無文、胴部縄文、沈線文。	E I
1-10住	5	-	口	鈍橙~暗灰	褐色色粒、踵・角、小石	隆帯・沈線による文様、区画、渦巻文、区画内沈線。	E I
1-10住	6	-	口~胴	鈍橙	踵・角、小石	口縁部隆帯・沈線区画、区画内縄文、頸部無文、	E I
1-10住	7	-	口	鈍赤褐色・黒褐色	白粒、金雲母、踵・角	隆帯で区画、区画、区画内縄文。	E I
1-10住	8	-	口	暗灰黄・灰黄	白粒、踵・角、小石	沈線槽門区画、区画内沈線、沈線渦巻文部突出。	E I
1-10住	9	-	胴	暗灰	白粒、踵・角、小石	上から平行隆帯、沈線波状文、縄文。	E I
1-10住	10	-	胴	鈍橙	白粒、踵・角、小石	垂下隆帯2条、蛇行隆帯1条、充填縄文。	E I
1-10住	11	-	胴	浅黄褐色	白粒、踵・角、小石	縄文、垂下沈線1条、蛇行沈線1条。内面黒色。	E I
1-10住	12	-	胴	灰黄褐色	踵・角	波片上部無文。縄文、蛇行沈線。	Ⅱ2
1-10住	13	-	胴	淡橙	白粒、踵・角	縄文、2条一組沈線刷文。	E I
1-10住	14	-	胴	浅黄褐色	白粒、踵・角	縄文、垂下沈線。	E I 古
1-10住	15	-	胴	灰黄褐色	白粒、踵・角	R L縄文、最上位は横状沈線、その下に平行する弧状沈線文。	E I
1-10住	16	-	胴	灰黄褐色	白粒、踵・角	R L縦位縄文。	E I
1-10住	17	-	胴	暗褐色	白粒、金雲母、踵・角	平行隆帯文、沈線。	E I
1-10住	18	-	胴	浅黄褐色	白粒、踵・角	3単位の縦位条線波状文を密に施す。内面赤褐色。19と同一個体か。	E I
1-10住	19	-	底	浅黄褐色	白粒、踵・角、小石	18と同一個体と思われる。最下部外面も一部赤褐色。	E I
1-10住	20	-	底	橙	白粒、踵・角	平底、平行沈線。	E I
1-10住	21	-	底	鈍橙	白粒、踵・角	平底、無文。	E I
1-10住	22	-	口	浅黄褐色	白粒、踵・角、小石	無文、口唇部肥厚、縁有り。	E I
1-10住	23	-	口	赤褐色	白粒、金雲母、踵・角	無文、内面赤褐色。内外面とも強い磨痕。	E I
1-10住	24	-	口	鈍赤褐色	金雲母	波状口縁、隆帯文区画。区画内は篋状工具での刷突文、区画外に縄文。	阿玉IV
1-10住	25	-	口	鈍橙	踵・角、小石	波状口縁頂部沈線文、刷突文、以下横位沈線、隆帯。	称
1-10住	26	-	胴	浅黄褐色	白粒、小石	横位平行隆帯より上は無文、下は縄文、隆帯2条。	E I
1-10住	27	-	下半	淡橙	白粒、小石	磨赤文、隆帯文、平底、刷代紐。(底11.0)	E I
1-10住	28	-	胴部	鈍赤褐色	白粒、踵・角、小石	鋸台脚部。波片左上部に径1.5cm程の穿孔孔。	E I
Ⅱ-8住	1	深鉢	口~胴	灰~橙	踵・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文、区画内縄文、胴部沈線「n」字状文、区画内縄文。(口42.0)	E II
Ⅱ-8住	2	深鉢	胴	橙	白粒、踵・角、小石	横位・縦位平行沈線、L R磨消縄文。	E II
Ⅱ-8住	3	深鉢	口~胴	灰~橙	踵・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文、胴部平行沈線。垂下、縄文部と無文部の交互構成。(口34.3)	E II
Ⅱ-8住	4	深鉢	底欠	浅黄褐色	白粒、踵・角	4単位突起。口縁部隆帯区画、渦巻文、口縁部区画内および胴部条線文。(口22.2)	E II
Ⅱ-8住	5	深鉢	上半	淡橙	踵・角、小石	沈線文、間に円形刷突。充填条線。(口30.4)	E II
Ⅱ-8住	6	深鉢	口~胴	淡橙	踵・角	口縁部、括れ部縦位沈線、胴部沈線文、全体に充填縄文。(口23.8)	E II
Ⅱ-8住	7	深鉢	口	淡橙	踵・角、小石	口縁部沈線波状文、胴部横位沈線。(口17.6)	E II
Ⅱ-8住	8	深鉢	胴	橙	白粒、踵・角	平行沈線、縄文。	E II
Ⅱ-8住	9	-	口	橙	踵・角、小石	口縁部隆帯、沈線で区画、区画内沈線、胴部縄文。	E II
Ⅱ-8住	10	-	口	鈍黄褐色	白粒、踵・角	隆帯・沈線で区画、渦巻文、区画内縄文。	E II
Ⅱ-8住	11	-	口	黒褐色	踵・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
Ⅱ-8住	12	-	口	灰黄褐色	白粒、踵・角	波状口縁、隆帯区画、渦巻文、区画内縄文、口唇部上面に沈線。	E II
Ⅱ-8住	13	-	口	橙	踵・角、金雲母(少)	波状口縁、隆帯区画、渦巻文、区画内縄文。	E II
Ⅱ-8住	14	-	口	橙	踵・角、小石	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
Ⅱ-8住	15	-	口	浅黄褐色	白粒、小石	太沈線、R L磨消縄文。	E II
Ⅱ-8住	16	-	口	淡黄	白粒、踵・角	隆帯、沈線で区画、区画内縄文。	E II
Ⅱ-8住	17	-	口	鈍赤褐色	白粒、踵・角	口縁部2段円形刷突列、胴部沈線文、充填縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法層等	時期
Ⅱ-8住	18	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	波状口縁、口唇部凹形割突列。胴部平行沈線、充填縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	19	-	口	灰黄	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	20	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	波状口縁、隆帯文、縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	21	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	22	-	口	鈍橙	輝・角	縄文、沈線。最上位沈線間は、交互割突列。	EⅡ
Ⅱ-8住	23	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部にちみ状の割突。R.L横位縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	24	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	縄文、横位沈線。	EⅡ
Ⅱ-8住	25	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部肥厚。横位隆帯、沈線。隆帯上と胴部にR.L充填縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	26	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	2単位の細沈線の集合で、流水文を描く。	EⅡ
Ⅱ-8住	27	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	28	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文地文。隆線輪行。	EⅡ
Ⅱ-8住	29	-	胴	淡橙	白粒、小石	平行隆線垂下、縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	30	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	破片上部は隆帯区画文の痕跡。沈線、複層充填縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	31	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線「H」字状文か。R.L重点縦文。内面は明褐色。	EⅡ
Ⅱ-8住	32	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線が垂下。	EⅡ
Ⅱ-8住	33	-	胴	橙	白粒、輝・角	平行沈線垂下、縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	34	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。内面平滑。	堀1
Ⅱ-8住	35	-	胴	暗赤褐	輝・角、小石	平行沈線区画文、縄文。	堀1?
Ⅱ-8住	36	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、沈線多数。(底6.2)	EⅡ
Ⅱ-8住	37	-	底	灰黄	輝・角	平底、平行沈線が垂下。充填縄文。(底6.8)	EⅡ
Ⅱ-8住	38	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、縄文。(底8.6)	EⅡ
Ⅱ-8住	39	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、無文。	EⅡ
Ⅱ-8住	40	-	口	鈍い褐	白粒、小石	無文。	EⅡ
Ⅱ-8住	41	-	口	暗灰褐		無文。16と同一個体と思われる。	EⅡ
Ⅱ-8住	42	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	無文。口唇部内側に強く突出。内外面、上面研磨。	EⅡ
Ⅱ-8住	43	-	口	淡い橙	白色粒、小石	口唇部に割突、沈線。	EⅡ
Ⅱ-8住	44	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	無文。19と同一個体と思われる。	EⅡ
Ⅱ-8住	45	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。口唇部肥厚。	EⅡ
Ⅱ-8住	46	-	口	灰褐	白粒、輝・角	口唇部や内側に突出。外側傾け有り。縄文。	EⅡ
Ⅱ-8住	47	-	胴部?	浅黄橙	白粒、輝・角	ほぼ垂直に立ち上がり、上部やや開く。付け根に隆帯、正面と両側面に沈線。器形不明。	EⅡ
2-11住	1	-	口	赤褐	輝・角	平底、隆帯。懸状突起。(口24.0)	EⅠ
2-11住	2	-	口	鈍橙	輝・角	隆大・沈線区画。区画内縄文。	EⅠ
2-11住	3	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による口縁部区画、渦巻文。胴部縄文。	EⅠ
2-11住	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	器系文。内面黒色。煤付着。	EⅠ
2-11住	5	-	胴	鈍橙	白粒、石灰、小石	器系文。内面煤付着。	EⅠ
2-11住	6	-	口	赤褐	白粒、輝・角	緩やかな波状口縁。口唇部上面に沈線。外面無文。	EⅠ
2-11住	7	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部内湾。傾け有り。無文。	堀2
2-11住	8	-	胴	灰褐	輝・角	沈線文、割突文。	称?
2-11住	9	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部や内側に突出。沈線。	称
2-11住	10	-	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口唇部内外面に沈線。胴部沈線文、充填縄文。(口14.2)	堀2
2-11住	11	-	口~胴	橙	輝・角、小石	沈線幾何学文。縄文部と無文部の交互構成。	堀2
2-11住	12	-	胴	浅黄橙	石灰、輝・角、小石	沈線幾何学文。縄文部と無文部の交互構成。	堀2
2-11住	13	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。底面に割代痕あり。(底10.8)	堀2
2-11住	14	-	口	灰黄	輝・角	口唇部内側に沈線。外面一部縄文。	EⅠ
2-11住	15	-	口	黒褐	輝・角	沈線文。	堀2
2-11住	16	-	口	黒褐	輝・角	口唇部内側に突出。縄文。	堀2
2-11住	17	-	胴	灰黄	輝・角	縄文、沈線文。	前期
Ⅱ-13住	1	深鉢	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	胴部平行隆帯波状文、隆帯間無文。充填縄文。(口37.0)	称
Ⅱ-13住	2	深鉢	下半	淡橙	輝・角、小石	平底、縄文。(底8.0)	E?
Ⅱ-13住	3	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文、充填縄文。	称
Ⅱ-13住	4	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文。	称
Ⅱ-13住	5	-	胴	浅黄橙	輝・角	微隆起線文。一部縄文。煤付着。	称
Ⅱ-13住	6	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	称
Ⅱ-13住	7	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅱ-13住	8	-	胴	鈍黄緑	輝・角、小石	条線地文、隆帯文。	称
Ⅱ-13住	9	-	底	淡橙	輝・角	平底、沈線、縄文。	称
Ⅱ-13住	10	-	胴	灰黄	輝・角	沈線縹色文、充墳縄文。	称
Ⅱ-13住	11	-	底	淡い橙	小石	平底、無文。	称
Ⅱ-13住	12	-	底	淡橙	白粒、石灰、小石	平底、無文。	称
Ⅱ-13住	13	-	底	橙	小石	平底、無文。端部突出。	称
Ⅱ-13住	14	-	胴	暗灰	輝・角、小石	小門形胎付文、沈線文。	称
Ⅱ-13住	15	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯直下。沈線文、充墳縄文。	称
Ⅱ-13住	16	-	突起	鈍橙	輝・角	側面に貫通孔。上面、側面に刺突・沈線、煤付着。	称
Ⅱ-13住	17	注口	注口部	灰白	白粒、輝・角	無文。先開り。	称
Ⅱ-14住	1	深鉢	底欠	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。筒状突起有り。括れ部に隆帯。頸部、胴部R.L.縄文。(口19.6)	EⅡ
Ⅱ-14住	2	-	胴	黒褐	輝・角、小石	隆帯連弧状文。	EⅡ
Ⅱ-14住	3	-	胴	黒褐	輝・角、小石	捺点文。	EⅡ
Ⅱ-14住	4	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	細かな縄文。	EⅡ
Ⅱ-14住	5	-	胴	鈍橙	石灰、小石	沈線文。	EⅡ
Ⅱ-14住	6	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	類2
Ⅱ-14住	7	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	斜位条線文。	称
2-34住	1	-	口~胴	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、渦巻文。区画内縄文。突起部欠損。胴部無文。	EⅠ新
2-34住	2	深鉢	底欠	淡橙	輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線。頸部無文。胴部縄文地文、沈線文。(口22.2)	EⅠ
2-34住	3	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	隆帯文、磨消縄文。	EⅠ
2-34住	4	-	口~胴	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部頸位沈線2条。胴部頸位沈線3条。充墳縄文。	EⅠ新
2-34住	5	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画、文線。LR充墳縄文。	EⅠ新
2-34住	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画、文線。R.L.充墳縄文。	EⅠ新
2-34住	7	-	口	鈍橙	輝・角	隆帯・沈線による区画、刺突文。区画内磨消縄文。	EⅠ新
2-34住	8	-	口	黒褐	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯・沈線による区画、文線。区画内縄文。	EⅠ新
2-34住	9	-	口	浅黄緑	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、瘤状突起。区画内沈線。	EⅠ新
2-34住	10	-	胴	黒褐	白色・赤褐色粒。黒雲母	隆帯・沈線による区画、文線。区画内縄文。	EⅠ新
2-34住	11	-	口	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、突起部に渦巻文。区画内縄文。	EⅠ新
2-34住	12	-	突起	鈍黄緑	白粒、輝・角、小石	沈線を離す筒状把手。区画内縄文。把手上部に突起部の基部。	EⅠ新
2-34住	13	-	口	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、文線。区画内縄文。	EⅠ新
2-34住	14	-	口	灰黄	輝・角	隆帯区画文線、R.L.縄文。	EⅠ新
2-34住	15	-	突起	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯区画、縄文。	EⅠ新
2-34住	16	-	口	浅黄緑	輝・角	沈線文、充墳縄文。	EⅠ新
2-34住	17	-	胴	鈍黄緑	白粒、輝・角	縄文。原体押圧による小波状文、隆帯大波状文。18と同一個体と思われる。	EⅠ新
2-34住	18	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文。原体押圧による小波状文、隆帯大波状文。17と同一個体と思われる。	EⅠ新
2-34住	19	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底。沈線文、充墳縄文。(底8.8)	EⅠ新
2-34住	20	-	底	赤褐色	赤褐色、輝・角、小石	平底。沈線文、磨消縄文。	EⅠ新
2-34住	21	-	底	赤褐	白粒、小石	平底、無文。(底9.6)	EⅠ新
2-34住	22	-	底	浅黄緑	白粒、輝・角	平底、縄文。(底6.6)	EⅠ新
2-35住	1	-	口~胴	浅黄緑	白粒、輝・角、小石	口唇部頸位隆帯、胴部縄文。	称
2-35住	2	-	口~胴	暗灰	白粒、輝・角	口唇部内凹。波頂部に沈線渦巻文。胴部は刺突文を挟む沈線文。(口22.0)	称
2-35住	3	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯。	称
2-35住	4	-	口	鈍黄緑	輝・角	口唇部尖る。沈線区画内刺突列。(口22.7)	称
2-35住	5	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	沈線文。区画内刺突列。	称
2-35住	6	-	胴	淡橙	輝・角	平行沈線区画内刺突列。	称
2-35住	7	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線渦巻文、充墳縄文。	称
2-35住	8	-	胴	灰黄	輝・角	頸位鎖状隆帯。条線文。9・10と同一個体と思われる。	称
2-35住	9	-	胴	暗灰黄	輝・角	条線文。8、10と同一個体と思われる。	称
2-35住	10	-	胴	灰黄	輝・角	条線文。8・9と同一個体と思われる。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-35住	11	-	口~胴	暗灰黄	輝・角、小石	口縁部頸状隆帯。胴部沈線幾何学文、縄文部と無文部の交互構成。(口34.8)	Ⅲ2
2-35住	12	-	口	灰黄	輝・角	口縁部内側に沈線、外側頸状隆帯2条。胴部沈線文、区画内縄文。	Ⅲ2
2-35住	13	-	注口部	淡橙	黒雲母、小石	付け根に沈線文。	Ⅲ2
2-35住	14	-	底	灰黄	輝・角、小石	平底、無文。肩部突出。	Ⅲ
2-36住	1	深鉢	上半	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、区画内縄文。胴部平行沈線垂下、磨消縄文。	EⅢ
2-36住	2	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	EⅢ
2-36住	3	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。胴部沈線、縄文。	EⅢ
2-36住	4	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	沈線文、区画内縄文。	EⅢ
2-36住	5	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	隆線文、上位2条、下位1条。充填縄文。	EⅢ
2-36住	6	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	横位隆帯、太沈線。充填縄文。	EⅢ
2-36住	7	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、縄文。	EⅢ
2-36住	8	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	横位隆帯、平行沈線磨重文、充填縄文。	EⅢ
2-36住	9	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-36住	10	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線磨重文、磨消縄文。	EⅢ
2-36住	11	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	平行沈線磨重文、R.L磨消縄文。	EⅢ
2-36住	12	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線磨重文、充填縄文、縦位斜行沈線。	EⅢ
2-36住	13	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	EⅢ
2-36住	14	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	弧状の平行隆帯、その両側に沈線文。	EⅢ
2-36住	15	-	胴	灰黄	輝・角、小石	縦位条線。	EⅢ
2-36住	16	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-36住	17	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	上部に横位隆帯、以下縦位条線文。	EⅢ後
2-36住	18	-	口	赤褐	白粒、輝・角	外面は無文、口唇部上面に沈線。	中期後
2-36住	19	-	口	赤褐	白粒	口唇部肥厚、無文。	中期後
2-36住	20	-	胴	灰褐	白粒、小石	縦位条線、縦位沈線波状文。	EⅢ
2-36住	21	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、R.L縄文、内面黒色。	EⅢ
2-36住	22	-	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	波状口縁。沈線、R.L縄文。	EⅣ
2-36住	23	盃台	完形	灰黄	白粒、輝・角	透かし孔7穴。沈線縦手状文。全面磨消。(口12.2、底18.8、高11.1)	EⅢ
2-36住	24	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底9.0)	EⅢ
2-36住	25	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	Ⅲ
2-36住	26	-	胴	浅黄橙	輝・角	細い沈線と二重の太い沈線文。	Ⅲ?
2-36住	27	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文、割変文。	Ⅲ
2-36住	28	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。衝変文。	Ⅲ?
2-36住	29	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	垂直あるいは弧状の条線文。	Ⅲ1
2-36住	30	-	胴	浅黄橙	白粒、小石	隆帯、突起。胴部は弧状、縦位の柳縄文。	Ⅲ1
2-36住	31	-	底	黒	白粒、輝・角	表面保付着。	Ⅲ期
2-36住	32	-	胴	浅黄橙	輝・角	縄文。	Ⅲ1
2-36住	33	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	Ⅲ1
2-36住	34	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、縦位集合沈線。(底7.5)	Ⅲ1
2-36住	35	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底16.0)	Ⅲ期
2-36住	36	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	肩部直角、表面よく研磨。底面に割変痕あり。(底7.1)	Ⅲ期
2-36住	37	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底5.2)	Ⅲ期
2-36住	38	-	底	浅黄橙	白粒、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線文。胴部3本沈線垂下、充填縄文。(口22.8)	Ⅲ期
2-36住	39	-	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	波状口縁、内側沈線。横位沈線、充填縄文。区切り文。	B1
2-37住	1	-	突起	鈍橙	白粒、小石	瓶頂部外面がとろ状に隆起。	
2-37住	2	-	口	橙	赤色粒、輝・角	波状口縁、隆帯、沈線、割変文。	Ⅲ
2-38住	1	深鉢	胴	淡橙	輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線文。胴部3本沈線垂下、充填縄文。(口22.8)	EⅡ
2-38住	2	-	口~胴	灰褐	赤色粒、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画。胴部沈線垂下、充填縄文。(口33.0)	EⅡ
2-38住	3	-	口	淡橙	白粒、輝・角	口縁部沈線区画、沈線文、渦巻文。胴部磨消縄文、沈線文。	EⅡ
2-38住	4	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯文、縄文。	EⅡ
2-38住	5	-	口	黒褐	白粒、輝・角	口縁部平行沈線、円形割変文。胴部縄文。	EⅡ
2-38住	6	-	口	灰白	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	EⅡ
2-38住	7	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯区画。区画内沈線縦段り、磨消縄文。	EⅡ
2-38住	8	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線区画、平行沈線、R.L磨消縄文。	EⅡ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-38住	9	-	口~胴	浅黄橙	輝・角	波状口縁、隆帯・沈線区画。胴部平行沈線直下、L R磨消縄文。	E II
2-38住	10	-	口	黒褐	輝・角	口縁部傾位沈線区画、胴部平行沈線垂直文、充填縄文。	E II
2-38住	11	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	平行沈線、磨消縄文。	E II
2-38住	12	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行垂下沈線、半截竹筒の縦位波状文。13と同一個体の可能性高い。	E II
2-38住	13	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	破片上部に隆帯弧状文。縄文地文に半截竹筒で縦位波状文。12と同一個体か。	E II
2-38住	14	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線「J」字状文。磨消縄文。	E II
2-38住	15	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平行垂下沈線、無節充填縄文。17と同一個体か。	E II
2-38住	16	-	胴	浅黄橙	白粒、小石	平行垂下沈線、充填縄文。	E II
2-38住	17	-	底付近	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平行垂下沈線、無節充填縄文。15と同一個体か。	E II
2-38住	18	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底6.4)	E II
2-38住	19	-	口	灰黄	白粒、輝・角	無文。非常に盛やかな波状口縁。	E II
2-38住	20	-	口	黒褐	白粒、輝・角	無文。口唇部縁有り。	E II
2-38住	21	-	胴部	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。破片右上部、左上部に透かし孔有り。	E II
2-38住	22	-	胴	鈍橙	輝・角	二重沈線の楕円形区画。磨消縄文。上部に埋付着。	E II
2-38住	23	-	胴	鈍橙	輝・角	条線地文、沈線文。	E II
2-39住	1	-	口~胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	無文。口縁部大きく開く。(口23.6)	E II
2-39住	2	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-39住	3	-	口	暗褐	輝・角、小石	隆帯区画、消縄文。区画内縄文。	E II
2-39住	4	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、羽状縄文。	E II
2-39住	5	-	口	橙	赤色粒、小石	隆帯の両脇沈線、胴部縄文。	E II
2-39住	6	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線。胴部側に副沈線の痕跡有り。捺痕状突起。口唇部沈線。	E II
2-39住	7	-	突起	鈍橙	輝・角、小石	沈線区画、区画内縄文。	E II
2-39住	8	-	胴	灰黄	赤色粒、輝・角	無文。	E II
2-39住	9	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、縄文部と無文部の交互構成。	E II
2-39住	10	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II
2-39住	11	-	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	無文。	E II
2-39住	12	-	底	橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に刺状直あり。	E II
2-39住	13	-	底	赤褐	輝・角、小石	平底、無文。底面に刺状直あり。(底8.1)	E II
2-40住	1	深鉢	胴	暗褐	輝・角、小石	平行沈線、R L充填縄文。	E II
2-41住	1	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底7.2)	弥
2-41住	2	-	口	橙	白粒、輝・角	緩やかな波状口縁。沈線文。	弥
2-41住	3	-	口	鈍黄橙	輝・角	波頂部内向きに環状貼付文。外面は沈線文、刺状文。	弥
2-41住	4	-	口	暗灰	輝・角	沈線。	弥
2-41住	5	-	口	橙	輝・角	波状口縁頂部に突起。外面は無文。	弥
2-41住	6	-	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	弥
2-41住	7	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、条線。	弥
2-41住	8	-	胴	淡橙	輝・角、小石	条線文。	弥
2-41住	9	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	条線文。	弥
2-41住	10	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線間に沈線並線。	弥
2-41住	11	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺状文。	弥
2-41住	12	-	胴	暗褐	輝・角	沈線文、刺状文。	弥
2-41住	13	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文。	弥
2-41住	14	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文、刺状文。	弥
2-41住	15	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	弥
2-41住	16	-	胴	黄橙	赤色粒、輝・角	他に沈線の痕跡有り。	弥
2-41住	17	-	底	浅黄橙	輝・角	平底、無文。(底7.7)	弥
2-41住	18	-	口	灰	白粒、輝・角、小石	傾位沈線間に凹形刺突、斜め刺突。	弥
2-41住	19	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	隆帯、沈線。	弥
2-42住	1	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯文、沈線文、充填縄文。(口36.5)	E I
2-42住	2	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	無文。口縁部沈線1条、胴部沈線文。	E I
2-42住	3	-	突起	暗赤褐	褐色粒、小石	突起の正面左側のみ沈線、凹み。口縁部は沈線文の下に刺みを入れた隆帯。胴部は条線文。沈線を隔す楔状突起。側面の沈線は口唇部に繋がる。胴部は縄文。	E I
2-42住	4	深鉢	口	暗褐	輝・角、小石		E I
2-42住	5	-	口	黒褐	白粒、輝・角	無文。口縁部沈線2条。	E I
2-42住	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	無文。沈線。	E I

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-42住	7	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	E I
2-42住	8	深鉢	胴下半	淡橙	白粒、輝・角、小石	部の細かい縦位懸未文。平底。(底7.4)	E I
2-42住	9	-	底	淡橙～黒灰	黒雲母、輝・角、小石	平底、縄文。	E I
2-43住	1	深鉢	胴	純橙	白粒、輝・角、小石	微隆帯による区画、文様。充填縄文。	E I
2-43住	2	-	口～胴	桃橙	白粒、輝・角、小石	口縁部様の下に割突列。胴部は隆帯文、充填縄文。	E I
2-43住	3	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	隆帯渦巻文。	E I
2-43住	4	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	二重の隆帯で筒形区画。	E I
2-43住	5	-	口	明赤褐	輝・角、小石	2条の割突入り隆帯で半円状に区画。区画内は沈線で縁取り、無文。	E I
2-43住	6	-	胴	橙	輝・角、小石	「ω」字形の懸状突起。側面に沈線。	E I
2-43住	7	-	口	暗赤褐	金雲母、小石	波頭部から隆帯垂下。内外面に横位隆帯。	E I
2-43住	8	-	胴	赤褐	輝・角、小石	括れ部平行隆帯。上部は平行沈線弧状文、下部は隆帯渦巻文。	E I
2-43住	9	-	胴	橙	石英、小石	隆帯、沈線、縄文。	E I
2-43住	10	-	胴	鈍赤褐	黒雲母、輝・角、小石	横位隆帯、二重隆帯文、磨消縄文。	E I
2-43住	11	-	胴	橙	小石	短きを持つ隆帯文。区画内は沈線。	E I
2-43住	12	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	横位隆帯、沈線。	E I
2-43住	13	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	緩小中央に隆帯。左右に沈線、割突文。	E I
2-43住	14	-	胴	橙	白粒、輝・角、小石	括れ部沈線入り隆帯。上下に縄文。	E I
2-43住	15	-	胴	鈍赤褐	黒雲母、小石	隆帯、沈線、縄文。	E I
2-43住	16	-	胴	鈍橙	石英、小石	2条の横位隆帯。以下は沈線文、縄文。	E I
2-43住	17	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部縁有り。隆帯波状文。	E I
2-43住	18	-	口	明赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部に太く浅い沈線。以下縄文、口唇部内凹。	E I
2-43住	19	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	無文。内外面とも縁が目立つ。	E I
2-43住	20	-	口	浅黄橙	輝・角	無文。口唇部内側に突出。	E I
2-43住	21	-	底	橙	輝・角、小石	平底、縄文。内面黒色。(底8.7)	E IV
2-43住	22	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	間隔を空けて2条の横位沈線。	後期
2-43住	23	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	横位二重沈線。8の字状突起。胴部二重沈線懸垂、沈線間に刻み状の割突。	後期
2-43住	24	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。肩部やや突出。底面に割代痕あり。(底9.8)	後期
2-43住	25	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。肩部やや突出。底面に割代痕あり。(底11.3)	後期
IV-1住	1	深鉢	上半	灰白	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。(口45.8)	E IV
IV-1住	2	-	口	黒褐	白粒、輝・角	隆帯、円形状区画内に縄文。	E IV
IV-1住	3-1	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	弦状口縁。平行隆帯文。隆帯間縁強い割で。充填縄文。	E IV
IV-1住	3-2	-	口～胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	隆帯による渦巻文。	E IV
IV-1住	4	-	口～胴	淡橙	白粒、石英、輝・角	隆帯文、充填縄文。	E IV
IV-1住	5	深鉢	上半	灰黄	白粒、輝・角	橋状把手有り。口縁部隆帯。胴部沈線文、充填縄文。1/3残存。(口29.4)	E IV
IV-1住	6	深鉢	上半	鈍橙	白粒、小石	大小橋状突起1対。口縁部隆帯。胴部沈線文、縄文。(口29.0)	E IV
IV-1住	7	深鉢	上半	淡橙	白粒、輝・角	縄文。(口42.4)	E IV
IV-1住	8	深鉢	上半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯。以下縄文。(口32.0)	E IV
IV-1住	9	-	把手	淡橙	白粒、赤色泥、輝・角	橋状把手の一部が欠落。	E IV
IV-1住	10	-	口	灰褐	白粒、輝・角	L R横位隆帯。	E IV
IV-1住	11	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部肥厚。沈線「r」字状文、L R充填縄文。(口29.2)	E IV
IV-1住	12	-	口	灰黄～黒	白粒、輝・角、小石	口縁部横位隆帯上に突起。胴部沈線。縄文部、無文部交互構成。	E IV
IV-1住	13	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	E IV
IV-1住	14	-	口	灰黄	白粒、石英、小石	波状口縁。波頭部は盛り上がる突起。沈線文、縄文。	E IV
IV-1住	15	-	胴	浅黄橙～黒	白粒、輝・角	沈線。区画内R L充填縄文。2帯構成。	E IV
IV-1住	16	-	胴	浅黄橙	輝・角、石英	沈線、縄文。	E IV
IV-1住	17	-	胴	鈍い橙	白粒、小石	単なる条線文。	E IV
IV-1住	18	-	胴	鈍い橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	E IV
IV-1住	19	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文。	E IV
IV-1住	20	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線、充填縄文。	E IV
IV-1住	21	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯2条、縄文。	E IV
IV-1住	22	-	底	橙	白粒、輝・角、石英	やや上げ底。(底5.7)	E IV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
IV-1住	25	-	底	淡橙	輝・角	平底、無文。(底6.5)	EIV
5-1住	1	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部に沈線。胴部は平行隆線、充填縄文。(口25.0)	EIV
5-1住	2	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部に沈線。胴部は平行隆線、充填縄文。(口21.7)	EIV
5-1住	3	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	小波状口縁。沈線文、充填縄文。(口25.2)	EIV
5-1住	4	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。(口38.6)	EIV
5-1住	5	深鉢	口~胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯高卷文、充填縄文。(口36.6)	EIV
5-1住	6	深鉢	口~胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯高卷文、充填縄文。(口42.5)	EIV
5-1住	7	-	下半	淡橙	白粒、輝・角	平行隆線、充填縄文。やや丸みを持つ平底。(底8.0)	EIV
5-1住	8	深鉢	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部沈線。胴部縄文。	EIV
5-1住	9	-	口	橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。(口51.6)	EIV
5-1住	10	注口付壺	口~胴	赤褐	白粒、黒雲母、小石	瓶形。口縁部有孔跨付。口縁部と括れ部下にそれぞれ把手1対または3カ所か。上半部隆線6単位波状文、下半部隆線3単位渦巻文か。注口内径1.6cm。(口8.3)	EIV
5-1住	11	野付	口~胴	赤褐	白粒、輝・角	口縁の外側に野が盛る。胴部は隆線で曲線的な文様。(口18.8)	EIV
5-1住	12	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	緩やかな波状口縁。隆帯で楕円形に区画された内側に縄文。	EIV
5-1住	13	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文。横位隆帯下にLR地文、隆帯垂垂。	EIV
5-1住	14	-	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	口縁部肥厚、無文。横位隆帯下に縄文、隆帯垂垂。	EIV
5-1住	15	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	LR縄文。口縁に凹線2条。隆帯「n」字状文、周縁沈線。	EIV
5-1住	16	-	口	橙	白粒、黒雲母、輝・角	口唇部肥厚有り。沈線、胴部は2条一組で波状文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	17	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	沈線。胴部は2条一組で渦巻文。RL充填縄文。	EIV
5-1住	18	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線。胴部は2条一組で波状文。LR地文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	19	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁、刺突文。波頂部外側は小突起状、内側はやや突出し、肥厚。胴部はLR地文、磨酒縄文。2条一組の沈線渦巻文か。	EIV
5-1住	20	-	口	黒灰	白粒、輝・角	口縁部に刺突文。胴部は沈線文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	21	-	口	鈍赤褐	黒雲母、輝・角	波状口縁、刺突文。胴部は沈線、充填縄文。	EIV
5-1住	22	-	口	橙	白粒、黒雲母、輝・角	口縁部刺突文。胴部は沈線。	EIV
5-1住	23	-	口	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	RL羽状縄文。沈線「n」字状文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	24	-	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部内側に突出。沈線で「n」字状文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	25	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部内側にやや突出。沈線、LR羽状縄文。	EIV
5-1住	26	-	口	灰黄	白粒、輝・角	波状口縁。沈線、LR羽状縄文。	EIV
5-1住	27	-	口	橙	輝・角、小石	緩やかな波状口縁か。口唇部肥厚。沈線、羽状縄文。	EIV
5-1住	28	-	突起	暗灰黄	白粒、輝・角	円筒形、LR地文、沈線区画。	EIV
5-1住	29	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部無文、やや肥厚。4~5条単位の条線文。	EIV
5-1住	30	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	口縁部肥厚、沈線。胴部には細い沈線。	EIV
5-1住	31	-	突起	淡橙	輝・角、小石	上部沈線高卷文。正面沈線区画、区画内縄文。	EIV
5-1住	32	-	胴	鈍橙	白粒、黒雲母、輝・角	LR縄文。横位隆帯の下手は縄文、上手は撫で。	EIV
5-1住	33	-	口	明赤褐	白粒、輝・角	無文。内面、外面とも研磨。内面黒褐色。	EIV
5-1住	34	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母、小石	平行沈線が垂下。RL地文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	35	-	胴	灰黄	白粒、石英、輝・角	平行沈線の「n」字状文、LR充填縄文。	EIV
5-1住	36	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	LR縄文。平行沈線、磨酒縄文。破片両端にも沈線。	EIV
5-1住	37	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文。LR地文、磨酒縄文。	EIV
5-1住	38	-	胴	明赤褐	黒雲母、輝・角、小石	LR縄文。沈線、磨酒縄文。	EIV
5-1住	39	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	沈線文。RL充填縄文。	EIV
5-1住	40	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線「u」字、「n」字状文。RL磨酒縄文。	EIV
5-1住	41	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線波状文か。区画内に充填縄文。	EIV
5-1住	42	-	胴	鈍橙	黒雲母、輝・角	4~5条単位の条線文の未端部分。	EIV
5-1住	43	-	胴	灰黄	黒雲母、小石	縦位、やや斜位に重複する集合沈線文。	EIV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、注記等	時期
5-1住	44	-	胴	橙	白粒、輝・角、石英	沈線「H」字状文か。R.L充墳縄文。	EIV
5-1住	45	-	底	淡橙	輝・角、小石	上げ底、無文。	EIV
5-1住	46	-	底	暗灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	平底。L.R縄文。内面丸底、縦位無で。	EIV
5-1住	47	深鉢	胴下半	橙	白色粒、輝石・角閃石、小石	平底、糸線文。(底8.0)	EIV
5-1住	48	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	底面やや丸み。無文、縦位削り。(底7.8)	EIV
5-1住	49	-	底	橙	白粒、黒雲母、小石	上げ底、沈線2条。内面黒褐色。(底6.5)	EIV
5-1住	50	-	底	鈍橙	白粒、黒雲母	平底、無文。(底6.6)	EIV
5-1住	51	土製品	3/4	鈍い黄橙	赤色粒、小石	三瓣柱状土製品。長方形面は3面とも縄文後、沈線縄文。長軸方向に径6mmの孔が貫通。断面は隅丸の正三角形。(長9.3、高5.7、幅5.6)	EIV
5-1住	52	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	縦位の山形押型文。	早期
5-1住	53	土製品	完形	鈍橙	白粒、輝・角、小石	三瓣柱状土製品。全面無文。断面はほぼ正三角形で、各辺はやや内湾する。中心を長軸方向に孔が貫通する。(長10.4、高6.9、幅7.6)	EIV
5-2住	1	鉢	2/3残	赤褐	白色粒、輝石・角閃石、小石	口縁部に横位沈線。胴部縄文。底部無文、平底。(口18.6、高18.0、底6.2)	EIV
5-2住	2	深鉢	胴下半	淡橙	輝・角、小石	沈線「H」字状文。区内内磨消縄文。	EIV
5-2住	3	-	口	鈍橙	白粒、石英、輝・角	口縁部隆帯。胴部沈線。R.L充墳縄文。	EIV
5-2住	4	-	口	灰白	白粒、輝・角	波状口縁。太い沈線。隆帯文。内面黒色。	EIV
5-2住	5	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆起縄文、R.L充墳縄文。	EIV
5-2住	6	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁肥厚。隆起縄文、R.L充墳縄文。	EIV
5-2住	7	-	口	暗灰黄	白粒、石英、小石	波状口縁。隆帯区画。口唇部破り。	EIV
5-2住	8	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆起縄文、充墳縄文。	EIV
5-2住	9	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	隆起縄文の2帯構成か。磨消縄文。	EIV
5-2住	10	-	胴	浅黄橙	白粒、赤褐色粒、輝・角	横位隆帯。R.L縄文。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2住	11	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯帯懸垂文。R.L縄文沈線文部と磨消縄文部の交互構成。	EIV
5-2住	12	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	平行する2条の隆起線。L.R充墳縄文と無文部の交互構成。	EIV
5-2住	13	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線波状文か。磨消縄文。R.L羽状縄文。	EIV
5-2住	14	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線。体部沈線波状文か。磨消縄文。R.L羽状縄文。	EIV
5-2住	15	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	波状口縁。L.R斜位縄文。平行沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2住	16	-	胴	浅黄橙	白粒、石英、小石	沈線波状文、充墳縄文。無文部磨き。	EIV
5-2住	17	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	太く浅い沈線文。磨消縄文。	EIV
5-2住	18	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。2帯構成。R.L充墳縄文。	EIV
5-2住	19	-	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。隆帯有。内面磨き。	EIV
5-2住	20	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部破り。幅広い浅い沈線文、充墳縄文。隆帯有。	EIV
5-2住	21	-	口	浅黄橙	白粒、石英、輝・角	緩い波状口縁。沈線、羽状縄文。	EIV
5-2住	22	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部肥厚。体部沈線、磨消縄文。	EIV
5-2住	23	-	口	浅黄橙	輝・角	波状口縁。沈線の下に、羽状縄文。	EIV
5-2住	24	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。せり上がる突起。口唇部と胴部に沈線文、縄文。	EIV
5-2住	25	-	口	鈍橙	輝・角	波状口縁。波頂部は盛り上がる突起。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2住	26	-	口	灰	白粒、輝・角	口唇部肥厚。口縁の一部が特に盛り上がる突起。沈線文、縄文。	EIV
5-2住	27	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2住	28	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。R.L縦位磨消縄文。	EIV
5-2住	29	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2住	30	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	R.L縦位縄文。	EIV
5-2住	31	-	底	橙	白粒、輝・角	上げ底、無文。外面縦位削り。内面は黒色。平帯な無で。(底5.1)	EIV
5-2住	32	-	底	浅黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	上げ底、無文。端部突出。内外面とも縦位削り、磨き。(底7.6)	EIV
5-2住	33	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。外面縦位削り。内面は横位削り。(底6.0)	EIV
5-2住	34	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	EIV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
5-2住	35	-	底	灰黄	白粒、輝・角	無文、端部やや突出、底面丸み、内面縦位削り、(底 9.2)	E IV
5-2住	36	-	把手	淡橙	白粒、小石	無文の橋状突起、上部欠角、胴部は無文。	E IV
5-2住	37	-	把手	鈍橙	白粒、赤色粒	橋状把手の一部、中央が凹む。	E IV
5-2住	38	-	口	浅黄橙	輝・角	無文、内面赤褐色。横位削り、撫で。	堀 I
5-2住	39	深鉢	底	鈍橙	白粒、輝・角	やや丸みを持つ平底、無文。(底 10.0)	E IV
4-1配石	1	-	口	暗灰	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様。区画内無文。	E Ⅱ
4-1配石	2	-	胴	灰白	赤色粒、輝・角、小石	刺突文、隆帯文、無文。	E Ⅲ
4-1配石	3	-	胴	淡橙	石英、輝・角、小石	横かに沈線、微かに無文。	E Ⅲ
4-1配石	4	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	平行沈線、無文。	E Ⅲ
4-1配石	5	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	やや丸み帯びる平底、無文。(底 8.5)	E Ⅲ
2-20埋壁	1	深鉢	上半部	鈍橙	輝・角	横やかな波状口縁、突起 1カ所、沈線文。(口 28.6)	称
2-20埋壁	2	-	口	灰褐	白粒、輝・角	条線文、20埋壁3と同一個体と思われる。	堀 I
2-20埋壁	3	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文、20埋壁2と同一個体と思われる。	堀 I
2-20埋壁	4	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀 I
2-20埋壁	5	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 8.0)	堀 I
2-21埋壁	1	深鉢	兜形	淡橙～暗褐	白粒、輝・角	小突起 1、「8」字状胎付文 2。胴部上半に2単位の抽象的文様。下半は無文、底面に刺突文。内面に横が付着し黒色、磨き顕著。口唇部内面に沈線。(口 12.3、底 8.3、高 14.9)	堀 2
Ⅲ-1埋壁	1	-	胴下半	淡橙～黒褐	白粒、輝・角、小石	破片上部に沈線文が横かに見える。(底 6.4)	堀 1 占
Ⅲ-2埋壁	1	-	底部	明褐灰	白粒、輝・角	平底、無文。(底 12.0)	
Ⅲ-3埋壁	1	-	胴下半	灰白	輝・角、小石	無文。(底 7.3)	
Ⅲ-土集	1	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波頂部の上面および外面に沈線文。口唇部に刺突・沈線。胴部無文。(口 38.5)	堀 1
Ⅲ-土集	2	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部刺突、沈線。	堀 1 新
Ⅲ-土集	3	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部刺突、沈線。	堀 1 新
Ⅲ-土集	4	-	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	3単位横位沈線、2単位横位橋状伏文。	堀 1
Ⅲ-土集	5	浅鉢	口～底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線、平底、無文、1/4 残。(口 13.4、高 5.2、底 6.2)	堀 1 新
Ⅲ-土集	6	-	底	浅黄橙	石英、輝・角、小石	平底、無文。(底 7.6)	堀 1 新
Ⅳ-1土集	1	深鉢	上半部	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線、縦隆起線。胴部無文。	-
Ⅳ-1土集	2	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。	
Ⅳ-1土集	3	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯 2条、無文。	
Ⅳ-1土集	4	-	底	鈍橙	白粒、小石	無文。端部角鋭る。	
I-46土	1	-	胴	橙～黒	白粒、小石	無文。煤付着。	
I-46土	1	-	口～底	鈍橙	白粒、石英	口唇部沈線、刺突。口縁部横位 2条沈線。口唇部刺突から間に刺突が入る 2条の沈線が重下。無文。46土 1、3と同一個体と思われる。	堀 1
I-46土	2	-	胴	鈍橙	白粒、石英	刺突入り沈線 3条が重下、横位沈線 2条、46土 1、2と同一個体と思われる。	堀 1
I-46土	3	-	胴	鈍橙	白粒、石英		
I-47土	1	注口	注口部	鈍橙～暗褐	白粒、輝・角	基部から兜形。無文。	堀 1
I-55土	1	-	胴	淡橙～暗褐	白粒、輝・角、小石	口縁部付近は横位隆帯、胴部を横位沈線で区画し、胴部は 3条 1組の重下沈線。充填無文。	E Ⅱ
I-56土	1	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文、無文。	E Ⅱ
I-57土	1	-	口	赤	白粒、赤色粒、小石	口唇部肥厚、横有り。	E I ~ II
I-57土	2	-	胴	淡橙	赤色粒、小石	沈線文、条線、刺突列。	E I ~ II
I-57土	3	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯。	E Ⅱ
I-123土	1	深鉢	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。縦横の隆帯文、交点に環状胎付文、2と同一個体と思われる。	堀 1
I-123土	2	深鉢	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。縦横の隆帯文、交点に環状胎付文、1と同一個体と思われる。	堀 1
I-123土	3	深鉢	上半部	灰褐～橙	白粒、赤色粒、輝・角	縦位条線文。(口 21.5、底 8.5、高 15.8)	堀 1
I-123土	4	-	口	灰黄	白粒、輝・角	波状口縁。口唇部肥厚、刺突 3カ所。	堀 1
I-123土	5	-	胴下半	灰黄褐	白粒、輝・角	無文に縦位沈線。	堀 1
I-123土	6	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	無文。	堀 1
I-123土	7	-	胴	灰黄褐	輝・角	沈線文、刺突文。	堀 1
I-123土	8	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀 1
I-123土	9	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀 1
I-123土	10	-	胴	鈍橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	堀 1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-123 土	11	-	胴	鈍橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	Ⅲ 1
1-123 土	12	-	胴	灰黄褐	白粒、小石	沈線文。	Ⅲ 1
1-123 土	13	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	Ⅲ 1
1-123 土	14	-	底	橙	輝・角	平砥、無文。	Ⅲ 1
1-123 土	15	注口	注口部	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。	Ⅲ 1
1-123 土	16	鉢	1/4 残	灰褐～橙	白粒、輝・角、小石	無文。平砥。(口 27.8)	Ⅲ 1
1-123 土	17	-	上半部	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部内面に突出、沈線文。縄文部と無文部の交互構成、内面は橙。	Ⅲ
1-129 土	1	-	口	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	Ⅲ
1-130 土	1	-	口	灰白	輝・角	上部が欠落した突起の基部か、内側からの隆起に沿って沈線。	Ⅲ 1
1-130 土	2	-	上半部	灰黄褐	白粒、輝・角	口縁に沿って横位沈線。胴部沈線文、刺突文。(口 20.0)	Ⅲ 1 古
1-130 土	3	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	刺突を入れた隆部。	Ⅲ 1
1-130 土	4	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	Ⅲ 1 古
1-130 土	5	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文。	Ⅲ 1
1-130 土	6	-	胴	橙	白粒、小石	無文。	Ⅲ 1
1-131 土	1	-	胴	淡赤橙	白粒、小石	無文。被熱による発砲、ひび割れ有り。2 と同一個体と思われる。	Ⅲ 1 ?
1-131 土	2	-	胴	淡赤橙	白粒、小石	無文。被熱による発砲、ひび割れ有り。1 と同一個体と思われる。	Ⅲ 1 ?
1-131 土	3	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	細い沈線文。	Ⅲ 1
1-131 土	4	-	胴	橙	白粒、赤色粒	沈線文、充填縄文部と無文部の交互構成。	Ⅲ
1-131 土	5	-	胴	灰白	白粒、石英	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-131 土	6	-	底	灰黄	白粒、輝・角	やや上げ底、無文。	Ⅲ
Ⅱ-1 土	1	深鉢	底欠	淡橙	輝・角	口縁部横位沈線、胴部沈線文。(口 34.5)	Ⅲ 新
Ⅱ-328 土	1	-	胴	灰白	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-328 土	2	-	胴	橙	輝・角、小石	捺糸文。	Ⅲ Ⅰ
Ⅱ-328 土	3	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	Ⅲ
Ⅱ-331 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、捺糸文か。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-334 土	1	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文後、沈線文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-338 土	1	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	爪形文、捺糸文。	阿玉 1 b
Ⅱ-338 土	2	-	胴	暗灰	輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅲ 1 新
Ⅱ-340 土	1	-	口	淡黄褐	白粒、小石	口唇部外側に沈線。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-340 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-340 土	3	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	条線文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-343 土	1	-	口	淡黄橙	白粒、輝・角	微隆部と沈線で区画、区画内縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-344 土	1	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部肥厚。口縁部無文。胴部は縦位、横位の隆線で区画、区画内縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-344 土	2	-	胴	赤褐	石英、輝・角、小石	縄文。	Ⅲ Ⅱ 新
Ⅱ-344 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文後、縦位隆部 2 条。	Ⅲ Ⅱ 新
Ⅱ-344 土	4	-	胴	灰	白粒、小石	沈線。R L 充填縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-344 土	5	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	Ⅲ Ⅰ
Ⅱ-344 土	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-346 土	1	-	口～胴	淡黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	Ⅲ
Ⅱ-346 土	2	-	胴	橙	白粒、小石	縄文後、沈線文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-346 土	3	-	胴	灰白	白粒	沈線文、縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-348 土	1	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	太沈線、縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-349 土	1	-	口	赤褐	白粒、小石	縄文後、沈線文。	Ⅲ Ⅱ 新
Ⅱ-351 土	1	-	胴	淡橙	白粒	刻みを入れた隆線で区画、区画内沈線。	E Ⅰ Ⅱ
Ⅱ-352 土	1	-	突起	暗赤褐	白粒、小石	上面、内面と両側面に開口する。下からも突き上げられ僅かに貫通する。	Ⅲ 1 ?
Ⅱ-352 土	2	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部刺突、沈線。波頂部下より刻みを入れた隆部が垂下。胴部沈線文、縄文。	Ⅲ Ⅰ
Ⅱ-353 土	1	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	隆部、縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-355 土	1	-	胴	淡黄褐	褐色粒、輝・角	縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-355 土	2	-	胴	黒	白粒	隆線、縄文。	Ⅲ Ⅳ
Ⅱ-375 土	1	-	胴	橙	赤色粒、小石	沈線文。	Ⅲ 新～ Ⅲ 1 古
Ⅱ-376 土	1	-	口	灰白	輝・角	隆部・沈線区画、区画内縄文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-376 土	2	-	胴	灰白	輝・角、小石	条線文。	Ⅲ Ⅱ
Ⅱ-378 土	1	-	胴	橙	白粒、小石	縄文後、沈線文。	Ⅲ Ⅱ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅱ-379 土	1	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。	中層?
Ⅱ-382 土	1	-	口	灰黄橙	輝・角、小石	隆縁 2 条。	ⅡⅢ
Ⅱ-382 土	2	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部肥厚、口縁部太沈縁。	ⅡⅢ Ⅳ
Ⅱ-382 土	3	-	胴	橙	輝・角	沈縁文、縄文。	ⅡⅢ
Ⅱ-383 土	1	-	口	灰褐	白粒、輝・角、黑砂	隆縁区画、区画内沈縁。	ⅡⅢ
Ⅱ-391 土	1	深鉢	口~胴	灰橙~黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁部低位沈縁、胴部彫刻文。(口 28.6)	ⅡⅢ
Ⅱ-391 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈縁文、充填縄文。	ⅡⅣ
Ⅱ-391 土	3	-	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	平行沈縁、縄文。	ⅡⅢ
Ⅱ-448 土	1	-	胴	暗褐	小石。	沈縁文。	ⅡⅢ
Ⅱ-464 土	1	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文。	ⅡⅢ
Ⅱ-465 土	1	-	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	縄文後、隆帯・沈縁による区画。	ⅡⅢ新
2-750 土	1	-	胴	橙	白粒、小石	隆帯による区画、文様。	ⅡⅢ
2-750 土	2	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部沈縁、胴部条線後、沈縁文。	ⅡⅢ
2-750 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文後縄目押圧、隆帯付。	ⅡⅢ
2-750 土	4	-	底	赤	白粒、小石	平底、縄文。	ⅡⅢ
2-752 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈縁、刺突。	ⅡⅢ
2-753 土	1	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈縁	ⅡⅢ
2-754 土	1	-	胴	灰黄褐	白粒	縄文後、沈縁。	ⅡⅢ
2-754 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈縁文、縄文。	ⅡⅢ
2-754 土	3	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈縁文、胴かに縄文。	ⅡⅢ
2-755 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、沈縁。	ⅡⅢ
2-756 土	1	-	口	橙	赤色粒、石英、輝・角	無文。	ⅡⅢ ⅡⅣ
2-756 土	2	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部肥厚、無文。内面黒色。	ⅡⅢ ⅡⅣ
2-761 土	1	-	口~胴	黒褐	褐色粒、石英、小石	口縁部につまみ状突起、胴部沈縁文、刺突文。	ⅡⅢ
2-761 土	2	-	口~胴	灰黄褐	白粒、輝・角	口唇部中や内縁、胴部沈縁文、縄文。	ⅡⅢ
2-761 土	3	-	口~胴	黒褐	輝・角	口唇部内縁、刺突と隣接する沈縁、頸部無文、括れ部に沈縁。	ⅡⅢ
2-761 土	4	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口唇部内縁、外面沈縁文。	ⅡⅢ
2-761 土	5	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	沈縁文、兩垂れ状刺突文。	ⅡⅢ
2-761 土	6	-	底	黒褐	白粒、小石	平底、沈縁文。(底 3.8)	ⅡⅢ
2-761 土	7	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈縁文。	ⅡⅢ
2-761 土	8	-	胴	灰黄褐~黒	白粒、小石	条線文。	ⅡⅢ
2-761 土	9	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	条線文。	ⅡⅢ
2-761 土	10	-	胴	暗赤褐	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。761 土 6 と同一個体と思われる。	ⅡⅢ
2-761 土	11	-	胴	暗赤褐	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。761 土 7 と同一個体と思われる。	ⅡⅢ
2-761 土	12	-	下半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	やや上付近、縄文。(底 9.6)	ⅡⅢ
2-761 土	13	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。(底 9.0)	ⅡⅢ?
2-768 土	1	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波頭部に「8」字状胎付文、口縁部 2 条沈縁間に刺突列。	ⅡⅢ
2-768 土	2	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈縁文。	ⅡⅢ
2-769 土	1	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	無文。	中層?
2-771 土	1	-	口	灰白	白粒、輝・角、小石	無文。	ⅡⅢ
2-771 土	2	-	胴	橙	白粒、小石	縄文を施す隆帯と、それに沿う沈縁。	ⅡⅢ
2-772 土	1	-	胴	暗赤褐	白粒、石英	縄文。	ⅡⅢ
2-772 土	2	-	胴	鈍橙	白粒	沈縁文。	ⅡⅢ
2-774 土	1	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線後、隆帯 2 条。	ⅡⅢ
2-775 土	1	-	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈縁、刺突。	ⅡⅢ
2-775 土	2	-	胴	赤褐	小石。	擦糸文後、隆帯文。	ⅡⅢ
2-775 土	3	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	条線文。	ⅡⅢ
2-775 土	4	-	胴	橙	白粒、輝・角、小石	沈縁文、充填縄文。	ⅡⅢ
2-777 土	1	-	胴	暗灰	輝・角、小石	隆帯文、縄文。	ⅡⅢ
2-777 土	2	-	胴	浅黄橙	石英、輝・角	沈縁文、条線文。	ⅡⅢ
2-778 土	1	-	口~胴	淡橙~暗褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、波頭部に刺突、胴部は沈縁「R」字状文。(口 18.1)	ⅡⅢ古
2-778 土	2	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。(底 10.3)	ⅡⅢ
2-784 土	1	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	平行沈縁、充填縄文。	ⅡⅢ
2-785 土	1	-	胴	灰黄褐	金雲母、小石	爪形文。	ⅡⅢ b~Ⅱ
2-788 土	2	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内沈縁。	ⅡⅢ
2-788 土	3	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈縁、充填縄文。	ⅡⅢ
2-788 土	4	-	口	鈍橙	石英、小石	無文。	ⅡⅢ
2-789 土	1	-	胴	橙	白粒、赤色粒、小石	R L 横位状文。	ⅡⅢ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-789 土	2	-	胴	淡緑	白粒、輝・角	縦位沈線、充填縄文部と無文部の交互構成。	EⅡ
2-796 土	1	-	胴	黒	白粒、輝・角	平行沈線。	称
2-796 土	2	-	胴	灰	輝・角	沈線。	称
2-796 土	3	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-798 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、隆帯2条。	EⅡ
2-803 土	1	-	口	灰白	輝・角	沈部直下に刺突文。口唇部に沈線。胴部無文。	Ⅱ
2-803 土	2	-	胴	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯の間に弧状沈線文。下は縄文。	EⅡ
2-803 土	3	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縦位条線文。	EⅡ
2-803 土	4	-	胴	灰白	白粒、輝・角	4単位の条線文。	Ⅱ
2-806 土	1	-	口	鈍黄橙	褐色粒、輝・角	円形刺突、隆帯区画、区画内沈線。	称?
2-807 土	1	-	口	橙	白粒、赤色粒、小石	隆帯渦巻文。その下に刻みを入れた大きな隆帯。	EⅠ
2-808 土	1	-	口	暗赤褐	白粒	沈線を入れた隆帯区画、区画内縄文。	EⅡ
2-815 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縦手状隆帯に刺突文。	称
2-819 土	1	-	胴	淡黄橙	白粒、輝・角	縄文。	Ⅱ?
2-822 土	1	-	口	黒濁	輝・角、小石	無文。	Ⅱ?
2-826 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	Ⅱ
2-829 土	1	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称新
2-831 土	1	-	胴	橙	輝・角、小石	条線文。	EⅡ
2-831 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。(口25.1)	EⅡ
2-834 土	1	-	口	灰黄	輝・角	沈線、刺突。	阿玉
2-840 土	1	-	口	灰濁	白粒、輝・角	沈線文。	EⅡ
2-843 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	EⅡ
2-844 土	1	-	底	鈍橙	白粒、小石	沈線文。	EⅡ
2-845 土	1	-	底	橙	褐色粒、輝・角	平底、無文。	後期
2-845 土	2	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部やや肥厚。口縁部沈線。	称
2-849 土	1	-	胴	黒	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。849土3と同一個体と思われる。	Ⅱ
2-849 土	2	-	胴	橙	褐色粒、小石	沈線文。	Ⅱ
2-849 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	Ⅱ
2-849 土	4	-	胴	鈍橙→黒	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。849土2と同一個体と思われる。	Ⅱ
2-851 土	1	深鉢	口～胴	橙～暗褐	輝・角、小石	沈線文、刺突文。(口25.1)	称
2-851 土	2	深鉢	上半	暗灰黄	輝・角	1カ所突起。口唇部縁有り、一部沈線。胴部沈線文。(口14.2)	称
2-851 土	3	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に網状痕あり。(底7.1)	称
3-4 土	1	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部に突起。	
3-10 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称?
3-15 土	1	壺?	口～胴	鈍橙	輝・角、小石	口縁部は横位隆帯。胴部は微隆起線の渦巻文。(口13.7)	
5-25 土	1	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、無文帯。隆線文、充填縄文。	EⅡ
5-25 土	2	-	口	黒濁	白粒、輝・角	波状口縁か。沈線、充填縄文。口唇部に縁線。	EⅡ
5-25 土	3	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆線による「U」字状文、充填縄文。	EⅡ
5-25 土	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆線文、充填縄文。	EⅡ
5-25 土	5	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	4～5条単位の条線。	EⅡ
5-25 土	6	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	無文。	EⅡ?
5-25 土	7	-	底	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	縦位帯り、無文。横は摩耗。内面は横位無文。(底7.1)	EⅡ
5-27 土	1	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	隆帯。縄文部と磨消部の交互構成か。2と同一個体と思われる。	EⅡ
5-27 土	2	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	縄文部はR L横位縄文。1と同一個体と思われる。	EⅡ
5-33 土	1	-	胴	黒	白粒、輝・角	単部R L縄文。	称?
5-34 土	1	-	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、L R磨消縄文。	称
5-34 土	2	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線による「V」字、「n」字の2帯構成。充填縄文。	称
5-67 土	1	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、R L充填縄文。	EⅡ
5-68 土	1	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	R L縄文。隆帯部の両脇は丁寧に磨でられる。	EⅡ
5-68 土	2	-	胴	暗灰	黒雲母、輝・角	3条相反の縦帯状工具を用いた条線。	EⅡ
5-73 土	1	-	口	黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	波状口縁、横状突起。沈線、磨消縄文。	EⅣ～
5-100 土	1	-	胴	浅黄橙	黒雲母、輝・角	沈線による横長の区画。磨消縄文。	称
5-100 土	2	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	微隆起線、磨消縄文。内面一部黒色。3と同一個体か。	EⅡ
5-100 土	3	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	微隆起線。両脇は丁寧に磨で。磨消縄文。内面黒色。	EⅡ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
5-100土	4	-	胴	暗灰	白粒、黒雲母、輝・角	沈線、R.L磨消縄文。	E IV~ B
5-100土	5	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	微隆起線による2帯構成の文様、磨消縄文。	E IV
V-146土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、充墳縄文部と無文部の交互構成。	E III
V-146土	2	-	胴	淡橙	石英、輝・角	沈線文、充墳縄文。3と同一個体と思われる。	E III
V-146土	3	-	胴	淡橙	石英、輝・角	沈線文、充墳縄文。2と同一個体と思われる。	E III
V-146土	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、充墳縄文。	E III
V-179土	1	-	底	橙	白粒、輝・角	平行沈線、充墳縄文。平底。内面は黒褐色。(延6.6)	E III
V-199土	1	-	注口部	灰	白粒、輝・角	無文、先細り、保存者。	
I-G	1	-	口	暗灰褐	金雲母、小石	沈線文、連続斜突文。	阿玉II
I-G	2	-	口	赤褐	輝・角、小石	無文。口唇部上面および内面研磨。	阿玉II 併
I-G	3	-	胴	暗灰黄	金雲母、小石	隆線文、細沈線文。	阿玉II 併
I-G	4	-	口	鈍橙	金雲母	隆帯区画、区画内沈線、充墳縄文。	阿玉IV
I-G	5	-	口~胴	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線文、斜突文、胴部沈線文。	E I
I-G	6	-	口~胴	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線が入り交じる文様構成。胴部は無文。	E I?
I-G	7	-	口	赤褐	輝・角、小石	沈線渦巻文等を施す隆帯貼付文。口縁部は沈線文、胴部は沈線文か。	E I
I-G	8	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。区画内沈線。内面黒色。	E I新
I-G	9	-	突起	灰黄褐	白粒	上面に沈線渦巻文。正面にも隆帯・沈線で渦巻文、区画文、区画内縄文。	E I
I-G	10	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	然余文地文。沈線文。	E I
I-G	11	-	胴	橙	輝・角、小石	然余文。	E I~ II
I-G	12	-	胴	橙	輝・角、小石	然余文。	E I~ II
I-G	13	-	胴	赤褐	小石	縄文、隆帯貼付。破片下部に横位沈線。	E I~ II
I-G	14	-	口	灰褐	白粒、輝・角	隆帯・平行沈線下斜突文列。	E II
I-G	15	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯・平行沈線下斜突文列。	E II
I-G	16	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	E II
I-G	17	-	胴	暗灰黄	輝・角	隆帯文。	E II
I-G	18	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	刻みを入れた隆帯文。間を沈線で埋める。	E II
I-G	19	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線地文、隆線文。内面黒色。	E II
I-G	20	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、然余文。	E II
I-G	21	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
I-G	22	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	条線文、沈線文。	E II
I-G	23	-	口	淡橙	白粒、輝・角	隆帯区画、瘤状突起。沈線渦巻文、斜突列。	E II
I-G	24	-	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯文、縄文。	E II
I-G	25	-	口	灰褐	白粒、輝・角	皿状口縁。条線地文、沈線文。	E II
I-G	26	-	胴	鈍橙~黒褐	白粒、輝・角、金雲母	条線文、沈線文、斜突文。	E II
I-G	27	-	底	鈍橙	輝・角	平底、無文。	E II~ III
I-G	28	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波頂部下に渦巻文、斜突文、充墳縄文。	E III
I-G	29	-	口	橙	白粒、赤色粒、小石	隆帯区画・沈線文。区画内充墳縄文。	E III
I-G	30	-	口	暗灰黄	輝・角	突起部内面大沈線。口縁部隆帯、沈線区画。区画内縄文。	E III
I-G	31	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線区画、充墳縄文。	E III
I-G	32	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部沈線、斜突文。以下平行沈線、磨消縄文。	E III
I-G	33	-	口	浅黄橙	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内磨消縄文。	E III
I-G	34	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充墳縄文。	E III
I-G	35	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部縁有り。条線文、沈線。	E III
I-G	36	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	沈線区画、斜突文。区画内縄文、筋手状沈線文。	E III
I-G	37	-	胴	灰橙	白粒、輝・角	沈線区画、隆帯渦巻文、充墳縄文。	E III
I-G	38	-	胴	鈍橙	輝・角	隆帯・沈線下縄文。	E III
I-G	39	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	微隆線、充墳縄文。	E III
I-G	40	-	胴	鈍橙	輝・角	隆帯文、充墳縄文。	E III
I-G	41	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	平行沈線、R.L充墳縄文。	E III
I-G	42	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	平行沈線、R.L充墳縄文。	E III
I-G	43	-	胴	灰黄	輝・角、小石	平行沈線、充墳縄文。	E III
I-G	44	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線、R.L充墳縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-G	45	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、縄文。	E III
1-G	46	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
1-G	47	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母	平行沈線、磨消縄文。	E III
1-G	48	-	胴	淡橙	輝・角	沈線、充填縄文。	E III
1-G	49	-	底	橙	白粒、輝・角	やや丸みを帯びた平底、無文。(底 6.6)	E III~IV
1-G	50	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文、沈線文。	E III
1-G	51	-	口	橙	赤色粒、小石	口縁部横位條線。胴部平行弧状條線文、充填縄文。	E IV
1-G	52	-	口	淡橙	石英、輝・角	口縁部無文帯。横位條線の一部に瘤状の突起。條線下は縄文。	E IV
1-G	53	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	E IV
1-G	54	-	口	浅黄橙	輝・角	隆帯文、縄文。	E IV
1-G	55	-	口	浅黄橙~黒	白粒、輝・角	口唇部やや内側に突出、無文。内面黒色。	称
1-G	56	-	底	橙	白粒、輝・角	やや上上げ、縄文。(底 9.8)	中期後
1-G	57	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	やや上上げ、無文。(底 8.6)	中期後
1-G	58	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 7.2)	E IV~称
1-G	59	-	底	鈍橙	白粒、小石	無文。	E IV~称
1-G	60	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯垂下。	E IV~称
1-G	61	-	口	淡橙	輝・角	口縁部無文帯。横位條線の一部に瘤状の突起。條線下は条線文。	称
1-G	62	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	微隆帯。	E IV~称
1-G	63	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	64	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線刺突。	称
1-G	65	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部尖る。沈線文。	称
1-G	66	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部尖る。沈線文。	称
1-G	67	-	口	浅黄橙	輝・角	板状口縁。口唇部内側に突出。外面沈線、縄文。	称
1-G	68	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線、沈線並線。	称
1-G	69	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
1-G	70	-	口	暗灰褐	輝・角	口唇部やや肥厚。沈線回2段刺突。71と同一個体と思われる。	称
1-G	71	-	口	黄褐	輝・角	口唇部やや肥厚。沈線回2段刺突。胴部沈線垂下。縄文。70と同一個体か。	称
1-G	72	-	口	灰褐	輝・角	口唇部縁有り。無文。	称
1-G	73	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部やや内屈。沈線文、沈線間縄文。	称
1-G	74	-	口	橙	白粒、輝・角	口唇部内屈。括れ部に沈線。	称?
1-G	75	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形隆帯文。沈線、刺突。	称
1-G	76	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部内屈。微かに沈線文。	称
1-G	77	-	口	黒褐	輝・角	口唇部やや内屈。沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	称
1-G	78	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線区向文。区画内刺突。	称
1-G	79	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形隆帯文。沈線、刺突。75と同一個体か。	称
1-G	80	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線回3段刺突。	称
1-G	81	-	突起	浅黄橙	輝・角	外面無文。内面に2つの円形刺突。	称
1-G	82	-	口	灰褐	輝・角	波頂部上面に穿孔。口唇部は刺突・沈線。胴部沈線文。	称
1-G	83	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称新
1-G	84	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、石英	沈線文、刺突文。	称新
1-G	85	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線並線文。	称
1-G	86	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	称
1-G	87	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	称
1-G	88	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	称
1-G	89	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
1-G	90	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線間刺突。	称
1-G	91	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線間刺突。	称
1-G	92	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	93	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。一部帯付着。	称
1-G	94	-	胴	灰黄	輝・角	横位、縦位。「△」形沈線文。	称
1-G	95	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称
1-G	96	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
I-G	97	-	割	浅黄橙	輝・角、黒頭母、小石	沈線「J」字状文。	称
I-G	98	-	割	灰黄	輝・角、小石	沈線文、条線。	称
I-G	99	-	割	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線弧線文。	称
I-G	100	-	割	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	称
I-G	101	-	割	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称新
I-G	102	-	割	浅黄橙	輝・角、小石	沈線弧状文か、一部煤付着。	称新
I-G	103	注口	把手	暗褐	輝・角、小石	刺突、沈線を施した横状把手。注口部分は完形。胴部は刻みを入れた隆帯文。	称
I-G	104	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、無文。(底 7.5)	称～堀 1古
I-G	105	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底 9.6)	称～堀 1
I-G	106	-	口	灰黄	輝・角、小石	口縁部内縁、壁有り。沈線文。	堀1古
I-G	107	-	口	淡橙	輝・角	沈線文、110と同一個体か。	堀1古
I-G	108	-	割	灰黄	輝・角、小石	沈線文。	堀1古
I-G	109	-	割	灰黄	輝・角、小石	一部に条線文。	堀1古
I-G	110	-	割	浅黄橙	輝・角	沈線文、107と同一個体か。	堀1古
I-G	111	-	割	浅黄橙	赤色粒、輝・角	小突起貼付。沈線渦巻文、縄文。	堀1古
I-G	112	-	口	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。「8」字状?貼付文の痕跡有り。	堀1古
I-G	113	-	割	鈍橙	輝・角	微隆帯前面、区画内磨澄。円形刺突。	堀1古
I-G	114	-	口	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
I-G	115	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	口唇部に沈線。	堀1
I-G	116	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線、118と同一個体と思われる。	堀1
I-G	117	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線。	堀1
I-G	118	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線、116と同一個体と思われる。	堀1
I-G	119	-	口	黒褐	白粒、黒頭母、小石	縄文、沈線文。	堀1
I-G	120	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線。	堀1
I-G	121	-	口	灰黄	輝・角	口縁部太沈線。胴部縄文。	堀1
I-G	122	-	口	暗褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
I-G	123	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。縄文地文、沈線文、刺突文。	堀1
I-G	124	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀1
I-G	125	-	突起～割	灰白	白粒、輝・角	隆った粘土紐をブリッジ状に貼付した突起。口縁部刺突・沈線、胴部縄文後、隆線文。	堀1
I-G	126	-	口	灰黄	輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	堀1
I-G	127	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	堀1
I-G	128	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚。円形刺突列。	堀1
I-G	129	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部に3点刺突、沈線。	堀1
I-G	130	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部後有り。括れ部に沈線。	堀1
I-G	131	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部刺突文。胴部沈線文。	堀1
I-G	132	-	口	黄褐	石英、輝・角、小石	横位沈線、縦位条線文。	堀1
I-G	133	-	口	灰褐	白粒、輝・角	口縁部内縁、口唇上部に沈線。	堀1
I-G	134	-	口	鈍黄橙	輝・角	口縁部内縁。「8」字状貼付文2列。	堀1
I-G	135	-	口	灰褐	白粒、輝・角	無文。	堀1
I-G	136	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線弧線文、刺突文。	堀1?
I-G	137	-	割	鈍橙	輝・角、小石	強い磨澄で。	堀1
I-G	138	-	割	橙	白粒、石英、小石	刺突を入れた隆帯が直下。沈線で柄縁を描出。	堀1
I-G	139	深鉢	下半分	灰白	白粒、輝・角	沈線文、微かに縄文。(底 14.4)	堀1
I-G	140	-	割	鈍黄橙	輝・角、小石	8字状貼付文から隆帯が直下。横に沈線2条。	堀1?
I-G	141	-	割	鈍黄橙	輝・角、黒頭母、小石	括れ部以下は沈線文。上部は刺突を入れた隆帯文。	堀1
I-G	142	-	口～割	灰黄	白粒、輝・角、小石	「V」字状隆線文、貼付文。沈線文。	堀1
I-G	143	深鉢	割	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	4本沈線での横位区画、縦位弧線文、縄文。	堀1
I-G	144	-	割	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状貼付文。沈線文。	堀1
I-G	145	-	割	浅黄橙～黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
I-G	146	-	割	灰黄	白粒、輝・角、小石	「8」字状貼付文。沈線文。	堀1
I-G	147	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。微かに縄文らしき痕跡見られる。	堀1
I-G	148	-	割	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状貼付文。沈線文、充填縄文。	堀1
I-G	149	-	割	灰黄	白粒、輝・角、	沈線文、刺突文、縄文。	堀1
I-G	150	-	割	鈍黄橙	輝・角	沈線文、126、114と同一個体か。	堀1
I-G	151	-	割	暗灰黄	白粒、輝・角	微かに条線文。	堀1
I-G	152	-	割	淡橙	白粒、輝・角	縄文、沈線。	堀1
I-G	153	-	割	鈍黄橙	白粒、輝・角	集合沈線。	堀1
I-G	154	-	割	灰黄	輝・角	条線文。	堀1
I-G	155	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-G	156	-	胴	淡橙	白乾、輝・角	条線文。	Ⅲ1
1-G	157	-	胴	浅黄橙	白乾、輝・角	沈線文。	Ⅲ1
1-G	158	-	口	暗褐	白乾、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅲ1
1-G	159	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。底面に網代痕あり。(底7.0)	Ⅲ1
1-G	160	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底、条線。底面研磨。(底7.0)	Ⅲ1
1-G	161	-	口	橙	白乾、小石	沈線幾何学文、縄文部と無文部の交互構成。	Ⅲ2
1-G	162	-	口～胴	灰褐	輝・角、小石	波状口縁、横位に沈線、縦帯、沈線2条。(底8.7) 字状貼付文から微隆線が直下と弧状に、瘤状小突起から平行波状波状文も垂下。	Ⅲ2?
1-G	163	-	口	鈍黄橙	白乾、輝・角	沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	Ⅲ2
1-G	164	-	口	鈍橙	白乾、輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	Ⅲ2
1-G	165	-	口	暗灰黄	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	Ⅲ2
1-G	166	-	口	黒褐	輝・角	口唇部内側沈線。縦沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	Ⅲ2
1-G	167	-	口	浅黄橙	白乾、輝・角	口唇部内側、上面に円形刺突列。補修孔有り。	Ⅲ2
1-G	168	-	胴	灰黄	輝・角	細沈線幾何学文、縄文。	Ⅲ2
1-G	169	-	胴	暗灰褐	白乾、輝・角	沈線文。隆かに縄文らしき痕跡見られる。	Ⅲ2
1-G	170	-	胴	灰黄	白乾、輝・角	刺突を入れた隆帯、網状隆帯、縦位隆帯。	Ⅲ1
1-G	171	-	胴	鈍橙	白乾、小石	然赤文地文。沈線文。	EⅠ
1-G	172	-	胴	赤褐	白乾、小石	刺突列のある隆帯文、沈線文。	EⅠ
1-G	173	-	胴	黒	白乾、輝・角	刺突列、沈線区画、区画内沈線。	EⅡ
1-G	174	-	底	鈍橙	白乾、輝・角、小石	平底。平行隆帯、沈線、磨消縄文。	EⅡ
1-G	175	-	赤褐	白乾、輝・角	然赤文。	EⅠ	
1-G	176	-	口	灰黄	輝・角	波頂部内側太沈線。隆帯・沈線による渦巻文、充填縄文。	EⅢ
1-G	177	-	口	灰黄	輝・角	波頂部内側太沈線。隆帯・沈線による渦巻文、充填縄文。	EⅢ
1-G	178	-	口	淡橙	輝・角、小石	縄文、沈線区画。	EⅢ
1-G	179	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角	縦位沈線、充填縄文。その後継手状沈線文。	EⅢ
1-G	180	-	胴	鈍橙	白乾、輝・角	沈線区画、充填縄文。継手状沈線文。	EⅢ
1-G	181	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角	縦位沈線、充填縄文。その後継手状沈線文。	EⅢ
1-G	182	-	胴	淡橙	白乾、輝・角	垂直沈線、充填縄文。波状沈線。	EⅢ
1-G	183	-	胴	黒褐	白乾、輝・角	沈線、充填縄文。	EⅢ
1-G	184	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線、条線。	EⅢ
1-G	185	-	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯文、充填縄文。	EⅢ
1-G	186	-	胴	黒褐	白乾、輝・角	隆線文、充填縄文。	EⅣ
1-G	187	-	胴	黒	白乾、輝・角	上微隆線、下沈線。充填縄文。	EⅣ
1-G	188	-	底	灰黄	輝・角	平底、無文。	EⅣ～ Ⅲ?
1-G	189	-	口～胴	灰黄	輝・角	隆起線文、凹みのある円形貼付文。縄文。	EⅣ～ Ⅲ
1-G	190	-	口	鈍黄橙	白乾、輝・角	横位、縦位隆帯文。	EⅣ～ Ⅲ
1-G	191	-	口	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	192	-	突起	浅黄橙	小石	頂部内向きに瘤状貼付文。頂部から刺突を入れた隆帯が垂下。両側に沈線文、刺突文、縄文。	Ⅲ
1-G	193	-	胴	黒	石英、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅣ～ Ⅲ
1-G	194	-	口	灰黄	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚。沈線文、縄文。	Ⅲ
1-G	195	-	口	鈍黄橙	白乾、輝・角	口唇部縁有り。沈線文、縄文。	Ⅲ
1-G	196	-	口	暗褐	輝・角	口唇部内側。沈線文、充填縄文。	Ⅲ
1-G	197	-	口	灰褐	白乾、輝・角	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	198	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	199	-	口	橙	糖色粒、輝・角	沈線文。	Ⅲ
1-G	200	-	突起	暗灰黄	白乾、輝・角	突起部先端は破損。口唇部内側。沈線文。	Ⅲ
1-G	201	-	突起	暗灰褐	白乾、輝・角	波状口縁。口唇部内側。波頂部突起に穿孔。外面沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	202	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅲ
1-G	203	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅲ
1-G	204	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅲ
1-G	205	-	胴	鈍橙	白乾、輝・角、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	Ⅲ
1-G	206	-	胴	暗灰黄	白乾、輝・角	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	207	-	胴	灰黄	白乾、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	Ⅲ
1-G	208	-	胴	鈍黄橙	白乾、輝・角、小石	沈線文。	Ⅲ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、注記等	時期
1-G	209	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	210	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	211	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
1-G	212	-	胴	暗灰黄	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	213	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	214	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
1-G	215	-	胴	灰黄	白粒、黒粒、小石	沈線文。	称
1-G	216	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	217	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。	称
1-G	218	-	胴	暗灰黄	輝・角	沈線文。	称
1-G	219	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	称
1-G	220	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称
1-G	221	-	口	鈍黄橙～暗灰	輝・角、小石	隆帯区画、中央に円、刺突文、沈線文。	称
1-G	222	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、起みを入れた隆帯文。	称?
1-G	223	-	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	刺突・沈線を施す2段の横状把手。胴部は沈線文。	称
1-G	224	-	口	灰黄	金雲母、輝・角、小石	沈線文。	称新
1-G	225	-	口	灰褐	輝・角	口唇部縁有り。沈線文。	称新
1-G	226	-	胴	暗灰褐	輝・角、小石	沈線文。	称新
1-G	227	-	口	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	堀1古
1-G	228	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
1-G	229	-	口～胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	無文。(口29.6)	堀1古
1-G	230	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
1-G	231	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
1-G	232	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線、条線。	堀1
1-G	233	-	肥手	灰黄	石英、輝・角	把手部双頂、横から刺突。口唇部幅広、沈線、胴部は隆帯文。	堀1
1-G	234	-	口	鈍橙	輝・角	口唇部内掘。沈線文。	堀1
1-G	235	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部中や肥厚、沈線、条線。(口13.5)	堀1
1-G	236	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部に円形刺突、沈線で区画。	堀1
1-G	237	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角	飯頂部下に刺突、沈線文。頸部に隆帯垂下、括れ部に沈線。	堀1
1-G	238	-	胴	灰黄	石英、輝・角	括れ部に沈線、貼付文。以下は沈線文。上部は刺突を入れた隆帯文。	堀1
1-G	239	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	240	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	241	-	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
1-G	242	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	243	-	胴	浅黄橙	輝・角	条線文。	堀1
1-G	244	-	胴	黒	白粒、輝・角	条線文。	堀1
1-G	245	-	胴	鈍橙	輝・角	条線文、沈線。	堀1
1-G	246	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	247	-	胴	鈍橙	輝・角	円形刺突のある隆帯。条線文。	堀1
1-G	248	-	胴	橙	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	249	-	胴	黒	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	250	鉢	口～底	灰黄	輝・角	平底、強い撫で、2/3残存。(口12.4、底8.9、高8.1)	堀1
1-G	251	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	252	-	胴	暗灰褐	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	253	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1新
1-G	254	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線幾何学文、充填縄文。	堀1新
1-G	255	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1新
1-G	256	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。底面に刺代痕あり。(底19.9)	堀1新
1-G	257	-	胴～底	淡橙	輝・角、小石	無文。(底12.1)	堀1新
1-G	258	-	口	淡橙	白粒、黒雲母、小石	口縁部に刻みを持つ隆帯。沈線幾何学文、充填縄文。	堀2
1-G	259	-	口	黒褐	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。内外面に併付着。	堀2
1-G	260	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部刻みを入れた隆帯。平行沈線、充填縄文。	堀2
1-G	261	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文。	堀2
1-G	262	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
1-G	263	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底。底面に刺代痕あり。	堀2
II-G	264	-	胴	鈍橙	輝・角	「C」字状刺突を入れた隆帯。沈線文、縄文。	勝取2
II-G	265	-	口	鈍橙	金雲母、小石	口唇部に沈線の平行線と渦巻文。ともに上面に刻み、側面に刺突文を有する。	勝取3

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、度量等	時期
II-G	266	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	上面に刻み、中段に竹管刺突を入れた環状隆帯文。	Ⅷ1 b
II-G	267	-	胴	鈍黄橙	金雲母、小石	刺突文。	Ⅷ1 b
II-G	268	-	口	黒褐	金雲母、小石	押圧で粗む縞状突起。突起の左側は細かい刺突で方形に区画。	Ⅷ1 b
II-G	269	-	口	暗褐	白粒、金雲母	隆帯区画、区画内二重刺突文列、沈線。	Ⅷ5Ⅱ
II-G	270	-	口	赤褐	金雲母、小石	波状口縁、口縁部連続刺突文、隆帯。胴部断面押圧によると見られる重弧状文。	Ⅷ5Ⅱ
II-G	271	-	胴	黒褐	金雲母、小石	隆線文。	Ⅷ5Ⅱ
II-G	272	-	胴	鈍黄橙	褐色粒、金雲母、小石	横位隆線以下、横位沈線、縄文。	Ⅷ5Ⅳ
II-G	273	-	胴	橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	Ⅷ5Ⅳ
II-G	274	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文。	Ⅷ5Ⅳ
II-G	275	-	胴	橙	輝・角	刺突文列、微かに縄文。	Ⅷ5Ⅳ
II-G	276	-	胴	赤褐	白粒、小石	縄文、隆帯文。隆帯部に鱗状の刺突文が沿う。(七律目目群)	Ⅷ5Ⅳ
II-G	277	-	胴	橙	白粒、輝・角	2条1組の沈線文。	E1古
II-G	278	-	口	鈍赤褐	輝・角、小石、粗砂	横位沈線。沈線間を交互刺突で波状文挿く。	E1古
II-G	279	-	胴	橙	輝・角、小石	隆帯区画、区画内沈線文。下の隆線下縄文。	E1古
II-G	280	-	突起	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、橋状突起。波頂部内面から穿孔。	E1古
II-G	281	-	把手	淡橙	白粒、輝・角、小石	細みを入れた橋状把手。上面に渦巻文、口縁部は沈線文、刺突文。	E1古
II-G	282	-	突起	橙	白粒、輝・角、小石	右側は沈線渦巻文、左側は短沈線、刺突。	E1古
II-G	283	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	「U」字状隆帯。沈線と刺突で縦字状文や波状文を抽出。	E1古
II-G	284	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯。	E1古
II-G	285	-	口	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	沈線3条。上位幅広の沈線間では斜めの刺突を交互に入れる。	E1古
II-G	286	-	胴	橙	輝・角	隆帯、沈線による文様。	E1古
II-G	287	-	胴	灰黄	輝・角、小石	括れ部沈線間刺突文。胴部沈線文。	E1古
II-G	288	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	渦巻文等の沈線文。	E1新
II-G	289	-	突起	鈍橙	小石	波頂部外面に環状粘付文、その下にとどろ状の隆起。内屈する口唇部に太沈線。	E1新
II-G	290	-	口	橙	輝・角、小石、粗砂	沈線区画。筒状突出部は押圧により波形を呈する。	E1新
II-G	291	-	口	赤褐	白粒、輝・角	一部に刻みを入れた隆帯と沈線による文様構成。内側に縞状の隆起。	E1新
II-G	292	-	口	橙	輝・角、小石	大きく広がる口唇部上面に隆帯区画。縁は刻み状押圧。597と同一個体か。	E1新
II-G	293	-	口	暗赤褐	石英、輝・角、小石	縄文、隆帯、沈線文。	E1新
II-G	294	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	横位および「V」字状の隆帯区画、区画内沈線文。区画下縄文。橋状突起基部。	E1新 ～E1古
II-G	295	-	胴	鈍黄橙	輝・角	刺突文、隆帯区画、沈線文。	E1 ～E1古
II-G	296	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部横位沈線内を交互刺突した波状文。胴部縄文上に沈線波状文。	E1古
II-G	297	-	口	橙	白粒、赤色粒、小石	1対の沈線渦巻文。破片左下に小片彫刺突列。	E1古
II-G	298	-	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	隆帯・沈線で区画、渦巻文、区画内縄文。	E1古
II-G	299	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部隆帯区画、沈線文、刺突。胴部微かに縄文か条線文か。	E1古
II-G	300	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角	沈線を入れた隆帯で文様を構成。	E1古
II-G	301	深鉢	上半	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部沈線「U」字状文、磨消縄文。(口21.2)	E1古
II-G	302	-	突起	明赤褐	白粒、輝・角、小石	突起部、口縁部は隆帯・沈線による区画、渦巻文。区画内、胴部充填縄文。	E1古
II-G	303	-	突起	橙	石英、小石、粗砂	突起部正面と正面に渦巻文、隆帯区画の下、胴部縄文。	E1古
II-G	304	-	突起	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、文様。区画内沈線。	E1古
II-G	305	-	口	鈍橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E1古
II-G	306	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、文様。区画内沈線。	E1古
II-G	307	-	口	鈍橙	白粒、褐色粒、粗砂	橋状突起有り。隆帯・沈線区画、区画内刺突。胴部縄文。	E1古

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	308	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様、区画内 縄文、割部無文。	E II
II-G	309	-	口	暗褐	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画、区画内充填縄文。	E II
II-G	310	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内および割部は縄文。	E II
II-G	311	-	口	灰褐	輝・角、小石	隆帯・沈線で区画、渦巻文。区画内および割 部縄文。	E II
II-G	312	-	口	赤褐	白粒、輝・角	狭状口縁、隆帯区画、区画内沈線。	E II
II-G	313	-	口~割	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	縄文、横位沈線。	E II
II-G	314	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	縄文、平行沈線。	E II
II-G	315	-	口	鈍橙	輝・角、黒雲母、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	316	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	317	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部絞有り。横位沈線文、縦位糸線文、括 れ部に沈線。	E II
II-G	318	-	口	浅黄橙	輝・角	平行沈線、括糸文。	E II
II-G	319	-	口	灰黄	輝・角、小石	沈線文、割文文。	E II
II-G	320	-	割	灰青	白粒、輝・角	縦線状の沈線文、破片上辺に横位沈線底。	E II併
II-G	321	-	口	暗赤褐	白粒、小石	狭状口縁、沈線区画、縄文。	E II
II-G	322	-	口	橙	輝・角、小石	口縁部沈線部に竹管状実列、頸部状文、括 れ部沈線絞状文、貼付文直有り。(口15.0)	E II
II-G	323	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚、口縁部区画、区画内とも沈線。	E II
II-G	324	-	把手?	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線文、破片右側に径2cmほどの丁寧な穿孔。 内面は雫。	E II
II-G	325	-	突起	灰褐	白粒、輝・角	突起部上向き縦手状文、割部縄文、平行隆帯、 突起部下沈線「し」字状文。	E II
II-G	326	-	口	黒灰	輝・角、小石	隆帯文、沈線文。	E II
II-G	327	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	一部新文を入れる隆帯区画、区画内沈線文。	E II
II-G	328	-	口	淡橙	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文、区画内沈線、縄文。	E II
II-G	329	-	口	暗赤褐	石英、輝・角	隆帯・沈線で区画、渦巻文、区画内沈線、割 部糸線文。	E II
II-G	330	-	口	黒褐	白粒、輝・角、粗砂	斜状隆帯、沈線。	E II
II-G	331	-	口	浅黄橙	白粒、小石	隆帯区画、文様。	E II
II-G	332	-	突起	暗赤褐	輝・角、小石、粗砂	瘤状の突起、沈線を入れた隆帯で区画、区画 内沈線。	E II
II-G	333	-	突起	橙	白粒、石英、小石	口唇部上面に沈線、口縁部沈線区画、区画内 縄文。	E II
II-G	334	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文、沈線。 区画間に上面に渦巻文を撫す突起。	E II
II-G	335	-	口	淡橙	白粒、輝・角	細い波状口縁、波頂部に刺突、割部は縄文、 沈線連弧文。	E II
II-G	336	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	波頂部外面に隆帯渦巻文、渦巻内に沈線文。 口唇部沈線が波頂部上面で渦巻文。	E II
II-G	337	-	口	黄褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。	E II
II-G	338	-	把手	橙	輝・角、小石	沈線を撫す隆帯区画から繋がる構状突起。区 画内斜実列、把手正面に貫通孔。	E II?
II-G	339	-	割	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯、沈線、その下に縄文。	E II
II-G	340	-	割	赤褐	白粒、輝・角	糸線文、沈線文。	E II
II-G	341	-	割	橙	褐色粒、輝・角、小石	平行隆帯の下に縄文、その下に沈線。	E II
II-G	342	-	割	黒褐	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	E II
II-G	343	-	割	鈍黄橙	白粒、輝・角	括糸文、隆帯文。	E II
II-G	344	-	割	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、隆帯。	E II
II-G	345	-	割	灰青	白粒、輝・角	隆線文、磨治縄文。	E II
II-G	346	-	割	橙	白粒、赤色粒、輝・角	縄文、平行沈線。	E II
II-G	347	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯文、磨治縄文。	E II
II-G	348	-	割	灰褐	白粒、輝・角	括糸文、隆線文。	E II
II-G	349	-	割	灰褐	白粒、輝・角	括糸文、沈線区画、隆帯縦手状文。	E II
II-G	350	-	割	鈍橙	輝・角、小石	R I 縄文、沈線文。	E II
II-G	351	-	割	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	352	-	割	暗赤褐	白粒、輝・角、粗砂	縄文、沈線文。	E II
II-G	353	-	割	灰白	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	354	-	割	鈍橙	輝・角、小石	縄文、隆帯文、一部糸線集中。	E II
II-G	355	-	割	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	356	-	割	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	357	-	割	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、注量等	時期
II-G	358	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	359	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行隆帯文による渦巻状文、充填縄文。	E II
II-G	360	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	横位平行沈線、渦巻状文、充填縄文。	E II
II-G	361	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	器系文、沈線文。	E II
II-G	362	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯垂下、沈線渦巻文、それぞれに刺突文。	E II?
II-G	363	-	胴	暗赤褐	石英、輝・角、小石	沈線文。	E II
II-G	364	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯小連珠文、沈線文。	E II
II-G	365	-	胴	暗灰黄	白、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	E II
II-G	366	-	胴	橙	輝・角、小石	環状隆帯の向脇と内部に沈線文。	E II
II-G	367	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	368	-	胴	灰	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画、区画内沈線。	E II
II-G	369	-	胴	橙	白粒、小石	沈線編織文の上に沈線波状文。	E II
II-G	370	-	胴	鈍橙	輝・角、小石、粗砂	平行隆帯、以下微かに縄文。	E II
II-G	371	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	372	-	胴	鈍黄橙	輝・角	微かに条線文? 隆帯文、突起部。	E II
II-G	373	-	胴	赤褐	輝・角、小石	微かに縄文? 隆帯文。	E II
II-G	374	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	器系文、沈線文。	E II
II-G	375	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	器系文。	E II
II-G	376	-	胴	灰白	輝・角	沈線3条。地文は器系文か。	E II
II-G	377	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線。	E II
II-G	378	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。微かに縄文。	E II
II-G	379	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	E II
II-G	380	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、沈線、縄文。	E II
II-G	381	-	底	淡橙	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	E II
II-G	382	-	底	橙	赤色粒、輝・角	平底、沈線、縄文。	E II
II-G	383	-	肥手?	鈍黄橙	白粒、輝・角	側面、上面に沈線。外面は3辺と透かし孔周囲に沈線。角は渦巻文。	E II
II-G	384	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底、縄文、隆帯。	E II
II-G	385	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	縄文、向脇沈線の隆帯文。	E II
II-G	386	-	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線。胴部縄文。	E II新
II-G	387	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II新
II-G	388	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	条線文。(口9.2)	E II~III
II-G	389	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	条線文。	E II
II-G	390	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底5.6)	E II~III
II-G	391	-	胴	浅黄橙	輝・角	状文、沈線。原体押圧による小波状文。	E II~III
II-G	392	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	縄文。	E II~III
II-G	393	-	底	鈍黄橙	輝・角	無文。(底6.0)	E II~III
II-G	394	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底、縄文。(底11.2)	E II~III
II-G	395	残跡	口~胴	淡橙	石英、小石	口唇部肥厚、太沈線。胴部無文。内面煤付着。(口25.4)	E II~III
II-G	396	-	口	赤褐	白粒、小石	無文。口唇部肥厚。	E II~III
II-G	397	-	口	鈍橙	輝・角、小石	無文。	E II~III
II-G	398	-	口	橙	赤色粒、輝・角	口唇部縁有り、無文。	E II~III
II-G	399	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II~III
II-G	400	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II~III
II-G	401	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内縄文。胴部へ平行沈線垂下。	E III
II-G	402	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部肥厚。区画内円形刺突。	E III
II-G	403	-	口~胴	暗灰黄	輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部平行沈線。磨消縄文。	E III
II-G	404	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	E III
II-G	405	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	隆帯・沈線区画。区画内磨消縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、注量等	時期
II-G	406	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・太沈線による区画。	EⅡ
II-G	407	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様。区画内および胴部縄文。	EⅡ
II-G	408	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・太沈線区画。区画内縄文。	EⅡ
II-G	409	-	口	暗灰褐	白粒、赤色粒、小石	口縁部隆帯区画。区画内縄文。胴部平行沈線、磨消縄文。	EⅡ
II-G	410	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯楕円形区画、円形文。区画内および胴部縄文。	EⅡ
II-G	411	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	太沈線で区画。区画内縄文。	EⅡ
II-G	412	-	口	黒	白粒、輝・角、小石	太沈線で区画。区画内縄文。	EⅡ
II-G	413	-	口～胴	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。口縁部隆帯・太沈線の区画。胴部は沈線区画、文様。磨消縄文。	EⅡ
II-G	414	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波状口縁。隆帯区画、磨消文。	EⅡ
II-G	415	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部太沈線区画、磨消文。胴部平行沈線。磨消縄文。	EⅡ
II-G	416	-	突起	淡橙	白粒、褐色粒	突起部両側から凹む。太沈線、縄文。	EⅡ
II-G	417	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	418	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形列突列を入れた沈線が2条。胴部沈線文、磨消縄文。	EⅡ
II-G	419	-	口～胴	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。二重沈線「n」字状文、充填縄文。	EⅡ
II-G	420	-	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文符の区に隆帯区画、縄文、沈線文。	EⅡ
II-G	421	-	胴	淡橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	422	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	隆帯区画。平行沈線垂下、L・R充填縄文。	EⅡ
II-G	423	-	胴	灰黄～黒褐	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	424	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	425	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。442、426と同一個体か。	EⅡ
II-G	426	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。425、442と同一個体か。	EⅡ
II-G	427	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	428	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	EⅡ
II-G	429	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	430	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	平行沈線、伏文。452と同一個体の可能性有り。	EⅡ
II-G	431	-	胴	赤褐	白粒、小石	平行沈線文、磨消縄文。	EⅡ
II-G	432	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	433	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角、小石	太沈線楕円形区画。区画内縄文。中絶沈線垂下、充填縄文。	EⅡ
II-G	434	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。一部傷付着。	EⅡ
II-G	435	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	436	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	沈線、充填縄文。	腫脹2
II-G	437	-	胴	鈍黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	太沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	438	-	胴	灰褐	白粒、赤色粒、輝・角	微隆起線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	439	-	胴	灰黄	輝・角	沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	440	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
II-G	441	-	胴	鈍橙	白粒、金雲母、輝・角	沈線文、縄文。	EⅡ
II-G	442	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。425、426と同一個体か。	EⅡ
II-G	443	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	横位太沈線、縦位沈線、充填縄文。傷付着。	EⅡ
II-G	444	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。沈線文。	EⅡ
II-G	445	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	446	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。その後波状沈線。	EⅡ
II-G	447	-	胴	灰黄	白粒、小石	縄文、沈線文。	EⅡ
II-G	448	-	胴	橙～赤	輝・角、小石、粗砂	平行沈線、縄文。沈線波状文。	EⅡ
II-G	449	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・太沈線区画、縄文。	EⅡ
II-G	450	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	EⅡ
II-G	451	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、小石	沈線文。	EⅡ
II-G	452	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	隆帯・太沈線区画。区画内縄文。	EⅡ
II-G	453	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線。縄文部と無文部の交互構成。	EⅡ
II-G	454	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。	EⅡ
II-G	455	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石、粗砂	隆帯と太沈線で渦巻状文、区画内縄文。	EⅡ
II-G	456	-	胴	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	条線文、沈線文。	EⅡ
II-G	457	-	胴	鈍橙	白粒、小石	条線文、沈線文。	EⅡ
II-G	458	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縦位隆帯。3単位条線文。	EⅡ
II-G	459	-	胴	暗赤褐	石英、小石	条線波状文。	EⅡ
II-G	460	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	条線波状文。	EⅡ
II-G	461	-	胴	橙	白粒、輝・角	重なり合う。条線垂文。	EⅡ
II-G	462	-	胴	黒褐	輝・角、小石	条線文。	EⅡ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、注量等	時期
II-G	463	-	胴	暗褐	輝・角、小石	条線状文。	E III
II-G	464	-	胴	灰褐	輝・角、小石	条線文、沈線文。	E III
II-G	465	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	E III
II-G	466	深鉢	下半	橙	白粒、赤色粒、輝・角	胴部平行沈線、充填文。平底。(底 7.0)	E III
II-G	467	-	底	橙	赤色粒、輝・角	平底、平行隆帯、縄文。	E III
II-G	468	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	やや丸みを帯びる平底、無文。	E III
II-G	469	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 7.2)	E III
II-G	470	-	底	淡橙	輝・角	縄文、沈線。(底 8.8)	E III
II-G	471	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	E III
II-G	472	胎台	底	鈍橙	褐色粒、小石	無文、楕円形と思われる透かし孔2カ所。1/3 残存。(底 17.8)	E III?
II-G	473	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	無文、一部厚付着。	E III~ IV
II-G	474	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	柄部横位沈線、以下縄文。	E III~ IV
II-G	475	-	胴	鈍黄橙	輝・角	微隆起文、充填文。	E IV
II-G	476	-	口	灰褐	輝・角、小石	縄文、隆線文。	E IV
II-G	477	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部縄文後、 沈線文。	E IV
II-G	478	-	口	橙	輝・角	横位隆線。	E IV
II-G	479	-	底	鈍い橙	白粒、輝・角	平底、無文、端部突出。	中期後
II-G	480	-	口	灰黄	白粒、小石	沈線、縄文。	E IV~ 称
II-G	481	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆線、縄文。	E IV~ 称
II-G	482	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	突起、横位微隆起部、一部瘤状に高まる。	E IV~ 称
II-G	483	-	口	鈍橙	輝・角	波状口縁、沈線文、短沈線状刺突文。	称
II-G	484	-	口	暗灰	白粒、黒雲母	横位沈線。	称
II-G	485	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部隆線。胴部沈線文。	称
II-G	486	-	突起	暗褐	輝・角、小石	突起部上面には円形刺突と沈線門、口唇部には沈線で囲まれた刺突列。	称
II-G	487	-	胴	浅黄橙	黒雲母、小石	沈線文。	称
II-G	488	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、充填文。	称
II-G	489	-	胴	灰黄	輝・角、小石	沈線文。	称
II-G	490	-	突起	淡橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
II-G	491	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線。	称
II-G	492	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
II-G	493	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	称
II-G	494	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、刺突文。	称
II-G	495	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線。	称
II-G	496	-	底	橙	白粒、小石、粗砂	平底、無文。端部やや突出。(底 14.0)	称-堀 1
II-G	497	-	口	灰褐	白粒、輝・角	横位沈線下、直かに沈線文、縄文。	称-堀 1古
II-G	498	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部瘤状押圧形。胴部沈線文。	堀1古
II-G	499	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1古
II-G	500	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	条線文。	堀1古
II-G	501	-	突起	灰黄	輝・角、小石	突起中央の貫通孔の周辺に刺突、沈線。口縁部は沈線区画、刺突。	堀1
II-G	502	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	斜めに筋状隆帯、沈線文、縄文。	堀1
II-G	503	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線。	堀1
II-G	504	-	口	暗灰黄	輝・角、小石	波頂部に刺突3点、連係する沈線。	堀1
II-G	505	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀1
II-G	506	-	口	鈍橙	白粒、小石	上面、外面に沈線。円筒状付文による刺突。一部貫通。円形貼付文に刺突。	堀1
II-G	507	-	口	淡橙	白粒、粗砂	口縁部は沈線と頰みを入れた隆帯。胴部は沈線区画、条線文。	堀1
II-G	508	-	口	鈍黄橙	輝・角、黒雲母、小石	口縁部に沈線2条。	堀1
II-G	509	-	突起	暗灰黄	輝・角、小石	刺突3点、連係する沈線。破片最下部に沈線。	堀1
II-G	510	-	口	灰褐	白粒、輝・角	無文。	堀1
II-G	511	-	口	灰	輝・角、小石	沈線。	堀1
II-G	512	-	突起	浅黄橙	輝・角	片方の突起が欠損。刺突、沈線。突起下の穴は最後に内側から穿たれ貫通する。	堀1

出土地点	No.	原種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	513	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部に沈線文。胴部は然否未か。	Ⅱ1
II-G	514	-	口～胴	淡橙	白粒、小石	波状口縁波頂部肥厚、沈線、頸部無文、胴部微かに沈線、縄文。	Ⅱ1
II-G	515	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、沈線文。括れ部胎付文から刻みを入れた際帯が直下。	Ⅱ1
II-G	516	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線直下。	Ⅱ1
II-G	517	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文。	Ⅱ1
II-G	518	-	胴	黒褐	白粒、小石	「8」字状胎付文。沈線文、充填縄文。	Ⅱ1
II-G	519	-	頸	鈍褐	白粒、輝・角	「8」字状胎付文の横に沈線、上へ微隆起線。	Ⅱ1
II-G	520	-	腹	橙	輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅱ1
II-G	521	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線縄文。	Ⅱ1
II-G	522	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	横位平行沈線、渦巻状文。	Ⅱ1
II-G	523	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線。	Ⅱ1
II-G	524	-	胴	灰褐	輝・角、金雲母、小石	沈線文。	Ⅱ1
II-G	525	-	胴	黒褐	輝・角	条線文、平行沈線。	Ⅱ1
II-G	526	-	胴下半	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	平底、無文。(底8.0)	Ⅱ1
II-G	527	-	胴	鈍橙	白粒、小石	無文。	Ⅱ1?
II-G	528	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線。	Ⅱ1
II-G	529	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	平底、無文。(底7.8)	Ⅱ1?
II-G	530	鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	貫通孔のある山形小突起。無文。(口13.0)	Ⅱ1?
II-G	531	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	上面に縄文、両脇に沈線を施した隆帯文。	Ⅱ1
II-G	532	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文、文差箇所は倒突。	Ⅱ1新
II-G	533	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、石英	波状口縁。波頂部に縦沈線。	Ⅱ1新
II-G	534	-	突起	鈍黄橙	輝・角	波頂部下貫通孔。突起に連係する沈線。胴部沈線文。	Ⅱ1新
II-G	535	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状胎付文。沈線文、充填縄文。	Ⅱ1新
II-G	536	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯、斜めに沈線。	Ⅱ1新
II-G	537	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線幾何学文、充填縄文。	Ⅱ1新
II-G	538	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ1新
II-G	539	-	底	黒褐	白粒、輝・角	やや上げ底。(底8.5)	Ⅱ1～ 2
II-G	540	-	胴	極暗赤褐	輝・角、小石	沈線文、沈線凹縄文。	Ⅱ1新
II-G	541	-	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ2
II-G	542	-	口	鈍橙	白粒、小石	沈線文。	Ⅱ2
II-G	543	-	口	浅黄橙	輝・角	無文。	Ⅱ2
II-G	544	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	Ⅱ2
II-G	545	-	口	橙	輝・角、小石	無文。	Ⅱ2
II-G	546	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅱ2
II-G	547	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文と無文部の交互構成。	Ⅱ2
II-G	548	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	条線文。	Ⅱ2
II-G	549	-	胴	暗灰黄	輝・角	平行微隆起線。	Ⅱ2?
II-G	550	-	胴	鈍橙	白粒、小石	刻みを入れた隆帯。沈線文、充填縄文。	Ⅱ2
II-G	551	-	胴	黒	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ2
II-G	552	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に割代痕あり。端部やや突出。内部の仕上げが粗。(底5.2)	Ⅱ2
II-G	553	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	平底、無文。よく研磨される。	Ⅱ2
II-G	554	-	底	鈍橙	白粒、小石	平底、無文。端部やや突出。	Ⅱ2
II-G	555	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底9.2)	Ⅱ2
II-G	556	-	底	暗灰黄	白粒、輝・角	平底。底面に割代痕あり。(底8.4)	Ⅱ2
II-G	557	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	微かに上げ底。無文。端部やや突出。(底8.5)	Ⅱ2
II-G	558	-	底	鈍橙	白粒、小石	平底。無文。端部突出。(底10.5)	Ⅱ2
II-G	559	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線区画。充填縄文。	Ⅱ2新
II-G	560	-	口	灰褐	輝・角	波状口縁。横位平行沈線。	Ⅱ2新
II-G	561	-	胴	暗褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ2新
II-G	562	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	条線文。	Ⅱ?
II-G	563	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底8.2)	Ⅱ
II-G	564	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底9.0)	Ⅱ?
II-G	565	鉢	口～底	浅黄橙	輝・角	ミニチュア。無文。(口3.4、底3.2、高4.9)	EⅡ
II-G	566	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、無文。(底10.8)	後期
II-G	567	注口	注口	暗灰	白粒、輝・角	無文。先磨り。	Ⅱ
II-G	568	手捏	1/2残	鈍黄橙	白粒、赤色粒、輝・角	無文。鉢か。(口2.6、底5.6、高5.7)	?
2-G	569	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角	沈線文、平帯竹管や爪での刺突文、充填縄文。突った三角形の彫り込みあり。	Ⅱ新3

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	570	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部と横位隆帯に刻み、口縁部は隆帯と割突文で楕円形に区画、区画内無文。	阿玉I b
2-G	571	-	口	鈍橙	金雲母、小石	隆帯区画、区画内横状割突文。	阿玉I b
2-G	572	-	胴	淡橙	白乾、金雲母、小石	隆帯に菊状の押圧。その上下に波状条線文。	阿玉II
2-G	573	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	隆帯、2列に割突文。	阿玉II
2-G	574	-	胴	鈍黄橙	金雲母、小石	隆帯区画、爪形文、割突文、沈線文。	阿玉III
2-G	575	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	弧状隆帯、同心円状沈線文。	中期中
2-G	576	-	突起	赤褐	輝・角、小石	2段ブリッジの輪状突起。上面に縄文、側面に割突文。胴部は沈線文、縄文。	阿玉IV
2-G	577	-	突起	淡橙	石英、輝・角、小石	上面、胴面に環状胎付文、口唇部研突、沈線。	中期前
2-G	578	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文。	中期中
2-G	579	-	胴	橙・黒	輝・角、小石	隆線文。	中期中
2-G	580	-	口	鈍赤褐	白乾、輝・角	口縁部沈線区画、中段無文で上段・下段に円形割突を交互に入れる。胴部条線文	E I 古
2-G	581	-	口	鈍橙	白乾、輝・角、小石	口唇部に刻み、横位沈線の間に交互割突による波状文を挿入。	E I 古
2-G	582	-	胴	赤褐	輝・角、小石	隆帯文。	E I 古
2-G	583	-	口	橙	輝・角、小石	沈線文、腹片下部は刻みを入れた隆帯。	E I 古
2-G	584	-	突起	赤褐	赤色粒、輝・角、小石	輪状突起、胴部沈線文、縄文。	E I
2-G	585	-	口	橙	白・赤粒、輝・角、小石	口縁部上半無文、下半に黒系文、括れ部に隆帯。	E I 併
2-G	586	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯、沈線による区画、区画内および胴部隆帯系文。	E I
2-G	587	-	突起	灰褐	白乾、輝・角、小石	正面中央に凹み、上部に凹み、側面は段れるような沈線文。	E I ?
2-G	588	-	突起	橙	白乾、小石、粗砂	両側から迫り上がる突起、両側面に穿孔。沈線で文線構成。	E I ?
2-G	589	-	胴	橙	白乾、輝・角	横位沈線、面に交互割突。	E I
2-G	590	-	胴	極暗赤褐	白乾、輝・角、小石	刻みを入れた隆帯、沈線文。沈線間に斜位沈線を撫す部分有り。	E I
2-G	591	-	胴	鈍橙	白乾、輝・角、小石	沈線文。	E I ?
2-G	592	-	胴	灰白	輝・角	黒系文。	E I
2-G	593	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	隆帯文、微かに条線。	E I
2-G	594	-	胴	赤褐	白乾、輝・角、小石	隆帯、縄文。	E I
2-G	595	-	口	赤褐	輝・角、小石	太沈線を撫す太い隆帯が両側から迫り上がる突起。	E I 新
2-G	596	-	胴	黒褐	輝・角、小石	黒系文、隆帯文。	E I 新
2-G	597	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部に隆帯区画、渦巻文、刻み状押圧。胴部は隆線3条垂下。292と同一か。	E I 新
2-G	598	-	口~胴	鈍赤褐	白乾、輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様。胴部微かに縄文。	E I 新
2-G	599	-	口	淡橙	白乾、輝・角、小石	口縁部沈線間交互割突。胴部沈線文、微かに縄文。	E I 新 ~ E I - II
2-G	600	-	底	淡橙	白乾、輝・角、小石	平底、黒系文。(底10.0)	E I - II
2-G	601	-	口~胴	橙	輝・角、小石	突起、口縁部は沈線区画、区画内短沈線。胴部は隆帯垂下、充填縄文。	E II
2-G	602	-	突起	鈍赤褐	輝・角、小石	突起部上面に沈線文、口縁部沈線文、充填縄文、割突文。頸部無文帯下に沈線。	E II
2-G	603	-	口	淡橙	輝・角	刻みを入れた隆帯で区画、区画内沈線。	E II
2-G	604	-	口	鈍橙	白乾、小石	隆帯区画、「w」字状文。	E II
2-G	605	-	口	鈍黄橙	白乾、輝・角	縄文、隆帯で区画、文様。	E II
2-G	606	-	口	橙	白乾、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。	E II
2-G	607	-	口	暗赤褐	石英、小石	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E II
2-G	608	-	口	暗灰	白乾、小石	隆帯による区画、文様。区画内沈線。	E II
2-G	609	-	口	橙	白・赤粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様、微かに縄文。	E II
2-G	610	-	口	鈍赤褐	赤色粒、輝・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
2-G	611	-	口	灰黄	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
2-G	612	-	口	灰褐	輝・角	無文帯下に隆帯、胴部縄文。	E II
2-G	613	-	口	橙	輝・角、小石	条線文。	E II
2-G	614	-	口	橙	白乾、輝・角、粗砂	口縁部隆帯・沈線区画、区画内割突文、胴部縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	615	-	口~胴	黄橙	白、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、渦巻文、区画内沈線、胴部平行沈線、充填縄文。	E II
2-G	616	-	突起	淡橙	輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、文様、胴部沈線3条重下、充填縄文。	E II
2-G	617	-	口	淡橙	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E II
2-G	618	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、文様、区画内縄文。	E II
2-G	619	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	粗く浅い沈線文。	E II?
2-G	620	-	口	黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線を入れた隆帯で区画、区画内沈線。突起物が穴落した痕跡有り。	E II?
2-G	621	-	突起	鈍黄橙	小石	隆帯区画が波頭部で捻転する突起。左口唇部と胴部に沈線文。	E II
2-G	622	-	胴	橙	白粒、小石	隆帯区画、区画内刺突、沈線。	E II
2-G	623	-	突起?	鈍赤褐	石英、輝・角、小石	沈線渦巻文。	E II
2-G	624	-	胴	黄橙	白粒、輝・角	隆帯文、縄文。	E II
2-G	625	-	胴	鈍赤褐	輝・角、小石	捺赤文、沈線文。	E II
2-G	626	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	上部隆帯文、下部平行沈線。充填縄文。	E II
2-G	627	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯2条の下に縄文。	E II
2-G	628	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	沈線区画。充填縄文。	E II
2-G	629	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、平行沈線。	E II
2-G	630	-	胴	橙	輝・角、小石	条線、3条の隆帯。	E II
2-G	631	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、隆線文。	E II
2-G	632	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	隆帯文、磨消縄文。	E II
2-G	633	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	634	-	胴	灰白	輝・角	平行沈線。充填捺赤文。	E II
2-G	635	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線文、充填捺赤文。	E II
2-G	636	-	胴	鈍赤褐	白粒、石英、輝・角	沈線文、縄文。	E II
2-G	637	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	638	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
2-G	639	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	捺赤文、沈線文。	E II
2-G	640	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	641	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
2-G	642	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、筋状隆帯。	E II
2-G	643	-	胴	暗赤褐	白粒、小石	線かに縄文の痕跡。	E II
2-G	644	-	胴	橙	白粒、赤色粒、輝・角	地文は捺赤文か。横位平行沈線。	E II?
2-G	645	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	縦位沈線。横位短沈線。	E II併
2-G	646	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	E II
2-G	647	-	口	浅黄橙	金雲母、輝・角	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E II
2-G	648	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画。	E II
2-G	649	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	E II
2-G	650	-	底?	淡橙	白粒、輝・角	脚部には隆帯の剥がれた痕と縄文。胴部は隆帯で文様構成小。	E II
2-G	651	-	底	淡橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、縄文。(底 8.8)	E II
2-G	652	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底。隆帯、縄文。(底 10.8)	E II
2-G	653	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	隆帯で区画。区画内縄文と隆帯波状文。	E II新
2-G	654	-	口	橙	白粒、小石	無文。口唇部に保存者。	E II~ E III
2-G	655	-	口	暗灰	白粒、褐色粒	無文。	E II~ E III
2-G	656	-	口	淡橙	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。R.L横位充填縄文。	E II古
2-G	657	深鉢	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁部は斜位。胴部は縦位の集合沈線。横位・縦位の筋状隆帯。	E II併
2-G	658	-	口	灰	輝・角、小石	口縁部2条の沈線の間に円形刺突。胴部も沈線上から2条の太沈線で波状文。	E III
2-G	659	-	口	黒褐	白粒、輝・角	条線文。	E III?
2-G	660	-	口	灰黄褐	白粒、小石、粗砂	2段円形刺突。縦位集合沈線、沈線文。	E III
2-G	661	-	口	灰	白粒、輝・角	波状口縁。沈線区画。区画内充填縄文。	E III
2-G	662	深鉢	口~底	鈍黄橙	白粒、輝・角	4単位波状口縁、口唇部肥厚。口縁部は隆帯と沈線で、削れた楕円形区画、区画内充填縄文。平行沈線間の充填縄文上から縦手波状沈線が垂下。1/2残存。(口 29.8、底 7.9、高 35.4)	E III
2-G	663	-	突起	鈍黄橙	輝・角	隆帯・沈線による区画、波頭部下に円形文。胴部平行沈線。区画内・胴部縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	664	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線区画、文様、区画内縄文。	EⅢ
2-G	665	-	突起	鈍黄橙	褐色粒、輝・角	隆帯と太沈線での渦巻文。	EⅢ
2-G	666	-	上半	淡橙	白粒、輝・角、	口縁部隆帯区画、胴部平行沈線、充填縄文。 1/4 残存。(口 26.7)	EⅢ
2-G	667	-	突起	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画、文様、区画内縄文。	EⅢ
2-G	668	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画文様、区画四上部に円形突起。区画内・胴部は充填縄文。	EⅢ
2-G	669	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線での区画、区画内円形突起文、胴部縄文。	EⅢ
2-G	670	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、粗砂	隆帯・太沈線による区画、文様、区画内縄文。	EⅢ
2-G	671	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	EⅢ
2-G	672	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線、縄文。	EⅢ
2-G	673	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	口縁部上部に沈線、胴部縄文、隆帯文。	EⅢ併
2-G	674	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文、胴部平行沈線。	EⅢ
2-G	675	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	無文帯の下横位隆帯、その下縄文。	EⅢ
2-G	676	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部肥厚、胴部縄文。	EⅢ
2-G	677	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	横位太沈線、縦位面沈線、条線文。	EⅢ
2-G	678	-	口~胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角、小石	横位隆帯下に沈線区画、円形文様、区画内および胴部に縄文。	EⅢ
2-G	679	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太い沈線、胴部 R L 横位縄文。	EⅢ
2-G	680	-	突起	赤褐色	赤色粒、石英、小石	波首部太隆帯で途切れた突起、胴部に沈線文か。	EⅢ
2-G	681	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	隆帯区画、縄文帯と無文帯の交互構成。	EⅢ
2-G	682	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	683	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	684	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、縄文帯と無文帯の交互構成。	EⅢ
2-G	685	-	胴	浅黄橙・暗灰	白粒、輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	EⅢ
2-G	686	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	EⅢ
2-G	687	-	胴	灰白	褐色粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	688	-	胴	鈍黄橙	石英、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	689	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	EⅢ
2-G	690	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	691	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、R L 充填縄文。	EⅢ
2-G	692	-	胴	淡橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	693	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	694	-	胴	淡橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	695	-	胴	鈍橙	金雲母、輝・角	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	696	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	697	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文、沈線文。	EⅢ
2-G	698	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線「日」字状文、充填縄文。	EⅢ
2-G	699	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	700	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、粗砂	沈線、縄文。	EⅢ
2-G	701	-	胴	灰黄	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	EⅢ
2-G	702	-	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯文渦巻状文、沈線区画、充填縄文。	EⅢ
2-G	703	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線縦手状文、槽内形状区画文、区画内充填縄文。	EⅢ
2-G	704	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、縄文。	EⅢ
2-G	705	-	胴	灰褐	輝・角	平行沈線、充填縄文、沈線波状文。	EⅢ
2-G	706	-	胴	鈍黄橙	輝・角	捺糸文。	EⅢ
2-G	707	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	EⅢ?
2-G	708	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、集合沈線波状文。	EⅢ
2-G	709	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	波状条線文。	EⅢ
2-G	710	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	横位 R L 縄文。	EⅢ
2-G	711	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、沈線、縄文。	EⅢ
2-G	712	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅢ
2-G	713	-	底	浅黄橙	褐色粒、輝・角	やや丸みを帯びる平底、無文。(底 6.6)	EⅢ
2-G	714	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、縄文、沈線文。(底 7.0)	EⅢ
2-G	715	-	底	灰白	白粒、輝・角	微かに縄文の痕跡。(底 7.2)	EⅢ
2-G	716	-	底	灰褐	輝・角	平底、縄文。	EⅢ
2-G	717	-	口	灰白	石英、輝・角、小石	口縁部肥厚、口縁部無文帯の下に横位隆帯。	EⅣ
2-G	718	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	横位隆帯。	EⅣ
2-G	719	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部肥厚、無文帯の下縄文。	EⅣ
2-G	720	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	EⅣ
2-G	721	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	隆帯文、平行沈線、充填縄文。	EⅣ
2-G	722	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、充填縄文。	EⅣ
2-G	723	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅣ

出土地点	No.	器種	部位	色澤	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	724	-	底	鈍赤褐色	輝・角、小石	平底、無文。(底 9.5)	中期
2-G	725	-	底	浅黄橙	石英、輝・角、小石	平底、無文。(底 6.6)	中期
2-G	726	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 4.8)	中期後
2-G	727	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 7.5)	中期後
2-G	728	-	底	橙	赤色粒、石英、小石	平底、無文。	中期後
2-G	729	-	口	黒褐	白粒、輝・角	横位隆縁。以下圖文。	E IV - 終
2-G	730	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆縁、縄文。	E IV ~ 終
2-G	731	-	口	浅黄橙	輝・角、粗砂	横位・縦位の隆縁。	E IV - 終
2-G	732	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	二重沈線文。間に縦線沈線文。(口 26.5)	終
2-G	733	-	口	鈍黄橙	白粒、赤色粒	沈線文、刺突文。	終
2-G	734	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	735	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	二重沈線文。間に縦線沈線文。	終
2-G	736	-	口	淡橙	白粒、小石	横位沈線、刺突文。	終
2-G	737	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	終
2-G	738	-	口	灰白	輝・角、小石	沈線区画、刺突文。	終
2-G	739	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	終
2-G	740	-	口	鈍橙	輝・角、金粟母(少)	沈線文、刺突文。	終
2-G	741	-	口	浅黄橙	輝・角、粗砂	沈線文。	終
2-G	742	-	口~胴	暗褐	白粒、石英、輝・角	口縁部2条の隆縁の内側に沿って円形刺突文、胴部沈線文、充填縄文。	終
2-G	743	-	口	鈍黄橙	輝・角、粗砂	無文。	終
2-G	744	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	口縁部2条沈線の間に横位刺突列、胴部縄文。	終併
2-G	745	-	口	赤	赤色粒、輝・角	沈線文。	終
2-G	746	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	短沈線文。	終
2-G	747	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	2条の隆縁区画の内側に2列の円形刺突文、胴部は沈線、縄文。	終
2-G	748	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部後有り。無文。	終?
2-G	749	-	口	暗褐	輝・角、小石	無文。	終?
2-G	750	-	口	橙	白粒、小石	無文。	終?
2-G	751	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	終
2-G	752	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	753	-	口	鈍橙	白粒、小石	波面部の突起が欠損。胴部は沈線文、充填縄文。	終
2-G	754	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	終
2-G	755	-	胴	淡橙	輝・角	沈線、刺突文。	終
2-G	756	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	757	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	終
2-G	758	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	759	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	終
2-G	760	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線文。	終
2-G	761	-	胴	淡黄	輝・角、小石、粗砂	沈線文、刺突文。	終
2-G	762	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線、刺突文。	終
2-G	763	-	胴	淡黄橙	輝・角、小石	沈線文。	終
2-G	764	-	胴	黒褐	白粒、褐色粒、小石	平行沈線、短沈線状の刺突。	終
2-G	765	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	終
2-G	766	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	767	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	終
2-G	768	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、刺突文。	終
2-G	769	-	胴	浅黄橙	白粒、褐色粒	雨垂れ状刺突文。	終
2-G	770	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、刺突文。	終
2-G	771	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文。	終
2-G	772	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。破片中尖に如みを入れた隆帯。	終
2-G	773	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	終
2-G	774	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線「J」字状文、充填縄文。	終
2-G	775	-	胴	鈍橙	石英、小石	沈線文、充填縄文。	終
2-G	776	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	終
2-G	777	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	終
2-G	778	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 9.2)	終?
2-G	779	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	終
2-G	780	-	口~胴	鈍橙	小石	貼付文2個。	終併?
2-G	781	-	胴	暗灰黄	輝・角	隆帯2条の上に沈線。	終
2-G	782	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 13.6)	終

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	783	-	胴	黒	輝・角、小石	無文。	称?
2-G	784	-	底	浅黄橙	輝・角	やや上げ底、無文。(底 8.8)	称
2-G	785	-	胴	暗灰	輝・角、小石	無文。注口部の付け根部分。	称
2-G	786	浅鉢	口～底	淡橙～暗灰	白粒、輝・角	無文。平底。2/3 残存。(口 17.8、底 6.5、高 5.0)	称新
2-G	787	-	口	淡橙	褐色粒、輝・角	顔状隆帯、沈線文、刺突文。	称新
2-G	788	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称～ 1古
2-G	789	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称新～ 1古
2-G	790	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、無文。	称～ 1古
2-G	791	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。	称～ 1古
2-G	792	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 11.2)	称～ 1古
2-G	793	-	胴	鈍橙・黒	白粒、輝・角	沈線文。	1古
2-G	794	-	胴	鈍黄橙・黒	白粒、輝・角、小石	沈線文。	1古
2-G	795	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。	1古
2-G	796	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	沈線文。	1古
2-G	797	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角、石英	口縁部無文帯有り、以下韻文。	1
2-G	798	-	口	暗褐	輝・角、小石	条線文。	1
2-G	799	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	条線文。	1
2-G	800	-	突起	淡橙	白粒、輝・角	捻板状突起。正面刺突と刻みを有する隆帯、左右対称に刺突、沈線文、縄文。	1
2-G	801	-	口	淡橙	輝・角	口唇部沈線、胴部縄文。	1
2-G	802	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	捻状口縁、刺突、沈線文。胴部縄文、隆線。	1
2-G	803	-	口	灰白	輝・角	口唇部に沈線。胎付文の欠落痕から斜位刻みを入れた隆帯垂下。胴部沈線区画、区画内縄文。	1
2-G	804	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	突起正面は渦巻状、両脇の円形刺突と連係して口唇部に沈線。外面突起部下の円形刺突から斜位刻み入りの隆帯垂下。両側に沈線文。	1
2-G	805	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部沈線間に刺突列。胴部縄文。	1
2-G	806	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	突起部下は弧状沈線文、円形刺突と繋がる沈線間に刺突列。胴部縄文。	1
2-G	807	-	突起	橙	石英、黒雲母、小石	上面に沈線。正面縁に刻み、中心に渦巻文。胴部は縄文。	1併
2-G	808	-	突起	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	口縁部円形刺突2個、太沈線。胴部縄文、細沈線。	1
2-G	809	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部横位太沈線。胴部細沈線文。	1
2-G	810	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部内屈。沈線コンパス文、微かに縄文。	1
2-G	811	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線。首筋縄文。	1
2-G	812	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部刺突、沈線。胴部縄文、隆線。	1
2-G	813	-	口	暗赤褐	石英、小石	口唇部に刻み状の押圧。胴部縄文。	1
2-G	814	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位沈線口唇部2条、口縁部1条。	1
2-G	815	-	口	暗灰黄	輝・角、小石、粗砂	沈線。	1
2-G	816	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	緩やかな波状口縁、刺突、沈線文。	1
2-G	817	-	口	淡橙	生増粒、輝・角、小石	口唇部内屈、胴部無文。	1
2-G	818	-	口	黒灰	輝・角	口唇部沈線。胴部無文。	1
2-G	819	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。胴部無文。	1
2-G	820	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内屈。	1
2-G	821	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部円形押圧列、太沈線。	1
2-G	822	-	口	暗灰	輝・角	突起部正曲線位沈線、刺突と連係する沈線。	1
2-G	823	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。	1
2-G	824	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内屈、口唇部上面に沈線。	1
2-G	825	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部太沈線。	1
2-G	826	-	口	浅黄橙	白粒、石英、小石	口唇部内屈。強い横撫で。	1
2-G	827	-	口	淡橙	輝・角、小石、粗砂	口唇部両面に沈線、刺突。	1
2-G	828	-	口	暗灰	輝・角	隆線、条線文。	1
2-G	829	-	口	浅黄橙	輝・角	顔状隆帯、以下条線文。	1
2-G	830	-	口	灰	輝・角	無文。	1
2-G	831	-	突起～胴	灰褐	白粒、小石	瘤状突起、貫通孔両側に刺突、沈線。柄縁部に沈線。「8」字状胎付文。	1
2-G	832	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部内側にやや突出。「8」字状胎付文と連係する横位沈線。	1
2-G	833	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線区画。「8」字状胎付文。	1
2-G	834	-	口	淡い橙	白粒、輝・角	2ないし4単位の条線文。	1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	835	-	口	灰黄褐	輝・角、小石	無文。	Ⅷ-1
2-G	836	-	口	灰橙	赤色粒、輝・角	円形刺突、沈線2条。	Ⅷ-1
2-G	837	-	口	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	無文。	Ⅷ-1
2-G	838	-	口	橙	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚、口縁部沈線2条。	Ⅷ-1
2-G	839	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部肥厚、上面沈線、胴部微かに縄文。	Ⅷ-1
2-G	840	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	突起部下に貫通孔。無文。	Ⅷ-1?
2-G	841	-	突起	浅黄橙	輝・角	内面に環状貼付文、刺突、沈線。	Ⅷ-1
2-G	842	-	口	橙	輝・角、金雲母(少)	瘤状突起。沈線文。	Ⅷ-1
2-G	843	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	環状貼付文から下に環状隆帯、横に沈線。	Ⅷ-1
2-G	844	-	胴	灰	輝・角	括れ厚横位沈線、以下縄文。「8」字状貼付文から環状隆帯が垂下。	Ⅷ-1
2-G	845	-	胴	鈍黄橙	輝・角	環状貼付文から環状隆帯垂下。	Ⅷ-1
2-G	846	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1
2-G	847	-	胴	灰白	赤色粒、石英、小石	括れ部2条の沈線と刺突文。「8」字状貼付文の下に沈線文、磨消縄文。	Ⅷ-1
2-G	848	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ-1
2-G	849	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ-1
2-G	850	-	胴	暗灰	輝・角	刺突、沈線文。区画内3単位の刻み状帯横文。	Ⅷ-1
2-G	851	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1
2-G	852	-	胴	暗褐	輝・角、小石	縄文、沈線文。	Ⅷ-1
2-G	853	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	上から沈線2条、刺突列、沈線、縄文。	Ⅷ-1
2-G	854	-	胴	浅黄橙	輝・角	縄文、沈線文。破片上部に円形刺突、横位沈線。	Ⅷ-1
2-G	855	-	胴	暗灰黄	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。850と同一個体か。	Ⅷ-1
2-G	856	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。	Ⅷ-1
2-G	857	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1
2-G	858	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角、粗砂	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1
2-G	859	-	胴	黒褐	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。855と同一個体か。	Ⅷ-1
2-G	860	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ-1
2-G	861	-	胴	灰白	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	Ⅷ-1
2-G	862	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文。	Ⅷ-1
2-G	863	-	胴	灰褐	輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	864	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	Ⅷ-1
2-G	865	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	866	-	胴	灰黄	赤色粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	867	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	868	-	胴	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	869	-	胴	橙	白粒、赤色粒、小石	条線文。	Ⅷ-1
2-G	870	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	Ⅷ-1
2-G	871	-	胴	淡橙	褐色粒、輝・角	平行沈線。間に沈線波状文。	Ⅷ-1
2-G	872	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	縄文、隆帯。	Ⅷ-1?
2-G	873	-	胴	灰黄	輝・角、小石	縄文。	Ⅷ-1
2-G	874	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線文。	Ⅷ-1
2-G	875	-	胴	灰	白粒、輝・角	縄文。	Ⅷ-1?
2-G	876	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	縄文。	Ⅷ-1
2-G	877	-	胴	鈍橙	輝・角	無文。	Ⅷ-1?
2-G	878	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	879	-	胴	鈍黄橙	輝・角	縄文。	Ⅷ-1?
2-G	880	-	胴	鈍橙	輝・角、粗砂	条線文。	Ⅷ-1
2-G	881	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1?
2-G	882	-	胴	鈍褐	輝・角、小石	条線文。	Ⅷ-1
2-G	883	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	Ⅷ-1?
2-G	884	-	胴	灰褐	褐色粒、輝・角	条線文。	Ⅷ-1
2-G	885	深鉢	底欠	鈍橙	白粒、輝・角、小石	3単位沈線で直線、曲線を組み合わせる文様、一部充填縄文。(口20.5)	Ⅷ-1新
2-G	886	-	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部横位隆帯。胴部微隆起縄文、交点に円形刺突文。(口15.8)	Ⅷ-1新
2-G	887	-	胴	暗灰	輝・角	縄文、沈線文。	Ⅷ-1新
2-G	888	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1新
2-G	889	-	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1新
2-G	890	-	胴	淡橙	白粒、赤色粒、輝・角、小石	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。	Ⅷ-1新
2-G	891	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1新
2-G	892	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ-1新
2-G	893	-	底	黒褐	白粒、輝・角	平底、無文。端部やや突出。	Ⅷ-1・2
2-G	894	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文。	Ⅷ-2

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、度量等	時期
2-G	895	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白靨、輝・角、小石	口縁部下半に微かに縄文。胴部沈線文。(口22.8)	Ⅱ 2
2-G	896	-	口～底	浅黄橙	白靨、輝・角	口縁部横位隆帯2条。やや上げ底で端部突出、割代痕。1/4残存。(口14.8、底7.0、高14.8)	Ⅱ 2
2-G	897	-	胴	灰黄褐	白靨、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	898	-	口～胴	鈍黄橙	白靨、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	899	深鉢	上半	灰黄	輝・角	口縁部鎖状隆帯。胴部沈線幾何学文、充填縄文部と無文部の交互構成。(口22.0)	Ⅱ 2
2-G	900	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	口縁部細い鎖状隆帯2段。胴部沈線幾何学文、充填縄文。係付着。	Ⅱ 2
2-G	901	-	口～胴	灰褐	輝・角、小石	「8」字状胎付文から横へ短みを持つ隆帯。胴部沈線文。	Ⅱ 2
2-G	902	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。刺突に準係する鎖状隆帯。	Ⅱ 2
2-G	903	-	口	黒褐	輝・角、小石	鎖状隆帯、沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	904	-	口	鈍黄橙	白靨、輝・角	細い鎖状隆帯。胴部沈線文。	Ⅱ 2
2-G	905	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部内屈。鎖状隆帯。	Ⅱ 2
2-G	906	-	口	鈍黄橙	輝・角	横位・縦位の鎖状隆帯。下に沈線。	Ⅱ 2
2-G	907	-	口	鈍橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	908	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	「8」字状胎付文と連係する2段の鎖状隆帯。	Ⅱ 2
2-G	909	-	突起	黒褐	輝・角	突起部上面、内面に刺突。正面に貫通孔と細い鎖状隆帯。	Ⅱ 2
2-G	910	-	突起	黒灰	白靨、輝・角	口唇部沈線。突起部下に「8」字状胎付文、内面に縦位沈線、刺突文。	Ⅱ 2
2-G	911	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	Ⅱ 2
2-G	912	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	Ⅱ 2
2-G	913	-	胴	暗灰	白靨、輝・角、小石	沈線縄文文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	914	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線、沈線文。	Ⅱ 2 ?
2-G	915	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	916	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	Ⅱ 2
2-G	917	-	胴	黒褐	白靨、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。918と同一個体か。	Ⅱ 2
2-G	918	-	胴	暗褐	白靨、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。917と同一個体か。	Ⅱ 2
2-G	919	-	胴	暗灰	白靨、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	920	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	921	-	胴	暗灰	白靨、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	922	-	口	鈍橙	白靨、小石	口唇部内側に突出。口唇部・突起部上面に沈線文、外面折れ部に横位沈線。	Ⅱ 2
2-G	923	-	胴	鈍橙	白靨、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅱ 2
2-G	924	-	口	暗灰黄	白靨	波頂部。「8」字状胎付文の痕跡。沈線幾何学文、筋の細かい縄文。	Ⅱ 2
2-G	925	-	口	暗灰褐	白靨、輝・角	条線文。	Ⅱ
2-G	926	-	口	淡橙	輝・角、小石	無文。	Ⅱ ?
2-G	927	-	口	淡橙	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	Ⅱ ?
2-G	928	-	脚部?	暗灰	白靨、輝・角	無文。係付着。内面の整形はやや中盤。	Ⅱ ?
2-G	929	-	底	鈍黄橙	白靨、輝・角	程か上げ底。底面に割代痕あり。(底10.6)	Ⅱ
2-G	930	-	底	橙	白靨、赤色粒、小石	平底、無文。端部突出。(底7.8)	Ⅱ
2-G	931	-	底	浅黄橙	白靨、輝・角	無文。端部突出。	Ⅱ
2-G	932	-	口	暗褐	輝・角、小石、粗砂	無文。(口21.2)	Ⅱ 期?
2-G	933	-	口	淡橙	金雲母、小石	口唇部上面平ら。2条の隆帯でできた溝をまたく横位突起。	Ⅱ
2-G	934	-	胴	暗褐	白靨、輝・角	条線文。	Ⅱ 1
2-G	935	-	胴	鈍黄橙	輝・角	ランダムな細沈線。	後期
2-G	936	手捏	完形	鈍黄橙	白靨、輝・角	手捏ね、平底、無文。底部に係付着。(口4.8、底3.7、底3.3)	後期
2-G	937	-	上半	暗褐	白靨、輝・角	肩状突起、上面に刺突。口縁部刺突に連係する沈線。胴部横位沈線、沈線文。	B 1
2-G	938	-	胴	黒褐	白靨、輝・角	沈線文。	B 1
2-G	939	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部に縄文、沈線。無文部の下に細い鎖状隆帯。胴部に斜位沈線文。	B 1
2-G	940	-	胴	鈍橙	白靨、小石	横位・斜位沈線。	B 1
2-G	941	-	胴	鈍黄橙	白靨、輝・角	沈線文、充填縄文。	B 1 ?
Ⅲ-G	942	-	底	橙	白靨、小石	平底、縄文。(底8.2)	E 1 ~ Ⅱ

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅲ-G	943	-	底	淡橙	赤色粒、小石	平底、無文。(底11.1)	EⅠ～ Ⅱ
Ⅲ-G	944	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	2本の沈線間に鎖状刺突。	EⅡ併
Ⅲ-G	945	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	946	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文、区画内縄文。954と同一個体の可能性有り。	EⅡ
Ⅲ-G	947	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、沈線波状文。948～950と同一個体か。	EⅡ
Ⅲ-G	948	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	EⅡ
Ⅲ-G	949	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	EⅡ
Ⅲ-G	950	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	EⅡ
Ⅲ-G	951	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	縄文後、平行沈線、波状沈線。	EⅡ
Ⅲ-G	952	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	EⅡ
Ⅲ-G	953	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文、隆帯による区分	EⅡ
Ⅲ-G	954	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、文様、区画内縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	955	-	胴	灰褐	白色粒、輝石・角四石	頸部短文帯の下、縄文後隆帯貼付。	EⅡ
Ⅲ-G	956	-	底	淡橙	白・赤色粒、石英、小石	平底、無文。(底9.8)	EⅡ?
Ⅲ-G	957	-	底	灰白	白粒、輝・角	平底、無文。底部やや突出。(底7.3)	EⅡ～ Ⅲ
Ⅲ-G	958	-	口	灰白	石英、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	959	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	960	-	口	灰黄褐	輝・角、小石	波状口縁、口唇部沈線、内側に横有り。胴部沈線文。	EⅡ
Ⅲ-G	961	-	口	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	962	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚、胴部縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	963	-	口	灰褐	白粒、輝・角、粗砂	口唇部肥厚、口縁部隆線、胴部縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	964	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、口縁部隆線、胴部縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	965	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角、粗砂	隆帯区画、区画内縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	966	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	微隆起縁で充填縄文部と無文部を区画。	EⅡ
Ⅲ-G	967	-	胴	暗灰	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	968	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	微隆起縁、縄文部と無文部の交互構成。	EⅡ
Ⅲ-G	969	-	胴	明黄褐	白粒、小石	平行沈線、充填縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	970	-	胴	灰	白粒、輝・角	沈線文。微かに充填縄文。	EⅡ
Ⅲ-G	971	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	底部付近で先廻りの隆帯。	EⅡ
Ⅲ-G	972	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。(底14.2)	EⅡ
Ⅲ-G	973	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底8.3)	EⅢ～ Ⅳ
Ⅲ-G	974	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、内側に横有り。口縁部隆帯。	EⅣ
Ⅲ-G	975	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	隆線文。	EⅣ
Ⅲ-G	976	-	胴	淡橙	白粒、石英、小石	隆線垂下。	EⅣ
Ⅲ-G	977	-	脚部	淡橙	白粒、小石	無文。	中期後
Ⅲ-G	978	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底6.8)	中期
Ⅲ-G	979	-	底	灰黄褐	白粒、輝・角	平底、無文。(底7.9)	中期
Ⅲ-G	980	-	口	暗灰	白粒、輝・角、小石	横位隆線。	EⅣ
Ⅲ-G	981	-	口～胴	灰黄褐	白粒、小石	口縁部横位、胴部縦位の隆線文。内面褐色。	EⅣ～ Ⅴ
Ⅲ-G	982	-	突起～胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	渡辺部中央に貫通孔。胴部は沈線間に縄文。	Ⅴ
Ⅲ-G	983	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	無文。	Ⅴ?
Ⅲ-G	984	-	胴	鈍橙・黒	白粒、輝・角、小石	微隆起縁で充填縄文部と無文部を区画。	EⅣ～ Ⅴ
Ⅲ-G	985	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部横位微隆起縁。	EⅣ～ Ⅴ
Ⅲ-G	986	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	無文。	Ⅴ
Ⅲ-G	987	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅴ
Ⅲ-G	988	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部縄文、胴部沈線文。	Ⅴ1
Ⅲ-G	989	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	横位沈線、その下縄文。	Ⅴ
Ⅲ-G	990	-	口～胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	Ⅴ
Ⅲ-G	991	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部沈線、胴部沈線文。	Ⅴ
Ⅲ-G	992	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	胴部比線幾何学文様。文様内微かに縄文。	Ⅴ
Ⅲ-G	993	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部沈線、胴部沈線文。	Ⅴ
Ⅲ-G	994	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部肥厚、上面に刺突と沈線、胴部沈線文、刺突文。	Ⅴ
Ⅲ-G	995	-	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部内凹、鋭い横有り。外面沈線文、区画内刺突文。1007と同一個体か。	Ⅴ
Ⅲ-G	996	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	口唇部斜位刺突列の下に沈線。	Ⅴ?

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	997	-	口	浅黄橙	白粒、金雲母、小石	口縁部2条の沈線の間に円形刺突文。	你?
III-G	998	-	口	黒灰	白粒、小石	口唇部2条沈線、間に竹管刺突文。	你
III-G	999	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部縁有り。円形刺突文。	你
III-G	1000	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、刺突文。	你
III-G	1001	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部沈線で区画、区画内刺突文。	你
III-G	1002	-	口~胴	鈍橙	白・褐粒、輝・角、小石	口縁部沈線2条、胴部沈線文。	你
III-G	1003	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線間に刺突文。	你
III-G	1004	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。口縁部刺突入り隆帯区画、区画内沈線。	你
III-G	1005	-	口	浅黄橙	白色粒、輝石・角閃石	内外面に隆帯帯る。	
III-G	1006	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部刻みと沈線。波頂部から刻みを入れた隆帯垂下。	你
III-G	1007	-	突起	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	基部外面は沈線、刺突文。内面は突出し、鋭い稜を持つ。995と同一個体か。	你
III-G	1008	-	突起~胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平縁状突起か。口唇部円形刺突と連係する沈線。胴部短文。	你
III-G	1009	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	你
III-G	1010	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。充填縄文。	你
III-G	1011	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角	沈線文。充填縄文。	你
III-G	1012	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1013・1024と同一個体か。	你
III-G	1013	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1012・1024と同一個体か。	你
III-G	1014	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文。充填縄文。	你
III-G	1015	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文。	你
III-G	1016	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。充填縄文。	堀1
III-G	1017	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	你
III-G	1018	-	胴	鈍黄	白粒、輝・角、小石	沈線文。縄文。	你
III-G	1019	-	胴	黒黄	輝・角、小石	疎疎起縁沿いに円形刺突文、下に沈線文、充填縄文。	你
III-G	1020	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	你
III-G	1021	-	胴	鈍橙	白粒、石英、輝・角	沈線測魯文。充填縄文。	你
III-G	1022	-	胴	鈍橙	輝・角	平行沈線。充填縄文。	你
III-G	1023	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	沈線文。	你
III-G	1024	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1013・1012と同一個体か。	你
III-G	1025	-	胴	黒	白・褐粒、輝・角、小石	沈線文。	你
III-G	1026	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文。雨垂れ状刺突文。1037と同一個体の可能性有り。	你
III-G	1027	-	胴	灰黄褐	白粒、石英、輝・角	沈線文。刺突文。	你
III-G	1028	-	胴	淡橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1029	-	胴	灰	褐色粒、輝・角	沈線文。竹管斜位刺突文。	你
III-G	1030	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1031	-	胴	灰	白粒	沈線文。竹管斜位刺突文。	你
III-G	1032	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。刺突文。	你
III-G	1033	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線垂下。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1034	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線垂下。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1035	-	胴	浅黄橙	赤色粒、石英、小石	沈線文。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1036	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線。雨垂れ状刺突文。	你
III-G	1037	-	胴	黒黄	白粒、輝・角	沈線文。雨垂れ状刺突文。1026と同一個体か。	你
III-G	1038	-	胴	灰白	白粒、小石	沈線文。刺突文。	你
III-G	1039	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。窪付唇。	你
III-G	1040	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	盤かに沈線文の痕跡。左上に胎付文の一部。	你
III-G	1041	-	口~胴	黒灰	輝・角、小石	交点に刺突を入れた隆縁文。円孔は注口部か。	堀1
III-G	1042	-	胴	淡橙	輝・角、小石	環状突起。刺突文。沈線文。円形に調整した印象有り。他に胎用か。	你
III-G	1043	-	突起?	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	手捏ねのミニチュア土器?	?
III-G	1044	-	底	淡橙	白粒、輝・角。	平底。(底8.6)	你-堀
III-G	1045	-	底	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	平底。無文。(底8.2)	你-堀
III-G	1046	-	底	橙	白粒	平底。(底8.3)	你-堀
III-G	1047	-	底	浅黄橙	輝・角	平底。無文。(底7.8)	你-堀
III-G	1048	-	胴~底	橙	輝・角、小石、粗砂	無文。(底8.7)	你-堀
III-G	1049	-	口~胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	口唇部縁有り。胴部沈線間に刺突文。	你-堀 1古

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、流量等	時期
III-G	1050	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	剣先施文部と無文部を沈線文で区画。1051と同一個体と思われる。	群一編 1古
III-G	1051	-	胴	淡橙	白粒、小石	剣先施文部と無文部を沈線文で区画。1050と同一個体か。	群一編 1古
III-G	1052	-	口	灰黄	褐色粒、石英、小石	口唇部に菊み状の押圧。胴部は沈線文、剣先文。	群1古
III-G	1053	-	口	橙	白粒、石英、小石	口唇部に菊み状の押圧。	群1古
III-G	1054	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	口唇部円形剣先、沈線。胴部沈線文。	群1古
III-G	1055	-	突起	明黄褐	白粒、石英、小石	突起部に剣先、口唇部上面に沈線。胴部沈線文。	群1古
III-G	1056	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部に円形穴、沈線。胴部沈線文。 1060と同一個体と思われる。	群1古
III-G	1057	-	口	鈍黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部に点線、円形剣先。胴部沈線文、剣先文。	群1古
III-G	1058	-	口	淡橙	石英、小石	口唇部に沈線。	群1古
III-G	1059	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部に隆帯で囲んだ円形剣先と連係する沈線。	群1古
III-G	1060	-	口	暗灰	白粒、輝・角	口唇部に円形穴、沈線。胴部沈線文。 1056と同一個体と思われる。	群1古
III-G	1061	-	口~胴	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部内屈。胴部沈線文。	群1古
III-G	1062	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	貫通孔に2条の横位沈線。間に剣先文。	群1古
III-G	1063	-	突起	浅黄橙	輝・角	貫通孔の周囲に沈線文。	群1古
III-G	1064	-	口	鈍橙	褐色粒、輝・角	口唇部上面に沈線。胴部沈線文。	群1古
III-G	1065	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線。	群1古
III-G	1066	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	群1古
III-G	1067	-	胴	黒灰	石英、輝・角、小石	沈線文。	群1古
III-G	1068	-	胴	橙	輝・角	沈線3条。「8」字状貼付文。	群1古
III-G	1069	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、粗砂	沈線文。	群1古
III-G	1070	-	胴	黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、爪形文。	群1古
III-G	1071	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角、小石	沈線文。	群1古
III-G	1072	-	胴	淡橙	白・褐色粒、輝・角、小石	沈線文。	群1古
III-G	1073	-	胴	灰黄褐	白・赤粒、輝・角、粗砂	沈線文。	群1古
III-G	1074	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	無文。堀付着。	群1古
III-G	1075	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	群1古
III-G	1076	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文。沈線間に鎖状剣先文。	群1古
III-G	1077	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線文。	群1古
III-G	1078	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	群1古
III-G	1079	-	口~胴	橙	白粒、輝・角	口唇部沈線、円形剣先文。胴部沈線、滑消縄文。	群1
III-G	1080	-	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部横位沈線。胴部縄文、沈線文。	群1
III-G	1081	-	口	鈍橙	白粒、石英、輝・角	口唇部肥厚。縄文、沈線文、剣先文。	群1
III-G	1082	-	口	灰白	輝・角	沈線文、剣先文、充填縄文。	群1
III-G	1083	-	口	淡橙	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縄文、沈線垂下。	群1
III-G	1084	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。内面に横位沈線。	群1
III-G	1085	-	口	鈍黄橙	石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縄文、条線文。	群1
III-G	1086	-	口	淡橙	白粒、小石	口唇部肥厚。沈線。胴部縄文。	群1
III-G	1087	-	口	灰黄	白粒、輝・角	無文。	群1
III-G	1088	-	口	橙	白粒、小石	口唇部上面は円形剣先、沈線。口縁部は剣先文を入れた隆帯区画。	群1
III-G	1089	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	剣先部を陥す隆帯と沈線による区画。区画内縄文。	群1
III-G	1090	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	口縁部2条の沈線の間に方形剣先列。	群1
III-G	1091	-	口	灰	白粒、小石	沈線区画。区画内と区画間に有斜位剣先。	群1
III-G	1092	-	口	淡橙	褐色粒、輝・角、小石	口唇部沈線間に鎖状隆帯。胴部沈線文、剣先文。	群1
III-G	1093	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	鎖状口縁。沈線文、剣先文。	群1
III-G	1094	-	口	浅黄橙	輝・角	突起部円形剣先。口縁部沈線区画。	群1
III-G	1095	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線間に鎖状隆帯。	群1
III-G	1096	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線2条。	群1
III-G	1097	-	口	橙	褐色粒、小石	沈線区画。区画内縄文。区画間に剣先文。	群1
III-G	1098	-	口~胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	口唇部円形剣先と沈線。胴部沈線文。	群1
III-G	1099	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部円形剣先2列。沈線。胴部微かに沈線。	群1
III-G	1100	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	突起部円形剣先。口縁部沈線。	群1
III-G	1101	-	口~胴	灰白	赤色粒、石英、小石	口縁部円形剣先と沈線。胴部沈線文。間に鎖状剣先列。	群1
III-G	1102	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部円形剣先と沈線。胴部沈線間に剣先文。	群1
III-G	1103	-	口	暗灰	白粒、小石	口縁部円形剣先と沈線。	群1
III-G	1104	-	突起・口	灰白	金雲母、白粒、小石	突起基部に円形剣先。口縁部沈線区画。	群1
III-G	1105	-	口	暗灰褐	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚。口縁部剣先と連係する沈線。胴部無文。	群1
III-G	1106	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	口縁部太沈線。胴部剣先文?	群1

出土地点	No.	器種	部位	色澤	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅲ-G	1107	-	突起	灰青	白粒、輝・角	口唇部内形刺突と連係する沈線、胴部刺突文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1108	-	口	橙	石英、小石	口唇部沈線、胴部刺突、丸沈線系下、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1109	-	口	赤褐	白粒、小石	口唇部沈線、胴部刺突文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1110	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1111	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部内形刺突と連係する沈線、胴部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1112	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1113	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部沈線、胴部内形刺突文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1114	-	口	灰褐	白粒、小石	口縁部内形刺突列、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1115	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口唇部刻み状押圧、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1116	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部内形刺突文2個、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1117	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部内形刺突と連係する沈線、胴部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1118	-	突起	黄橙	赤色粒、輝・角、小石	波頂部中央に貫通孔、円形刺突、左右に沈線文、 口縁沈線間に鎖状刺突文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1119	-	突起	灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、竹管刺突文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1120	-	突起	橙	白粒、小石	波頂部下に円形刺突を囲む沈線文、口唇部に 円形刺突と沈線、胴部縦位障線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1121	-	突起	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	波頂部沈線弧線文、刺突文と連係する沈線、 胴部微かに縄文、沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1122	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	波状口縁、口縁部に刺突と沈線、波頂部刺突 と連係した類みの入る障帯が系下、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1123	-	突起	浅黄橙	白粒、輝・角	波頂より左右に沈線弧線文、刺突文と連係する 沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1124	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部上面に沈線、胴部沈線文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1125	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部縦位沈線、胴部条線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1126	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線、胴部縦位沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1127	-	口~胴	淡橙	白粒、石英、小石	口縁部平行沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1128	-	口~胴	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内外面に沈線巡る、胴部無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1129	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部に沈線巡り、円形押圧痕2個、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1130	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部太沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1131	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1132	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1133	-	口~胴	浅黄橙	輝・角	口唇部沈線、胴部粗い無で、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1134	-	口~胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口唇部内形刺突と沈線、胴部無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1135	-	口	鈍橙	白粒、石英、小石	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1136	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1137	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部内形刺突、沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1138	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1139	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1140	-	口	灰	白粒、輝・角	波状口縁、波頂部内面に円形穿孔、口縁部に 障帯巡る、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1141	-	突起	橙	褐色粒、小石	波頂部下に円形孔、口唇部に円形刺突と連係 する沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1142	-	口	黒	輝・角、小石	波状口縁頂部下に貫通孔、口唇部刺突、沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1143	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部内面に横位沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1144	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1145	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部沈線、刺突、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1146	-	突起	鈍赤褐	白粒、小石	瘤状突起、上面に刺突と連係する沈線、外面 は無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1147	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部は連続して三日月状に削り取る文様、 胴部は無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1148	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	無文、胴部粗い無で、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1149	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	円形刺突入り貼付文、沈線2条、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1150	-	口	灰白	輝・角	口唇部沈線、胴部粗い無で、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1151	-	口	橙	白粒、小石、粗砂	無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1152	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部尖る。無文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1153	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	上下に刺突を入れた貼付文、胴部は沈線文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1154	-	突起	灰白	白粒、小石	突起部中央に穴、下部欠落、口唇部刺突・沈線、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1155	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部上面に刺突3個、	Ⅲ1?
Ⅲ-G	1156	-	口~胴	黒灰	輝・角、小石	沈線文、充填縄文、	Ⅲ1
Ⅲ-G	1157	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、文様内微かに縄文、	Ⅲ1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、分量等	時期
III-G	1158	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	刺突を持つ貼付文を囲む沈線文。その外側に目の細かい縄文。	Ⅷ1
III-G	1159	-	胴	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅷ1
III-G	1160	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1161	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	Ⅷ1?
III-G	1162	-	胴	鈍赤褐・黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	Ⅷ1
III-G	1163	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ1
III-G	1164	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅷ1
III-G	1165	-	胴	橙	輝・角、小石	竹管刺突、沈線文、縄文。	Ⅷ1
III-G	1166	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ1
III-G	1167	-	胴	灰	白粒、輝・角	縄文。	Ⅷ1
III-G	1168	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	縄文。	Ⅷ1
III-G	1169	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	Ⅷ1
III-G	1170	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	無印縄文を縦位・横位に施文。	Ⅷ1
III-G	1171	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	括れ部の沈線2条の下は縄文。	Ⅷ1
III-G	1172	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	円形刺突入り貼付文、沈線文、竹管斜位刺突文。	Ⅷ1
III-G	1173	-	胴	淡橙	石英、輝・角、小石	「8」字状貼付文、横位沈線間に刺突文、沈線孤線文。	Ⅷ1
III-G	1174	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	「8」字状貼付文の下半分。沈線文。	Ⅷ1
III-G	1175	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	沈線文、括れ部の貼付文に円形刺突。	Ⅷ1
III-G	1176	-	胴	灰黄褐	白粒、小石	「8」字状貼付文、沈線、刺突。	Ⅷ1
III-G	1177	-	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	瘤状貼付文と連係する瘤状隆帯。	Ⅷ1
III-G	1178	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、小石	「8」字状貼付文が割かれた痕有り。そこから横へ沈線2条、下へ瘤状隆帯。	Ⅷ1
III-G	1179	-	胴	淡橙	褐色粒、石英、輝・角	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1180	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	括れ部に横位沈線。	Ⅷ1
III-G	1181	注口	注口基部	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1182	-	胴	灰白	白粒、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1183	-	胴	浅黄橙	石英、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1184	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	赤線文。	Ⅷ1
III-G	1185	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1186	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1187	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1188	-	胴	浅黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ1
III-G	1189	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線文。	Ⅷ1
III-G	1190	-	胴	鈍橙・黒	輝・角、小石	条線。	Ⅷ1
III-G	1191	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	Ⅷ1
III-G	1192	-	底	淡橙	赤色粒、石英、輝・角	平底。無文。	Ⅷ1
III-G	1193	-	口	灰黄	輝・角、小石	沈線幾何学文。	Ⅷ1新
III-G	1194	-	口	淡橙	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	Ⅷ1新
III-G	1195	-	口	暗伏	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	Ⅷ1新
III-G	1196	-	口	淡橙	輝・角	波頂部下に瘤状突起。口縁部刺突・沈線。胴部瘤状隆帯重下。1199と同一か。	Ⅷ1新
III-G	1197	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口料部上面に沈線。	Ⅷ1新
III-G	1198	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	波輪状突起に貫通孔。沈線文、刺突文。	Ⅷ1新
III-G	1199	-	口	橙	輝・角	波頂部下に瘤状突起。口縁部刺突・沈線。胴部瘤状隆帯重下。1196と同一か。	Ⅷ1新
III-G	1200	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。	Ⅷ1新
III-G	1201	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	沈線文、充填縄文、裏面調帯。	Ⅷ1新
III-G	1202	-	胴	浅黄橙	白粒、石英、小石	沈線文、微かに縄文。	Ⅷ1新
III-G	1203	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	Ⅷ1新
III-G	1204	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	二重沈線で区画、沈線間竹管刺突、区画内微かに縄文。	Ⅷ1新
III-G	1205	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	波輪起線に小割りの「8」字状貼付文。その周囲に沈線文。	Ⅷ1新
III-G	1206	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	Ⅷ1新
III-G	1207	-	胴	橙	輝・角、小石	底部付込。無文。	Ⅷ1新
III-G	1208	-	底	赤	輝・角、小石、粗砂	平底。無文。底部突出。(底10.2)	Ⅷ
III-G	1209	-	底	淡橙	白粒、小石	平底。無文。(底7.4)	Ⅷ
III-G	1210	-	底	灰白	赤色粒、小石	平底。無文。(底8.6)	Ⅷ
III-G	1211	-	口~胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、充填縄文部と無文部の交互構成。	Ⅷ2
III-G	1212	-	口	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	Ⅷ2
III-G	1213	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	条線状の集合沈線。	Ⅷ2併?
III-G	1214	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁に沿って隆線帯。一部瘤状に隆起。	Ⅷ2期
III-G	1215	-	口	明黄褐	輝・角、粗砂	瘤状の隆起。	Ⅷ2期

出土地点	No.	器種	部位	色面	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅲ-G	1216	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	口唇部内屈、外面に刺突・沈線。波頂部(突起部)は欠損。	後期
Ⅲ-G	1217	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線。	後期
Ⅲ-G	1218	-	底	橙	輝・角、小石	平底、無文。(底7.4)	後期
Ⅲ-G	1219	-	口	暗灰	白粒、小石	刺突・沈線を施した小さな環状突起。胴部は沈線文、刺突。	?
Ⅲ-G	1220	-	底	浅黄橙	白粒、石英、小石	平底、無文。(底12.4)	後期
3-G	1221	-	胴	暗灰	白粒、石英、小石	'Y'字状隆部、両脇に沈線。	阿玉?
3-G	1222	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
3-G	1223	-	胴	鈍黄橙	白粒、石英	縄文後、沈線文。	E II
3-G	1224	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、沈線文。	E II
3-G	1225	-	把手	鈍赤褐	赤色粒、小石	3方向に開口する横状把手と思われるが、把手部分欠落。	E II
3-G	1226	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	刺突、沈線を施す突起部は上下とも欠損。胴部は沈線文。	E II?
3-G	1227	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底7.3)	E II～III
3-G	1228	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	E IV
3-G	1229	-	口	淡橙	白粒、赤色粒、小石	隆部・沈線で区画、円形刺突列、突起部欠損。	條
3-G	1230	-	口	灰褐	白粒、輝・角	刺突文、沈線文。	條
3-G	1231	-	口	暗灰	白粒、粗砂	沈線文。	條?
3-G	1232	-	口	橙	白粒	沈線文。	條
3-G	1233	-	胴	灰黄褐	白粒、石英、輝・角	沈線文、充填縄文部と無文部の交互構成。	條
3-G	1234	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	條
3-G	1235	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線区画内に雨垂れ状短沈線文。	條
3-G	1236	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	條
3-G	1237	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	平行沈線、雨垂れ状刺突文部と無文部の交互構成。	條
3-G	1238	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線文。	條
3-G	1239	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	條
3-G	1240	-	胴	淡黄	輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。	條
3-G	1241	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	條?
3-G	1242	注口	注口	暗灰	白粒、輝・角、小石	刺突を施した横状把手の直下に注口部。胴部は沈線文、縄文。	條?
3-G	1243	-	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文。	條～堀1古
3-G	1244	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文。	條古～堀1新
3-G	1245	-	口	淡橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部竹管刺突4個、連係する沈線。胴部沈線文。	堀1古
3-G	1246	-	口	橙	白粒、輝・角	口唇部刺状押圧。胴部沈線文。	堀1古
3-G	1247	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	堀1古
3-G	1248	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部沈線。胴部沈線、縄文。	堀1
3-G	1249	-	口	浅黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縦状沈線、微かに縄文。	堀1
3-G	1250	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	口唇部沈線2条。胴部沈線、充填縄文。1263と同一個体の可能性有り。	堀1
3-G	1251	-	突起	灰黄	石英、輝・角	口唇部肥厚、円形刺突と連係する沈線。波頂部に縦状沈線。胴部は沈線、縄文。	堀1
3-G	1252	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。胴部沈線文、縄文。	堀1
3-G	1253	-	口～胴	赤褐・黒	白粒、粗砂	口唇部沈線部に縦状刺突文、沈線文。胴部縄文。	堀1
3-G	1254	-	口	橙	石英、小石	口唇部に隆部。胴部無文。	堀1
3-G	1255	-	口	灰白	輝・角	口唇部沈線。胴部縄文後、沈線文か。	堀1
3-G	1256	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	突起部に円形刺突と沈線文。胴部縄文、隆部垂下。1260、1257と同一個体か。	堀1
3-G	1257	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部刺突文、沈線文。胴部隆部垂下。充填縄文。	堀1
3-G	1258	-	口	灰黄	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線部に縦状刺突文、円形刺突文2、沈線部縄文。1261と同一個体か。	堀1
3-G	1259	-	口	浅黄橙	白・褐色粒、石英、小石	口唇部沈線部に縦状刺突文。胴部無文。	堀1
3-G	1260	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、円形刺突、沈線部縦状刺突文。胴部縄文。1257、1256と同一か。	堀1